

令和7年度
事業報告書

社会福祉法人 さいたま市社会福祉事業団

シンボルマーク



3つの形は「人」を表しています。

3人の「人」が、寄り添い、暖かく包み込むようすをかたどり、協力と調和、互いに支え合うことを表現し、同時に、未来へのはばたきも表しています。

基調の緑は、やさしさと柔らかさ、自然の豊かさをイメージしています。

スローガン

『あなたの笑顔、みんなのしあわせ』

平成 17 年 7 月 21 日制定

平成 28 年 3 月 24 日改訂

経営理念

私たちは、
だれもがその人らしい生活が送れ、
ともに支えあう、豊かな社会づくりに貢献します。

経営基本方針

平成 17 年 7 月 21 日制定

平成 28 年 3 月 24 日改訂

経営理念を実現するため、次のことを実践します。

1 人の尊厳を守り、「その人らしい生き方」を大切にします。

だれもが人として尊重され、その人らしい主体的な生活が送れるよう努めます。そして、地域の中で安心して暮らし続けられるよう支援します。

2 「共に支えあう社会づくり」を目指します。

地域と共に生きることを目指し、住民相互の交流を促進します。また、ネットワークを活用し、地域の福祉力の向上に貢献します。

3 期待されるサービスを追求します。

ニーズに沿ったサービスの提供に努めるとともに、地域のセーフティネットとしての機能を果たします。また、時代を捉えた新たなサービスの創造に努めます。

4 高い専門性と豊かな人間性を備えた人材を育てます。

専門的な知識・技術に加えて、高い倫理観、深い人間観を持った職員を育成します。また、福祉人材の育成を積極的に支援します。

5 社会的責任を果たすとともに、自立的経営基盤の確立を目指します。

社会規範・法令の遵守、経営の公開性・透明性の確保に努めます。また、経営の安定化・持続化を図るとともに、効果的・効率的な経営を促進し、自立性を高めます。

目 次

I 総 括	P 1
事業団全体としての取組	P 2
内部管理体制の運用状況の概要	P 4
II 部門別	P 11
さいたま市社会福祉事業団施設一覧	P 11
〔1〕事業団事務局	P 16
〔2〕老人福祉施設グリーンヒルうらわ	P 27
〔3〕老人福祉センター	P 33
〔4〕老人憩いの家	P 46
〔5〕大崎むつみの里	P 55
〔6〕障害者福祉施設春光園	P 79
〔7〕槻の木	P 91
〔8〕日進職業センター	P 105
〔9〕かやの木	P 117
〔10〕障害者福祉施設みのり園	P 123
〔11〕大砂土障害者デイサービスセンター	P 130
〔12〕みずき園	P 137
〔13〕さくら草学園	P 144
〔14〕杉の子園	P 152
〔15〕療育センターさくら草	P 160
〔16〕はるの園	P 169
〔17〕母子生活支援施設けやき荘	P 178
〔18〕児童センター	P 184
〔19〕放課後児童クラブ	P 216
〔20〕放課後子ども居場所事業	P 221
〔21〕大宮ふれあい福祉センター	P 225

I 総 括

令和7年度は、当事業団においても物価や人件費などあらゆる価格の高騰に加え、介護保険事業や就労移行支援事業など事業終了による事業収入の減少や人件費率の増大など、法人経営に多大な影響を受けており、経営健全化指針（令和4年度～6年度）を引き継ぐ経営健全化計画（令和7年度～令和10年度）を策定し、経営健全化に向けた取組を強化している。また、これまで推進してきた経営基本計画（10か年計画）も取組最終年度となったことから、経営健全化計画と連動する新たな中長期計画として、さいたま市社会福祉事業団中長期計画（令和8年度～令和10年度）を策定した。

危機管理体制

災害発生時の職員等の安否確認を目的として安否確認システム「安否確認サービス2」の運用を継続するとともに運用マニュアルを策定し、災害発生時に適切に運用されるよう備えた。また、法人内の緊急連絡体制としても安否確認システムのメッセージ機能を活用することとするなど危機管理体制の構築に努めた。

内部管理体制

法人組織においては、「内部管理体制整備基本方針」を遵守するとともに、内部監査を継続して実施し、ガバナンス体制の強化、透明性の確保等の体制整備に努めた。また、会計監査人による監査の結果、前年度決算について「無限定適正」の意見が表明されており、引き続き、令和7年度決算においても「無限定適正」の意見が得られるよう適正な内部管理体制の維持に努めた。

施設の運営

122施設153事業（指定管理113施設）において令和7年度事業計画書に基づき適正な運営に努めた。障害福祉サービス事業を中心に、新規利用者の獲得や稼働率向上など収入増の取組と法人全体として業務委託費削減の取組をすすめ運営の効率化を目指すとともに、利用サービスの向上に努めた。

さいたま市外郭団体としての運営

さいたま市の外郭団体として、市の各担当課と調整しながら、市とのパートナーシップを維持し、当事業団本来の使命である市の福祉施策を中核的に担う施設運営を行った。

職員の雇用

事業廃止となった施設職員の異動等により各施設の職員適正配置に努めた。職員の雇用状況については依然として人員の充足が厳しい状況にあり、職員採用の方法についても検討を開始した。障害者雇用状況については、年間を通して法定雇用率2.5%以上を維持することができた（令和8年3月1日時点2.66%）。

事業団全体としての取組- 令和7年度法人取組計画（取組結果概要） -

平成28年4月1日に策定した「経営基本計画」（10か年）に基づき、「後期経営実施計画」「後期法人（施設）取組計画」（各5か年）による取組を実施した。計画の最終年度である令和7年度の取組結果の概要は、以下のとおりである。

【経営基本方針1】人の尊厳を守り、「その人らしい生き方」を大切にします。

重点目標	法人目標	令和7年度取組結果
その人らしい主体的な生活の支援	利用者一人ひとりが望む主体的な生活が送れるよう、職員の人権意識を高める。	令和7年度においては人権に対する意識をより身近なもの、自分事としてとらえることができるよう、Googleフォームを使用して人権意識振り返りシートを実施した。各分野の事例を提示し、「人権」という点でそれぞれが意識を持つ機会を設け、その結果を施設内で共有、検討、実践していけるよう取り組んだ。

【経営基本方針2】「共に支えあう社会づくり」を目指します。

重点目標	法人目標	令和7年度取組結果
地域福祉力の向上への貢献	法人（施設）が主催するイベント等を通じて、事業団が行っている事業や福祉について積極的に情報を発信し、福祉に関心を持ってもらうため、働きかけを行うとともに地域の福祉力向上に貢献する。	Googleフォームを使用して「施設からの情報発信について」のアンケートを実施した。結果から、情報発信回数や利用者の顔出しの有無に施設ごとで差が出ていることが分かった。その他に、SNS以外での情報発信の工夫や、広く様々な方に広報できるよう従前からの紙媒体での広報をしている施設が多数見られた。 また、全施設がXでの情報発信を始めたが、インスタグラムも開設するなど、施設の対象者のニーズに合わせたツールの活用を始める施設も複数みられ、今後もSNSと紙媒体両方の広報が求められる。

【経営基本方針3】期待されるサービスを追求します。

重点目標	法人目標	令和7年度取組結果
新たなサービスの創造	令和7年度新かやの木開設を前提に、現在利用している利用者のサービス向上と併せて、市民のニーズに応えられるような新たな事業展開を図る。	令和7年度の目標については、各項目とも概ね達成できた。主に特別支援学校の生徒を対象にした土曜日に行う施設公開日は在籍する職員にとっては初めての体験であったが、2回行うことでだいぶ慣れ、また生徒の実習につながるサイクルができた。

【経営基本方針4】 高い専門性と豊かな人間性を備えた人材を育てます。

重点目標	法人目標	令和7年度取組結果
人材の確保・育成	サービス向上研修を行うことにより、職員同士がグループセッション等をとおして施設種別ごとの課題や地域での課題を共有し、種別ごとや地域での課題の解決を図るとともに、人材力（職員能力）を向上させる。	今年度も効果的な研修（人材育成）を目指し、サービス向上担当者会議で検討し遂行することで目標を達成した。常に時宜にかなった内容の研修を実施し、利用者サービスの向上と職員のスキルアップに繋げる必要がある。

【経営基本方針5】 社会的責任を果たすとともに、自立的経営基盤の確立を目指します。

重点目標	法人目標	令和7年度取組結果
経営基盤の強化	法人経営の健全化を目指し、介護保険事業及び障害福祉サービス等事業において利用者ニーズにあったサービス提供の充実に努め、自主財源を確保するための具体的対策を講じて、サービス活動増減差額の黒字転換を図る。	新たな経営健全化計画を策定・周知したことで、経営改善に向けた方向性の共有が図られた。また、経営状況ヒアリングにより各施設の取組状況及び課題の把握が可能となり、改善に向けた意識の向上に繋がった。
	経費削減に向け、業務委託について現状の委託内容及び仕様の見直しを図るとともに、一部業務を委託から職員による業務処理への移行を図る。	新たな経営健全化計画を策定・周知したことで、業務委託費削減に向けた方針の共有が図られた。業務委託費については既に削減を実施済みであり、経営状況ヒアリングを通じて各施設の取組状況及び課題の把握を行った。一方で、更なる削減余地は限定的であり、今後は業務効率化等による対応が課題である。
	ICT を活用し、業務の効率化を図る。	新たに策定した経営健全化計画に基づき、財務課を中心に施設及び事務局の業務の効率化に向けた現状の確認とシステムの検討・選定を進めた。施設の利用者支援システムの導入については、施設職員への説明会を開催しシステム会社と具体的なすり合わせの機会を重ね契約を締結した。また、法人全体における業務の効率化として、ワークフロー及び文書管理システムの導入について事務局全課職員でプロジェクトチームを立ち上げ、システム会社と検討のうえ導入システムを決定した。

内部管理体制の運用状況の概要

分類	根拠条文	監査実施期間	担当監事
「理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制」の監査	社会福祉法施行規則 第2条の16第1号	令和7年4月 ～令和8年3月	監事 小林俊一 監事 竹嶋 紘

監査 リスク	I 重要な契約書、議事録、法定帳票等、適正な業務執行を確保するために必要な文書その他の情報が適切に作成、保存または管理されていない結果、法人に著しい損害が生じるリスク II 重要な事業秘密、ノウハウ、機密情報や、個人情報ほか法令上保存・管理が要請される情報などが漏洩する結果、法人に著しい損害が生じるリスク III 開示される重要な法人情報について、虚偽または重大な欠落があるリスク
-----------	--

番号	リスク 分類	チェックポイント	理事会からの報告（期限：3/31）	対処内容	監事意見
1	I II III	評議員会及び理事会の議事録及び資料については、定款及び規程に基づき、適切に作成、保存及び管理しているか。	<評議員会> 令和7年度定時評議員会（第1回） （R7.6.26）議事録作成日：R7.7.9 令和7年度臨時評議員会（第2回） （R8.2.27）議事録作成日：R8.3.31 令和7年度臨時評議員会（第3回） （R8.3.24）議事録作成日：R8.3.31 <理事会> 令和7年度臨時理事会（第1回） （R7.4.11）議事録作成日：R7.4.17 令和7年度定例理事会（第2回） （R7.6.10）議事録作成日：R7.6.27 令和7年度臨時理事会（第3回） （R7.6.26）議事録作成日：R7.7.7 令和7年度臨時理事会（第4回） （R7.9.26）議事録作成日：R7.10.9 令和7年度臨時理事会（第5回） （R8.1.27）議事録作成日：R8.1.28 令和7年度臨時理事会（第6回） （R8.2.17）議事録作成日：R8.3.31 令和7年度定例理事会（第7回） （R8.3.12）議事録作成日：R8.3.31 令和7年度臨時理事会（第8回） （R8.3.24）議事録作成日：R8.3.31 上記の議事録及び資料は、事務局総務課にて作成され、各評議員・理事に配付され、事務局総務課キャビネットにて保存及び管理しています。	特になし	

2	I II III	経営戦略会議等の重要会議の議事録及び資料についても、作成後配付・回覧し、年度毎に保存及び管理しているか。	令和7年度第1回経営戦略会議（R7. 4. 23） 議事録作成日：R7. 5. 13 令和7年度第2回経営戦略会議（R7. 5. 21） 議事録作成日：R7. 6. 11 令和7年度第3回経営戦略会議（R7. 6. 18） 議事録作成日：R7. 6. 30 令和7年度第4回経営戦略会議（R7. 7. 16） 議事録作成日：R7. 8. 1 令和7年度第5回経営戦略会議（R7. 8. 20） 議事録作成日：R7. 9. 10 令和7年度第6回経営戦略会議（R7. 9. 17） 議事録作成日：R7. 10. 7 令和7年度第7回経営戦略会議（R7. 10. 15） 議事録作成日：R7. 10. 22 令和7年度第8回経営戦略会議（R7. 11. 19） 議事録作成日：R7. 12. 9 令和7年度第9回経営戦略会議（R7. 12. 17） 議事録作成日：R8. 1. 5 令和7年度第10回経営戦略会議（R8. 1. 21） 議事録作成日：R8. 2. 5 令和7年度第11回経営戦略会議（R8. 2. 18） 議事録作成日：R8. 2. 27 令和7年度第12回経営戦略会議（R8. 3. 18） 議事録作成日：R8. 3. 27 上記の議事録及び資料は、事務局事業課にて作成され、配布、回覧され、事務局事業課キャビネットにて保存及び管理しています。	特になし	
---	----------------	--	---	------	--

分類	根拠条文	監査実施期間	担当監事
損失の危険の管理に関する規程その他の体制に関する監査	社会福祉法施行規則 第2条の16第2号	令和7年4月 ～令和8年3月	監事 小林俊一 監事 竹嶋 紘

監査 リスク	I 損失の危険の適正な管理に必要な諸要因の事前の識別・分析・評価・対応に重大な漏れ・誤りがあった結果、法人に著しい損害が生じるリスク II 法人に著しい損害を及ぼすおそれのある事業活動が正当な理由なく継続されるリスク III 法人に著しい損害を及ぼすおそれのある事故その他の事象が現に発生した場合に、適切な対応体制が構築・運用されていない結果、損害が拡大しあるいは事業が継続できなくなるリスク
-----------	--

番号	リスク 分類	チェックポイント	理事会からの報告（期限：3/31）	対処内容	監事意見
1	I II III	(1) リスク管理体制全般 「リスク管理規程」を規定し、スタッフを配置した上で体制を整備しているか。	H30. 3. 22に「リスク管理規程」を制定し、運用を行っています。	特になし	

2	I II III	(2) 事業活動に関するリスク管理 「職務権限及び業務分掌規程」を規定し、職務執行部署の管理者の役割権限の明確化を図っているか。	職務権限については、「事務決裁規程」に規定しています。 業務分掌については、「組織規程」に規定しています。 両規程により、管理者の役割権限の明確化を図っています。	特になし	
3	I II III	(3) リスクの統括管理 法令遵守責任者をリスクの統括管理者として位置付け、内部監査部門を組織し、運営を行っているか。	法令遵守責任者として、事務局長を位置付けています。 法令遵守やリスク管理を含めた内部統制の一環として、内部監査を6施設において実施し、財務・総務・事業の各課長を中心として実地指導を行い、改善に努めました。(11月18日から12月5日の間) 文書指導については法人HPで公表し、口頭指導についても文書化し、全施設に周知しました。	特になし	
4	I II III	(4) 重要リスク管理 重要リスクについては、経営戦略会議で審議し、必要な対策を講じているか。	経営に関する重要事項について、経営戦略会議を年12回開催し、必要な対策を講じています。また、経営健全化計画に基づき、法人としての課題を整理し、健全化に努めました。(R7年度～10年度)	特になし	
5	III	(5) 大規模自然災害、新型インフルエンザその他の非常災害等の発生リスク管理 危機管理委員会を組織し、危機管理計画、緊急事態等対策計画、災害対策計画に基づき、各施設・事業所ごとに消防計画、防災計画等を定めるとともに、継続的な教育と定期的な訓練を実施しているか。	法人の危機管理体制を整備するとともに、危機管理委員会を5回開催し、必要な対策を講じています。事務局事業課が所管として、各施設・事業所ごとの消防計画、防災計画等の策定状況を確認し、継続的な教育と定期的な訓練を実施していることを確認しました。また、事業継続計画（災害対応BCP・感染症対応BCP）の策定状況、必要な研修及び訓練を実施していることを確認しました。	特になし	

分類	根拠条文	監査実施期間	担当監事
理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制に関する監査	社会福祉法施行規則 第2条の16第3号	令和7年4月 ～令和8年3月	監事 小林俊一 監事 竹嶋 紘

監査 リスク	I 経営戦略の策定、経営資源の配分、組織の構築、業績管理体制の構築・運用等が適正に行われず、過度の非効率性が生じ、その結果、法人に著しい損害が生じるリスク II 過度の効率性追求により法人の健全性が損なわれ、その結果、法人に著しい損害が生じるリスク III 理事長・業務執行理事等が行う重要な業務の決定において、決定の前提となる事実認識に重要かつ不注意な誤りが生じ、その結果、法人に著しい損害が生じる決定が行われるリスク
-----------	--

番号	リスク 分類	チェックポイント	理事会からの報告（期限：3/31）	対処内容	監事意見
1	I II III	(1) 理事会の開催 定款に規定のとおり、理事会は少なくとも年に2回定時に開催するほか、必要に応じ臨時に開催し、審議等を行っているか。	令和7年度の理事会の開催状況は、2回の定例開催を含め計8回開催し、必要な審議等を行っています。	特になし	

2	I II III	(2)評議員会及び理事会の運営 「理事会運営規則」「評議員会運営規則」を作成し、運営を行っているか。	「理事会運営細則」「評議員会運営細則」については、平成29年6月13日に制定し、運営を行っています。	特になし	
3	I II III	(3)業務を執行する理事等で組織する経営戦略等に関する会議体の開催 法人の重要な会議の位置づけとして経営戦略会議を適宜開催し、重要事項について審議等を行っているか。	法人経営に関する重要事項については、経営戦略会議を12回開催し、法人経営に関する重要事項について審議等を行っています。	特になし	
4	I II III	(4)業務を執行する理事の担当業務の明確化と事業運営の適切かつ迅速な推進 業務執行理事の「職務権限及び業務分掌」を規定し、運営を行っているか。	業務執行理事の「職務権限及び業務分掌」については、定款において常務理事をもって業務執行理事とする規定となっており、常務理事の職務権限については、事務決裁規程に規定（R5.3.13一部改正）されています。	特になし	
5	I II	(5)理事、職員等の職務執行の適正性の確保と機動的な業務執行と有効性・効率性の向上 職員について、「職務権限及び業務分掌規程」を作成し、運営を行っているか。	職員の職務権限については、「事務決裁規程」に規定しています。 職員の業務分掌については、「組織規程」に規定しており、かつ、各施設長が施設における職員の業務分掌を作成し、運営をしています。	特になし	

分類	根拠条文	監査実施期間	担当監事
職員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制に関する監査	社会福祉法施行規則 第2条の16第4号	令和7年4月 ～令和8年3月	監事 小林俊一 監事 竹嶋 紘

監査リスク	I 理事長・業務執行理事等が主導または関与して法令等違反行為が行われるリスク II 法令等遵守の状況が理事長・業務執行理事等において適時かつ適切に把握されていない結果、法令等違反行為が組織的にまたは反復継続して行われるリスク III 理事長・業務執行理事等において把握された法人に著しい損害を及ぼすおそれのある法令等違反行為が、対外的に報告または公表すべきにもかかわらず隠蔽されるリスク
-------	---

番号	リスク分類	チェックポイント	理事会からの報告（期限：3/31）	対処内容	監事意見
1	I II	(1)業務執行機関からの独立性を有する内部監査部門の設置と業務の適正及び効率性を確保するための業務を執行する各部の職務執行状況等の定期的な監査 法令遵守責任者が内部監査部門を設置し、監査を行っているか。	「内部監査人の客観性が保たれている精神的な独立」と「内部監査人の偏った判断ではないという外見的な独立」が保たれた内部監査チームを法令遵守責任者が組織し、必要と思われる施設に対して内部監査を実施しています。 「財務管理」「施設運営」「利用者サービス」の各内部監査点検表を使用し、各種	特になし	

1	I II		書類の確認及びヒアリングを実施しました。 令和7年度は、馬宮荘、むつみホーム大間木、さくら草学園、療育センターさくら草、大戸児童センター、向原児童センター、新和小学校放課後子ども居場所事業の7施設において、各種証憑等保管書類、施設現況を確認し、内部監査を実施しました。		
2	II III	(2)「プライバシー・ポリシー（個人情報保護方針）」及び「個人情報保護規程」等に基づく個人情報の保護と適切な管理 マイナンバーの管理とあわせ、個人情報の保護と適切な管理を行っているか。	「個人情報保護方針」「個人情報保護規程」に基づく個人情報の保護と管理を行い、「個人情報保護」及び「情報セキュリティ対策」に関する研修を、全職員を対象にオンデマンド配信で実施しました。 マイナンバーの管理について、「特定個人情報取扱規程」に基づき、適切な管理を行いました。	特になし	
3	I II III	(3)理事及び職員による法令並びに定款及び当法人の規程を遵守と確固たる倫理観をもって事業活動等を行う組織風土の向上① 組織風土の醸成、確固たる倫理観の保持のため、経営理念、経営基本方針に基づき行動し、職員倫理綱領、職員行動規範を遵守しているか。	組織風土の醸成、倫理観の保持のため、経営理念、経営基本方針に基づき行動し、職員倫理綱領、職員行動規範の周知を行い、遵守に努めました。 また、階層別研修において、各階層で求められる倫理観、役割等について学ぶ機会を設定し、その重要性の理解と遵守に努めました。	特になし	
4	I II III	(3)理事及び職員による法令並びに定款及び当法人の規程を遵守と確固たる倫理観をもって事業活動等を行う組織風土の向上② 「コンプライアンス規程」に基づき運営を行っているか。	「コンプライアンス規程」を平成30年2月22日に制定し、これに基づき運営を行いました。 令和元年6月19日に「コンプライアンス宣言」を宣言しました。 法人業務に関する関係法令の一覧表により、法改正等への対応を適正に行っています。	特になし	
5	I II III	(4)当法人のすべての役職員のコンプライアンス意識の醸成と定着を推進するための不正防止等に関わる役職員への教育及び啓発活動の継続的な実施と周知徹底 法令遵守に関する研修を定期的に行い、コンプライアンス意識の醸成と定着を図っているか。	研修としては「人権擁護・虐待防止」に関する研修を1回、「ハラスメント防止研修」を管理職向け及び一般職員向けに各1回、実施しました。 運転管理担当者を対象に、安全運転講習会を実施し、交通安全意識の向上、事故防止について周知しました。 コンプライアンス意識の推進を図るため、コンプライアンス委員会を3回開催しました。	特になし	

分類	根拠条文	監査実施期間	担当監事
監事とその職務を補助すべき職員を置くことを求めた場合における当該職員に関する事項に関する監査	社会福祉法施行規則 第2条の16第5号、第6号及び第7号	令和7年4月 ～令和8年3月	監事 小林俊一 監事 竹嶋 紘

監査 リスク	I	監事がその職務を補助すべき職員を置くことを求めた場合における当該職員に関するリスク			
	II	Iの職員の理事からの独立性に関するリスク			
	III	Iの職員に対する指示の実効性の確保に関するリスク			

番号	リスク 分類	チェックポイント	理事会からの報告（期限：3/31）	対処内容	監事意見
1	I	法令遵守責任者をスタッフとして兼務させ監事の職務遂行の補助としているか。	事務局長が法令遵守責任者として兼務し、監事の職務遂行の補助を行いました。	特になし	
2	II	監事監査においては、法令遵守責任者を監事の直接の指揮命令下に置き、監事の職務遂行の補助としているか。	法令遵守責任者を監事の直接の指揮命令下に置き、監事の職務遂行の補助としました。	特になし	
3	III	監事監査業務に関しては、監事が法令遵守責任者に対して、直接、指示・命令できる体制を整えているか。	監事が法令遵守責任者に対して、直接、指示・命令できる体制は整備されていました。	特になし	

分類	根拠条文	監査実施期間	担当監事
理事及び職員が監事に報告をするための体制その他の監事への報告に関する体制に関する監査	社会福祉法施行規則第2条の16第8号及び第9号	令和7年4月 ～令和8年3月	監事 小林俊一 監事 竹嶋 紘

監査 リスク	I	理事及び職員が監事に報告をするための体制その他の監事への報告に関するリスク			
	II	Iの報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを受けるリスク			

番号	リスク 分類	チェックポイント	理事会からの報告（期限：3/31）	対処内容	監事意見
1	I	(1)内部監査部門による職員等の職務執行状況についてのコンプライアンスの観点から監査とその結果の経営戦略会議等への報告と改善 法令遵守に関する研修後のモニタリング結果等を経営戦略会議に報告し、改善を図っているか。	「施設サービス・運営自己評価」「虐待防止チェック」「内部監査結果報告」等、法令遵守に関する確認事項について理事長へ報告しています。また、「人権擁護」「ハラスメント防止」の研修を実施した後の参加者アンケート等でコンプライアンス意識の醸成度を確認しています。	特になし	
2	I	(2)理事又は職員等の当法人に著しい損害を与えるおそれのある事実又は法令、定款その他の規程等に反する行為等の発見時における監事への報告 公益通報制度の周知、徹底により報告を促しているか。	公益通報制度について、コンプライアンス規程に規定し、公益通報保護法に基づく対応を行うこととしています。	特になし	

3	I	(3)職務執行状況等について、監事が報告を求めた場合の理事及び職員等の速やかな対応① 速やかに報告できるよう、経営戦略会議の資料及び議事録を整備しているか。	経営戦略会議の資料及び議事録は、事務局事業課において整備しています。	特になし	
4	I	(3)職務執行状況等について、監事が報告を求めた場合の理事及び職員等の速やかな対応② 公益通報制度により報告を促すとともに、苦情解決体制を整備しているか。	公益通報制度について、コンプライアンス規程に規定して、公益通報保護法に基づく対応による報告を促すとともに、苦情解決体制についても整備しています。	特になし	
5	II	コンプライアンスに関する相談又は違反に係る通報をしたことを理由に、不利益な取扱いを行わない体制を整備しているか。	公益通報制度について、コンプライアンス規程に規定して、公益通報保護法に基づく対応により不利益な取扱いを行わないこととしています。	特になし	

分類	根拠条文	監査実施期間	担当監事
その他監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制に関する監査	社会福祉法施行規則第2条の16第10号及び第11号	令和7年4月～令和8年3月	監事 小林俊一 監事 竹嶋 紘

監査リスク	I 監事の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関するリスク II その他監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制に関するリスク
-------	--

番号	リスク分類	チェックポイント	理事会からの報告（期限：3/31）	対処内容	監事意見
1	I	監事からの費用等の請求を社会福祉法第45条の18第3項により準用する一般社団及び一般財団に関する法律第106条の規定に基づき処理しているか。	該当する請求行為は発生していません。	特になし	
2	II	(5) 理事長は、事業の遂行と活動の健全な発展に向けて、定期的に監事と意見交換を図り、相互認識を深めているか。	定期的に監事と意見交換を行う機会を設け、相互認識を深めています。 (理事会への出席時、理事者・監事コミュニケーション等：理事会8回、評議員会3回、理事者・監事コミュニケーション1回)	特になし	

《参考》 一般社団及び一般財団に関する法律第106条の規定 (費用等の請求) 第106条 監事がある職務の執行について監事設置一般社団法人に対して次に掲げる請求をしたときは、当該監事設置一般社団法人は、当該請求に係る費用または債務が当該監事の職務の執行に必要なでないことを証明した場合を除き、これを拒むことができない。 1 費用の前払いの請求 2 支出した費用及び支出の日以後におけるその利息の償還の請求 3 負担した債務の債権者に対する弁済（当該債務が弁済期に無い場合にあつては、相当の担保の提供）の請求					
--	--	--	--	--	--

Ⅱ 部門別

さいたま市社会福祉事業団施設一覧表

令和 8 年 3 月 31 日現在

施設名			種別	定員	事業開始年月日
グリーンヒル うらわ	ぎんもくせい		軽費老人ホーム (ケアハウス)	100 人	平成 5 年 5 月 10 日
春光園	けやき		生活介護	77 人	平成18年10月 1 日
			自立訓練(生活訓練)	10 人	
			特定相談・障害児相談支援	—	平成27年 4 月 1 日
			宅配食事	—	平成18年10月 1 日
			生計困難者に対する相談支援事業	—	平成28年12月 1 日
	うえみず		生活介護	20 人	平成19年 4 月 1 日
			特定相談・障害児相談支援	—	平成27年 4 月 1 日
大崎むつみの 里	第 1 事 業 所	かがやき・ほほえみ・ わくわく	生活介護	70 人	平成18年10月 1 日
		こもれび	自立訓練(機能訓練)	20 人	平成19年 4 月 1 日
		きらめき	自立訓練(生活訓練)		
		大崎実習センター	就労継続支援B型	55 人	
	第 2 事 業 所	大崎児童学園（児童 発達支援センター）	児童発達支援	30 人	平成18年10月 1 日
			保育所等訪問支援	—	平成25年 4 月 1 日
			障害児相談・特定相談支援	—	
			東部地域つながる発達支援 相談事業	—	令和 7 年 4 月 1 日
	浦和区障害者生活支援 センターむつみ		地域生活支援	—	平成20年12月 1 日
			特定相談・障害児相談支援	—	
			一般相談支援	—	
	むつみホーム大間木		共同生活援助	10 人	平成28年12月 1 日
			短期入所事業	—	平成30年 5 月 1 日
	さくら草学園	児童発達支援センター		児童発達支援	30 人
保育所等訪問支援				—	平成25年 4 月 1 日
障害児相談・特定相談支援				—	
槻の木	槻の木		生活介護	50 人	平成19年 4 月 1 日
			特定相談・障害児相談支援	—	平成27年 4 月 1 日
	槻の木第 1 やまぶき		就労継続支援B型	16 人	平成19年 4 月 1 日
	槻の木第 2 やまぶき		就労継続支援B型	10 人	
日進職業センター			就労移行支援	15 人	平成19年 4 月 1 日
			就労継続支援B型	25 人	
			就労定着支援	—	令和 5 年 4 月 1 日
かやの木			生活介護	20 人	平成19年 4 月 1 日
			就労継続支援B型	10 人	

施設名		種別	定員	事業開始年月日
大砂土障害者デイサービスセンター		生活介護	14 人	平成18年10月 1 日
		自立訓練(機能訓練)	6 人	
		特定相談・障害児相談支援	—	平成27年 4 月 1 日
杉の子園		児童発達支援	30 人	平成19年 4 月 1 日
		保育所等訪問支援	—	平成26年 4 月 1 日
		障害児相談・特定相談支援	—	平成26年 9 月 1 日
はるの園	児童発達支援センター	児童発達支援	30 人	平成23年 4 月 1 日
		保育所等訪問支援	—	平成25年 4 月 1 日
		障害児相談・特定相談支援	—	
		東部地域つながる発達支援 相談事業	—	令和 7 年 4 月 1 日
みのり園	障害者福祉施設	身体障害者福祉センター	—	昭和58年 4 月 1 日
	放課後デイサービスみのり	放課後等デイサービス	10 人	平成22年 5 月 1 日
みずき園		生活介護	26 人	平成22年 4 月 1 日
		特定相談・障害児相談支援	—	平成27年 4 月 1 日
療育センター さくら草	すみれ（児童発達支援センター）	児童発達支援	30 人	平成19年 4 月 1 日
	たんぽぽ（児童発達支援センター）		30 人	
		保育所等訪問支援	—	平成26年 4 月 1 日
		障害児相談・特定相談支援	—	平成25年 4 月 1 日
和楽荘		老人福祉センター	—	平成11年 4 月 1 日
いこい荘		老人福祉センター	—	平成14年 4 月 1 日
寿楽荘		老人福祉センター	—	平成11年 4 月 1 日
あずま荘		老人福祉センター	—	昭和58年 4 月 1 日
しもか荘		老人福祉センター	—	平成 5 年 7 月 1 日
馬宮荘		老人福祉センター	—	平成14年 5 月 7 日
仲本荘		老人福祉センター	—	平成23年 5 月 1 日
槻寿苑		老人福祉センター	—	平成17年 4 月 1 日
けやき荘		母子生活支援施設	19 世帯	平成15年 4 月 1 日
三橋	児童センター	児童センター	—	昭和56年 4 月 1 日
	老人憩いの家	老人憩いの家	—	
	放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	40 人	平成 4 年 7 月 1 日
	老人憩いの家分館	老人憩いの家	—	平成14年12月 1 日
植竹	児童センター	児童センター	—	昭和57年 4 月 1 日
	放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30 人	平成 4 年 7 月 1 日

施設名		種別	定員	事業開始年月日
天沼	児童センター	児童センター	—	昭和59年4月1日
	老人憩いの家	老人憩いの家	—	
	放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30人	平成4年7月1日
宮原	児童センター	児童センター	—	昭和60年4月1日
	老人憩いの家	老人憩いの家	—	
	放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30人	平成4年7月1日
植水	児童センター	児童センター	—	平成2年4月1日
	老人憩いの家	老人憩いの家	—	
	放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30人	平成4年7月1日
本郷	児童センター	児童センター	—	平成3年4月1日
	老人憩いの家	老人憩いの家	—	
	放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30人	平成4年7月1日
片柳	児童センター	児童センター	—	平成4年7月1日
	老人憩いの家	老人憩いの家	—	
海老沼	放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30人	
春野	児童センター	児童センター	—	平成6年7月16日
	老人憩いの家	老人憩いの家	—	
	放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	40人	平成6年7月16日
馬宮	児童センター	児童センター	—	平成14年5月7日
	放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30人	平成14年4月1日
文蔵	児童センター	児童センター	—	平成15年4月1日
	放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50人	平成16年4月1日
浦和別所	児童センター	児童センター	—	平成15年4月1日
	放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50人	平成16年4月1日
与野本町	児童センター	児童センター	—	平成15年4月1日
	老人憩いの家	老人憩いの家	—	
向原児童センター		児童センター	—	平成15年4月1日
大戸	児童センター	児童センター	—	平成15年4月1日
与野南	放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30人	平成16年4月1日
大久保東児童センター		児童センター	—	平成16年4月1日
岩槻児童センター		児童センター	—	平成17年4月1日
仲本児童センター		児童センター	—	平成23年5月1日
尾間木児童センター		児童センター	—	平成28年4月1日
宮前放課後児童クラブ		放課後児童健全育成事業	50人	平成4年4月1日
佐知川放課後児童クラブ		放課後児童健全育成事業	50人	平成4年4月1日
東大宮放課後児童クラブ		放課後児童健全育成事業	50人	平成7年4月1日
神田放課後児童クラブ		放課後児童健全育成事業	50人	平成14年4月1日
大砂土放課後児童クラブ		放課後児童健全育成事業	50人	平成15年4月1日

施設	種別	定員	事業開始年月日
谷田放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
大谷場放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
西浦和放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	65 人	平成16年 4 月 1 日
大久保東放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
三室放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
上木崎放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
土合放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
仲町放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
南浦和放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
沼影放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
栄和放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
辻放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	55 人	平成16年 4 月 1 日
北浦和放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
木崎放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
善前放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
田島放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
原山放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
大牧放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
本太放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
大門放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
新開放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
大東放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
大谷口放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
高砂放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
浦和大里放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
与野八幡放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	40 人	平成16年 4 月 1 日
大戸放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
与野西北放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
下落合放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
上落合放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
大久保放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
中島放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	50 人	平成16年 4 月 1 日
植水第二放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30 人	平成17年 4 月 1 日
城北放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	70 人	平成17年 4 月 1 日
太田放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30 人	平成17年 4 月 1 日
西原放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	70 人	平成17年 4 月 1 日
城南放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30 人	平成17年 4 月 1 日
岩槻放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30 人	平成17年 4 月 1 日
慈恩寺放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30 人	平成17年 4 月 1 日

施設	種別	定員	事業開始年月日
東岩槻放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	40 人	平成17年4月1日
和土放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30 人	平成17年4月1日
徳力放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30 人	平成17年4月1日
柏崎放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30 人	平成17年4月1日
東宮下放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	35 人	平成22年4月1日
野田放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業	35 人	平成24年4月1日
新和小学校放課後子ども居場所事業	放課後子ども居場所事業	—	令和6年4月1日
針ヶ谷小学校放課後子ども居場所事業	放課後子ども居場所事業	—	令和7年4月1日
大谷場東小学校放課後子ども居場所事業	放課後子ども居場所事業	—	令和7年4月1日
上里小学校放課後子ども居場所事業	放課後子ども居場所事業	—	令和7年4月1日
大宮ふれあい福祉センター		—	平成27年4月1日
合計	入所	110 人	19世帯
	通所	3,404人	

【1】事業団事務局

事業団事務局は、評議員会及び理事会の運営をはじめとする、事業団の法人業務を遂行するとともに、効率的な経営を目指し、事務事業の執行にあたった。

各施設経営及び事業の実施にあたり、各担当課、各施設等との総合調整を図るとともに、地域及び市民から信頼され求められる施設づくりを推進した。

1 総務課

法人運営の総務全般及び職員の人事、服務に関する事務処理を統括し、法人業務を処理するとともに、各種制度の適正な運用に努めた。

(1) 評議員会・理事会の開催状況

① 評議員会

開催日	審 議 事 項	
第1回 R7. 6. 26	報告第 1号	令和6年度事業報告について
	報告第 2号	令和6年度決算について
	議案第 1号	理事の選任について
	議案第 2号	理事の選任について
	議案第 3号	理事の選任について
	議案第 4号	理事の選任について
	議案第 5号	理事の選任について
	議案第 6号	理事の選任について
	議案第 7号	監事の選任について
	議案第 8号	監事の選任について
第2回 R8. 2. 27	議案第 9号	令和7年度収支補正予算（第1号）
第3回 R8. 3. 24	議案第10号	令和7年度収支補正予算（第2号）
	議案第11号	事業の実施について
	議案第12号	令和8年度事業計画及び予算について

② 理事会

開催日	審 議 事 項	
第1回 R7. 4. 11	議案第 1号	さいたま市大崎むつみの里第1事業所運営規程等の一部を改正する規程の制定について
	第 1条	さいたま市大崎むつみの里第1事業所運営規程の一部改正
	第 2条	さいたま市障害者福祉施設春光園けやき運営規程の一部改正
	第 3条	さいたま市障害者福祉施設春光園うえみず運営規程の一部改正
	第 4条	さいたま市槻の木運営規程の一部改正
	第 5条	さいたま市大砂土障害者デイサービスセンター運営規程の一部改正
第2回 R7. 6. 10	報告第 1号	令和6年度さいたま市社会福祉施設指導監査等の結果について
	報告第 2号	経営健全化指針の報告について
	議案第 2号	令和6年度事業報告について
	議案第 3号	令和6年度決算について
	議案第 4号	会計監査人報酬額の決定について
	議案第 5号	職員就業規程の一部を改正する規程の制定について
	議案第 6号	さいたま市障害者福祉施設春光園うえみず運営規程の一部を改正する規程の制定について
	議案第 7号	ケアハウスぎんもくせい運営規程の一部を改正する規程の制定について
	議案第 8号	さいたま市大崎むつみの里第2事業所運営規程等の一部を改正する規程の制定について
	第 1条	さいたま市大崎むつみの里第2事業所運営規程の一部改正
	第 2条	さくら草学園運営規程の一部改正
	第 3条	さいたま市はるの園運営規程の一部改正
	第 4条	さいたま市杉の子園運営規程の一部改正
	第 5条	放課後デイサービスみのり運営規程の一部改正
	第 6条	児童センター運営規程の一部改正
	議案第 9号	放課後子ども居場所事業運営規程の一部を改正する規程の制定について
	議案第10号	評議員選任候補者の推薦について

	議案第11号 評議員選任候補者の推薦について 議案第12号 評議員選任候補者の推薦について 議案第13号 評議員選任候補者の推薦について 議案第14号 評議員選任候補者の推薦について 議案第15号 評議員選任候補者の推薦について 議案第16号 評議員選任候補者の推薦について 議案第17号 評議員選任候補者の推薦について 議案第18号 令和7年度第1回評議員選任・解任委員会の招集について 議案第19号 理事選任候補者の選定について 議案第20号 理事選任候補者の選定について 議案第21号 理事選任候補者の選定について 議案第22号 理事選任候補者の選定について 議案第23号 理事選任候補者の選定について 議案第24号 理事選任候補者の選定について 議案第25号 監事選任候補者の選定について 議案第26号 監事選任候補者の選定について 議案第27号 評議員選任・解任委員の選任について 議案第28号 評議員選任・解任委員の選任について 議案第29号 評議員選任・解任委員の選任について 議案第30号 評議員選任・解任委員の選任について 議案第31号 評議員選任・解任委員の選任について 議案第32号 苦情解決第三者委員の選任について 議案第33号 苦情解決第三者委員の選任について 議案第34号 令和7年度定時評議員会（第1回）の招集について
第3回 R7. 6. 26	議案第35号 理事長の選定について 議案第36号 常務理事の選定について 報告第 3号 評議員の選任について 報告第 4号 経営健全化計画について
第4回 R7. 9. 26	議案第37号 組織規程の一部を改正する規程の制定について 議案第38号 職員就業規程の一部を改正する規程の制定について 議案第39号 職員の育児休業及び介護休暇等に関する規程の一部を改正する規程の制定について 報告第 5号 人員管理計画について 報告第 6号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告について
第5回 R8. 1. 27	議案第40号 評議員選任候補者の推薦について 議案第41号 令和7年度第2回評議員選任・解任委員会の招集について
第6回 R8. 2. 17	報告第 7号 評議員の選任について 議案第42号 事務決裁規程の一部を改正する規程の制定について 議案第43号 経理規程の一部を改正する規程の制定について 議案第44号 令和7年度収支補正予算（第1号） 議案第45号 令和7年度臨時評議員会（第2回）の招集について
第7回 R8. 3. 12	議案第46号 令和7年度収支補正予算（第2号） 議案第47号 事業の廃止について 議案第48号 事業の廃止について 議案第49号 事業の実施について 議案第50号 組織規程の一部を改正する規程の制定について 議案第51号 職員就業規程の一部を改正する規程の制定について 議案第52号 さいたま市大崎むつみの里第2事業所運営規程の一部を改正する規程の制定について 第 1条 さいたま市大崎むつみの里第2事業所運営規程の一部改正 第 2条 さくら草学園運営規程の一部改正 第 3条 さいたま市はるの園運営規程の一部改正 第 4条 さいたま市杉の子園運営規程の一部改正 第 5条 放課後デイサービスみのり運営規程の一部改正 議案第53号 障害者生活支援センター運営規程の一部を改正する規程の制定について 議案第54号 老人福祉センター運営規程の一部を改正する規程の制定について 議案第55号 さくら草学園相談支援事業所運営規程の一部を改正する規程の制定について 議案第56号 児童センター運営規程の全部を改正する規程の制定について 議案第57号 放課後児童クラブ運営規程の一部を改正する規程の制定について 議案第58号 さいたま市放課後子ども居場所事業運営規程の全部を改正する規程の制定について 報告第 8号 中長期計画について 議案第59号 令和8年度事業計画及び予算について 議案第60号 令和8年度役員賠償責任保険の契約について 議案第61号 施設長等の任免について 議案第62号 令和7年度臨時評議員会（第3回）の招集について

第8回 R8. 3. 24	議案第63号 議案第64号 議案第65号 議案第66号 議案第67号 議案第68号 報告第 9号	経理規程の一部を改正する規程の制定について 職員給与規程の一部を改正する規程の制定について 職員旅費規程の一部を改正する規程の制定について さいたま市障害者福祉施設春光園けやき送迎車両運転業務委託契約について 内部管理体制の運用状況に関する監事への回答について 評議員選任・解任委員の選任について 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告について
------------------	--	--

(2) 評議員の異動

年 月 日	区 分	氏 名
R7. 6. 26	退 任	竹 内 成 仁、島 村 和 宏
R8. 2. 9	退 任	根 本 淑 枝
R7. 6. 26	就 任	中 村 仁 美、三 須 亜由美
R8. 2. 9	就 任	野 中 味恵子

(3) 役員の異動

年 月 日	区 分	氏 名
R7. 6. 26	退 任	臼 倉 秀 輝
R7. 6. 26	就 任	永 島 淳

(4) 業務の執行状況

月	内 容
4	・ 定期人事異動（149名） ・ 健康審査会（2回） ・ 永年勤続表彰（25年／8名、10年／18名） ・ 臨時施設長会議（Web開催） ・ 施設長会議
5	・ 人事異動（2名） ・ 健康審査会（3回） ・ 施設長会議（Web開催）
6	・ 人事異動（3名） ・ 健康審査会（2回） ・ 法人現況報告 ・ 就業条件の変更届出＜労基署＞ ・ 施設長会議（Web開催） ・ 表彰審査委員会 ・ 資産総額変更登記＜法務局＞ ・ B型肝炎抗原・抗体検査
7	・ 施設長会議（Web開催） ・ 就業条件の変更届出＜労基署＞ ・ B型肝炎抗原・抗体検査 ・ 健康審査会（3回） ・ 定期健康診断 ・ B型肝炎予防接種
8	・ 人事異動（1名） ・ 健康審査会（2回） ・ 業務の棚卸ヒアリング ・ B型肝炎予防接種 ・ 施設長会議（Web開催） ・ 財政援助団体監査（大崎むつみの里） ・ 定期健康診断
9	・ 人事異動（2名） ・ 健康審査会（2回） ・ 職員採用試験（嘱託Ⅰ種/作業療法士） ・ 定期健康診断 ・ 施設長会議（Web開催） ・ 制裁等審査委員会 ・ ストレスチェック
10	・ 人事異動（12名） ・ 健康審査会（3回） ・ 施設長会議 ・ 定期健康診断
11	・ さいたま市社会福祉施設指導監査（けやき荘） ・ 施設長会議（Web開催） ・ 事業団内部監査（むつみホーム大間木、馬宮荘、向原児童センター、大戸児童センター、新和小学校放課後子ども居場所事業） ・ 実地調査（書面）（障害者生活支援センターむつみ） ・ 健康審査会（3回）
12	・ 人事異動（3名） ・ 健康審査会（2回） ・ 事業団内部監査（さくら草学園、療育センターさくら草すみれ・たんぽぽ） ・ 職員採用試験（嘱託Ⅱ種/支援員）（嘱託Ⅱ種/児童厚生員） ・ 施設長会議（Web開催） ・ 就業条件の変更届出＜労基署＞
1	・ 施設長会議（Web開催） ・ 財政援助団体等監査（法人本部） ・ 職員採用試験（嘱託Ⅰ種/看護師）（嘱託Ⅰ種/言語聴覚士）（嘱託Ⅱ種/児童厚生員） ・ 定期健康診断（放課後児童クラブ・放課後子ども居場所事業） ・ B型肝炎予防接種 ・ 健康審査会（2回） ・ 夜勤従事者健康診断

	・腰痛検査
2	・人事異動（1名） ・健康審査会（2回） ・職員採用試験（嘱託Ⅱ種/主事） ・定期健康診断（放課後児童クラブ・放課後子ども居場所事業）
3	・施設長会議（Web開催） ・施設等指導監査（ぎんもくせい） ・施設長会議 ・制裁等審査委員会 ・時間外・休日労働に関する協定届出(100事業所)＜労基署＞ ・さいたま市児童福祉施設指導監査（児童センター18館） ・職員採用試験（嘱託Ⅱ種/主事）（嘱託Ⅱ種/児童厚生員）

(5) 職員配置状況

令和8年3月31日現在（人）

名 称		配 置 状 況	計
事務局		事務局長 1 事務局次長 1	2
	総 務 課	総務課長 1(1) 主幹 1 主査 1 主任 2 主事 2	7(1)
	財 務 課	財務課長 1 副主幹 1 主査 1 主任 1 主事 6	10
	事 業 課	事業課長 1 副主幹 2 主任 1 主事 2	6
	児 童 課	児童課長 1 副主幹 1 主査 2 主任 1 主事 4	9
大崎むつみの里		里長 1	1
	事 務 所	事務長 1 主事 3	4
	第 1 事 業 所	所長 1(1) 施設長 3 施設長（理学療法士） 1 副主幹 2 主査 4 主任 13 主任看護師 1 主任理学療法士 1 支援員 9 看護師 2	37(1)
	第 2 事 業 所	園長 1 主査（管理栄養士） 1 主任 4 主任作業療法士 1 児童指導員 1 保育士 7(1)	15(1)
	障害者生活支援センター	所長 1 主任 2 相談支援専門員 1	4
	むつみホーム大間木	所長 1 主任 1(1)	2(1)
春光園		園長 1	1
	け や き	所長 1(1) 副主幹 1 主査 4 主査（看護師） 1 主任 7 主任管理栄養士 1 支援員 17(5) 看護師 3 理学療法士 1 主事 1(1)	37(7)
	う え み ず	所長 1 主任 4 支援員 2	7
グリーンヒル		所長 1	1
	事 務 所	事務長 1 主任 1	2
	ぎんもくせい	施設長 1(1) 主幹（看護師） 1 副主幹 2 主任 2 主任管理栄養士 1	7(1)
老人福祉センター	槻 寿 苑	所長 1 主任 1 主事 1 支援員 2(1)	5(1)
	和 楽 荘	所長 1 支援員 2	3
	い こ い 荘	所長 1 主任 1	2
	寿 楽 荘	所長 1 主査 1 主任 1	3
	あ ず ま 荘	所長 1 支援員 2	3
	し も か 荘	所長 1 主任 1	2
	馬 宮 荘	所長 1 主任 1	2
	仲 本 荘	所長 1(1) 主査 1(1) 支援員 3(3)	5(5)
槻の木	槻 の 木	所長 1 主査 4 主査（看護師） 1 主任 2(1) 支援員 5(1) 相談支援専門員 1	14(1)
	第 1 やまぶき	所長 1 主査 3(1) 主任 1 支援員 1	6(1)
	第 2 やまぶき	所長 1(1) 主査1 主任 1 支援員 1	4(1)
日進職業センター		所長 1 主査 1 主任 5 支援員 2 主事 1	10
か や の 木		所長 1 主査 1 主任 1 支援員 4(1)	7(1)
大砂土障害者デイサービスセンター		所長 1 主査 1 主任 2(1) 主任看護師 1 主任理学療法士 1 支援員 6(3) 看護師 1 理学療法士 1 主事 1	15(4)
み ず き 園		園長 1 副主幹 1(1) 主査 1(1) 主任 6 主任看護師 1 支援員 3(2) 相談支援専門員 1(1) 看護師 2	16(5)
み の り 園		園長 1 主任 2 看護師 2 支援員 3(2) 主事 1	9(2)
療育センター さくら草	す み れ	園長 1 主査 2 主任 1 主任看護師 1 主事 1(1) 児童指導員 2(1) 保育士 3 指導員 1(1) 看護師 1 作業療法士 2(1) 理学療法士 1	16(4)
	た ん ぼ ぼ	園長 1(1) 主査 1 主任 1 主任看護師 1(1) 主事 1 保育士 3 児童指導員 3 作業療法士 2(1) 理学療法士 1(1)	14(4)

さくら草学園		園長 1 主査 2 主任 3 保育士 2 児童指導員 3 作業療法士 1 管理栄養士 1	13
はるの園		園長 1 主査 1 主査（管理栄養士） 1 主任 2 保育士 4 児童指導員 1 作業療法士 1 相談支援専門員 1	12
杉の子園		園長 1 副主幹 1 主査 2 主任 1 保育士 6 作業療法士 2	13
けやき荘		所長 1 主査 1 支援員 2 主事 1	5
三橋	児童センター ・老人憩いの家(併設) ・放課後児童クラブ(併設)	館長 1 児童厚生員 3	4
植竹	児童センター ・放課後児童クラブ(併設)	館長 1 主査 1 児童厚生員 2	4
天沼	児童センター ・老人憩いの家(併設) ・放課後児童クラブ(併設)	館長 1 児童厚生員 3	4
宮原		館長 1 主任 1 児童厚生員 3	5
植水		館長 1 主任 1 児童厚生員 3	5
本郷		館長 1 児童厚生員 4	5
片柳		館長 1 主査 1 児童厚生員 2	4
春野		館長 1 主任 1 児童厚生員 2	4
馬宮	児童センター ・放課後児童クラブ(併設)	館長 1 児童厚生員 3	4
文蔵		館長 1 主任 1 児童厚生員 3	5
浦和別所		館長 1 児童厚生員 3	4
与野本町	児童センター ・老人憩いの家(併設) ・放課後児童クラブ(併設)	館長 1 主任 1 児童厚生員 2	4
向原	児童センター	館長 1 児童厚生員 4	5
大戸	児童センター ・放課後児童クラブ(併設)	館長 1 児童厚生員 3	4
大久保東	児童センター	館長 1 主任 1 児童厚生員 2	4
岩槻		館長 1 児童厚生員 3	4
仲本		館長 1 主査 1 児童厚生員 3	5
尾間木		館長 1 主幹 1 児童厚生員 3	5
大宮ふれあい福祉センター		所長 1(1) 副主幹 2(2) 主任 1(1) 主事 2(2)	6(6)
注1 ()：兼務による重複計上			合 計 416(47)

(6) 苦情解決処理状況

令和 7 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 31 日 (件)

名 称		前年度からの継続件数	受付件数	解決件数	未解決 (進行中) 件数	第三者委員 が関与した 件数	運営適正化委 員会が関与し た件数
事務局			2	2			
大崎むつ みの里	第 1 事業所		1	1			
	第 2 事業所						
	障害者生活支援センター		1	1			
	むつみホーム大間木						
春光園	けやき						
	うえみず						
グリーンヒルうらわぎんもくせい							
槻 寿 苑							
和 楽 荘							
い こ い 荘							
寿 楽 荘							
あ ず ま 荘			1	1			
し も か 荘							
馬 宮 荘							
仲 本 荘							
槻 の 木	槻 の 木						
	第 1 やまぶき						

	第 2 や ま ぶ き						
日 進 職 業 セ ン タ ー							
か や の 木							
大砂土障害者デイサービスセンター		2	2				
み ず き 園							
み の り 園							
さ く ら 草 学 園							
は る の 園							
杉 の 子 園							
け や き 荘		1	1				
三橋児童センター（憩）（ク）		6	6				
植竹児童センター（ク）		1	1				
天沼児童センター（憩）（ク）		2	2				
宮原児童センター（憩）（ク）		1	1				
植水児童センター（憩）（ク）							
本郷児童センター（憩）（ク）		1	1				
片柳児童センター（憩）（ク）							
春野児童センター（憩）（ク）		1	1				
馬宮児童センター（ク）		1	1				
文蔵児童センター（ク）							
浦和別所児童センター（ク）							
与野本町児童センター（憩）							
向原児童センター							
大戸児童センター（ク）							
大久保東児童センター		3	3				
岩槻児童センター		1	1				
仲本児童センター		2	2				
尾間木児童センター							
単独型放課後児童クラブ(50クラブ) 放課後子ども居場所事業(4事業)		34	34				
大宮ふれあい福祉センター		2	2				
合 計		63	63				

注 1（憩）：老人憩いの家併設 注 2（ク）：放課後児童クラブ併設

(7) 研修及び事務説明会の実施状況

① 施設長（管理職）研修

月	日	研修名	担 当
4	18	就業条件の変更について 業務の棚卸について	総務課
6	20	給与明細書等の電子交付手続きについて	財務課
7	18	経営健全化計画について	事務局
10	21	良い職場(施設)とは？－心理的安全性の高い職場づくり－	理事長
11	21	安否確認システムの運用について	事業課
12	19	業務改善につなげる「業務の棚卸」について (part2)	事務局長

② 人事評価者研修

月	日	研修名	内 容	参加者数		
				参集	Web	
6	13	人事評価者研修（第1回）	サービス力向上と職員定着を図る人事評価の進め方	33名	70名	動画視聴
7	17	人事評価被評価者研修（第1回）	人材育成と目標設定における留意点	35名	142名	動画視聴
8	8	人事評価者研修（第2回）	評価者の役割と職場指導、面談の必要性和進め方	26名	73名	動画視聴
9	12	人事評価コーチング研修	コーチングの基礎知識と活用術		77名	動画視聴
10	7	人事評価者研修（第3回）	人事評価理解度チェックとケーススタディ		82名	動画視聴

12	12	人事評価者研修（第4回）	職員の育成方法と評価者としての対応及び心構え		89名	動画 視聴
1	16	人事評価問題解決研修	福祉施設における問題解決力		58名	動画 視聴
2	6	人事評価被評価者研修（第2回）	自分の仕事を正しく伝え、成長につなげるためには		143名	動画 視聴
3	13	人事評価者研修（第5回）	面接の効果を高める共感話法		87名	動画 視聴

③ その他研修及び事務説明会

月	日	研修名	内 容	参加者数	
				参集	Web
10	30	セルフケア研修ーストレスを知りストレスをコントロールするー	ストレスに対する知識と対応方法について確認する		53名
11	6	ハラスメント防止研修（管理職）	ハラスメントの種類など正しい知識を知る、指導とハラスメントの違いや相談を受ける際に注意すべき点について学ぶ		52名
11	20	ハラスメント防止研修（一般職）	ハラスメントの正しい知識について、適切なコミュニケーションについて、ハラスメント対策について		63名
12	4	安全運転研修	交通安全意識の向上、事故防止について		49名
1	9～	文書事務基礎研修	文書事務の基礎について		動画 視聴
2	6～3/26	ファイリング基礎研修	ファイリングの基本、ラベルシールの印刷方法について		動画 視聴
3	16、25	令和8年度採用 職員採用説明会	事業団概要、就業条件、採用時事務手続き等	7名	

2 財務課

＜財務担当＞

人事計画、業務改善計画、DX 計画の3本を柱とした「経営健全化計画（令和7年度～令和10年度）」に基づき、改善すべき課題を挙げ取り組みを実施した。

また、昨年度から引き続き障害者生活支援センターと合同で個別に施設を訪問し、経営状況説明会を実施した。

(1) 会 議

定期的に財務事務担当者会議を開催し、管理会計の手法、各施設の経営状況の分析等を職員へ周知徹底した。また、会計監査人による監査に対応し、昨年度に続き「無限定適正意見」を取るべくガバナンスの強化、財務の強化を図り、法人全体の経営状況の分析に努めた。

会議名	内 容	開催回数
財務担当者会議	会計監査人監査指摘事項の対応、DXの推進、会計処理等	3回

(2) 研 修

月	日	研修名等	内 容	参加者数
7	24	経営状況説明会（春光園）	事業団、施設の経営状況について	21名
8	18	経営状況説明会（槻の木）	事業団、施設の経営状況について	15名
10	17	経営状況説明会（大崎むつみの里）	事業団、施設の経営状況について	41名
12	8～19	業務委託・修繕等に関する事務説明会	契約事務、入札方法の説明等（動画）	72名

(3) 会計監査人監査

15回の往査を実施し、内部統制等の問題について整備を図った。

(4) 監事監査

監事監査を実施し、法人運営が適正であるとの報告を受けた。

＜給与担当＞

(1) 給 与

① 施設との有機的連携に努めるなか、自前での給与システムにより適正な支給を行うとともに

に、給与関係資料の作成を行った。

- ② 源泉徴収事務、社会保険の届出等における機密の保持に努めた。
- ③ 通勤手当及び扶養手当の適正支給のため、調査を実施した。
- ④ 給与改定に対応した。
- ⑤ DXの推進に伴い、給与明細書等の電子化、住民税及び法定調書の電子申請を行い、業務の効率化やコストの削減を図った。

(2) 職員福利厚生事業

- ① 給付を次のとおり行った。

種 別	件数	支給金額(円)	備 考
健康管理助成金	215	631,848	3,000円×198人、2,700円×1人、2,673円×6人、2,670円×3人、1,600円×6人、1,500円×1人
眼鏡等修理補助金	4	39,900	10,000円×3人、9,900円×1人
資格取得助成金	5	50,000	10,000円×5人
計	224	721,748	

- ② 60歳前後の社会保険に加入する職員に対して、年金受給に関する説明会を実施した。

月	日	説明会名	内 容	参加者数
2	25	年金受給に関する説明会	老齢年金、在職老齢年金、雇用保険との調整等	18名

- ③ 臨時（フルタイム）及びクラブ職員の福利厚生に資するため、引き続き「ワークジョイさいたま」に加入した。（令和7年度末の加入者数204名）

3 事業課

法人の経営等に関する庶務、経営基本計画等の推進、指定管理者制度に関する手続き、大宮ふれあい福祉センターの管理・運営、各施設のサービス及び事業の実施に係る企画立案等を統括した。また、法人全体に係る研修・説明会・表現活動の企画運営及び会議の庶務を行った。

(1) 会議・委員会の庶務

会議名	内 容	開催回数
経営戦略会議	事業団の経営及び運営に関する重要事項の検討等	12回
経営委員会	法人・施設取組計画の策定及び進行管理等	3回
危機管理委員会	虐待チェックリスト、安否確認システムの検討等	5回
コンプライアンス委員会	コンプライアンス規程に基づく取組等	3回
研修委員会	研修実施に関する検討等	8回
障害関係施設長会議	情報共有や課題の検討等	11回
障害関係施設虐待防止代表者会議	情報共有や課題の検討等	11回
老人福祉センター所長会議	運営管理に関する方針の検討等	12回
サービス向上担当者会議	利用者アンケートの検討、サービス向上研修等	3回
老人福祉センター実務担当者会議	情報共有や課題の検討等	11回
新人（任）職員育成担当者連絡会	新人（任）職員の育成に係る課題抽出、情報交換等	4回
アート支援プロジェクト会議	障害関係施設でのアート支援の検討及び作品展開催準備等	3回
自主経営施設健全化プロジェクト	自主経営施設の維持管理や事業展開の検討	4回

(2) 経営基本計画等の推進

経営基本計画及び後期経営実施計画を推進するとともに、法人・施設取組計画の作成や評価、見直しに関する庶務を行った。

(3) 指定管理者制度に関する手続き

指定管理者として運営している施設について、さいたま市との協定書の締結及び協定書に関する各種申請、報告等事務を行った。

(4) 法人に係る総括、調整等（児童課所管の事務を除く）

- ① 利用状況の把握・報告、事業計画、事業報告、行事、広報、利用者の事故対応、事業運営

に係る保険等の取りまとめを行った。

② さいたま市や関係機関等からの各種調査の回答、後援等の処理を行った。

(5) 研修の実施状況（委員会等の立案による研修を含む）

月	日	研修名等	内 容	参加者数	
				参集	web
4	17	新任管理職等研修	事業団の役割、管理職として	4名	
6月～12月		職員交流研修（他法人施設等）	他法人等への研修	全施設	
7	8	廃棄物の処理に関する研修会	廃棄物処理のルール		59名
9	12	中堅職員研修	階層別研修	15名	
9月～1月		職員交流研修	法人内他施設への研修	15名	
10	16	リスクマネジメント研修	総論、事故のリスクマネジメント	32名	
	28	リスクマネジメント研修	苦情のリスクマネジメント	31名	
11	6	職員実践・事例・研究発表会	4演題の事例等発表		288名
	13	サービス向上研修	アンガーマネジメント		128名
	27	人権擁護・虐待防止研修	利用者の人権擁護と虐待防止について理解する研修		139名
12	11	感染症対策研修	感染症対策に係る研修		55名
1	23	安否確認システム研修	安否確認システムの必要性や運用について		124名
2月～3月		個人情報保護研修	個人情報・情報セキュリティ対策		224名
通年	5回	スーパービジョン研修	業務遂行におけるスーパービジョンの活用	延べ17名	

4 児童課

事業団の児童福祉に係る施設（児童センター・放課後児童クラブ・放課後子ども居場所事業）を統括し、効率的な経営を図るとともに、事業活動の指導監督にあたった。

児童の健全育成と保護者の子育てを支援するため、職員の専門性の向上やサービスの向上等に努めた。

今年度は、「放課後子ども居場所事業」のプロポーザルのうち、大久保小学校放課後子ども居場所事業への応募を行い、指名された。

また、放課後児童クラブ、放課後子ども居場所事業に入室管理システムを導入し、保護者へ向けて児童の登降時刻の通知及びおたよりの送信を行うなど、ICTを活用した効率的な施設運営に努めた。

(1) 児童福祉施設各施設の総括的管理

利用状況の把握・報告、各種調査回答、保険、広報、利用者事故報告等の事務を行った。

(2) 放課後児童クラブ及び放課後子ども居場所事業の事業運営

事業計画・報告、各種マニュアルの管理、利用者アンケート・自己評価、苦情処理等の事務を行った。

(3) 研修の実施状況

月	日	研修名	参加人数
5	9	放課後児童クラブ職員研修「新任クラブ長」web	単独児童クラブ長 2名
6	3	児童課主催テーマ別研修「リスクマネジメント①総論・事故」	児童クラブ職員 43名 児童センター職員 6名
	12	児童課主催テーマ別研修「リスクマネジメント②苦情」	児童クラブ職員 44名 児童センター職員 6名
	24	児童課主催テーマ別研修「安心でんしょばと（入退室管理システム）の導入と運用について」	児童クラブ職員 41名 児童センター職員 11名
	27	児童課主催テーマ別研修「安心でんしょばと（入退室管理システム）の導入と運用について」	児童クラブ職員 43名 児童センター職員 10名

7	2	児童課主催テーマ別研修「パソコン初級編」	児童クラブ職員 14名
	3	児童厚生員研修会（他職種異動者向け研修）	児童厚生員 13名
	15	児童厚生員研修会（財務事務説明会）Web	児童厚生員 26名
	16	放課後児童クラブ職員研修「新任職員向け」	児童クラブ職員 19名 児童センター職員 3名
10	1	児童厚生員研修会（入退館システム研修）Web	児童厚生員 53名
	15	児童厚生員研修会（相談に対する心構え）Web・参集	児童厚生員 61名
11	4	放課後児童クラブ職員研修「クラブ職員」web	児童クラブ職員 48名 児童センター職員 3名
	18	放課後児童クラブ職員研修「単発アルバイト」web	単発アルバイト職員 65名
	27	放課後児童クラブ職員研修「臨時職員」web	児童クラブ職員 55名 児童センター職員 2名
12	8	児童厚生員研修会（他職種異動者向けフォローアップ研修）	児童厚生員 16名
1	26	児童課主催テーマ別研修「普通救命講習Ⅰ」	児童クラブ職員 10名 児童センター職員 8名 母子生活支援施設職員 1名 事務局職員 2名
	23	児童課主催テーマ別研修「安心でんしょばと（入退室管理システム）の導入と運用について」	児童クラブ職員 69名 児童センター職員 18名
	29	児童課主催テーマ別研修「パソコン研修ー表計算ソフト（Excel）を学ぼうー」	児童クラブ職員 79名 児童センター職員 1名
2	26	児童課主催テーマ別研修「CAP おとなのためのワークショップ」	児童クラブ職員 33名 児童センター職員 6名 母子生活支援施設職員 1名
3	4	児童厚生員研修会（児童健全育成推進財団主催伝達研修）Web	児童厚生員 49名
	11	児童厚生員研修会（全体会）Web	児童厚生員 70名

(4) 各種会議等の開催

月	日	内 容
4	1	単独型放課後児童クラブ職員定期人事異動（異動者52名） クラブ職員採用（クラブ職員10名、臨時職員7名）
	18	第1回事業責任者会議
	22	第1回クラブ長及びクラブリーダー会議
	8	ブロック別連絡会議（大宮東ブロック）
5	12	ブロック別連絡会議（中央ブロック）
	14	ブロック別連絡会議（中央ブロック）
	15	ブロック別連絡会議（浦和ブロック）
	16	ブロック別連絡会議（桜ブロック）
	19	ブロック別連絡会議（南ブロック）
	22	ブロック別連絡会議（緑ブロック）
	21	第2回事業責任者会議
	23	ブロック別連絡会議（岩槻ブロック）
6	20	第3回事業責任者会議
	19	第2回クラブ長及びクラブリーダー会議
7	18	第4回事業責任者会議
9	4	ブロック別連絡会議（併設クラブ）
	5	ブロック別連絡会議（大宮西・東ブロック）
	8	ブロック別連絡会議（中央ブロック）
9	10	ブロック別連絡会議（浦和ブロック）
	11	ブロック別連絡会議（桜ブロック）
	12	ブロック別連絡会議（南ブロック）
	17	ブロック別連絡会議（緑ブロック）
	18	ブロック別連絡会議（岩槻ブロック）
	22	ブロック別連絡会議（居場所ブロック）
10	21	第5回事業責任者会議
	22	第3回クラブ長及びクラブリーダー会議
11	3	クラブ長ヒアリング ～12月12日
	21	第6回事業責任者会議

12	19	第7回事業責任者会議
	22	第4回クラブ長及びクラブリーダー会議
2	2	第8回事業責任者会議
	20	第9回事業責任者会議
	22	第5回クラブ長及びクラブリーダー会議
3	19	第10回事業責任者会議

(5) 放課後児童クラブ及び放課後子ども居場所事業の人事管理

職員採用、人事異動等の事務を行った。

(6) 単独放課後児童クラブ及び放課後子ども居場所事業の庶務・財務管理

- ① 勤務報告、文書管理・ファイリング、建物設備の修繕等の庶務を行った。
- ② 予算・補正予算作成、決算報告、備品管理、業務委託事務、業者支払い、おやつ代監査等の財務管理を行った。

(7) 各施設の小破修繕について実施、または施設で実施するための指示、助言

- ① 各施設からの修繕（修理）依頼書を受付、対応した。
- ② 各施設の設備や備品の修理（修繕）を実施、又は助言をした。

【2】老人福祉施設グリーンヒルうらわ

1 指定管理（令和7年度～令和11年度）

ケアハウスぎんもくせい（軽費老人ホーム）

2 今年度の施設取組計画

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
2つ以上の研修参加、2回以上のケース検討会議、年1回新規事業	上回って達成	施設廃止に向けた転所支援が進むなかで、利用者の権利利益については全職員が常に意識し取り組んだ。その自覚を持続するため、虐待防止研修では人権擁護の観点から虐待を防止するための考察を反復して実施した。また、自立型ケアハウスにおける支援（介入）と人権擁護をテーマにさいたま市内ケアハウスの取組をインタビューし、6名の利用者の支援に関するカンファレンスを実施した。職員の知見を深めるだけに留まらず、利用者ならびに地域住民に対しても人権擁護への意識啓発活動を三室地区社協と共催で企画し、実施した。1年を通じ、利用者の主体的な生活と転所支援が常態的に提供できるよう取り組むことが出来た。
地域住民参加の講座を年1回以上開催する。	達成	地域住民を対象にする事業は意識的に企画・運営した。常態的に実施しているオレンジカフェにはボランティア希望の方もおり、少しずつ広がりを見せている。三室地区社協との共催では福祉講座を開催し、福祉や人権への関心や啓発に努め、地域住民が福祉に関わる機会を作ることが出来た。

3 実施報告

自分らしく暮らしたいという利用者に寄り添い、ケアハウスとして、個々の生活に対する支援・サービスを提供するよう心掛けた。

- (1) 「入浴」「食事」「生活相談」等のサービスを低額な料金で利用し、安全で安心な住まいとして生活を継続することができるよう利用者の声に耳を傾け、適切な支援を行った。
- (2) 利用者の心身状況等を日々の支援の中や健康診断で適確に把握しながら、利用者一人ひとりが個性豊かにいきいきと過ごせるように、その自立を尊重した。
- (3) 利用者のニーズや環境変化に対応した魅力ある施設づくりのために利用者アンケート等を行い、その結果を職員が共有するとともに意見や要望への対応について検討を行った。
- (4) 利用者が身体機能を維持し生きがいをもって生活するため、家族をはじめ、介護支援専門員との円滑な連携を図り、介護サービスへつなげるとともに施設入所への支援を行った。
- (5) 利用者の人権擁護への意識の向上を職員間で共有し、日常業務の中や施設内研修等で学習の機会を設けた。
- (6) 新型コロナウイルス等感染症対策については、日常観察に注視し異変に対する気づきをする等、感染を拡大させない取組を行った。万が一、陽性者が発生した場合も速やかに拡大防止に取り組み、集団感染化を抑止した。
- (7) 地域福祉活動の支援については、次のとおり実施した。
 - ① 三室地区社会福祉協議会との共催事業であるボランティア体験サロンをケアハウスぎんもくせい食堂で月1回開催した。ボランティア体験サロンは、8月にさいたま市社会福祉協議会の「さいたま夏のボランティア体験学習事業」として開催され、小学生から大学生計37名が参加。毎回参加されるボランティアから雑巾の縫い方を教わるなどの世代間交流も行わ

れていた。

- ② 介護予防体操教室は、三室地区社会福祉協議会との共催事業として「元気に！エクササイズ&ウォーク」を月1回ケアハウスぎんもくせい食堂で開催し、地域で体操講師として活動する市民を講師として招き、チューブやティラピスボールを使用したストレッチを中心の体操を実施した。
- ③ 地域包括支援センターとの共催事業として「オレンジカフェみむろ」を月1回オレンジ(旧喫茶室)で開催し、認知症の人とその家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集える場所として開催した。
- ④ 令和7年12月に「グリーンヒルうらわ人権標語大会」を開催し、利用者ならびに地域住民等から応募全23句の標語をホールに1ヶ月間掲示し、三室地区社会福祉協議会の協力も得て表彰式も行った。
- ⑤ 令和7年12月15日に福祉講座「知ろう！学ぼう！成年後見制度」を開催し、地域住民26名、利用者6名の合計32名が参加された。
- ⑥ 令和7年12月から「グリーンヒルうらわラジオ体操」を平日毎日ホールで開催し、利用者のみならず地域の方も気軽にご参加いただき、さいたま市長寿応援ポイント対象事業として、参加する毎にポイントを溜めていくことを楽しんでいただいた。
- ⑦ 令和8年2月19日に「暮らしに役立つ講座「チョコレートの世界へようこそ！」」を開催し、地域住民32名、利用者4名が参加された。

4 利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月内入居者数	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち夫婦(組)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月内退居者数	全体	2	5	6	3	3	3	4	3	2	3	1	2	37
	うち夫婦(組)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
月末在籍者数	全体	41	36	30	27	24	21	17	14	12	9	8	6	
	うち夫婦(組)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

※ 夫婦＝組数で人数は全体数に含まれる。

5 入所者の転所支援についての取組

日常の支援にあたる職員の他に、介護支援専門員や社会福祉士等の資格を有する転所支援担当の職員を配置し、個別担当制として日常の支援と転所支援を総合的に行い、所管課と共有・連携し、利用者の転所先、転所時期が決定した時点で速やかに所管課への報告を行った。

転所支援相談は、利用者一人ひとりに対し個別に定期的な相談の他、希望時に相談に応じ、利用者と保証人双方のご希望を伺いながら調整を行い、転所先の選定にあたった。

また転所先の施設との連絡や、手続きに必要な書類の準備等について、利用者と保証人と相談しながらすすめた。

6 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

感染症・食中毒等に関するリスク対応と防止策の検討・実施を行った。

- ① 感染対策会議を月1回開催し、感染対策行動を協議・決定した。
- ② 来館者には、手指消毒の徹底と健康チェックなど感染防止の協力を依頼した。
- ③ 利用者には可能な限りマスク着用を依頼するとともに、発熱等体調変化の早期発見に努めた。
- ④ 全館の手すり、エレベーターボタン、洗面所、ドアノブなど触れる場所の清掃・消毒を実

施した。

- ⑤ 全職員の出勤前の検温、サージカルマスク並びにフェイスシールド及び、グローブの着用（必要に応じ）、外出時のマスク替え、自身のトイレ使用前後の手指消毒、平素の手洗い・うがい・手指消毒、出勤退勤時の衣服替え等の感染対策行動はもとより、高齢者利用施設従事者として私生活においても十分に感染防止に対する意識を持ち、取り組むことを継続した。
- ⑥ 策定済みの感染症 BCP マニュアルの見直しを行い、11月に更新した。
- ⑦ 嘔吐物の適切な処理方法の習得等を行い、感染症に対する知識と対応について周知徹底した。
- ⑧ レジオネラ属菌対策
易感染者が利用する入浴施設であることを考慮し、年2回のレジオネラ属菌検査を実施した。

(2) 事故防止対策

ヒヤリハット、インシデント、事故報告にレベル分けした仕組みの中で、再発防止に向けカンファレンスを行った。転倒転落・異食・誤嚥・入所者間トラブル等多岐に渡る高齢者施設での事故に対し、危険予知ならびに予防、再発防止策を講じた。

(3) 防犯対策

- ① 面会者、訪問者は訪問記録に記入いただき、業者には名札を着用させた。
- ② 夜間（17:00～翌8:30）は警備員を配置した。
- ③ 夜間は施錠し、巡回等による警備を実施した。
- ④ 防犯カメラの適正な設置及び管理運用及び職員による1日2回の巡回を実施した。
- ⑤ 東浦和警察の協力を得て12月に防犯講習を実施し、不審者対応やさすまたの使用方法等について実践を交えた訓練を行った。
- ⑥ 防災・防犯委員会にて年1回、施設内の防犯カメラなどの設備を職員と周りながら確認し防犯意識を高める研修を実施した。

(4) 個人情報管理

情報セキュリティポリシー、情報セキュリティ対策マニュアルに基づき、個人情報等の適正な取扱いの徹底を図った。

- ① サービスの提供にあたっては、個人情報の利用目的について説明し、契約時に同意を得た。
- ② やむを得ず個人情報を持ち出す場合は、持出し及び返却を個人情報持出管理簿により確認するとともに、当該情報の安全確保に努めた。
- ③ 個人情報の適正な取扱いの周知、徹底を図るため研修を実施した。

(5) 災害対策

① 体制の充実

- ア 地元自治会、自主防災会との「災害時相互援助協定」を継続した。
- イ 火気使用箇所、閉鎖障害箇所の日常点検を実施した。
- ウ 危機管理計画に基づき、食料、水などの災害備蓄品を整備した。

② 訓練の実施

- ア 総合防災訓練を年2回（日中想定・夜間想定各1回）実施し、より実践的な訓練になるよう日中想定が発災想定時間ならび火元想定場所等は事前告知せずに実施した。実施後は反省点を次の訓練に生かすために、全職員対象の「防災講習会」を開催した。
- イ 防災・防犯委員会にて、災害BCPの見直しを進め、9月に改訂を行った。

(6) 施設維持管理

各種日常点検のほか、建築設備点検（年1回）を実施し、施設の不具合を事前に把握し、適切な施設管理に努めた。また、修繕計画に基づき計画的な修繕を実施した。経年劣化による施設の不具合が発生した際には、迅速に応急措置を講じるとともに、修繕にあたっては利用者への影響を最小限となるよう配慮した。また、必要に応じて改修・更新を要する事項について市所管課に報告した。

(7) 高齢者虐待への危機管理

- ① 身体拘束防止・虐待防止委員会を開催し、研修及び虐待防止チェックリストの活用等による職員の教育及び意識啓発、また適正な職場環境の維持・改善に努め、虐待防止の徹底を図った。
- ② 関係機関との連携により、地域に対する虐待防止の意識啓発及び早期発見に努めた。また、人権侵害の発生、又はそのおそれがある場合には地域包括支援センターへの通報義務を遵守するとともに緊急保護等迅速な対応を図った。

7 サービス向上計画実施状況

(1) 利用者の意見を反映する取組

① 意見箱等の活用

日々利用者の声を聞き取るほか、意見箱「みなさまの声」の設置等により、利用者又はその家族から寄せられた苦情、意見、要望を職員間で共有するとともに、迅速な対応に努めた。

② 懇話会等

定期的に利用者を対象とした懇話会を開催するほか、利用者の日々のさまざまな心配ごと等も随時相談を受け、適切な対応に努めた。また、利用者と施設が共に話し合い問題解決を図った。

③ 利用者アンケート

利用者の意識傾向を知り、事業内容に反映させることはもちろん、自由回答欄に記入いただいた意見や要望を真摯に受け止め、それに対する回答も併せて掲示するとともに、対応策を講じた。

(2) 地域、関係機関との連携

前年度に引き続き新型コロナウイルス等の感染状況を考慮しながら、地域、関係機関との連携を一部実施した。

① 生きがいと社会参加の促進

ア 世代間交流

対象	内容	実施状況
夏のボランティア体験サロン	ボランティア体験サロンに学生参加	8月

イ 施設利用者や地域高齢者を対象とする生涯学習、地域活動の機会の提供

事業・内容	実施状況
グリーンヒルうらわラジオ体操	平日毎日
オレンジカフェみむろ（認知症カフェ）	月1回
こみに亭ひだまり（高齢者サロン）	月1回
「元気に！エクササイズ&ウォーク」（転倒予防教室）	月1回
ボランティア体験サロン（ボランティア活動）	月1回

② 地域交流事業の実施・関係機関との連携

9月に「グリーンヒルうらわまつり」、12月に福祉講座「知ろう！学ぼう！成年後見制度」の利用者と地域の方々との交流事業を開催し、民生委員や地域自治会との連携に努めた。

(3) 専門性の向上

① 各種委員会活動の活性化

感染防止委員会、事故防止委員会、身体拘束防止・虐待防止委員会等の委員会活動を通じて、適正な運営につなげていくとともに、役割を通じてリーダーシップの養成を図った。

② 外部派遣研修

月	日	主催団体	研修内容	参加職員数
7	1	さいたま市保健所	令和7年度第1回給食施設従事者研修会	1名
8	29	ビズアップ人事コンサルティング㈱	経営指標を業務改善に生かす組織マネジメント	1名
9	10	さいたま市消防局	令和7年度応急手当普及員再講習	1名
	11	デコボコベース株式会社	支援×AI 勉強会 実用編	1名
	26	さいたま市介護保険サービス事業者連絡協議会	令和7年度第3回研修会	2名
10	10	ビズアップ人事コンサルティング㈱	65歳定年時代に対応する人事給与制度の見直し方	1名
	28	(福) 埼玉県社会福祉協議会	令和7年度プロとして知っておきたい！障害福祉サービス研修	1名
	29	さいたま市保健所	令和7年度第1回「高齢者施設における感染症対策研修」	1名
11	6	さいたま市	認知症介護基礎研修 e ラーニング	1名
	13	さいたま市保健所	令和7年度第2回給食施設従事者研修会	1名
	27	東京海上日動㈱	リスクマネジメントセミナー	1名
12	17	東京海上ディアル㈱	有事に備えるバックオフィス主導のセキュリティ教育とは？	1名
	18	東京海上日動㈱	企業に求められる水害リスク対策	1名
1	13	(福) 埼玉県社会福祉協議会	口腔機能向上研修	1名

③ 職場内研修

月	日	内 容	参加職員数
5	26	緊急時の初動対応・AEDの使い方	7名
6	20	ケアハウスの支援について考える	6名
7	18、22	防災・防犯ツアー	9名
	18	がんもくせい感染BCPについて	9名
	31	救急救命講習	6名
9	19	がんもくせい災害BCPについて	9名
10	24～11/6	吐物処理訓練	16名
11	21	静岡モデル（感染対策）机上訓練	8名
12	19	防犯講習会	5名
1	29	？不思議体験？光る手の謎！？（正しい手の洗い方について）	5名
2	12、13	虐待防止研修	16名
	20	情報セキュリティ・個人情報保護研修	16名

8 年間行事報告

月	日	内 容	備 考
4	30	健康診断	41名
5	1～2	菖蒲湯	
	15	自治会総会	26名
	21	歌声広場	7名
	26	利用者懇話会	27名
6	26	防災避難訓練	32名
7	4～7	七夕飾り	
	16	歌声広場	7名
8	7	ぎん涼み会（かき氷会）	16名
9	9	かき氷会	11名
	12	敬老祭	23名
	17	歌声広場	7名
	27	グリーンヒルうらわまつり	12名
10	1	国勢調査	21世帯
	23	防災避難訓練（夜間想定）	6名

11	19	歌声広場	3名
12	1～26	人権標語大会（館内掲示）	
	15	福祉講座「知ろう！学ぼう！成年後見制度」	6名
	17～18	ゆず湯	
	12	お楽しみ会	10名
1	1	新年を祝う会	8名
	21	歌声広場	3名
	29	？不思議体験？光る手の謎！？（正しい手の洗い方について）	4名
2	20	暮らしに役立つ講座「チョコレートの世界へようこそ！」	4名
3	4	お茶会	3名
	11	災害時備蓄品試食会	5名
	18	歌声広場	3名

【3】老人福祉センター(シニアふれあいセンター)

1 指定管理（令和7年度～令和11年度）

※ 老人福祉センター仲本荘の指定管理期間は、令和6年度～令和10年度

(1) 老人福祉センターA型

- | | |
|----------------|---------------|
| ① 老人福祉センター和楽荘 | ② 老人福祉センター寿楽荘 |
| ③ 老人福祉センターいこい荘 | ④ 老人福祉センター槻寿苑 |

(2) 老人福祉センターB型

- | | |
|----------------|----------------|
| ① 老人福祉センターあずま荘 | ② 老人福祉センターしもか荘 |
| ③ 老人福祉センター馬宮荘 | ④ 老人福祉センター仲本荘 |

2 今年度の施設取組計画

<和楽荘>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
利用者の体力を維持するための機会を設ける。	達成	主体的に意識的に身体を動かそうと健康体操や介護予防体操に参加している方以外でそれらに興味のない方へ、専門家（プロ）からのアドバイスの必要性を感じ、関係機関と連携した。健康と安全についての今の情報や動向に興味をもって健康に気を配って生活する意識付けができた。
関係機関と連絡・調整・会議を行う。	達成	和楽荘主催の地域懇談会を実施した。その中で地域連携がまだまだ足りていないことをお知らせすると地域包括支援センターにて「地域支え合い連絡会（協議体）」の参加のお誘いを受け、参画することとした。
SNSを活用した広報活動を検討する。	達成	今年度は、初めて地域懇談会を開催し、中でも地域自治会との関係性を深めることができた。また、Xを活用し広報活動を積極的に行った。

<寿楽荘>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
事業の改廃の検討を行う	達成	新規に館内アンケートを取り入れ利用者の意見を伺うことができた。利用者が求めている事業を再確認できた。また、新規に外部からの講演会を実施し好評だった。新しい事業と残す事業を精査して今後も事業をすすめていく。
連携・協働事業を継続していけるよう再検討する。	未達成	地域懇談会・桜区北部圏域高齢者生活支援推進会議等の会議に出席し事業実施に向けての連携を図るよう努めた。
伝達研修をしたことのない職員が伝達研修を行う	達成	勤務体制を調整してできるだけ研修に参加するよう努めた。また、それに伴い伝達研修を行うことができた。

<いこい荘>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
関係機関の講座(年1回)	上回って達成	地域包括支援センターきりしきと連携し、講座を2回開催することができた。いずれも参加者に好評な内容だった。今後も連携して開催していきたい。
健康相談(月2回) 百歳体操(月4回) すこやか運動教室(年20回) おたより配付	上回って達成	関連機関と連携して目標どおりに事業を行うことができた。また、施設たよりを自治会回覧板で広報させていただくようにしたところ、事業に関心を持って初めて来館して下さる方が増えた。しかし、依然として健康相談の参加者は少なかった。

利用者懇談会（年１回） e スポーツ（月２回） オンライン対戦の実施	未達成	団体利用者懇談会を通して多くのご意見等伺い、利用方法等について改善させることができた。e スポーツについては、参加すること自体に抵抗感があり参加者が少ないという課題があった。そのため、体操の時間と組み合わせて実施する等して、参加へのハードルを下げる工夫をした。また、自治会で施設たよりを回覧していただくようになったことで新規利用者が増え、少しずつ盛り上がりを見せるようになってきた。その雰囲気を大切にしたいと考え、オンライン対戦については今年度中の実施は見送ることとした。
--	-----	--

<槻寿苑>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
利用者（新規利用者を含む）のニーズ把握（各年１回） 行事開催後のアンケートの実施（年３回）	上回って達成	行事開催後のアンケートは計４回実施し、集計、回覧にて職員全員で情報共有し、来年度に向けての課題を検討した。利用者アンケートでは98名の回答があり、多くの感謝、ねぎらいのお言葉が職員の励み、モチベーションの向上につながった。ご意見・ご要望については、対応可能なものについては速やかに対応し、要検討事項については、今後の課題とした。
外部研修・老福レベルアップ研修受講と所属内研修を合わせて10回以上実施する。 地元大学の実習生を受け入れる。	上回って達成	21回研修に参加、受講後の伝達研修により全職員で情報共有を行い、スキルや意識の向上を図ることができた。 また、老福レベルアップ研修では、専門的知識を学ぶことができた。 昨年に続き、地域の大学３校の実習受け入れを行った。地域で生活する高齢者を理解し、老人福祉センターの機能、および地域における役割を理解していただくことができた。
市、地元自治会と連携し、災害時支援体制の強化を行う。 安心安全に配慮した地域間交流事業を実施する。	達成	市、自治会など地域の人々と、槻寿苑にて実施した避難所運営委員会に参加。避難所開設訓練を行い、それぞれの役割と流れについて確認し、災害時支援体制の強化を図った。 また盆踊り大会では、障害者施設の参加があり、盆踊りの輪に入り一緒に踊ったり、自主製品の販売などで交流がみられた。

<あずま荘>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
地域団体との連携事業を年１回実施。	達成	地域福祉力の向上という観点から、自治会の要望を踏まえた内容としたことで、参加者の満足度が高い事業となった。地域団体と連携して実施することで、地域とのつながりを実感できる機会となり、防災や生活に身近なテーマを通じて、理解と関心を深めることができた。今後も、「共に支えあう社会づくり」を目指し、さいたま市や地域団体とのネットワークを強化するとともに、市民との協働による事業展開を推進し、地域福祉力の向上に貢献していく。
前年度の取組を見直しするための、検討会議を年２回実施。	達成	今年度は卓球事業の見直しをはじめ、各行事の実施状況や課題が明確になった。行事ごとの参加傾向や利用者ニーズを把握することで、継続すべき点と改善が必要な点を整理することができた。今後も、利用者の期待に応えるサービスの充実に努めるとともに、ニーズに沿った質の高いサービスを提供するため、新たな仕組みの構築や行事のリニューアル等を推進していく。
WEB研修と外部研修を年１回以上受講し、職場内研修を年２回以上実施。	上回って達成	利用者支援の更なる充実を目指し、専門性のある人材の育成に取り組むとともに、研修参加の充実を図った。WEB研修および外部研修を年１回以上、職場内研修を年２回以上実施する計画に対し、いずれも計画を上回る回数を実施した。

<しもか荘>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
既存事業の見直し・改善	達成	e スポーツについては、利用者の認知機能や健康面の活性化の支援を目的として、毎月1回（午前2時間・午後2時間）実施した。ゲーム内容についても参加者が飽きないように、「ボウリング」ゲーム以外に「太鼓の達人」を行ったり、参加者個人ごとの得点表を作成することでリピーターを増やすような工夫を進めてきた。多少参加者は増えているが、今後もeスポーツに積極的に参加していただけるような雰囲気の醸成に努めたい。 運動関係の事業は、北区高齢介護課と連携した体操教室、及び包括支援センターゆめの園と連携した百歳体操事業を毎月1回実施している他、職員が中心となり1日3回の体操（ラジオ体操等）を行っている。施設目標である「利用者が健康に過ごせるような事業を実施していく。」については概ね達成できている。
新規文化事業を増やす	未達成	新規事業を開始するより既存の事業の充実を望む声が多く、令和7年度は新規事業の開始には至らなかった。高齢の利用者にとって新しいものに挑戦するよりも既存のもので充実感を満足させる気持ち強い傾向が伺える。新規の事業展開よりも今後の事業においては利用者の満足度を上げるための内容の充実が重要に思う。
老人福祉センター内での研修の実施（年5回）	達成	職員体制等の理由から、事業団や他施設に出向いての研修やZoomでの研修に参加することが難しい状況である。ただし参加できなかった研修については事業団ホームページ内の研修動画を活用すること、及び職場内での伝達研修を実施することで、取組目標は達成できている。 専門知識等の習得を目指し様々な研修に参加すること、及び施設内で研修参加者が行う伝達講習により、職員の資質の向上が図られるとともに、利用者サービスの向上に生かされていると考える。

<馬宮荘>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
新規事業実施の確立を図る。すべての行事において実施後アンケートを年1回行う。	達成	行事の実施後アンケートを全ての行事において、年度中ごろに実施したことにより、アンケート結果を年度内に活かすことができた。また令和5年度にはじめて新規事業の地域作品展は今年度で3年目となり、事業として確立した。
事例を通した職場内研修5回、職場外研修1回、利用者アンケート（自由筆記）職員接遇の指摘ゼロとする。	未達成	年間を通して職場外で行われた研修に全職員1回以上参加した。また受講後、職場にて伝達研修を年5回以上実施した。研修を受けたことにより職員の意識が高くなり、仕事に対して積極的な姿勢がでてきた。接遇では、挨拶や会話を心がけ、日常で起きる様々な出来事や問題に対応したが、利用者アンケートにおいては職員の接遇に対しての指摘が1件あった。
必要なマニュアルの調査結果をふまえ、マニュアルの整備、見直しを行い、全職員に研修、周知を図る。	達成	実務担当者会議において、サービスマニュアルの見直しを行い、その進捗状況を職員会議で逐一報告した。その他のマニュアルについても随時見直しを行い、職員に周知した。そのことで、職員のマニュアルに対する理解が深まった。また水害時の避難確保計画に沿って垂直避難の訓練を実施し、利用者と職員の防災意識が高まった。

< 仲本荘 >

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
機能低下予防に関する事業の実施（2回）	達成	6月のあんしん講座では近隣公民館と同様の内容で時期がかぶってしまい、出席者が9名にとどまった。講座内容は、シニアアドバイザーがわかりやすく解説したので、出席者アンケートの回答は満足度が高かった。12月の機能低下予防講座では24名募集を上回る申し込みがあり、急遽若干名定員追加したが、キャンセル3名にて、25名の出席であった。運動に対する関心度の高さがうかがえた。講座内容は普段の運動講座と違い、ボランティア講師がボールやチューブを使って実施した。仲本荘職員も来年度の計画に向けて、講座の進行や内容などとても参考となった。機能低下予防講座は、来年度に定期事業として位置づけ、毎月1回開催することとなった。
同一事業で、年2回以上アンケートを実施。 要望を取り入れた事業を実施する。 5年間の評価とまとめ	達成	今年度は健康相談の周知を図るべく、5/15～仲本荘のすべての事業において利用者アンケートを実施した。分析をした結果、健康相談は知っているが参加したことがない回答が多かった。そこでポスター掲示やたよりに大きく掲載し、役に立つ情報や健康相談ができる旨を広く周知を図った。2回目のアンケートでは包括支援センターで聞いた、仲本荘たよりを見て参加したとの回答が多かった。
研修の実施。 成果物の作成。 5年間の成果物の編集・修正と共有。	達成	リズム体操は椅子に座って行ったり、立位で行うなど利用者が安全にできるように実施している。一日を午前と午後に分けて多くの利用者が参加しやすいように配慮している。はじめにストレッチ、その後テンポのよい曲に合わせてエクササイズを行い、合間にお話タイムを設けて、利用者間のコミュニケーションを図っている。この事業で友人や知り合いができて、参加するのが楽しみなどの感想が得られている。今年度リズム体操で作成した成果物は完成しており、11/18の成果物研修にて共有できた。

3 実施報告

(1) 介護予防と健康づくりの促進

さいたま市の地域包括ケアシステムの一端を担うために、高齢者の介護予防、認知症予防について様々な事業を展開した。また、平均寿命や健康寿命を延伸するための無理なく楽しく続けられる内容として、既存の事業の中で手を使った脳トレ体操などを実施した。

① フレイル予防・介護予防の促進

ア 転倒予防教室、介護予防教室、いきいき百歳体操、すこやか運動教室や運動支援員による体操教室、健康講話「フレイル予防のための栄養講座」、ドレミの会等を実施した。

イ 認知症予防のため、eスポーツを実施した。

② 健康づくりの促進

ア 健康相談、健康講座、健康体操、いきいき体操、やさしい筋トレ体操や運動支援員によるふれあい運動教室を実施した。

イ 健康器具を設置し、健康づくりの促進に努めた。

ウ 軽スポーツ（卓球、輪投げ、ゲートボール、グラウンドゴルフ、バンパー、バグジー、ラダーゲッター、ダーツ等）の支援を行った。

③ 各種相談・啓発事業

ア 単なる情報提供にとどまらず、高齢者が自発的に健康維持に取り組む契機となるよう、健康講話事業を実施した。

イ 個人の健康と生活の質を向上させるだけでなく、地域における高齢者福祉向上のため健康相談、介護相談、生活相談、スマホ相談を実施した。

(2) 生きがいつくりの支援

利用者一人ひとりの多様な生き方、能力、価値観を尊重し、主体的に活動へ取り組めるように支援した。また、各種活動を通じての仲間づくりを支援し、地域の高齢者が孤独を感じないような居場所づくりに努めた。

① 教養の向上、趣味活動の支援

ア 文化教室、太極拳教室、折り紙教室、手づくり講座、ぬり絵タイム、映画会、ぬり絵作品展覧会、頭の体操クイズ（施設内をめぐって答えを探す）を実施した。

イ 生活講座及び防犯講座を実施した。

ウ スマートフォン教室、スマートフォン相談会を実施した。

② レクリエーション活動の支援

ア 納涼会、癒しの湯、演芸大会、誕生会、レクリエーション会を実施した。

イ 七夕飾り、敬老の日特別事業、ゆず湯、豆まき等、季節に沿った行事を実施した。

ウ eスポーツを実施した。

③ 地域活動・同好会活動の支援

ア 老人クラブの活動場所を提供した。

イ クラブ発表会や、グラウンドゴルフ大会など、日頃の成果を発表できる場を提供した。

施設名	回数	参加者数
槻寿苑グラウンド	365回	4,379名
櫛引ゲートボール場	175回	3,620名

④ 就労の支援

ア 職業訓練講座の情報提供を行った。

イ 槻寿苑ではシルバー人材センターの事業情報説明会や植木職員養成研修のために協力を行った。

(3) 支え合う活力あるまちづくりの推進

地域包括支援センターや地区社会福祉協議会、自治会組織をはじめ、消防署や消費生活センター等との連携を通じ、高齢者が住み慣れた地域で、健康で自立した生活を安心して送ることができるように取り組んだ。また、実習生の受け入れや未来くるワークへの協力、児童センターとの交流事業を通じ、相互理解と高齢者への敬愛の気持ちを育む環境を整えた。

① 地域住民・地域資源との連携

老人クラブへの支援をはじめ、ボランティア活動の推進、地域自治会や関係団体との連携を強化し、社会活動・地域活動の支援に取り組んだ。

ア 老人クラブ活動への支援を行った。

イ ボランティア活動への支援を行った。

ウ 地域自治会活動への参加・協力（クリーン活動、防災訓練等）、地区社会福祉協議会の事業に協力した。

エ 地域懇談会を開催し、情報交換や情報提供を通じて、直接施設に届きにくい利用者ニーズを把握し、サービス向上に努めた。また、施設案内や情報提供を行うとともに、地域情報収集を進め、連携を強化した。

オ 施設の日常清掃、園庭管理業務について、勤労意欲を持つ高齢者に就労の場を与える公益団体であるシルバー人材センターを活用した。

カ 高齢者の生活向上、障害者の就労支援、福祉施設間の連携強化のため障害者施設の授産製品販売への協力をした。

② 世代間交流の推進

地域の学校、放課後児童クラブ、児童センターと共に世代間交流としてeスポーツ等を実施した。また、中学生職場体験「未来（みら）くるワーク」、大学等の看護実習、学生ボランティアの受入れにより、世代間交流を促進した。

③ 安心・安全のための体制づくり

ア 希望する利用者に対して、健康相談及び介護相談、生活相談を実施した。

イ 消費生活講座を実施し、安心、安全に生活するための知識の普及、啓発活動を行った。

ウ 地域包括支援センターと連携を図り、地域支援会議へ参加した。

エ 各種関係機関とのネットワークづくりを図り、災害時に備え避難所運営委員会の開催及び避難所運営訓練を実施した。一部の施設では、「福祉避難所」の指定を受け、災害時における要配慮者の避難生活を支援するための協力体制を構築した。また、水害時の避難確保計画の改定を行った。

オ 緊急時に家族への連絡がとれる体制をつくるため、シルバーカード登録の推進をした。

カ 利用者の安全を守るため、行政機関が実施する交通安全アドバイス制度や徘徊見守りSOSネットワークへ協力をした。また、事故防止の意識を高めるため交通安全教室を実施した。

キ デジタル社会に適応し、生活の質を向上させるため、さいたま市や携帯電話事業者と連携しスマートフォン講座、スマートフォン相談会を開催した。

4 利用状況

施設名	開館日数	利 用 者 数						
		団体		個人		団体＋個人		健康相談
		人数	件数	人数	1日平均	人数計	1日平均	人数
和楽荘	294日	3,291名	509件	29,953名	101.9名	33,244名	113.1名	28名
いこい荘	294日	4,245名	398件	32,394名	110.2名	36,639名	124.6名	20名
寿楽荘	294日	21名	1件	24,755名	84.2名	24,776名	84.3名	87名
槻寿苑	294日	8,872名	969件	30,653名	104.3名	39,525名	134.4名	205名
あずま荘	294日	393名	44件	11,354名	38.6名	11,747名	39.9名	45名
しもか荘	294日	4,476名	237件	23,128名	78.7名	27,604名	93.9名	13名
馬宮荘	294日	263名	29件	27,507名	93.6名	27,770名	94.5名	3名
仲本荘	294日	1,497名	146件	6,012名	20.4名	7,509名	25.5名	183名
合 計	2,352日	23,061名	2,333件	185,756名	631.9名	208,814名	710.2名	584名
平 均	294日	2,882.6名	291.6件	23,219.5名	79.0名	26,101.8名	88.8名	73.0名

5 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

① 害虫駆除用品を設置し、年2回、業者による館内消毒を実施した。

② レジオネラ属菌対策として、浴槽、循環ろ過装置及び配管等の設備の清掃、消毒を実施した。水質検査を年1回行い、浴場の安全管理を日々実施した。

③ 利用者への手指消毒・咳エチケット励行を継続して行った。

④ 感染症全般に対して、感染症拡大防止対策を講じた。

ア 利用者に対して手指消毒実施の協力を依頼した。

イ 換気・設備消毒（随時・定時）を実施した。

ウ 掲示等により、感染症予防等の情報を提供した。

⑤ 事業団主催の感染症対策に関する研修を受講し、全職員に伝達研修を行った。

(2) 事故防止対策

① ヒヤリハットを作成し職員間で共有化した。

- ② 施設内及び施設周辺の破損や段差の有無等を確認するため、日常点検を実施した。
- ③ 利用者が使用する遊具等の定期点検を実施した。

(3) 防犯対策

- ① 不審者対策に関する研修を受講した。
- ② 定期的に施設内及び施設周辺の巡回を実施した。
- ③ 見学者に対しては、館内での名札着用の依頼又は職員が同伴して説明を行った。

(4) 個人情報管理

- ① 個人情報保護・情報セキュリティに関する研修を受講し、全職員に伝達研修を行った。
- ② 情報セキュリティに関するチェックリストを使用した自主点検を実施した。
- ③ 利用者台帳等、保有している個人情報管理を徹底した。

(5) 災害対策

- ① 避難訓練を年2回実施した。
- ② 「老人福祉センター危機管理マニュアル」の見直しを各施設で進めた。
- ③ 災害時備蓄品の整備・確認をした。
- ④ 感染症拡大時及び大規模災害発生時の事業継続・早期再開のため、BCP(事業継続計画)の見直しを行った。

(6) 施設維持管理

- ① 日常的・定期的に安全管理点検を実施し、破損等の予防、早期発見に努めた。
- ② 「年間維持管理計画表」を作成し、年間で予定した点検及び修繕項目の実施状況を記録する等、継続的な維持管理に努めた。
- ③ さいたま市の維持改修計画を踏まえ「施設・設備修繕計画」を作成し、施設・設備の適正な維持管理に努めた。

(7) 施設のあり方検討

あり方検討会を設置し、施設認知度の向上と新規利用者の獲得、経営の効率化に努めた。

6 サービス向上計画実施状況

(1) 利用者の意見を反映する取組

- ① 利用者から日頃の生活やサービスについて率直なご意見を伺い、現在の支援の良い点や改善すべき点を共有するため、利用者懇談会を開催した。
- ② 職員が気づきにくい細やかなニーズを発見する機会のため、外部の視点を持つ実習生やボランティアを積極的に受け入れた。
- ③ 情報交換、情報共有、直接施設に届きにくい利用者ニーズの把握をし、サービス向上を図るため、地域で開催される地域連絡協議会や地域支援会議等に参加した。
- ④ より利用しやすい施設づくりに努めるため、利用者アンケートや、気軽に意見・要望を出せる投書箱「みなさまの声」を活用すると共に、苦情解決体制により、利用者からの苦情・意見・要望を把握し、迅速・適切な対応に努めた。

(2) 地域、関係機関との連携

- ① 地域の中で、高齢者が安心した生活を送れるよう、地域包括支援センターとの連携を図り、健康相談や生活相談等の相談事業を実施した。
- ② 地域住民の方々との交流・連携・協働を図るため、地域を対象とした交流事業を実施した。
- ③ 幅広い地域の人材・社会資源の活用のため、地域の公民館などと連携を図った。

- ④ 施設案内や情報提供を行うとともに、地域の実情や課題を把握するための情報収集を進め、関係機関との連携を深めるために、地域懇談会を開催した。
- ⑤ 地域との交流を図るとともに施設の役割等を伝えるため、地域のクリーン活動や防災訓練へ参加した。また、地域の夏祭りにおいては、地域協力として施設トイレの提供を行った。
- ⑥ 高齢者福祉施設等在宅介護に関する情報提供を行った。
- ⑦ 実習の内容や介護サービスに関する情報提供等の充実を図った。

(3) 専門性の向上

下記表のとおり「老人福祉センターレベルアップ研修」を行った。研修後は、各施設において他の職員に対し、伝達講習として職場内研修を実施した。

また、「関係団体研修」の認知症サポーター養成講座、キャラバン・メイト養成研修は参加せず、応急手当講習は下記表のとおり参加した。

「老人福祉センターレベルアップ研修」

実施日	研修内容	研修参加者数
6月26日、7月3日	アンガーマネジメント研修	7名
9月12日	循環ろ過浴槽のレジオネラ対策	6名
11月19日	広報研修	3名
1月28日	リスクマネジメント研修	10名

「関係団体研修」

実施日	研修内容	研修参加者数
7月16日	応急手当講習	2名

7 年間行事報告

<和楽荘>

月	日	内 容	備 考
5	10、17、31	埼玉県立大学老年看護学実習Ⅰ受入れ	実習生 17名
6	7	埼玉県立大学老年看護学実習Ⅰ受入れ	実習生 5名
	25	手作り講座（七夕飾り作り）	参加者 4名
	6、13、20、27	ますます元気教室	参加者 24名
	14	第1回防災避難訓練	参加者 33名
	18	管理栄養士による栄養講座	参加者 26名
7	4、11	ますます元気教室	参加者 12名
	5、6	七夕まつり	参加者193名
	16	高校生による防犯ワークショップ	参加者 10名
	19	映画会	参加者 19名
	23、24、29、30	国際医療専門学校暮らしを知る実習受入れ	実習生 10名
8	16	映写会	参加者 19名
9	15	敬老の日事業	参加者 98名
	19	薬剤師による健康教室	参加者 28名
	27	映写会	参加者 20名
	30	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 2名
10	1、2	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 4名
	1、8、15、22、25	ますます元気教室	参加者 8名
	5	利用者懇談会	参加者 24名
	29	スマホ教室	参加者 10名
	21、22、23	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 6名
11	18、19、20	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 6名
	7	ますます元気教室	参加者 2名
	19	スマホ教室	参加者 10名
	15	映写会	参加者 19名
	30	手作り講座（クリスマスツリー作り）	参加者 5名

12	4	地域懇談会	参加者 8名
	10、11、12	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 6名
1	14、15、16	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 6名
	17	映写会	参加者 19名
	28	スマホ相談会	参加者 14名
2	3	節分豆まき	参加者 51名
	4	第2回防災避難訓練	参加者 26名
	15	手作り講座（ミニひな人形作り）	参加者 5名
	17	言語聴覚士による健康講座	参加者 28名
3	3	ひな壇飾り	参加者 66名
	15	映写会	参加者 20名
	17	みんなで歩こう	参加者 6名
定期行事等		朝の健康体操(毎日)、健康相談(月3回)、生活相談(随時)、カラオケ(毎日)、e スポーツ(月3回)	

<いこい荘>

月	日	内 容	備 考
5	10、31	いこいカフェ	参加者 75名
	10、17、31	埼玉県立大学老年看護学実習Ⅰ受入れ	実習生 18名
	17	アンブレラマーカ作り	参加者 12名
6	3～5	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 12名
	4、25、27	七夕飾り作り	参加者 8名
	5	いこいカフェ	参加者 30名
	7	埼玉県立大学老年看護学実習Ⅰ受入れ	実習生 6名
	7	ストラップ作り	参加者 18名
	24～26	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 12名
	26	いこいカフェ	参加者 36名
	28	災害備蓄品試食会・e スポーツ体験	参加者 14名
	28	健康講話「フレイル予防のための栄養講座」	参加者 22名
7	23、24、29、30	国際医療専門学校暮らしを知る実習受入れ	実習生 10名
	23	いこいカフェ	参加者 30名
	24、30	お楽しみ DAY（わなげとe スポーツ）	参加者 27名
	24、30	コースター作り	参加者 10名
	24、30	コースター作り	参加者 10名
8	20、21、22、23、24	金魚の飾り作り	参加者 32名
	29	映写会	参加者 6名
	30	いこいシネマ	参加者 15名
9	10	防火講話	参加者 12名
	10	避難訓練（机上訓練）	職 員 5名
	24、25、26	折り紙（ミャクミャク）	参加者 22名
	25	スマホ教室初級者編（スマホの基本とLINE）	参加者 9名
10	7、8、9、10	シールでデコレーション	参加者 32名
	16	団体利用者懇談会	参加者 11名
11	2	中央区区民まつり出展（わなげとe スポーツ）	参加者300名
	19、27	いこいカフェ	参加者 61名
	19、20、27、28	大宮医師会看護専門学校実習受入れ	実習生 10名
	20、21、28	携帯ビニール袋入れ作り	参加者 16名
	27	スマホ教室初級者編（スマホの基本とキャッシュレス体験）	参加者 14名
12	4	アウトリーチコンサート（箏と篠笛）	参加者 51名
	11	スマホ教室初級者編（スマホの基本と防災）	参加者 10名
	17	交通安全啓発事業	参加者 90名
	17、18	クリスマス飾り作り	参加者 11名
1	14～16	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 12名
	14	お楽しみ抽選会	参加者140名
	15	いこいカフェ	参加者 40名
	15、23	コースター作り	参加者 10名
2	5	スマホ教室中級者編（はじめてのAI）	参加者 15名
	6、12	ハートのいれもの作り	参加者 17名
3	6、12	ポケットティッシュ入れ作り	参加者 21名
	10	避難訓練	参加者 5名 職 員 4名
	10	健康講話「認知症のお話と予防法」	参加者 8名

定期行事等	いこい荘運動教室（年20回）、百歳体操（週1回）、健康クラブ（9月から月1回）、eスポーツ（月1回）、脳トレ（隔月）、ぬり絵（隔月）、カラオケ（随時）、健康相談（月2回）、紙芝居（月1回）、かやの木販売会（月1回）、スマホ相談コーナー（2月から月1回）
-------	--

<寿楽荘>

月	日	内 容	備 考
5	10、17、31	埼玉県立大学老年看護学実習Ⅰ受入れ	実習生 18名
6	7	埼玉県立大学老年看護学実習Ⅰ受入れ	実習生 6名
	24	避難訓練	参加者 13名
7	3～7	七夕	参加者 67名
9	9	防火講話	参加者 12名
	26	季節湯（生姜湯）	参加者 45名
	30	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 2名
10	1～2、21～23	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 13名
11	8	児童センター交流事業	参加者 児8名 高8名
	20	スマートフォン教室	参加者 11名
	18～20	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 6名
12	10～12	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 6名
	11	地域懇談会	参加者 10名
	17	利用者懇談会	参加者 5名
	21	季節湯（ゆず湯）	参加者 71名
1	4	新春みくじ	参加者 75名
2	3	節分	参加者 89名
	5	ヤクルトおなか元気教室	参加者 15名
	3～5	未来くるワーク	中学生 6名
3	5	防犯教室	参加者 22名
	12	避難訓練（地震体験車）	参加者 18名
定期行事等		おめざ体操（年284回）、頭の体操（年30回）、健康相談（年36回）、ゲームの日（年12回）、eスポーツ（年12回）、やさしい筋トレ体操（年12回）、寿楽荘サロン（年3回）、介護予防運動（年6回）	

<槻寿苑>

月	日	内 容	備 考
4	19	親睦グラウンドゴルフ大会	参加者 75名 ボランティア 2名
5	10、17、31	埼玉県立大学老年看護学実習Ⅰ受入れ	実習生 18名
	15	利用者懇談会	参加者 36名
6	3～5	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 6名
	7	埼玉県立大学老年看護学実習Ⅰ受入れ	実習生 6名
	11～13	演芸大会	参加者227名 出演者 85名
7	3～8	七夕飾り	館内装飾のみ実施
	15	消防避難訓練	清掃員 3名 職員 7名
	26	避難所運営委員会	参加者 2名
8	6、7	地域交流盆踊り大会	参加者115名 障害施設14名
	20	スマホ相談会	参加者 13名
9	10～12、15	うた自慢大会（予選・決勝戦）	参加者259名 出演者 62名
	10～12	未来くるワーク体験	中学生 3名
	17	防火講話	参加者 23名 消防職員1名
10	19	岩槻区民まつり参加	職員 3名
	21～23	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 9名
11	8	バス旅行	参加者31名 職員 3名 運転士 1名 保安員1名
	18～20	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 8名
12	10～12	クラブ発表会	参加者164名 出演者297名（24団体）
	10～12	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 9名
	16～24	ゆず湯	参加者756名

1	16	シルバー人材センター説明会	参加者 20名
2	5、6、12、13	目白大学地域・在宅看護学実習Ⅰ受入れ	実習生 12名
	6	交通安全講話	参加者 40名
	12	消防避難訓練	参加者 40名 職員 5名 消防職員 5名 ボイラー技士 1名 防災設備業者 1名
	20	スマホ教室	参加者 26名
定期行事等		健康相談（月4回）、転倒予防教室（月2回）、卓球（月1回）、eスポーツ（月1回） レク・ストレッチ体操（月1回）、健康体操（毎日）、カラオケ（毎日）	

<あずま荘>

月	日	内 容	備 考
5	1	菖蒲湯	参加者 38名
6	19	避難訓練	参加者 3名 職員 3名
	24	手作りひろば	参加者 4名
	3～5、24～26	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 6名
	1	手作りひろば	参加者 3名
7	1～7	七夕週間	参加者 17名
	23、29	さいたま市社協夏の体験ボランティア受入れ	ボランティア 4名
	5	さいたま市社協夏の体験ボランティア受入れ	ボランティア 2名
8	27	健康講話	参加者 6名
	15	敬老の日事業	参加者 33名
	18	演芸大会	参加者 18名
9	30～10/2	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 2名
	21～23	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 2名
	22	講話事業（食育講座）	参加者 16名
10	23	手作り教室	参加者 5名
	9	地域団体連携事業（防災講話）	参加者 16名
	13	避難訓練	参加者 10名 職員 5名
11	19～20	大宮医師会看護専門学校実習受入れ	実習生 3名
	10～12	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 2名
	21	ゆず湯	参加者 46名
12	24	手作りひろば	参加者 3名
	14～16	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 2名
	27	交通安全教室	参加者 11名
1	3	豆まき	参加者 14名
	12	地域懇談会	参加者 8名
	15	レクリエーション大会	参加者 14名
2	4	演芸大会	参加者 26名
	12	利用者懇談会	参加者 5名
	24	手作り広場	参加者 9名
定期行事等		朝の健康体操（毎日）、レクリエーション会（わなげ、ダーツ、ラダーゲッター、各年4回）、 楽しく卓球（毎週金曜日）、いきいき体操（月1回）、ふれあい運動教室（月1回）、白菊苑 との共催事業（年1回）、eスポーツ（月2回）、カラオケ（毎日）、誕生会（年6回）、みん なで歌おう（年3回）、健康相談（月3回）、いこいの場（随時）、サロン（毎週水曜日）、 気軽にピンポン（月2回）、スマホ相談（60件）	

<しもか荘>

月	日	内 容	備 考
4	17	輪投げ大会	参加者 13名
5	2	菖蒲湯	参加者 70名
	10、17、31	埼玉県立大学老年看護学実習Ⅰ受入れ	実習生 12名
	3～5、24～26	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 21名
6	7	埼玉県立大学老年看護学実習Ⅰ受入れ	実習生 4名
	17、18	未来くるワーク（日進中学校）	中学生 6名
	18	健康講話（ゆめの園）	参加者 20名
	27	花植え会（日進西保育園25名）	参加者 29名
7	8～10	未来くるワーク（大成中学校）	中学生 6名
	5～13	七夕飾り作り	のべ参加者 60名
	27	七夕演芸大会	参加者 91名

8	7	夏のボランティア体験	学生 4名
9	18	消防講話	参加者 12名
	24	健康講話（ゆめの園）	参加者 20名
10	21～23	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	参加者 12名
	30	スマホ相談会	参加者 9名
11	11	町探検（日進小学校）	小学生 30名
	19、20	大宮医師会看護専門学校看護実習受入れ	実習生 8名
12	11	しもか荘フェスタ（日進コミュニティセンター）	参加者 35名
	21	ゆず湯	参加者 80名
	21	年忘れ演芸大会	参加者 110名
2	3	節分	参加者 45名
3	5	利用者懇談会	参加者 3名
	6	団体利用グループ懇談会	参加者 4名（4団体）
	12	輪投げ大会	参加者 10名
	18	避難訓練	参加者 8名
	26	健康講話（ゆめの園）	参加者 4名
定期行事等		健康体操（毎日）、健康相談（月3回）、体操教室（月1回）、脳トレ（月1回）、手芸教室（年5回）、折り紙教室（年5回）、eスポーツ（月1回）、しもか木曜ロードショー（月1回）、百歳体操（月1回）	

＜馬宮荘＞

月	日	内 容	備 考
4	12	演芸大会運営委員会	参加者 3名
5	10、17	埼玉県立大学老年看護学実習Ⅰ受入れ	実習生 8名
6	7、14	埼玉県立大学老年看護学実習Ⅰ受入れ	実習生 4名
	3～5	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 9名
	1、21	演芸大会運営委員会	参加者 6名
	1	夏の演芸大会抽選会	参加者 33名
	15	夏の演芸大会	参加者 85名
7	1～6	七夕飾り	鑑賞者612名
	23、30	世代間交流 e スポーツ	参加者 26名 児童 16名
8	6、13、20	世代間交流 e スポーツ	参加者 41名 児童 27名
	1、8	世代間交流（アジサイの折り紙）	参加者 1名
9	20	演芸大会運営委員会	参加者 5名
	30	消防訓練（馬宮コミセン全体）	職員 2名
	30～10/2	人間総合科学大学老年看護実習Ⅱ受入れ	実習生 6名
10	16	交通安全教室	参加者 10名
	17	地域懇談会	参加者 9名
	23	スマートフォン教室	参加者 15名 （午前・午後の2回）
11	2	コミセンまつり馬宮荘演芸の部抽選会	参加者 33名
	2、22	演芸大会運営委員会	参加者 10名
	18～20	人間総合科学大学看護実習Ⅱ受入れ	参加者 6名
	16	コミセンまつり馬宮荘演芸の部	参加者 91名
12	10～12	人間総合科学大学看護実習Ⅱ受入れ	参加者 9名
	17	世代間交流ドレミの会	参加者 25名 児童 9名
	21	アフタヌーンコンサート	参加者 23名
	25、26	世代間交流 e スポーツ	参加者 27名 児童 16名
1	7、8	世代間交流 e スポーツ	参加者 20名 児童 11名
	20、21	未来くるワーク	中学生 6名
2	3	豆まき	参加者 40名
	14～18	合同作品展	参加者 12名
	15	アフタヌーンコンサート	参加者 27名
	19	利用者懇談会	参加者 17名
3	10	防災訓練（馬宮コミセン全体）	職員 2名

定期行事等	健康相談（月3回）、e スポーツ（月2回）、のど自慢の日（月1回）、お茶の日（月1回）、ドレミの会（月2回）、体重・体脂肪測定（月1回）、映画会（年5回）、手作りサロン（月1回）、アロマセラピー（月1回）、卓球（年233回）、ラジオ体操（毎日）、いきいき体操教室（月1回）、いきいき百歳体操教室（月1回）、カラオケ（水曜日を除く毎日）、健康講座（年4回）、エンジョイぬりえタイム（随時）
-------	---

<仲本荘>

月	日	内 容	備 考
6	5	地区社協出前講座	参加者 38名
	7	仲本児童センター交流おとなゲーム	参加者 10名
	10	東仲町保育園との交流おりがみ	参加者 9名
	18	あんしん講座	参加者 9名
7	12	仲本児童センター交流ディスコン	参加者 9名
	29	高校生の防犯ワークショップ	参加者 7名
8	23	尾間木児童センター交流e スポーツ	参加者 6名
	7/23～8/25	仲本児童センター・仲本荘合同ぬり絵展示会	参加者 12名
9	6	仲本児童センター交流e スポーツ	参加者 12名
	9	仲本荘・仲本児童センター合同消防避難訓練・防火講話	参加者 6名
	10	東仲町保育園との交流おりがみ	参加者 8名
	18	スマホ教室（初級編）	参加者 8名
10	3	東仲町保育園との交流おりがみ	参加者 8名
	6	地域懇談会	参加者 12名
	9	ボランティアプロジェクト	参加者 4名
	16	スマホ講座（初級編）	参加者 9名
	31	ボランティアプロジェクト	参加者 16名
11	7	ボランティアプロジェクト	参加者 11名
	14	東仲町保育園との交流おりがみ	参加者 10名
	15	ボランティアプロジェクト	参加者 8名
	19	民話の語り	参加者 13名
12	5	機能低下予防講座	参加者 24名
	6	ボランティアプロジェクト	参加者 11名
	9	東仲町保育園との交流おりがみ	参加者 8名
	18	スマホ講座（初級編）	参加者 9名
	20	ボランティアプロジェクト	参加者 11名
	24	スマホ講座（中級編）	参加者 7名
1	14	ボランティアプロジェクト	参加者 5名
	22	スマホ講座（初級編）	参加者 8名
	25	ボランティアプロジェクト	参加者 10名
2	21	仲本児童センター交流e スポーツ	参加者 8名
	26	利用者懇談会	参加者 団体8名 一般12名
3	11	仲本荘・仲本児童センター合同消防避難訓練	参加者 14名
定期行事等		元気アップ体力測定・健康相談（1回）、生活相談（1回）、介護者サロン（月1回）、岸町公民館元気アップ体力測定・健康相談（月1回）、健康体操（月2回）、わくわく体操（月2回）、手づくり講座（月2回）、おりがみ講座（月2回）、ぬり絵サロン（月1回）、うたごえ広場（月2回）、リズム体操（座・立）（各月2回）、ディスコンゲーム（月1回）、映写会（月2回）、ヨガ（月1回）、おとなゲーム（月2回）、チャレンジe スポーツ（月1回）、e スポーツサロン（月1回）、卓球の日（月1～2回）、将棋（月6回）、囲碁（月6回）	

【4】老人憩いの家(シニア憩いの家)事業報告書

1 指定管理（令和6年度～令和10年度）

- | | | |
|--------------|----------------|----------------|
| (1) 三橋老人憩いの家 | (2) 三橋老人憩いの家分館 | (3) 天沼老人憩いの家 |
| (4) 宮原老人憩いの家 | (5) 植水老人憩いの家 | (6) 本郷老人憩いの家 |
| (7) 片柳老人憩いの家 | (8) 春野老人憩いの家 | (9) 与野本町老人憩いの家 |

2 今年度の施設取組計画

＜三橋老人憩いの家・分館＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
個人利用者に向け、新規定例事業を1つ立ち上げる 個人利用を継続する	達成	地域の中で誰もが安心して過ごせるよう地域包括支援センターとの連携を強化し、地域包括支援センター主催の集いの場を設けたことにより、個人利用者に情報交換や相談のできる場を提供することができた。 居場所のアピールとして、広報活動の強化に取組み、憩いの家のたよりやパンフレットの見直しを行った。個人利用者獲得のため、利用者に事業のチラシを配布して参加を促し、定例・特別事業の参加意欲を高めることができた。
ネットワーク強化後の活動を含め、パンフレットのリニューアルをし、地域全体に配布する	達成	地域に根差した施設となるために、まだ施設を知らない方へ届くよう地域の掲示板を通しての広報活動を行った。更に最新の情報が分かりやすくなるよう、パンフレットの見直しも行った。外部からの講師を招いた事業「防犯教室」「運動教室」や、併設の「三橋児童センター」「三橋放課後児童クラブ」と合同の「通報訓練」も行い地域の消防署職員からの指導を受けながら利用者の方に水消火器を使つての消火にも参加していただいた。このように、地域とのネットワークも継続し続けることができた。今年度は新たに施設長が大宮区主催の「地域意見交換会」にも出席した。更に地域の民生委員の方に行事への協力を要請し、地域のネットワークの更なる強化に努めた。
レクタイムを実施する 新規事業を年2回実施する	上回って 達成	令和5年に「レクタイム」から「いきいきタイム」に名称を変更した。誰でも気軽に参加できるため、個人の利用者も増え「いきいきタイム」の利用者を中心に幅広い世代と触れ合いながら世代間交流の活動を実施することができた。

＜天沼老人憩いの家＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
交流事業を実施し(1回)、新たな連携を構築する	上回って 達成	世代間交流を企画し事前準備等を担当していただいたことで、シニア間の交流も生まれ新しい仲間づくりにつながった。幼児・小学生と交流するなかで、積極的な声かけやいきいきとした笑顔が増えたと感じられた。次回は何を行うのか楽しみにしてくださるようになっており、やりがいにつながったと考える。
新しい共催事業を実施する。 (1回)	上回って 達成	内容決定前から、地域包括支援センター白菊苑様との共催事業にてどのような案があがっているかをお伝えしたところ、特に関心や反応があったのが歯に関する講話であった。早めに参加予約をされる方も多く利用者ニーズにあったものと感じた。講話前には大宮歯科衛生士専門学校の生徒による口腔機能向上のための体操があり、講話後は質問の時間や個別対応をしていただけたため理解を深められている様子だった。終了後のアンケートを今後準備し、ニーズ把握に努めたい。
新しい事業を実施する (1回以上)	上回って 達成	利用者ニーズに合わせた事業を、地域包括支援センター白菊苑と実施することができた。ラジオ体操は利用者のニーズが最も高く、毎日約20～30名の高齢者が参加している。日程調整の都合上、急遽、ラジオ体操講座を行うこととなったが満足度の高いものとなった。次の日から、講座での学びを意識されて体操していたことも取組の効果である。ラジオ体操の他にも、共催事業ではないが、ポンポンを使用した体操、歌声ひろばを取り入れたことで新規利用者獲得に繋がった。

＜宮原老人憩いの家＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
自治会との連携事業を1回実施。	上回って達成	民生委員との連携として自治会のシニアサロンに講師として参加することによって、憩いの家を利用したことがない地域の高齢者とコミュニケーションをとることができた。また、シニア憩いの家を広報し多くの方に知ってもらえる機会となった。
皆様の活動を映像にまとめて観る。	上回って達成	演芸大会で各団体の活動写真、映像を見ていただくことで、地域の高齢者が新たな活動団体を知ることができ活動の幅を広げる一助となった。団体の紹介に意欲的に取り組んでいる姿が見られるなど、生きがづくりにつながった。
まとめたものを発表して理解を深める。	上回って達成	近隣の高齢者の施設を訪問して役割を学び、職場内研修を行ったことで、今年度異動してきた職員も地域の関連施設について理解を深めることができ、自施設で生かせることの検討ができた。

＜植水老人憩いの家＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
地域の健康増進事業へのアウトリーチ実施。(2回以上)	達成	令和7年度の施設目標について、公民館や地区社協などの関係機関との連携を図りながら、地域の健康増進事業へ職員を派遣することができた。目標とした2回以上についても達成できた。
利用者と連携した異世代交流の取組を実施。(1回以上)	達成	夏休みに児童と高齢者の交流事業を3日実施。(将棋・囲碁・手話ダンス)交流事業実施後も、児童と高齢者の交流がみられ、手話ダンスはみのりフェスの舞台発表へと繋がられた。
利用者のニーズに沿った新規取組の立案。(1つ以上)	達成	利用者にアンケートを実施したことで、介護や自身の身体面への不安があることを具体的に知ることができた。利用者に対して、今はまだ「必要ない」と思っている、いざという時に相談できる窓口として地域包括支援センター(シニアサポートセンター)を認識して頂く機会となった。また、「みのりフェス」でソーラン節を発表できたことは、利用者にとって普段は得ることのできない刺激となり、そこに至る過程で、振り付けを考案したり、衣装を着たりする経験を通し、利用者が向上心や達成感を得る貴重な時間となったと考えている。

＜本郷老人憩いの家＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
ニーズ調査2回実施と調査内容及び事業の見直し。	上回って達成	今年度は定期的利用者アンケートの他に2回のアンケートを実施した。結果内容(工作の感想等)を講師とも共有し今後の事業実施に反映させられるものとなった。利用者との日常的な会話を大切にしてニーズを聞き取ることも行った。世代交流体操は実施時間を見直して三世代で楽しめるサンバやゲーム、小学生の発表(運動会ダンス)の鑑賞等、双方向で楽しめる内容にできたのも好評を得ることができた。これらニーズ調査により継続した利用者の獲得、充実した事業内容を実施することができた。
交流の場、高齢者主体の事業実施。(年1回)	上回って達成	希望したが難しそうと懸念する声もあった工作だが講師役の高齢者からマンツーマンで指導いただいた結果、喜びの声に変わった。お正月遊びではこどもにコマ、けん玉の指導による伝承遊びをとおして世代交流を深められた。ニーズの高い革細工は事業団職員OBによる丁寧な指導で材料の基礎知識から学べたこともあり利用者にとって満足度の高い仕上がりとなった。アンケート結果も作品づくりの喜びにあふれた内容だった。
内部研修の実施(1回)	達成	修正した事務マニュアルに基づいた手続きを施行したうえで利用者懇談会にて修正箇所を説明しご理解板いた。それによりマニュアルに沿った中立公平な手続き申請を進めることができた。団体の入れ替わりもあり必要に応じて個別対応を行った。併せてサービスマニュアルの読み合せを行ったことにより高齢者への支援方法について理解を深めることができた。より利用者の立場に寄り添った支援と事業展開につなげていきたいところである。

＜片柳老人憩いの家＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
介護予防と健康増進を楽しめる事業の実施。	上回って達成	職員の実施する事業及び、地域包括支援センターや見沼区高齢介護課と連携し、地域高齢者の介護予防と健康増進に繋がる講話や体操、レクリエーションを行うことができた。「楽しいからまた来たい」という声をたくさんいただき、新たな参加者も増えている。
地域関係機関との連携事業の実施。児童センターとの交流事業の実施。	達成	地域包括支援センターと連携事業について打ち合わせを行い、事業を2回行うことができた。児童センターとの交流事業は、ふれあい花壇を2回実施した。花の成長ぶりを気にする声なども高齢者からきかれ、利用者の心に残る事業となっている。
地域の高齢者の居場所となる事業を実施する。	達成	利用者アンケートにて、簡単な工作の希望があったので事業を実施した。普段の憩いの家の利用について問い合わせもあり、利用数は少ないが、個人での利用していく方もいた。

＜春野老人憩いの家＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
利用方法についてニーズに応じた工夫をしていく。	達成	職員体制が大きく変わったので、職員間で申請期間や許可書の配布期間などの利用方法について確認を行い、憩いの家を利用する人に同じ説明ができるようにした。見やすいパンフレットを目指し、紙や文字の大きさを工夫することはできた。そのパンフレットを見ながらより丁寧な説明をおこなった。玄関に行事・団体利用カレンダーを掲示することで、より利用日を確認しやすいようにした。ニーズに答えたことで利用者の獲得につながった。
地域包括支援センターと連携をす と共に新しい社会資源との連携を る。	達成	令和7年度に新規事業として、eスポーツ事業を地域住民や地域包括支援センターに広報を行い2回実施して7名の参加があった。eスポーツをとおして憩いの家を知っていただく機会になった。また、参加者同志の交流の場にもなった。憩いの家の行事の参加者の中に、春岡地区民生委員の人がおり、春岡地区民生委員7名の見学日の打ち合わせができた。新しい社会資源との連携を探ることはできた。
地域や利用者のニーズの把握に 努め、地域の行事に参加する。	達成	利用者アンケートや日常会話、利用者懇談会を通して利用者のニーズの把握に努めた。地域の行事や会議に参加し、地域とのつながりを深めることができた。地域でかかえる問題も地域住民と情報共有をすることができた。

＜与野本町老人憩いの家＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
介護予防と健康づくりに関する事業の実施(年1回)	達成	保健師による健康講話を実施し、フレイルや栄養の話をしていただいた。実際にストレッチをしながら行うことで、他団体、利用者同士の交流にもなり、好評であった。
児童との交流事業の実施(年2回)	上回って達成	花植えイベントとこどもシニア交流イベントを実施した。こどもシニア交流イベントでは、ボランティア団体の方による、紙芝居の読み聞かせとかるたを行った。シニアの方に、読み手をしていただくことで、こどもたちとの交流が図られた。また、別のボランティア団体の方による、絵本の読み聞かせと折り紙工作を行った。一緒に折り紙を折り、魚釣りを楽しみながら、交流を図ることができた。また、幼児の夏・冬のお楽しみ会に大型絵本等の読み聞かせを実施した。
外部研修(年1回) 内部研修(年2回)	達成	認知症サポーター研修を受講し、その内部研修を実施することにより、職員全員で共有することができた。また利用団体の健康体操に参加し、その内部研修を行うことで、活動内容や利用者について理解を深めることができた。また館内のeスポーツ事業実施前に、内部研修として、いこい荘のeスポーツ事業に参加した。

3 実施報告

(1) 介護予防と健康づくりの促進

- ① 高齢者が楽しみながら体を動かしたり、健康づくりに関する意欲を高められるよう「健康体操」などの場を提供した。また、介護予防の視点による適切な運動指導やeスポーツ、レクリエーション活動の場の提供を行った。
- ② 高齢者が抱える「悩み」や「困りごと」に対する健康相談や介護・介護保険に関する講座、認知症に関する講話を実施した。

(2) 生きがいづくりの支援

- ① 高齢者が趣味を深められるよう、手芸・工作教室、囲碁・将棋教室等の教養講座、カラオケサロン等を開催した。
- ② 高齢者が諸活動への参加をとおして円滑に仲間づくりができるよう、場の設定及び活動の支援を行った。

(3) 支え合う活力あるまちづくりの推進

- ① 利用しやすく居心地の良い憩いの家を目指し利用者懇談会を実施した。また、併設している児童センターと異世代交流を図ることで、地域での支え合いのシステムを支援した。
- ② さいたま市担当課、警察署、消防署、地域包括支援センター等の地域の関係機関との連携、共催により、高齢者が安全・安心な生活ができるよう防災防火講話、防犯講座等を開催した。

(4) 児童とのふれあいの場、高齢者が活躍できる場の提供

- ① 児童センター併設という特性を生かし、児童、保護者等世代を超えた交流の場を設定し、相互理解を深めていけるよう支援した。
- ② 児童センター、憩いの家共催事業として囲碁、将棋、eスポーツ、手話ダンス等様々な活動や日常の関わりやふれあいを通して、高齢者が活躍できる場の設定および活動の支援を行った。

4 利用状況

施設名	開館日数	利用者数			
		団体		個人	計
		人数	件数		
三橋老人憩いの家	345	964	136	213	1,177
三橋老人憩いの家分館	344	4,521	641	3,178	7,699
天沼老人憩いの家	345	7,350	362	1,139	8,489
宮原老人憩いの家	345	706	80	597	1,303
植水老人憩いの家	345	866	158	316	1,182
本郷老人憩いの家	345	1,162	249	546	1,708
片柳老人憩いの家	342	2,499	358	2,555	5,054
春野老人憩いの家	345	2,654	467	490	3,144
与野本町老人憩いの家	345	2,685	169	204	2,889
合 計	3,101	23,407	2,620	9,238	32,645

5 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

- ① 日常的な清掃及び施設内外の環境整備を徹底した。
- ② 館内にポスターを掲示し感染症に対する注意喚起を行った。

(2) 事故防止対策

- ① ヒヤリハット(事件・事故)報告書を作成し、統計を取るとともに、職員間で共有し対策を

講じることで同様の事故の未然防止に努めた。

- ② 軽微なけがや体調不良、物損事故など、業務中に発生もしくは確認されたことを業務日誌等に記録し、検証を行った。
- ③ 事故発生時に備え「危機管理マニュアル」に基づき、迅速な対応を徹底するとともに緊急連絡先の確実な登録に留意した。また、今年度は大きなケガや事故は無く、安全にご利用いただくことができた。

(3) 防犯対策

- ① 不特定多数の方が利用する施設であることから、不審者が侵入しやすい状況でもあるため、不審な来館者には職員から声掛けを行い、明確な来館目的等がなければ利用できないことを伝える体制を整えることで、防犯に努めた。
- ② 「危機管理マニュアル」に基づき、警察署の指導による不審者侵入を想定した対応訓練を行い、非常時に備えた。

(4) 個人情報管理

- ① 「個人情報保護法」及び「個人情報保護条例」を遵守し、法人が定める「個人情報に関する基本方針」に基づいて適切に対応した。
- ② 「個人情報保護規程」を施設の目につきやすい場所に掲示し、仕組みや考え方を利用者に周知した。
- ③ 職員は業務上知り得た「個人情報」「さいたま市、関係団体及び契約先に関する秘密情報」「当法人経営上の秘密情報」等を在職中はもとより、退職後も第三者に故意または過失により開示、提供若しくは漏洩し、又は自ら使用することのないよう新規採用の職員に対して「誓約書」の提出を求めた。
- ④ 職員に対する個人情報保護・情報セキュリティ対策に関する教育を行うとともに、情報セキュリティポリシーに基づく情報管理の徹底を行った。

(5) 災害対策

- ① 法人の「危機管理計画」に基づき、火災対策や地震、豪雨、大雪といった天災対策の基本として定められた「災害対策計画」及び「危機管理マニュアル」、各施設で作成した「災害対応 BCP」のもと、あらゆる災害が発生する可能性を想定し、防災知識の普及、啓発、防災備品の整備等、被害の発生の予防、軽減や二次災害の防止となる取組を行った。
- ② 「さいたま市地域防災計画」に位置付けられた洪水浸水想定区域内の施設（植水、春野）においては、「避難確保計画」に基づき防災教育及び避難訓練を行った。
- ③ 災害が起きた場合に備え、利用者等の生命及び身体を守り、被害を最小限にとどめ、迅速な応急復旧対策を行えるよう、災害対応 BCP を活用した避難訓練や研修などを行い職員間での共通認識を高めた。

(6) 施設維持管理

- ① 利用者に安全で快適な環境を提供するため、「サービス(業務)マニュアル」に基づいた自主点検、定期点検、法定点検等のほか、環境整備、備品・遊具等の保守点検を実施し、安定的な施設管理に努めた。
- ② 施設・設備の適正な管理と計画的な修繕のために、「施設・設備修繕計画書」を作成し、計画的に修繕、備品交換を行った。
- ③ 備品の管理にあたっては「備品台帳」を作成し適切に管理した。なお、新たな事業や計画的な備品整備のための「備品等整備計画書」を作成した。

(7) 施設のあり方検討

あり方検討会において検討を進め、施設認知度の向上と新規利用者の獲得、経営の効率化に努めた。

6 サービス向上計画実施状況

(1) 利用者の意見を反映させる取組

- ① 利用者意識の傾向を探り、意見や要望を事業に反映できるよう、利用者アンケートを年1回、全施設で一斉に実施し、意見や要望に対して回答を作成した。
- ② 行事参加者へのアンケートを実施し、新たなニーズの発見、新規事業や利用者サービスの向上と利用者拡大につなげた。
- ③ 苦情、要望を常設してある「みなさまの声」で聴取し、迅速な対応に努めた。
- ④ 高齢者が見やすい広報誌づくりや、地域掲示板への掲示、ホームページや憩いの家合同のX（エックス）を活用し情報発信に努めた。

(2) 地域関係機関との関係

- ① 地域自治会、民生委員、老人クラブ等から意見や要望を聞き、事業への反映に努めた。
- ② ボランティアや実習生から、活動を通しての意見や要望を聞き、今後の事業に生かすよう努めた。乳幼児親子との交流、未来くるワークなど様々な年代と交流を行った。
- ③ 老人福祉センターと日常的な情報交換等、連携を図ることにより、高齢者向け事業の更なる充実を図った。

(3) 専門性の向上

- ① 事業団主催研修、外部派遣研修に参加し、職場内研修を実施した。
- ② 老人憩いの家サービス(業務)マニュアル、老人憩いの家危機管理マニュアルを職員で共有するとともに、運営に活用した。

(4) 施設間の連携

8館の館長が集まり情報共有会議を開催し、情報や課題の共有を行なった。

7 年間行事報告

<三橋老人憩いの家・分館>

月	日	行事名	備 考
5	29	利用団体代表者会議	参加者 15 名
6	5	運動支援員による運動教室	参加者 11 名
8	5	世代間交流 地域交流会（昔あそび）	参加者 4 名 小学生 38 名 その他 7 名
	6	夏休み世代間交流事業「囲碁教室」	参加者 6 名 小学生 4 名
9	5	介護予防講話（地域包括支援センター）	参加者 5 名
	26	乳幼児・シニア合同運動会	参加者 10 名 幼児 16 名 保護者 13 名
10	17	スマホ相談会	参加者 9 名
		救急法講座	中止
	19	制作タイム	参加者 5 名
11	21	スマホ教室	参加者 3 名
12	5	防犯教室	参加者 15 名
	21	制作タイム	参加者 5 名
	26	世代間交流（e スポーツ）	参加者 5 名 小学生 8 名
2	5	運動支援員による運動教室	参加者 8 名
	13	スマホ教室	参加者 10 名
定期	いきいきタイム、避難訓練、オレンジカフェ、介護者座談会		

<天沼老人憩いの家>

月	日	行事名	備 考
5	29	利用者懇談会	参加者 7 名
6	21	工作ランド「あじさいキーホルダー」	参加者 2 名 小学生 3 名 保護者 1 名
7	2	交流ふれあい花だん	参加者 0 名 幼児 1 名 中学生 3 名 保護者 1 名
10	22	地域包括支援センター共催事業（ラジオ体操講座）	参加者 10 名
	29	ハロウィンパーティー（乳幼児親子交流）	参加者 7 名 幼児 29 名 保護者 29 名
11	11	交流運動会（乳幼児親子）	参加者 7 名 幼児 18 名 中学生 3 名 保護者 19 名
	14	交流ふれあい花だん	参加者 0 名 幼児 2 名 小学生 2 名 保護者 3 名
	19	地域包括支援センター共催事業（歯みがき・口腔ケア）	参加者 7 名
	22	交流ふれあい花だん	参加者 0 名 小学生 2 名
	28	交流ふれあい花だん	参加者 0 名 小学生 2 名
12	17	e スポーツ	参加者 10 名
	23	大宮高校ギター部演奏会（センター交流）	参加者 3 名 幼児 1 名 小学生 38 名 高校生 24 名 保護者 2 名
3	6	交流おみせやさんごっこ（乳幼児親子交流）	参加者 8 名 幼児 18 名 保護者 16 名
	14	工作ランド「花束を飾ろう」	参加者 4 名 幼児 2 名 小学生 2 名 保護者 2 名
	18	e スポーツ	参加者 8 名
定期	避難訓練、囲碁将棋の日、いきいきサークル、歌声ひろば（10 月から）		

<宮原老人憩いの家>

月	日	行事名	備 考
5	25	児セ合同リニューアルパーティー	参加者 9 名 幼児 10 名 小学生 43 名 中学生 2 名 保護者 22 名
6	23	天神自治会館シニアサロン（自治会講師派遣）	参加者 14 名
7	14	天神自治会館シニアサロン（自治会講師派遣）	参加者 30 名
10	28	特殊詐欺防止講話	参加者 11 名
11	4	利用者懇談会	参加者 12 名
	7	スマートフォン講座	参加者 6 名
		児童との交流事業	中止
	11	いきいきウォーキング	参加者 4 名
2	18、25	e スポーツ体験会	参加者 8 名
	3	介護予防講座	参加者 24 名
3	6	スマホ教室	参加者 1 名
	3	演芸大会	参加者 46 名 幼児 3 名 保護者 3 名
定期	ゆうゆうサークル、シルバーサークル、カラオケひろば（中止）、避難訓練、運動支援員による運動教室、e スポーツ（11 月から）		

<植水老人憩いの家>

月	日	行事名	備 考
5	29	利用者懇談会	参加者 6 名
7	29	夏休み交流事業「将棋」	参加者 3 名 小学生 4 名 中学生 1 名
	30	夏休み交流事業「囲碁」	参加者 3 名 小学 2 名 中学生 3 名
	31	夏休み交流事業「手話ダンス」	参加者 5 名 小学生 2 名

10	12	みのりフェス	参加者 9 名 小学生 8 名 保護者 12 名
11	1	植水交流まつり/あそびの教室（植水地区社協共催）	参加者 5 名 幼児 7 名 小学生 26 名 高校生 1 名 保護者 7 名
	13	スマホ教室	参加者 8 名
定期	健康体操、避難訓練、シルバー e スポーツ (12 月から)、高齢者向けサロン		

＜本郷老人憩いの家＞

月	日	行事名	備 考
5	22	利用者懇談会	参加者 6 名
	24	環境ボランティア活動	参加者 5 名 幼児 3 名 小学生 3 名 中学生 1 名 保護者 4 名
6	23	ゆび編み鍋敷き作り	参加者 4 名
	28	世代交流じゃがいも掘り	参加者 4 名 幼児 41 名 小学生 43 名 保護者 80 名
7	22、29	夏のイベント（児童との交流会） e-スポーツ	参加者 12 名 小学生 28 名
8	5、12、19、 26	夏のイベント（児童との交流会）体操	参加者 23 名 幼児 15 名 小学生 69 名 保護者 13 名
9	29	スマホ教室(初級編)	参加者 7 名
10	28	防火講話	参加者 11 名
11	1	環境ボランティア活動、	参加者 4 名 幼児 2 名 保護者 1 名
	4	e スポーツ	参加者 11 名
	17	革細工	参加者 10 名
12	2	防犯教室（特殊詐欺国際電話利用の休止：大宮警察）	参加者 12 名
	11	e スポーツ	参加者 3 名 中学生 2 名
1	5、6	伝承あそび（児童との交流会）	参加者 6 名 小学生 46 名 中学生 4 名
	19	スマホ相談会	参加者 13 名
2	25	介護予防教室	参加者 11 名
定期	健康体操、運動支援員による運動教室、避難訓練		

＜片柳老人憩いの家＞

月	日	行事名	備 考
6	9	講演会（地域包括支援センター）	参加者 11 名
	28	児童センター憩いの家交流ふれあい花壇	参加者 3 名 幼児 7 名 小学生 12 名 保護者 10 名
7	7	スマートフォン相談会	参加者 10 名
9	29	防火講話	参加者 5 名
10	30	スマートフォン教室(初級者編)	参加者 5 名
11	10	講演会（地域包括支援センター）	参加者 5 名
12	3	スマートフォン教室(初級者編)	参加者 7 名
	6	児童センター憩いの家交流ふれあい花壇	参加者 2 名 幼児 5 名 小学生 6 名 保護者 3 名
	8	e スポーツ体験会	参加者 7 名
1	19	講演会(地域包括支援センター)	参加者 5 名
2	7	利用者懇談会	参加者 11 名
	9	工作	参加者 3 名
定期	リフレッシュ片柳、運動教室（運動支援員）、囲碁の日、ふらっと片柳、避難訓練		

＜春野老人憩いの家＞

月	日	行事名	備 考
6	24	利用者懇談会	参加者 12 名
9	2	いちにち健康教室	参加者 16 名
11	25	e スポーツイベント	参加者 1 名
2	3	e スポーツイベント	参加者 7 名
定期	カラオケサロン、運動サロン、囲碁将棋の日、避難訓練		

＜与野本町老人憩いの家＞

月	日	行事名	備 考
5	24	お花いっぱい大作戦	参加者 1 名 幼児 9 名 小学生 10 名 保護者 11 名
6	25	健康づくりのための講話	参加者 5 名
7	10	幼児夏まつり	参加者 2 名 幼児 52 名 保護者 56 名
8	8	こどもシニア交流イベント（読み聞かせと折り紙）	参加者 5 名 小学生 12 名
	5、6	お花いっぱい大作戦	参加者 0 名 幼児 12 名 小学生 3 名 保護者 15 名
	10	幼児冬のお楽しみ会	参加者 3 名 幼児 55 名 保護者 54 名
1	15	こどもシニア交流イベント（読み聞かせとかるた）	参加者 2 名 幼児 2 名 小学生 5 名 保護者 2 名
	15	利用者懇談会	参加者 4 名
定期	避難訓練		

【5】大崎むつみの里

1 指定管理（令和7年度～令和11年度）

<第1事業所>

- (1) 生活介護事業[かがやき][ほほえみ][わくわく] (2) 自立訓練（機能訓練）事業[こもれび]
(3) 自立訓練（生活訓練）事業[きらめき] (4) 就労継続支援事業B型[大崎実習センター]

<第2事業所>

児童発達支援センター[大崎児童学園]

- (1) 児童発達支援事業 (2) 保育所等訪問支援事業
(3) 相談支援事業（特定相談支援事業、障害児相談支援事業）

2 受託事業

<浦和区障害者生活支援センターむつみ>

相談支援事業（地域生活支援事業、一般相談支援事業、特定相談支援事業、障害児相談支援事業）

<第2事業所>

さいたま市東部地域つながる発達支援相談事業

3 自主事業

<むつみホーム大間木>

- (1) 共同生活援助事業 (2) 短期入所事業（空床利用型）

4 今年度の施設取組計画

(1) 第1事業所

<生活介護事業>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
人権擁護に関する目標（年間目標・月間目標）を立て、学習会又は個人ワークを年2回実施。虐待防止チェックシートを全職員で実施。昨年度の検証結果をもとに今後の課題を検討する。	上回って達成	虐待防止チェックシートを実施することで、自分自身の日々の支援を振り返り、客観的に分析する良い機会となった。 また、研修会や個人・グループワークは、普段疑問に思っていることの解消ができた、職員間で意見交換することで新たな視点を持つことができる有意義な時間となった。グループ会議内で虐待防止について定期的に話し合う時間を持つことで常に意識できる環境を整えられた。引き続き行うことが意識の定着と支援の質の向上につながると思われる。
年1回、個別支援計画及びサービスに対するアンケートを実施し、6年度の平均点以上の得点を目標とする。	達成	平均で前年度を8点上回り目標を達成した。項目を一つずつ確認すると、利用者やご家族の意向が十分に確認できるものであった。また、期待されるサービスについて記述が多く見られ、今後検討していく必要がある課題も分かった。
前年度の平均稼働率より1%以上上昇する。	上回って達成	R6年度70.0%からR7年度80.3%へと稼働率が10.3%上昇し、目標を達成した。今年度は、4月に6名の新規利用者が入所したこと、わくわくが新設されたことが稼働率向上の大きな要因と考えられる。むつみの里の見学会を年2回、事業所ごとの見学は随時行い、必要に応じて他の生活介護を紹介し、年度途中では全体で7名が利用に繋がった。

<自立訓練（機能訓練）事業>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
地域の関係機関と連携4件、むつみの里内他事業への移行や受け入れを3件以上行う。	未達成	関係機関との連携については2件実施にとまった。また、専門職の連携・交流についてはしくみづくりまで至らなかった。 複合施設としての強みを生かすことについては、次のライフステージへの移行を視野に入れ毎年取り組むことはできた。効果は出ているので引き続き取り組むことが重要である。

週 15 件の送迎を実施する。	未達成	午前の送迎サービスに関しては 2 件以上実施することができたものの、午後に関しては利用者の急遽欠席で実施できないことが何度か見受けられた。 送迎サービスのニーズ把握と効果について測定し他事業との連携により運用体制を整備したものの職員不足によるドライバーの確保はできなかった。よって運用体制の整備は試行に留まっている。
平均稼働率の前年比 110%	上回って達成	新規問い合わせが 6 件ありそのうち新規利用者 3 名を獲得。他事業等と連携し送迎サービスの充足した事もあり前年度平均稼働率 64.7%、今年度平均稼働率 70.6%へ上昇したが、対比は 109%で未達成となった。

＜自立訓練（生活訓練）事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
年 1 回活動アンケートを実施し結果に基づいて支援内容の見直しを行う。	達成	活動アンケートを実施し、パソコンスキルの向上や掃除・洗濯などの生活スキルの向上、健康管理や体力の向上など個別の支援などに力を入れている。園外活動を実施し、希望を聞きながらイオンなどで買い物をしたり、スポッチャに行き楽しく体を動かしたり、調理実習で仲間と協力をしたりと様々な経験ができるよう支援している。メモリーノートにより振り返りを行い、各自目標が立てられるよう支援をしている。生活訓練終了後を見据えて、関連機関などと連携を図り、個別支援会議を実施しており、今年度は 2 件のサービス担当者会議を実施し、スムーズに移行できるようにしている。就労継続支援 B 型事業所と利用者支援について交流し、情報等や交流を図っている。
1 人につき年 1 回以上職務階層に対応した必要とされる能力等基準表に則った外部研修に参加する。	達成	埼玉県高次脳機能障害支援研修（基礎研修）（実践研修）に参加し、埼玉県高次脳機能障害支援養成研修の実技研修を終了することができた。高次脳機能障害についての知識を得ることや障害特性を理解することで、高次脳機能障害の障害特性に応じた支援を実施できた。
平均稼働率の前年比 110%	未達成	他事業所への PR 活動を実施し、12 か所の事業所へ行って、新規利用者 2 名と契約をしたが、週 1 回の利用であったり、利用者ご自身の都合による欠席などがあった。前年度平均稼働率 21.6%、今年度平均稼働率 21.9%で前年比は 101%となり目標は未達成となった。一方で更生相談センターと連携し高次脳機能障害者の支援事業に職員が年に 2 回参加して、むつみの里の生活訓練の特徴である、高次脳機能障害者の自立訓練を確立できるようにしている。

＜就労継続支援事業 B 型＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
平均工賃額目標 6,244 円	上回って達成	新規企業 2 社と契約を行った。職員の単価交渉スキルが高くなったこと、大口の受注があったこと、感震ブレーカーの大量注文、自主製品「むつみ糖」の売上もあり昨年度より増収となった。平均工賃は昨年度の 11,378 円を超え、19,277 円となり前年度を上回って達成できた。
前年度より実習生の受入れ人数を 2 名増やす。	上回って達成	社会福祉士相談援助実習 7 名、介護等体験 11 名、ヒューマンケア実習 2 名を受け入れて昨年度より 11 名増えた。また、数には入っていないが地域・在宅看護論実習 11 名、社会福祉施設総合実習 2 名、未来くるワーク 3 名を受け入れた。 介護等体験の希望者が多かったこと、実習依頼にはできる限り受け入れていく努力をしたことが大きな理由だが、社会福祉士相談援助実習担当者研修受講職員が令和 7 年度に大崎むつみの里内で減少してしまったことで、担当できる職員のいる実習センターが多く受け入れることになった。受け入れ数の大幅な増加の達成は担当した職員の努力が大きい。

前年度より 2% (80%) 上回る。	未達成	令和 7 年度の稼働率は 43%。 利用者平均年齢が 48 歳であり、高齢になった利用者が大崎むつみの里内の生活介護への契約変更や他事業所の生活介護へ移動したことでの退所者が 5 名となった。新規利用者が 2 名加わったが、退所者数が上回ってしまい稼働率が低下した。 稼働率向上のため、見学会の実施や特別支援学校へ訪問も行い広報活動を行ったことから、特別支援学校の教員と生徒の見学の受け入れ実施につながった。また特別支援学校から実習生を 2 名受け入れることができた。見学も実習も高等部 1 年生や 2 年生が多く来年度の進路にはつながらなかったが確実にイメージアップははかれており再来年度の新卒の利用者獲得にはつながっていくと考えている。
---------------------	-----	---

(2) 第 2 事業所

＜児童発達支援事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
スノーブレン（大崎流）の実施・充実	上回って達成	スノーブレンを定期的の実施することで、利用児が安心して期待を持って参加することができた。文書にて説明し、保護者に広くスノーブレンの効果や意義をご理解いただけた。今年度も療育センターさくら草すみれのスノーブレン研修に 1 名職員が参加し、新たな視点や気づきを得ることができた。大崎流スノーブレンとして、新たに得たスキルを取り入れ提供していく。
児童発達支援 6 施設中 2 施設から事例を出し、検討会を行う（輪番）	達成	事例検討会に出席し、「あそび」における幅広い支援の方法を知ることができた。自施設で行われている「あそび」の提供の仕方を振り返り、事例検討会で得た新たな方法を取り入れるなど、プログラムの固定化について見直す機会にもなった。また、他施設の職員とグループ討議をすることで、各々が視野を広げることができた。
契約者数 54 名	未達成	SNS の活用やホームページに適宜空き定員を掲載した。園解放も事業として定着してきている。施設公開を実施し、地域や関係機関に幅広く知っていただく機会を設けた。また、11 月から満 3 歳の単独通園受け入れを開始し、利用につながったケースもあった。契約者数の目標値に届かなかった要因として、就労等で親子通園が難しいケースが増えていることが考えられる。ニーズに合わせた柔軟な対応が課題となっている。（令和 7 年度契約数 44 名）

＜保育所等訪問支援事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
訪問支援対象児童 1 名のケースカンファレンスを行う。	上回って達成	対象児童のケースカンファレンスを行い、発達過程や訪問支援で助言した上での経過やその効果を説明した。職員全体で訪問支援の実務について共有することができ、現任者も、未経験の職員も見識が広がり、今後に役立つ有意義な時間となった。
訪問支援員による研修会を年 2 回、訪問への同行を年 3 回以上実施する。	上回って達成	前任者との引き継ぎは丁寧に実施することができた。次年度は、経験の浅い職員にも同行してもらえる機会を増やせるよう計画的に進めていく。
保育所等訪問支援を年間 40 件実施する。	未達成	今年度は 33 件を実施した。年間目標値に届かなかった要因は、対象児童が落ち着いて園生活を送れており、1 名あたりに対する訪問回数が減少したためである。今まで訪問支援で積み上げてきたことが、成果となりつながったとも考えられる。契約者数は昨年度より増となった。

＜相談支援事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
地域の医療機関とつながる機会を作り、医療的ケア児等への支援につなげる。年 2 回	上回って達成	越谷特別支援学校にはあらかじめ連絡を入れたことで、今年度は連絡協議会に参加することができた。複数の学校での連絡協議会に参加することにより、授業風景を見たり学校環境を確認するほか、実際に児童がどのような支援を受けているのかを確認することができた。また、担任との話し合いにおいて学校生活を含めた放課後や家庭の状況や児童の将来像についても共有することができた。

情報共有のシステムを運用する。	上回って達成	今年度は随時知り得た情報を入力かつ、他区の情報について必要に応じて、利用者や家族に対して案内することができた。新規事業所や活動内容の確認など、児童分野の情報を活用することが多かった。
事例検討会と勉強会を各 1 回以上実施する。	上回って達成	事例検討会では、児童と者のそれぞれの事例についてグループに分かれ検討会を行ったことで、複数の職員で意見を出し合い、様々な視点からの支援に気づくことができた。 勉強会では、「子ども支援・保護者の支援に対する相談員のかかわり～こどもと保護者を支えていくために心がけること～」の講義を聞き、子どもとその保護者に対する支援をする上でのポイントを知ることができた。また、各地域支援協議会の参加状況を共有することで、各区の現状を知ることができた。

(3) 浦和区障害者生活支援センター

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
浦和区地域協議会を年 2 回以上の開催し、地域協議会主催の研修会を 1 回開催する。	上回って達成	昨年度までに把握した地域課題をもとに今年度はワーキング合同で研修会を開催した。介護保険勉強会では区内日中通所事業所職員から、利用者から相談があった時に案内する場所が分かり勉強になったとお声をいただいた。障害児の性についての学習会では児発放ディの職員から大変勉強になったとの感想をいただいた。12 月合同相談会では来場されたご家族からサービスの種類についてわかりやすかった、事業所選びの参考になったなど反響をいただいた。ケアラートーク会では当事者も登壇し障害がある、無しに関わらず、介護体験について語り合う場を作ることができた。今年度は地域の事業所同士の研修会だけではなく、家族、当事者にも来場していただける企画をすることができた。その意見が大きな学びとなった。
全職員が年 1 回は相談支援業務に関する外部研修に参加する。 (専門コース別研修受講終了名)	未達成	専門コース別研修(スーパービジョン・管理・面接技術)を受講することで GSV(グループスーパービジョン)を行える職員を新たに 1 名増やすことができた。相談員 4 名それぞれが他機関の主催する研修に参加することで高齢分野、児童分野、精神障害者への支援の専門性を高めることができた。また、ミーティングで報告することで、一人の学びを所内の相談員へ共有することができた。
基本報酬部分の機能強化型(Ⅲ)体制加算 2 つ以上の算定を維持する。(新たな研修修了者 4 名以上)	達成	高次脳機能障害支援養成研修を令和 7 年 11 月に受講し、令和 8 年 1 月支援分から高次脳機能支援者体制加算Ⅱ(30 単位)を算定することができる。この研修の受講により相談業務の質の向上と、体制加算を 4 つ算定できるようになった。「精神障害者の障害特性と支援方法を学ぶ研修」を新たに相談員 1 名が受講修了し、人事異動があっても体制加算 3 つ以上を維持できる体制を整えることができた。

(4) むつみホーム大間木

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
地域との連携事業を実施(1 回以上)	達成	地域連携推進会議の中で検討内容は、とても有意義なものだった。入居者の皆様とともに行う地域貢献活動に何ができるのか考え直すきっかけにもなった。
①入居者のニーズ充足状況の確認 ②入居者のニーズに即した新たな連携先を検討	達成	①利用者ニーズの把握とその充足(ニーズの実現)についてはそのプロセスと結果を出すことは難しいところだったが協力を得ながら達成できた。 ②地域の事業所との連携を構築することができた。
利用者数を 2 名増やす。	未達成	「見学会」→「体験利用」→「ショートステイ」→「定住」といったセオリーの取り組みで満床まであと一歩というところまでの状況になった。

5 具体的計画

(1) 共通

- ① 利用者のあらゆる意思表出や選択を尊重し、その人らしい生き方を支援した。
- ② 利用者と地域や社会との関係を大切にするよう努めた。
- ③ 利用者及び家族のニーズの変化に対応するよう努めた。
- ④ あり方検討委員会において検討を進め、施設認知度の向上と新規利用者の獲得、経営の効率化に努めた。

(2) 第1事業所

<生活介護事業>

利用者一人ひとりがその人らしい主体的な生活を送ることができるよう、障害特性を理解し利用者の意向や状況の変化に応じた支援を行った。また、地域と共に生きる取組として、広報活動や地域行事への参加を継続した。地域で利用者が必要なサービスをスムーズに利用できるよう関係機関との連携を図った。送迎サービスを見直し、利用者や家族の意向に合わせて検討し対応した。

- ① 利用者一人ひとりが思いを伝える過程で意思形成や意思表出を促すため、利用者にとって理解しやすい提示方法を工夫し、支援を行った。
- ② 利用者自身が可能な限り選択できるよう個別の支援プログラムやグループ活動を設定し支援の充実を図った。
- ③ 健康維持活動、生産活動、リラクゼーション、eスポーツなどを実施し、活動の充実を図った。
- ④ 地域資源を生かし、外出活動やプール活動等を積極的に取り入れた。地域交流を行う中で、施設に対する理解の促進や利用者が充実した時間を過ごせるような支援を提供した。
- ⑤ 近隣の支援学校や関係機関との連携を強化し、新規利用者の獲得と共に利用者及び家族が安定したサービスの利用を継続していけるよう努めた。

<自立訓練（機能訓練）事業>

専門職によるチーム体制で効果的な訓練や支援を行い、一人ひとりの障害をともに受け止められるよう努めた。

- ① 利用時間や訓練内容及び給食サービスの有無や送迎サービス（条件付き）等多様なニーズに対応できるように選択肢の幅を広げた。
- ② 専門職を中心とした健康管理や家族支援、自主訓練指導の充実に努めた。
- ③ 訓練終了後の生活を見据えた、地域移行や他事業連携を強化した。

<自立訓練（生活訓練）事業>

機能訓練と連携して活動内容の充実に努め、自分らしく生活する力を高められるよう支援を行った。

- ① 自己決定を尊重した訓練プログラムを用意し選択肢の幅を広げた。
- ② 地域での活動体験（商業施設の利用、買い物訓練、公共交通機関の利用）を通して公共マナーやコミュニケーションスキルを実践で学び地域社会での自立を支援した。施設周辺の毎月の清掃活動のボランティア活動を継続し、地域交流の機会を保った。
- ③ 3か月毎の面談で訓練プログラムの意向を確認し、「なりたい自分」を意識して活動できる環境を整えた。
- ④ 就労に向けて、相談支援、家族と連携し事業所体験や就労支援プログラムを実施した。

＜就労継続支援事業B型＞

年齢や心身の状況等で現状では一般企業に就労が困難な方に対し、生産活動の機会を提供するとともに、就労や社会活動に必要な体験及び訓練の機会を提供し、知識及び能力の維持向上のための支援を行った。

- ① 生産活動を通じ、社会人としての自覚や自信が得られるよう支援した。また、個別の特性や状況に応じた生産活動の機会を提供し、就労の可能性が高まるよう支援を行った。

ア 作業収入及び工賃支給状況（円）

月	収入総額	支給総額	作業日数	一人あたりの工賃		
				最 高	最 低	平 均
4	579,373	547,530	21	25,970	0	18,251
5	489,018	416,140	20	21,080	0	10,951
6	383,020	328,970	21	15,260	0	11,749
7	546,797	468,510	22	23,350	0	16,733
8	981,798	376,290	20	19,640	0	13,439
9	582,245	471,390	20	21,800	0	16,835
10	486,090	464,900	22	22,720	860	17,219
11	2,054,797	937,270	19	45,550	3,380	34,714
12	1,050,214	748,380	20	38,250	0	27,718
1	578,678	470,010	19	24,530	3,220	18,077
2	611,766	566,060	18	29,180	2,960	21,772
3	809,149	596,985	21	30,818	3,356	23,879
合計	9,152,945	6,392,435	243	年間平均		19,278

- ② クラブ活動（年6回）や社会体験活動（1回）、自治会活動（毎月1回・自治会主催イベント2回）を通じ、社会性や生活力が高められるよう支援した。
- ③ 障害者関係機関との連携強化及び他分野、他機関との連携を図り、緑区地域協議会の会議等に参加し地域のネットワークの構築に努めた。

(3) 第2事業所

＜児童発達支援事業＞

- ① 児童の発達状況に応じたグループを設置し、適切な支援を提供した。

ア 母子グループ（いちご組：未歩行児・みかん組：歩行児）

早期療育の必要な児童や子育てに不安を持っている親子に遊びを通し、遊び方や関わり方の指導・支援を行った。

イ 通園グループ（りんご組・ぶどう組）

発達段階に応じた個別的・集団的指導を行い、基本的動作の習得や人との関わりのおもしろさの中から豊かな日常生活を過ごすことができるよう全体的な発達を促す支援をした。また、必要に応じ1回あたり30分程度の個別指導を実施し、個々の持っている力を引き出す支援を行った。

ウ フォログループ

幼稚園・保育園に通園している療育の必要な児童に対して、小集団での活動を通し、集団に適應する力や発達を促す指導・支援を行った。

- ② 家族支援

ア 家族支援として、個別面談、家庭訪問、懇談会等を行い、保護者との共通理解のもとに支援を行うことができた。

イ 専門職（言語聴覚士、臨床心理士等）による保護者勉強会を実施し、保護者に参加していただくことで保護者への心理的な安定や子どもの特性への理解を深めてもらうことができた。

- ③ 活動の中に感触・感覚的な遊びや音楽療法、運動を取り入れていき、子ども達の遊びの幅

を広げ発達を促す支援を行保護者にも目的や効果を伝えながら進めることができた。

- ④ 第2事業所の事業を知ってもらうために、区の保健センターでの親子教室や児童センターの発達相談で相談に乗ると共に児童発達支援センターの説明を行った。関係機関に出向き、リーフレットを基に理解を深めることができた。X(エックス)に活動等を定期的に掲載することで園を知っていただく機会とした。

＜保育所等訪問支援事業＞

保育所等を訪問し、障害児に対して、障害児以外の児童との集団生活への適応のための専門的な支援その他必要な支援を行った。障害児への保育にかかわる保育士等へ支援上の手立てを伝え、抱える悩みに応えることで、障害児への理解を促した。

＜相談支援事業＞

- ① 地域の中で安心して暮らし続けられるために、相談者のニーズに沿うとともに、相談者が希望する支援の提供に努めた。
- ② 心身の状況や環境等に応じて、必要なサービスを多様な事業者から総合的かつ効果的に提供するように努めた。
- ③ サービスの提供方法等について理解しやすいよう説明を行うとともに、必要に応じた支援等を適切な手法で行った。
- ④ 提供される障害福祉サービス等が特定の種類又は事業者に不当に偏することのないよう、公正中立に行った。

＜さいたま市東部地域つながる発達支援相談事業＞

療育センターひなぎくの受診を希望する発達に心配がある児童とその保護者に対し、ひなぎくが行うアセスメントや保護者への助言等を支援するとともに、早期に相談・支援につながることを促進した。また、身近な地域においてかかりつけ医や関係機関が継続した支援を行える体制の構築・強化を図った。

(4) 浦和区障害者生活支援センターむつみ

- ① 地域協議会を意識した体制整備への取組

さいたま市から委託された支援センターとして区の相談支援システムの基盤作り、地域作りを進めた。浦和区においては令和3年度10月より基幹相談支援センターが設置され(やどかりの里が受託)地域協議会を2回開催し、全体会を開催した。その他協議会内のワーキング毎の交流会、合同交流会、介護者ミーティングを区内の事業所に協力をいただき開催した。

- ② 地域の中で安心して暮らし続けられるための取組

令和7年度、市内10区に基幹センターの設置と地域協議会の設置が完了した。各区にて協議会を軸に地域で暮らす障害のある方へ必要な支援が届けられるような体制整備に取り組んでいる。そこで抽出された課題について年3回の自立支援協議会にて報告をあげ課題の整備を検討している。浦和区においても地域に必要な資源等を模索し、誰もが安心して暮らせるためのネットワークづくりを継続して行った。

- ③ 人権擁護の取組

ア 虐待が起きる可能性が高い事案に対し通報義務があることに加え、虐待が発生した際には行政機関とともに案件の対応にあたる機関として日頃から虐待防止の視点をもって支援にあたった。

イ 虐待防止研修への参加、伝達研修等を積極的に行った。虐待防止委員会を定期的に開催し日常の支援の中で不適切な支援が起きていないかを振り返る機会をもった。

さいたま市主催の虐待防止・権利擁護研修に参加するとともに次年度以降は研修のファシリテーターを務めるための準備を整えた。(ファシリテーター見学)

④ ニーズに沿った相談支援の提供

利用者の心身の状況、その置かれている環境に応じて利用者の選択に基づき適切な保健、医療、福祉就労支援、教育等のサービスが総合的かつ効果的に提供される適切な支援を行った。

⑤ 法人内障害分野事業所へのアウトリーチ

法人内事業所の稼働率向上、新規利用者獲得が課題となっている中、委託の障害者生活支援センターとして法人に還元できることを模索し続けた。支援センターは地域の多くの機関との連携も多く、地域のニーズを法人内事業所へ情報提供する取組を始めた。

年月日	研修名	対象施設名
令和7年7月24日	財務課主催アウトリーチ研修	春光園けやき
令和7年8月18日		槻の木・第2やまぶき
令和7年10月17日		大崎むつみの里

(5) むつみホーム大間木

共同生活援助事業では、利用者が安心して生活が送ることができるようアセスメントを的確に行い、ニーズに基づいた支援を提供した。また、身近自立の確立と、共同生活の一員としての協調性及び自発性の確立に努めた。

空床がある場合は短期入所事業を実施した。

- ① 利用者の健康管理を行うとともに、家庭的な食事の提供に努めた。また、入浴、排せつ、着替え、整容等その方に必要な支援を行った。
- ② 利用者の利便性が高まるとともに生活の質が向上するよう、関係機関との連携に努めた。また、地域との良好な関係を築き、行事等に容易に参加できる環境づくりに努めた。
- ③ 利用者及びその家族が希望する生活や利用者の心身の状況を把握し、適切な相談及び援助を行った。

6 利用状況

(1) 第1事業所

<生活介護事業>

① 契約者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男	34	8	2	40
女	34	8	1	41
計	68	16	3	81

② 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分

令和8年3月31日現在

年齢 \ 受給者証	なし	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満	0	0	0	0	0	1	2	3
20歳以上30歳未満	0	0	0	0	1	3	2	6
30歳以上40歳未満	0	0	0	1	5	6	15	27
40歳以上50歳未満	0	0	0	0	3	7	9	19
50歳以上	0	0	0	3	6	9	8	26
計	0	0	0	4	15	26	36	81

③ 障害者手帳（療育手帳、身体障害者手帳）に基づく障害等級区分 令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度A			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	6	5	11	0	1	1	0	1	1	0	1	1	2	2	4	8	10	18
2級	2	4	6	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4	4	8
3級	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

4級	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	15	16	31	8	8	16	2	2	4	1	0	1	1	0	1	27	26	53
合計	24	26	50	9	9	18	2	3	5	1	1	2	4	2	6	40	41	81

④ 開所日数と延利用者数

開所日数	年間利用 人 数	一日利用 平 均	サービス別利用者数		
			基本サービス	入浴サービス	給食サービス
243	13,665	56.2	13,664	695	13,184

<自立訓練（機能訓練）事業>

① 契約者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和8年度末
男	10	3	1	12
女	12	0	2	10
計	22	3	3	22

② 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分

令和8年3月31日現在

年齢 \ 受給者証	なし	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0
20歳以上30歳未満	0	0	0	0	0	1	0	1
30歳以上40歳未満	1	0	0	0	0	1	0	2
40歳以上50歳未満	0	0	0	0	0	0	1	1
50歳以上	7	0	0	0	3	5	3	18
計	8	0	0	0	3	7	4	22

③ 障害者手帳（療育手帳、身体障害者手帳）に基づく障害等級区分 令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度A			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	8	4	4	8
2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	6	5	1	6
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	0	0	0	0	0	0	2	1	3	1	1	2	0	2	2	3	4	7
合計	0	0	0	0	0	0	2	1	3	1	1	2	9	8	17	12	10	22

④ 開所日数と延利用者数

開所日数	年間利用 人 数	一日利用 平 均	サービス別利用者数	
			基本サービス	給食サービス
242	1,708	7.1	1,708	53

<自立訓練（生活訓練）事業>

① 契約者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男	2	1	0	3
女	3	1	1	3
計	5	2	1	6

② 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分

令和8年3月31日現在

年齢 \ 受給者証	なし	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満	1	0	0	0	0	0	0	1
20歳以上30歳未満	1	0	0	0	0	1	0	2
30歳以上40歳未満	0	0	0	0	1	0	0	1
40歳以上50歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0
50歳以上	1	0	0	1	0	0	0	2
計	3	0	0	1	1	1	0	6

③ 障害者手帳（療育手帳、身体障害者手帳）に基づく障害等級区分 令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度㉔			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	2	2
なし	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	2	3	1	4
合計	0	0	0	2	0	2	0	1	1	0	0	0	1	2	3	3	3	6

④ 開所日数と延利用者数

開所日数	年間利用 人 数	一日利用 平 均	サービス別利用者数	
			基本サービス	給食サービス
243	531	2.2	531	386

<就労継続支援事業B型>

① 契約者数 令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男	18	0	3	15
女	11	2	3	10
計	29	2	6	25

② 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分 令和8年3月31日現在

年齢	受給者証	なし	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満		0	0	0	0	0	0	0	0
20歳以上30歳未満		1	0	0	1	0	0	0	2
30歳以上40歳未満		0	0	0	2	2	0	0	4
40歳以上50歳未満		3	0	0	3	2	0	0	8
50歳以上		1	0	0	3	7	0	0	11
計		5	0	0	9	11	0	0	25

③ 障害者手帳（療育手帳、身体障害者手帳）に基づく障害等級区分 令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度㉔			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	0	0	0	3	1	4	0	0	0	0	0	0	2	0	2	5	1	6
2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	0	0	0	7	6	13	2	3	5	0	0	0	0	0	0	9	9	18
合計	0	0	0	10	7	17	3	3	6	0	0	0	2	0	2	15	10	25

④ 開所日数と延利用者数

開所日数	年間利用 人 数	一日利用 平 均	サービス別利用者数	
			基本サービス	給食サービス
243	5,934	24.4	5,934	5,835

<相談支援事業>

① 契約者数 令和8年3月31日現在

前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
140	6	146	0

② 事業別実績

障害児 相談支援	援助内容	請求件数	特定相談 支援	援助内容	請求件数		
	障害児支援利用援助	37		継続障害児支援利用援助	22	計	3959
	継続障害児支援利用援助	22		計	3959		
	計	3959					

特定相談 支援	援助内容	請求件数	特定相談 支援	援助内容	請求件数		
	サービス利用支援	112		継続サービス利用支援	157	計	269
	継続サービス利用支援	157		計	269		
	計	269					

③ 相談支援方法

訪問	来所	同行	電話等	個別支援会議	担当会議	関係機関	その他	計
117	307	34	504	7	10	1,118	147	2,244

(2) 第2事業所（児童発達支援センター）

＜児童発達支援事業＞

① 契約者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男児	22	8	0	30
女児	9	5	0	14
合計	31	13	0	44

② 年齢区分

令和8年3月31日現在

グループ	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		合計	
	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児
母子	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	4	4
通園	0	0	0	0	0	2	3	1	5	1	5	1	13	5
フォロー	0	0	0	0	0	0	5	2	3	1	5	2	13	5
合計	0	0	0	0	4	6	8	3	8	2	10	3	30	14

③ 障害者手帳（療育手帳、身体障害者手帳）に基づく障害等級区分 令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度㉠			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	2
2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
なし	0	0	0	4	0	4	2	2	4	7	0	7	16	9	25	29	11	40
合計	0	0	0	4	0	4	2	2	4	7	1	8	17	11	28	30	14	44

④ 開所日数と延利用者数

開所日数	年間利用人数	一日利用平均	サービス別利用者数		
			基本サービス	給食サービス	送迎サービス
235	4,280	18.2	4,280	3,276	4,694

＜保育所等訪問支援事業＞

① 契約児数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男児	10	10	1	19
女児	3	3	0	6
合計	13	13	1	25

② 年齢構成

年齢	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	計
男児	0	1	4	3	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
女児	0	0	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6

③ 訪問先

訪問先	保育園		幼稚園	特別支援学校			小学校		中学校		放課後児童クラブ	その他（子ども園）	計
	公立	私立		小学部	中学部	高等部	普通級	特別支援級	普通級	特別支援級			
提供人数	6	15	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36
延べ利用人数	6	15	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36

<相談支援事業>

① 契約児数

令和8年3月31日現在

前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
291	14	34	271

② 事業別実績

障害児 相談支援	援助内容	請求件数	特定 相談支援	援助内容	請求件数
	障害児支援利用援助	195		サービス利用支援	119
	継続障害児支援利用援助	227		継続サービス利用支援	192
	計	422		計	311

③ 相談支援方法

訪問	来所	同行	電話	個別支援会議	特定相談者会議	関係機関	その他	計
207	557	21	1,017	16	1	2,671	567	5,057

<さいたま市東部地域つながる発達支援相談事業>

① 実施件数

区分	内容	実施回数
1	保護者面談、児童の記録作成支援、ひなぎくへ情報共有、面談報告書の作成	0回
2	児童の行動観察・発達評価、保護者面談、ひなぎくへ情報共有、面談報告書の作成	11回
3	保護者面談、児童の記録・面談報告書のフィードバック、ひなぎくへ情報共有	0回
4	仕様書に定める会議等への参加	2回
合計		13回

(3) 浦和区障害者生活支援センターむつみ

① 支援件数

相談方法		相談経路		支援概要		サービス調整会議 17回
電話・メール	2,060	本人	1,307	相談支援	4,521	
来所	228	家族	885	直接支援	104	
訪問・同行	542	他機関	2,318	その他	0	
その他	1,795	その他	115			
計 4,625						

② 相談者数(カッコ内には重複障害者の内数を再掲)

相談実人数	療育手帳	身体障害者手帳	精神保健福祉手帳	手帳非所持
新規相談者	18歳未満	8(0)	5(1)	35
継続相談者	18歳以上	69(22)	27(14)	8
計	計	77(22)	32(15)	43

③ 相談支援方法(地域生活支援事業)

訪問	来所	同行	電話	メール	調整会議	関係機関	権利擁護	その他	計
449	228	93	1,913	147	17	1,704	1	73	4,625

④ 事業別実績

障害児 相談支援	援助内容	請求件数	特定 相談支援	援助内容	請求件数
	障害児支援利用援助	36		サービス利用支援	144
	継続障害児支援利用援助	51		継続サービス利用支援	307
	計	87		計	451

⑤ 相談支援方法(特定相談支援事業、障害児相談支援事業)

訪問	来所	同行	電話等	個別支援会議	特定相談者会議	関係機関	その他	計
197	128	25	29	0	6	6	1	392

⑥ 契約者数

令和8年3月31日現在

前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
193	5	14	184

(4) むつみホーム大間木

<共同生活援助事業>

① 入所者数(体験契約者含む)

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男	5	0	0	5

女	3	1	0	4
合計	8	1	0	9

② 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分 令和8年3月31日現在

年齢 \ 受給者証	なし	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0
20歳以上30歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0
30歳以上40歳未満	0	0	0	1	1	0	0	2
40歳以上50歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0
50歳以上	0	0	0	3	4	0	0	7
計	0	0	0	4	5	0	0	9

③ 障害者手帳（療育手帳、身体障害者手帳）に基づく障害等級区分 令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度㉔			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	0	0	0	4	2	6	1	2	3	0	0	0	0	0	0	5	4	9
合計	0	0	0	4	2	6	1	2	3	0	0	0	0	0	0	5	4	9

④ 体験利用者

男性	女性	合計	延べ日数
0名	0名	0名	0日

⑤ 利用者数（延べ人数）

開所日数	年間利用者数（体験利用を含む。）	1日平均利用者数
365日	2,910名	8.0名

<短期入所事業>

① 利用者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約	契約終了者	令和7年度末
男	10	0	0	10
女	13	1	0	14
合計	23	1	0	24

② 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分

令和8年3月31日現在

年齢 \ 受給者証	なし	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0
20歳以上30歳未満	0	0	3	1	1	0	0	5
30歳以上40歳未満	0	0	0	1	3	0	0	4
40歳以上50歳未満	0	0	0	1	3	1	0	5
50歳以上	0	0	0	3	3	4	0	10
計	0	0	3	6	10	5	0	24

③ 障害者手帳（療育手帳、身体障害者手帳）に基づく障害等級区分 令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度㉔			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	1	0	1	1	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4
2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	1	0	1	6	8	14	0	3	3	1	0	1	0	1	1	8	12	20
合計	2	0	2	7	10	17	0	3	3	1	0	1	0	1	1	10	14	24

④ 利用者数（延べ人数）

空室日数	年間利用者数	1日平均利用者数
560.4日	55名	0.1名

7 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

- ① 「感染対策マニュアル」「感染症業務継続計画（BCP）」等のマニュアルを職員に周知するとともに、定期的に見直しを行い、日々の支援業務において活用した。
- ② 感染症マニュアルに基づき、予防策、発生時の軽減対策を実施し、感染の拡大防止を図った。また、感染症対策訓練を6月27日、感染症対策研修を9月5日、感染症対応業務継続計画（BCP）訓練を12月5日に実施した。
- ③ 利用者全員からの健康調査書等（医師の指示を含む。）の提出を受け、発作、服薬及び支援における注意、禁忌事項等を確認し、支援内容を検討した。
- ④ 昼食前のアルコールによる手指消毒を徹底した。また、調理実習を行う際は、利用者を対象に細菌検査を実施した。
- ⑤ 利用者に対する外出後の手洗い及びうがいを習慣化できるよう声かけを継続した。
- ⑥ 感染症への対応について
 - ア 来所者には施設入館時にアルコール消毒ができるよう、引き続き設置をした。
 - イ 机上のパーティションによる仕切りの設置やマスクの着用は、必要に応じて使用することとした。
 - ウ 食堂、訓練室、作業室、活動室、事務室内は常時換気し、サーキュレーターを使用してさらに換気効率を上げた。
 - エ 職員は感染予防の研修及び感染症対策の実践的訓練を受け職場内クラスター発生の予防に努めた。

(2) 事故防止対策

- ① 事故・事件対策委員会を中心に「安全管理」「虐待防止」等のマニュアルを職員に周知するとともに、見直しを行い防止策の構築は継続していく。また、ヒヤリハットの検証を職員間で行い、事故防止に努めた。
- ② 防犯対策として、不審者対策実地訓練を令和8年2月3日に実施し、さすまの使い方や連絡方法なども含め実践的な訓練をおこなうことで、職員の防犯意識を高めることにつながった。また、不審者対応シートの見直し、防犯ブザーの使用について、複合棟の全館放送の確認等、各事業の自主訓練の状況を確認、共有した。

(3) 人権擁護・虐待防止への取組

虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会を開催し、虐待防止チェックリストや虐待防止に関する研修など、虐待防止に係る取組を推進した。むつみの里虐待防止マニュアルを更新した。

(4) 個人情報管理

職員に対する個人情報保護・情報セキュリティ対策研修に参加し、伝達研修を行った。また、「個人情報管理」等のマニュアルを職員に周知するとともに、6か月に1回「大崎むつみの里個人情報管理チェックリスト」を実施し、日々の業務を振り返り、安全管理に努めた。

(5) 災害対策

- ① 災害に備えて、非常用食料と飲料水を3日分備蓄し、非常用備品の整備に努めた。
- ② 災害対応BCP訓練を8月1日～年8月15日に、水防法による避難確保計画訓練を8月27日に各事業で実施した。
- ③ 事業ごとに自主避難訓練を実施し、大崎むつみの里総合防災訓練を2回（5月29日、11月27日）実施した。児童発達支援事業は年12回行った。
- ④ 児童発達支援事業において、震度5弱以上の地震発生時、「災害用伝言ダイヤル171」を利用しできる限り情報を伝えられるよう、保護者に周知を行った。月に1回、災害用伝言ダイヤルの利用体験を行った。
- ⑤ 不時の災害発生時（地震、風水害、火災等）に地元自治会と連携を図り、損害を未然に防

止、又は最小限にとどめることを目的として、災害時相互援助協定を締結した。

(6) 施設維持管理

施設設備については、定期点検保守業務及び清掃業務を専門業者に依頼し、安全で清潔な状態を保てるよう努めた。

8 サービス向上計画実施状況

(1) 利用者の意見を反映する取組

- ① 利用者等からの意見を聴取する機会として、次のとおり面談等を実施した。

第1事業所		
生活介護事業	定期個別面談を2回、家族懇談会を年2回及び活動内容等の満足度に関するアンケートを実施	
自立訓練（機能訓練）事業	定期個別面談を4回、延べ88回実施	
自立訓練（生活訓練）事業	定期個別面談を4回、延べ22回実施。年度末に事業独自の活動内容に関するアンケートを実施し、満足度の調査を実施	
就労移行支援事業	定期個別面談を3回実施	
就労継続支援事業B型	定期個別面談を2回、延べ71回、家族懇談会を年2回、就労支援及び作業内容に関するアンケートを実施	
第2事業所		
児童発達支援事業	定期個別面談を2回、随時の面談を含め延べ125回実施。クラス別懇談会を2回ずつ、担任とのティータイムを2回実施。	
むつみホーム大間木		
共同生活援助事業	定期個別面談を延べ8回実施	

- ② 苦情解決制度に基づき、いただいた苦情に適切に対応するとともに、事業団投書箱「みなさまの声」を設置し、より細かい意見にも対応できるよう努めた。
- ③ 利用者アンケートを実施し、利用者の意見を聴取するとともに、いただいたご意見を検討・考察し、サービスの向上に努めた。

実施期間	事業名	対象者	回答者	回収率
10月10日～10月31日	生活介護	71名	64名	90.1%
10月11日～11月10日	機能訓練	22名	22名	100.0%
10月11日～11月10日	生活訓練	5名	5名	100.0%
10月22日～11月13日	就労継続B・生活介護	36名	21名	75.5%
10月11日～11月1日	児童発達支援センター	60名	49名	81.6%
10月10日～10月31日	むつみホーム大間木	8名	8名	100.0%

- ④ 給食を実施している事業の利用者を対象に、提供している給食の満足度や個々の嗜好の確認のため、給食嗜好調査を実施した。

実施期間		対象者	回答者	回収率
第1事業所	1月14日～1月20日	119人	102名	85.7%
第2事業所	1月14日～1月21日	26人	19名	73.0%

(2) 地域、関係機関との連携

- ① むつみ祭の実施(第31回)

実施日	参加者	内容
11月1日(土)	180名	グラウンドでのステージや模擬店の販売、アート作品展の展示、ボッチャの体験、児童センターの催しなど、参加者に楽しんでいただいた。また、美園社協や地域の方々等にも出店していただき各種販売を実施した。開催については広報誌や事業団ホームページを用いて広報した。

- ② 緑区区民まつりへの参加

10月19日（日）に、昨年に引き続き3回目となる埼玉スタジアムにて開催の緑区区民祭りに参加した。チラシ配布とともに、紹介のため、むつみの里の紹介動画を流した。また、相談支援専門員を配置し福祉相談を実施した。

③ 実習生、ボランティア及び見学者の受け入れ

実習生		ボランティア	見学者
特別支援学校	大学・専門学校等		
7名	53名	延べ271名	69名

④ 大崎むつみの里「見学会」の開催

特別支援学校の生徒で利用を検討されている方、地域の方、関係機関向けに見学会を実施し8月に5日間、60名の参加、11月には3日間、9名が参加した。

⑤ 花いっぱい交流事業の実施

美園地区社協と連携し、地域の方と利用者がプランターに花を植え楽しく交流を行った。また、隣接する浦和特別支援学校に、利用者1名が同行し花を贈呈した。

(3) 専門性の向上

事業団事務局及び研修委員会で企画する研修のほか、以下の研修に参加した。

① 職場内研修

＜大崎むつみの里主催研修会＞

月	日	研 修 名	参加職員数
6	16	虐待防止・身体拘束適正化研修	45名
	27	感染症対策訓練	32名
7	4	発達に関する研修	42名
	24	新任職員研修	9名
10	17	アウトリーチ	45名
12	5	感染症 BCP 訓練	33名
	9	発達に関する研修	43名
2	3	不審者対策訓練	45名

＜生活介護事業＞かがやき

月	日	研 修 名	参加職員数
2	18	嘔吐時の対応について	17名
3	18	強度行動障害支援者養成研修の伝達研修	17名

＜生活介護事業＞ほほえみ

月	日	研 修 名	参加職員数
7	28	サービス向上研修	7名
11	18	国際福祉機器展伝達研修 他法人施設見学伝達研修 不審者対策訓練	7名
12	16	接遇研修	7名

＜自立訓練事業（機能・生活訓練合同開催）＞

月	日	研 修 名	参加職員数
1	21	不審者対策訓練	6名
	29	個人情報保護・情報セキュリティ対策研修（伝達）	6名

＜就労継続支援事業B型・就労移行支援事業（合同開催）＞

月	日	研 修 名	参加職員数
3	26、27、30	虐待防止・身体拘束適正化研修	8名

＜相談支援事業＞

※相談支援事業は、大崎むつみの里の各事業と協働で研修を実施

＜児童発達支援センター＞

月	日	研 修 名	参加職員数
4	24	重要事項説明書・請求事務等について	10名
5	8	人権擁護・虐待防止研修、安全計画について	14名
6	12	プール活動について	12名
12	26	保護者への伝え方	6名
1	15	訪問支援研修	5名
2	26	給食について	12名
		訪問支援研修	12名
3	30	発達に応じた遊びについて	8名
		リズム研修	8名

＜浦和区障害者生活支援センターむつみ＞

月	日	研 修 名	参加職員数
7	24	春光園けやきアウトリーチ講師派遣「経営健全化計画の理解と促進」	2名
8	18	槻の木・第2やまぶきアウトリーチ講師派遣「経営健全化計画の理解と促進」	1名
10	17	大崎むつみの里アウトリーチ講師派遣「経営健全化計画の理解と促進」	1名

＜むつみホーム大間木＞

月	日	研 修 名	参加職員数
8	6,8	大崎むつみの里施設見学 参加	4名
9	5	感染症対策研修	2名
10	27	虐待防止指針 虐待防止マニュアル研修	8名
12	19	人権擁護・虐待防止研修（伝達）	14名

② 外部派遣研修

＜生活介護事業＞かがやき

月	日	研 修 名	参加職員数
11	4,5	強度行動障害支援者養成研修（実践）	1名
12	4,5	強度行動障害支援者養成研修（実践）	1名
	17	他法人派遣研修「どんまい第四作業所」	2名
	19	浦和特別支援学校交流研修	1名
3	18,19	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	1名

＜生活介護事業＞ほほえみ

月	日	研 修 名	参加職員数
10	8	国際福祉機器展見学	1名
	10	他法人派遣研修 埼玉県発達障害福祉協会施設見学（嵐山郷 おお里）	1名
12	1	医療的ケア児等支援者養成研修	7名
1	20	さくらそう特別支援学校研修	1名
	22	デイセンターさくら草研修	1名
2	6	さいたま市社会福祉協議会 スーパービジョン研修	1名
	10	さくらそう特別支援学校研修	1名
	17	さくらそう特別支援学校研修	1名
3	4	さいたま市社会福祉協議会 AI 研修	1名
	17	医療的ケア児等の防災対策を考えよう	1名

＜自立訓練（機能訓練）事業＞

月	日	研 修 名	参加職員数
5	21	さいたま市障害者更生相談センター高次脳機能障害者支援事業スーパービジョン	1名
	29	事業団主催健康教室（講師）	1名
6	18	令和7年度 サービス管理責任者等実践研修（演習講師）	1名
	25	さいたま市障害者更生相談センター高次脳機能障害者支援事業 スーパービジョン	1名
	25	令和7年度 サービス管理責任者等実践研修（演習講師）	1名
8	20	令和7年度 サービス管理責任者等実践研修（演習講師）	1名
	27	令和7年度 サービス管理責任者等実践研修（演習講師）	1名
9	25	事業団主催健康教室（講師）	1名
12	3	令和7年度 サービス管理責任者等実践研修（演習講師）	1名
	9	埼玉県立浦和特別支援学校交流研修	1名
	10	令和7年度 サービス管理責任者等実践研修（演習講師）	1名
2	5	令和7年度 サービス管理責任者等実践研修（演習講師）	1名
	12	令和7年度 サービス管理責任者等実践研修（演習講師）	1名
3	18	令和7年度 サービス管理責任者等実践研修（演習講師）	1名
	25	令和7年度 サービス管理責任者等実践研修（演習講師）	1名

＜自立訓練（生活訓練）事業＞

月	日	研 修 名	参加職員数
10	16,17	埼玉県高次脳機能障害支援養成研修基礎研修	1名
11	5,6	埼玉県高次脳機能障害支援養成研修実践研修	1名

＜就労継続支援事業B型＞

月	日	研 修 名	参加職員数
5	30	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）オンライン	1名
6	10	日本セルフセンター 熱中症防止研修会	1名
	18	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	1名

8	26	工賃向上研修	1名
11	4、5	強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	1名

＜児童発達支援センター＞

月	日	研 修 名	参加職員数
6	17	保育者資質向上研修「食物アレルギー」	1名
	21	令和6年度 前向き思考でストレスを減らす メンタルタフネス研修	1名
	25	療育関係機関交流会	2名
9	27	公開保育研修会	1名
10	9	令和6年度初任者のための文書作成・報告のしかた研修の実施について	1名
	15	令和6年度 浦和特別支援学校見学会	2名
11	11、12	保育者小学校等体験研修	1名

＜相談支援事業＞

月	日	研 修 名	参加職員数
7	23、30	令和7年度埼玉県医療的ケア児等コーディネーター養成研修	1名
10	10	埼玉県ケアラー支援関係機関向け研修ケアラーヤングケアラー支援実践研修	
10	21	令和7年度埼玉県医療的ケア児等コーディネーター視察研修	1名
12	12	埼玉県主催 令和7年度埼玉県障害者相談支援従事者現任研修	1名
12	23	埼玉県主催 令和7年度埼玉県障害者相談支援従事者現任研修	1名

＜相談支援事業＞（会議参加）

月	日	会 議 名	参加職員数
4	10	緑区相談支援連絡会議	3名
5	8	緑区相談支援連絡会議	3名
6	12	緑区相談支援連絡会議	3名
	25	ひなぎく勉強会	1名
7	10	緑区相談支援連絡会議「勉強会」	3名
	24	埼玉県立浦和特別支援学校主催「五者面談」	1名
	25	埼玉県立浦和特別支援学校主催「五者面談」	1名
8	14	緑区相談支援連絡会議	3名
	25	さいたま市自立支援協議会 相談支援部会	1名
9	2	さいたま市立さくら草特別支援学校 相談支援事業所連絡会	2名
	11	緑区相談支援連絡会議	3名
	17	緑区地域包括支援センター主催「ケアマネ交流会」	1名
10	1	緑区自立支援協議会説明会	3名
	9	緑区相談支援連絡会議「グループホーム・日中活動事業所交流会」	3名
	15	越谷特別支援学校連絡会	2名
	22	ひなぎく勉強会	3名
11	19	緑区相談支援連絡会議「こども部会交流会」	3名
	26	ひなぎく勉強会	3名
12	11	緑区相談支援連絡会議	3名
	19	自立支援協議会説明会	3名
1	8	緑区相談支援連絡会議	3名
	13	地域生活支援拠点説明会	3名
	22	さいたま市自立支援協議会 相談支援部会	1名
2	12	緑区相談支援連絡会議	3名

＜浦和区障害者生活支援センターむつみ＞（会議参加・講師派遣）

月	日	研 修 名	参加職員数
5	15	精神障害者の障害特性と支援技法を学ぶ研修1日目	1名
	23	精神障害者の障害特性と支援技法を学ぶ研修2日目	1名
8	8	普通救命講習	1名
	25	市社協 コミュニティソーシャルワーク研修	2名
10	16	埼玉県高次脳機能障害支援研修(基礎①)	1名
	17	埼玉県高次脳機能障害支援研修(基礎②)	1名
	21	埼玉県ケアラー・ヤングケアラー支援実践研修	1名

11	3	埼玉県障害者相談支援従事者専門コース別研修(SV・管理・面接技術)1日目	1名
	5	埼玉県高次脳機能障害支援研修(実践①)	1名
	6	埼玉県高次脳機能障害支援研修(実践②)	1名
	14	埼玉県ケアラー・ヤングケアラー支援実践研修	1名
	20	埼玉県障害者相談支援従事者専門コース別研修(SV・管理・面接技術)2日目	1名
	21	精神保健福祉専門研修Ⅱ	1名
12	5	下半期精神保健福祉研修(Web)	1名
	11	埼玉県障害者相談支援従事者専門コース別研修(SV・管理・面接技術)3日目	1名
	12	令和7年度埼玉県障害者相談支援従事者現任研修 第1回	1名
	25	埼玉県 虐待防止権利擁護研修共通講義 (Web)	1名
1	13	埼玉県主催「医療のケア児等コーディネーターフォローアップ研修」	1名
	15	埼玉県 虐待防止権利擁護研修(行政コース)	1名
	23	令和7年度埼玉県障害者相談支援従事者現任研修 第2回	1名
	27	県社協 BCP 研修(Web)	2名
2	6	メンタルヘルス研修～福祉職のためのストレスとの向き合い方～	1名
	19	令和7年度埼玉県障害者相談支援従事者現任研修 第3回	1名

＜むつみホーム大間木＞

月	日	研 修 名	参加職員数
10	9	緑区相談支援連絡会主催 日中活動・居住系事業所交流会	1名
1	19	さいたま市主催さいたま市障害者グループホーム職員研修	1名
2	17	むつみホーム主催 地域連携推進会議 まんま荘主催 地域連携推進会議	1名

9 年間行事報告

＜生活介護事業＞かがやき

月	日	内 容	備 考
4	1	着任式（職員紹介）	利用者43名
	15	入所式	利用者15名
	22	音楽レク（ボランティアコンサート）	利用者41名
5	13	音楽レク（ボランティアコンサート）	利用者37名
	29	総合防災訓練	利用者38名
6	6	第1回利用者・家族懇談会	利用者1名、家族等16名
	10	音楽レク（ボランティアコンサート）	利用者38名
	13	市街地外出活動 ブルーベリー狩り	利用者4名
	16	嘱託医健康診断	利用者39名
	24	市街地外出活動 外食体験	利用者3名
	25	第1回自主避難訓練	職員18名
7	1	市街地外出活動 障害者交流センタープール	利用者3名
	4	市街地外出活動 障害者交流センタープール	利用者5名
	8	市街地外出活動 ブルーベリー狩り	利用者3名
	23	市街地外出活動 カラオケ	利用者5名
	24	市街地外出活動 カラオケ	利用者4名
	29	市街地外出活動 カラオケ	利用者6名
8	12	音楽レク（ボランティアコンサート）	利用者42名
	15	体を動かすレク教室	利用者36名
	20	お菓子づくり	利用者18名
	22	お菓子づくり	利用者24名
9	9	音楽レク（ボランティアコンサート）	利用者42名
10	14	音楽レク（ボランティアコンサート）	利用者41名
11	1	むつみ祭	利用者37名
	18	利用者健康診断	利用者42名
	20	花いっぱい運動	利用者17名
	27	総合防災訓練	利用者38名

12	8	市街地外出活動 鉄道博物館	利用者4名
	10	市街地外出活動 鉄道博物館	利用者3名
	10	お菓子づくり	利用者8名
	12	お菓子づくり	利用者11名
	15	お菓子づくり	利用者13名
	16	音楽レク（ボランティアコンサート）	利用者36名
	17	市街地外出活動 鉄道博物館	利用者3名
	17	お菓子づくり	利用者7名
	17、19	第2回自主避難訓練	職員15名
	18	歯科検診	利用者24名
	24	年忘れ会	利用者35名
	24	市街地外出活動 羽生水郷公園	利用者3名
	26	市街地外出活動 鉄道博物館	利用者2名
1	6	市街地外出活動 羽生水郷公園	利用者5名
	8	市街地外出活動 羽生水郷公園	利用者5名
	15	市街地外出活動 ラウンドワン	利用者3名
	16	市街地外出活動 ラウンドワン	利用者4名
	23	お楽しみ会	利用者38名
	30	自主避難訓練	利用者4名 職員3名
2	3	節分レク	利用者42名
	9	音楽レク（ボランティアコンサート）	利用者43名
3	2	自主避難訓練	利用者8名
	4	自主避難訓練	利用者7名
	4	第2回利用者・家族懇談会	家族等17名
	11	嘱託医健康診断	利用者35名
	16	ボランティア交流会（ありがとうの会）	利用者40名
	18	ボランティア交流会（ありがとうの会）	利用者39名
	24	ボランティア交流会（ありがとうの会）	利用者40名
	31	離任式	利用者42名

＜生活介護事業＞ほほえみ

月	日	内 容	備 考
4	1	着任式（職員紹介）	利用者10名
	22	音楽レク（ボランティアコンサート）	利用者 6名
5	27	施設内避難訓練	利用者 9名
	29	総合防災訓練	利用者 9名
6	10	音楽レク（ボランティアコンサート）	利用者 6名
	19	市街地外出活動	利用者 2名
7	2	市街地外出活動	利用者 2名
	4	市街地外出活動	利用者 2名
	8	市街地外出活動	利用者 3名
	15	市街地外出活動	利用者 2名
	25	市街地外出活動	利用者 2名
8	8	市街地外出活動	利用者 2名
	12	音楽レク（ボランティアコンサート）	利用者 6名
9	26	施設内避難訓練	職員 7名
10	14	音楽レク（ボランティアコンサート）	利用者 6名
11	1	むつみ祭	利用者 8名家族等7名
	8	健康診断	利用者 3名
	20	花いっぱい運動	利用者 5名
	25	施設内避難訓練	職員 7名
	27	総合防災訓練	利用者 8名

12	4	市街地外出活動	利用者 2名
	5	市街地外出活動	利用者 3名
	10	市街地外出活動	利用者 2名
	11	市街地外出活動	利用者 2名
	16	市街地外出活動	利用者 2名
	16	音楽レク（ボランティアコンサート）	利用者 6名
	17	市街地外出活動	利用者 3名
	18	歯科検診	利用者 1名
	22	音楽レク（ボランティアコンサート）	利用者 10名
2	9	音楽レク（ボランティアコンサート）	利用者 6名
	13	市街地外出活動	利用者 2名
	18	市街地外出活動	利用者 2名
	26	市街地外出活動	利用者 2名
3	3	市街地外出活動	利用者 2名
	6	市街地外出活動	利用者 2名
	10	市街地外出活動	利用者 2名
	31	離任式	利用者10名
月1回：ヘアカット（希望者のみ）、体重測定、書道、七宝焼き、嘱託医巡回			

＜生活介護事業＞わくわく

月	日	内 容	備 考
4	9	お花見会（就労Bと合同）	利用者 6名
	30	お楽しみイベント（的あて）	利用者 7名
5	15	家族懇談会	家族 3名
	23	お楽しみイベント（外食）	利用者 5名
	27	お楽しみイベント（外食）	利用者 4名
	29	総合防災訓練	利用者 6名
6	4	第1回自主防災訓練	職員 7名
	16	嘱託医問診	利用者 9名
	27	お楽しみイベント（買い物）	利用者 9名
7	30	お楽しみイベント（風鈴）	利用者 7名
8	6	社会体験活動（ブルーベリー狩り体験）	利用者 1名
		業務継続計画訓練	職員 5名
	22	お楽しみイベント（綿あめを食べよう）	利用者 7名
		第2回自主防災訓練	利用者 7名
	27	水防法避難訓練	利用者 31名 職員7名
	29	納涼祭（就労Bと合同）	利用者 8名
	9	音楽コンサート（かがやき、ほほえみと合同）	利用者 3名
10	26	お楽しみイベント（グランドレク）	利用者 5名
	3	社会体験活動（イオンモール浦和美園 映画鑑賞）	利用者 2名
	6	社会体験活動（新田駅周辺 センべ焼き体験）	利用者 2名
	20	社会体験活動（さいたま新都心周辺 造幣さいたま博物館）	利用者 2名
11	31	お楽しみイベント（ハロウィーン）	利用者 8名
	1	むつみ祭	利用者 5名
	18	健康診断	利用者 7名
	26	お楽しみイベント（クリスマス飾り）	利用者 7名
	27	総合防災訓練	利用者 6名
12	18	歯科検診	利用者 3名
	24	お楽しみイベント（買い物・映画鑑賞）	利用者 8名
	26	忘年会（就労Bと合同）	利用者 8名
1	28	お楽しみイベント（外食）	利用者 4名
	2	お楽しみイベント（節分レク）	利用者 9名
1	13	第3回自主防災訓練	職員 9名

2	4	お楽しみイベント（外食）	利用者 4名
	19	第4回自主防災訓練	利用者 6名
3	2	お楽しみイベント（ひなまつりレク）	利用者 6名
	10	家族懇談会	家族 1名
	11	嘱託医問診	利用者 6名
	17	第5回自主防災訓練	利用者23 名 職員6名
	24	第6回自主防災訓練	利用者 7名

<自立訓練（機能訓練）事業>

月	日	内 容	備 考
5	29	総合防災訓練	職員 1名
7	30	災害 BCP 訓練	職員 3名
11	1	むつみ祭	職員 2名
	27	総合防災訓練	職員 1名
2	17	第1回自主防災訓練	職員 4名
	19	第2回自主防災訓練	職員 4名
	20	第3回自主防災訓練	職員 3名
	24	第4回自主防災訓練	職員 3名
	25	第5回自主防災訓練	職員 2名
	27	第6回自主防災訓練	利用者 1名 職員 5名

<自立訓練（生活訓練）事業>

月	日	内 容	備 考
4	17	地域清掃活動	利用者 1名 職員 2名
5	22	地域清掃活動	利用者 1名 職員 1名
	27	総合防災訓練	職員 1名
7	7	社会体験活動（コクーン）	利用者 2名 職員 2名
	8	社会体験活動（コクーン）	利用者 1名 職員 2名
	30	災害 BCP 訓練	職員 2名
8	15	生活介護事業と交流会	利用者 2名 職員 2名
11	1	むつみ祭	利用者 1名 職員 2名
	20	地域交流事業「花いっぱい交流事業」	利用者 2名 職員 2名
	26	社会体験活動（コクーン）	利用者 3名 職員 3名
	27	社会体験活動（越谷レイクタウン）	利用者 1名 職員 1名
		総合防災訓練	職員 1名
12	16	社会体験活動（買い物）	利用者 1名 職員 2名
	18	調理訓練・忘年会	利用者 3名 職員 2名
1	9	就労施設見学ツアー	利用者 2名 職員 1名
2	17	第1回自主防災訓練	職員 2名
	19	第2回自主防災訓練	職員 2名
	20	第3回自主防災訓練	職員 2名
	24	第4回自主防災訓練	職員 2名
	25	第5回自主防災訓練	職員 2名
	27	第6回自主防災訓練	職員 2名
3	3	社会体験活動（ドン・キホーテ）	利用者 2名 職員 2名
	6	調理実習	利用者 3名 職員 2名 ボランティア 2名

<就労継続支援事業B型>

月	日	内 容	備 考
4	9	お花見会	利用者 27名
5	12	健康診断	利用者 22名
	15	家族懇談会	家族 3名
	29	総合防災訓練	利用者 6名
6	4	第1回自主防災訓練	職員 7名
8	6	社会体験活動（ブルーベリー狩り体験）	利用者 1名
	22	第2回自主防災訓練	利用者7名
	29	納涼祭	利用者 8名
9	8	社会体験活動（イオンモール浦和美園 映画鑑賞）	利用者 8名

10	3	社会体験活動（イオンモール浦和美園 映画鑑賞）	利用者 2名
	6	社会体験活動（新田駅周辺 センベい焼き体験）	利用者 2名
	20	社会体験活動（さいたま新都心周辺 造幣さいたま博物館）	利用者 2名
	27	社会体験活動（川口駅周辺 ららテラス川口）	利用者 3名
11	1	むつみ祭	利用者 5名
	13	第3回自主防災訓練	職員 9名
	26	忘年会	利用者 8名
	27	総合防災訓練	利用者 6名
2	19	第4回自主防災訓練	利用者 6名
3	9	嘱託医問診	利用者 23名
	10	家族懇談会	家族 1名
	17	第5回自主防災訓練	利用者 23名 職員7名
	24	第6回自主防災訓練	職員 8名

＜児童発達支援センター＞

月	日	内 容	備 考
4	4	始業日	参加者19組
	9	フォローグループ説明会	参加者10名
	11	単独グループ説明会	参加者13名
	15	みかん組説明会	参加者 3名
	21	いちご組グループ説明会	参加者 2名
5	8	お楽しみ会（さいたま南ロイヤルライオンズクラブによる）	参加者15名
	15	いちご懇談会	参加者 2名
	16	みかん懇談会	参加者 4名
	19	りんご組懇談会	参加者 7名
	20	ぶどう組懇談会	参加者 7名
	28	フォローグループ懇談会	参加者 7名
	29	春の遠足	参加者19組
6	20	ST 勉強会	参加者12名
7	1	先輩保護者の話	参加者23名
	19	単独グループ・みかん組保護者参観日	参加者15組
8	27	水防法 垂直訓練	参加者13組
	29	夏祭り	参加者20組
10	2	歯科検診・歯科ブラッシング	参加者11名
	4	運動会	参加者24組
	21	おいもほり	参加者22組
11	10	心理学習会	参加者22名
	15	秋の遠足	参加者20組
	27	総合防災訓練	参加者15名
12	11	お楽しみ会（さいたま南ロイヤルライオンズクラブによる）	参加者18名
1	17	単独グループ・いちご組保護者参観日	参加者15組
	28	りんご組園外保育	参加者 5名
2	4、25	ぶどう組園外保育	参加者 9名
	18	りんご組園外保育	参加者 3名
	20	りんご組懇談会	参加者 6名
	24	みかん組懇談会	参加者 4名
	25	フォロー懇談会	参加者12名
	27	言語学習会	参加者 4名
3	3	ぶどう組懇談会	参加者 7名
	18	卒園式	参加者15名
	25	フォローグループお別れ会	参加者17組
	26	いちご組お別れ会	参加者 2名
		いちご組懇談会	参加者 2名
	27	単独グループ・みかん組お別れ会	参加者22組

<むつみホーム大間木>

月	日	内 容	備 考
6	15	自治会清掃活動（雨天中止）	入居者 3名 職員 1名
8	9	東浦和花火大会見物	入居者 7名 職員 4名
10	18	自治会避難訓練	入居者 1名 職員 1名
2	11	防災訓練	入居者 7名 職員 2名
3	25	防災訓練	入居者 9名 職員 4名

【6】障害者福祉施設春光園

1 指定管理（令和7年度～令和11年度）

＜春光園けやき＞

- (1) 生活介護事業
- (2) 自立訓練（生活訓練）事業
- (3) 相談支援事業(特定相談支援、障害児相談支援)

＜春光園うみず＞

- (1) 生活介護事業
- (2) 相談支援事業(特定相談支援、障害児相談支援)

2 自主事業

＜春光園けやき＞

- (1) 高齢者宅配食事サービス事業
- (2) 生計困難者に対する相談支援事業

3 今年度の施設取組計画

(1) 春光園けやき

＜生活介護事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
委員会を中心に事業団実施の実践・事例・研究発表会参加へむけた取組を開始する。（委員会4回実施）	達成	意思決定委員会を4回開催。全グループ共通の取組として、利用者が本来所属しているクラブ活動（運動・創作・音楽）について、活動内容によって自由に選択できる機会を作るよう検討し、実施につなげた。選択肢を設けることで利用者の意思表示を引き出し、活動の幅を広げることができるようになり、所属クラブの枠を超え利用者間の交流も深めることができた。12月には施設内で「意思決定支援・クラブ活動の選択について」の発表を実施し、取組のまとめ、振り返りを全体で行うことができた。今後はクラブ活動に限定せず、活動全般においても選択する機会を増やすことで、更なる意思決定につなげ、利用者の満足度を上げていきたい。
ニーズに沿った新たな行事について話し合い、実施する。	達成	園外活動では、候補の園外活動の中からアンケートで参加希望を聞き取りし、利用者のニーズを尊重する目的で、全員第1希望している園外活動に参加していただくよう調整した。また、土曜日・祝日開業では、宅配弁当のメニューを利用者に決めていただいたり、外出先を利用者から聞き取って決めるなど、利用者の希望を反映させることができた。次年度も土曜日開業、祝日開業を予定しており、引き続き利用者のニーズを聞き取り、活動に反映させていきたい。
施設説明会の実施（年1回）	達成	1月15日施設説明会（施設見学会）を実施し、8名の方が出席された。各グループの活動を直接見学していただき昼食の試食も実施。好評を得て積極的に施設PRに繋げることができた。施設のことを知っていただき、理解を深めていただく目的からも、来年度は年2回を計画し、実施していきたい。また、個別の見学についてもこれまでの取組の効果として、前年度よりもおよそ3倍以上の人数増となっている。（令和7年度施設見学47組 令和6年度14組）

＜自立訓練（生活訓練）事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
意思決定を尊重し、都度支援計画に反映・見直しを行う。	達成	ご本人の要望を聴き取り、確認したうえで個別支援計画を作成。活動着や上履きの洗濯、コップ洗いや清掃など日常生活動作に取り組んできた。ご家庭でも自分から洗濯など手伝うことも増えたとのことで、日々の継続してきた取組が日常生活にも生かすことができた。現在利用している利用者が2年目で終了となり、新たに1名利用者と契約することができた。早い段階から利用者の意向を聞き取り、個別支援計画を策定し、支援に反映させていきたい。
外部研修に参加する。（2人以上）伝達研修の実施。	達成	ソーシャルスキルトレーニングに着目し、利用者同士でコミュニケーションを取る際「人と会った時に挨拶する」「目を見て会話する」「適度な声の大きさで話す」の3点に重点を置き、利用者実践していくよう伝え、支援してきた。その結果、利用者同士で以前より関わる場面が増え、表情も豊かになり、自分の意思を表出することも増えてきた。ソーシャルスキルについて職員自身が更に理解を深め、利用者伝えていくことで、利用者同士のトラブルを軽減させ、円滑にコミュニケーションが取れるよう支援に生かしていきたい。
施設見学会の実施。（年1回）	達成	1月15日施設説明会（施設見学会）を実施し、8名の方が出席された。各グループの活動を直接見学していただき昼食の試食も実施。好評を得て積極的に施設PRに繋げることができた。施設のことを知っていただき、理解を深めていただく目的からも、来年度は年2回を計画し、実施していきたい。また、個別の見学についてもこれまでの取組の効果として、前年度よりもおよそ3倍以上の人数増となっている。（令和7年度施設見学52組 令和6年度14組）

＜相談支援事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
見沼区障害者支援地域協議会で、地域の福祉事業所と集まり、年1回の交流会などに参加する。	達成	見沼区の地域協議会ワーキンググループに参加し、現在の課題について共有を行った。利用者支援においては区の支援課や各事業所と情報共有し、よりよい支援ができるよう配慮した。今後も丁寧な支援が行えるよう関係機関との連携をはかっていきたい。
月毎に、障害福祉サービス事業所の情報を収集し、行政や各相談支援事業所と情報を交換、共有する。	達成	毎月行われる区の相談支援連絡協議会や実務担当者会議に参加し、他の相談支援事業所や法人内の相談を担当する職員と情報共有を行い、支援に生かすことができた。今年度、地域の利用者や春光園けやきの生活介護の利用者で新しいサービスの利用や自宅以外の場所での生活を考える方が多くおり、施設見学等やサービスの契約時の同行等でいろいろな事業所や区内の関係機関と連携して支援を行うことができた。
事例検討会と勉強会等を各1回以上実施する。	上回って達成	児童と大人の方それぞれの事例についてグループで検討を行うことで、いろいろな職員が意見を出し、様々な視点で支援を考えることができた。勉強会では、こどもと保護者の支援についての講義を開き、今後の支援の際のポイントを知ることができた。また、各区の地域協議会の参加状況を共有することで、各区の現状を知ることができた。毎月の合同相談実務担当者会議で勉強会や事例検討を行い、職員のスキルアップに努めてきた。来年度以降も継続し、よりよい支援ができるようにしていきたい。

(2) 春光園うえみず

＜生活介護事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
送迎バスの運行ダイヤを調整し、新規利用者1名以上に送迎サービスを提供する。 送迎バスの運行範囲を広げる。	上回って達成	令和7年8月に5人乗りの公用車を購入することで、10人乗りの車は運転できなかった職員も運転できるようになり、送迎コースの幅を広げることができた。短期入所中の利用者も西区内の方は迎えに行けるようになったので、4名の方の短期入所先に迎えに行くようになった。また、10月春光園けやきから春光園うえみずに移った方1名、12月より新規利用を開始した方も送迎するようになったので、計4か所の送迎箇所が増えることとなった。

職員全員が春光園うえみずの内部講師として業務改善、職員の資質向上のための内部研修を行えるようになる。	達成	4月に年間研修参加一覧を掲示したことで周知と職員の研修に対する意識が向上した。 内部研修では職員全員が研修講師になることはできなかったが、主任以上の職員が研修講師となり、年8回の内部研修を行った。紙面ベースの講義型研修ではなかなか興味・関心を持つことが難しいので、動画や事例などを用いたグループワークでの実践型研修を行った。小グループにすることで、参加者全員が議論に参加し研修を深め、学びを支援に生かすことができた。
特別支援学校・ご家族に向けて、うえみず単体で施設紹介を実施する。(2回以上) 施設紹介を改善し、マニュアルなどを整え、完成させる。	上回って達成	施設紹介(施設見学会)を実施するにあたり、大宮北特別支援学校、上尾かしの木特別支援学校、川島ひばりが丘特別支援学校、和光特別支援学校の4校に依頼して、在校生に施設見学会のチラシを配付していただいた。8月11日 上尾かしの木1組、9月18日和光1組、11月22日大宮北4組、12月15日大宮北4組、12月19日大宮北4組、1月27日大宮北3組に見学会を実施した。いずれも高校1・2年生と、中学3年生のため来年度の利用には結びつかないが、高校2年生の方2名は実習に来ていただいていることと、今後の施設の空き状況を気にされているので、それ以降の入所契約に関わってくる可能性が高い。 施設紹介のマニュアルについては、説明の一連の流れを書面に記録してご家族にお渡しできているので、説明がわかりやすいと数名よりアンケートに記載があった。

＜相談支援事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
訪問したことのない福祉サービス事業所や関係機関への訪問5か所以上	上回って達成	相談者に必要な障害福祉サービスが提供されるように地域ごとの課題を把握し、安心して暮らせるように支援する役割を担った。 ①西区・北区・大宮区の相談支援連絡協議会において、地域の課題を整理する機会を持った。 ②各区の相談支援事業所や障害福祉サービス事業所と連携し、サービス提供状況について情報提供した。
相談員一人当たりのモニタリング件数を85件	上回って達成	毎年、少しずつ新規の方を受け入れ、地域の中で相談支援を必要とする方へ貢献することができた。 モニタリングも年1回の方がいたが、必要に応じて半年や3か月毎とし、よりきめ細やかな支援につなげることができた。
事例検討会と勉強会を各1回以上実施	上回って達成	事例検討会では、児童と者のそれぞれの事例についてグループに分かれ検討会を行ったことで、複数の職員で意見を出し合い、様々な視点からの支援に気づくことができた。 勉強会では、「子ども支援・保護者の支援に対する相談員のかかわり～こどもと保護者を支えていくために心がけること～」の講義を聞き、子どもとその保護者に対する支援をする上でのポイントを知ることができた。また、各地域支援協議会の参加状況を共有することで、各区の現状を知ることができた。

4 実施報告

(1) 共通

利用者が地域の中で自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、利用者の権利を擁護し、個々の特性や個性、資質に応じた支援に取り組んだ。

- ① 危機管理及び運営管理マニュアルを見直すことで、サービスの標準化に努めた。
- ② サービス向上を目的とした各種委員会の実施（虐待防止委員会年3回以上、事故防止委員会年1回以上、感染症対策委員会は年2回以上、身体拘束委員会年1回以上、給食委員会年6回、防災委員会年2回）
- ③ 利用者の健康管理のため月1回の嘱託医の健康相談、年1回の健康診断を実施。なお、感

染対策に配慮し、歯科健診及び歯科ブラッシング指導を実施した。

- ④ 家族懇談会、個別面談をそれぞれ年2回実施した。利用日は連絡ノート、電話連絡などにより家族と連携し、利用者の状況を踏まえた支援を実施するとともに、聴取したご意見をサービスの向上につなげた。
- ⑤ あり方検討委員会を年3回開催し、施設認知度の向上と新規利用者の獲得、経営の効率化、業務の合理化について検討し、施設運営の改善に努めた。（春光園うえみずは職員会議内で検討した。）

(2) 春光園けやき

＜生活介護事業＞

利用者の意思を尊重しながら、日常生活支援及び日中活動支援を実施し、充実した日々の生活を送れるよう支援を行った。

- ① 食事、排泄、更衣、整容、入浴など利用者の要望や障害状況に応じて必要な支援を行った。
- ② 日中活動を通して生きがいや楽しみを見出すために利用者に対し以下のことを実施した。
 - ア 創作的活動（絵画、貼り絵、クラフト、書道、季節の装飾づくり、マールブリング等）
 - イ 文化的活動（季節の行事、地域交流等）
 - ウ 生産活動（陶芸、野菜作り、花の苗作り、受注作業等）
 - エ 社会体験活動（園外体験活動、買い物体験等）
 - オ レクリエーション（室内レクリエーション、軽スポーツ、散策等）
 - カ 各グループの枠を超えたクラブ活動（創作、運動、音楽等）
- ③ 身体機能維持のため、理学療法士の作成したプログラムと助言に基づき、歩行訓練やマッサージなどを行った。
- ④ 入浴サービス（自宅での入浴が困難な利用者を対象とする。）
- ⑤ 医療的ケアの提供（必要に応じて吸引や経管栄養等）

＜自立訓練（生活訓練）事業＞

利用者に対して、日常生活又は社会生活を営むことができるよう、期間を定め、生活能力の維持、向上等を目指し、生活に必要な基礎的な暮らしの力（体力、マナー、生活習慣）を獲得するための支援を行った。

- ① 生活訓練（公共交通機関等を利用した買い物や外食などの外出体験等）
- ② 健康管理（運動指導等）
- ③ 利用者の意思を尊重した支援計画の作成

＜高齢者宅配食事サービス事業＞

関係機関と調整を図るとともに、献立にも配慮し宅配先の満足度を高めた。

- ① 安心安全な食事の提供に努めた。
- ② 旬の食材を使い季節感が感じられる食事の提供を行った。
- ③ 食べやすさに配慮した食事の提供を行った。

＜生計困難者に対する相談支援事業＞

社会福祉法人として目に見える形で公益活動を実践するため、社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会が設置する「埼玉県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会」の会員となり、「彩の国あんしんセーフティネット事業」として事業を実施した。

事業を実施するにあたり、生計困難者に対する担当相談員を配置した。

- ① 地域の中で生活課題を抱え生活に困窮している方の相談に応じ、必要な支援につなげた。
- ② 生活保護などの既存にある制度による対応では困難であり、生活がひっ迫している方に対

し食費や医療費、光熱費などの費用の全額又は一部の経済的援助を行った。

- ③ 活動にあつては、埼玉県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会彩の国あんしんセーフティネット事業社会貢献支援員と連携して支援にあたった。

(3) 春光園うみず

＜生活介護事業＞

利用者の心身の状況、希望及び置かれている環境を踏まえ、個別支援計画を作成した。チームアプローチに重点を置き、ケース会議、専門職（嘱託医、看護師、理学療法士や作業療法士、栄養士等）を交えたケースカンファレンスは11回、利用者並びに家族とのモニタリング（面談）は各利用者年2回ずつ実施。関係機関との調整等は随時行った。

また、年11回、理学療法士の指導により機能訓練を実施し、利用者の身体機能維持に努めた。

① 日常生活介護

利用者の状況に応じた適切な対応（介助等）により、食事、更衣、排泄、整容（歯磨き、洗面を含む）等の生活全般にわたる援助を行った。

② 日中活動

ア 創作的活動

絵画、貼り絵、塗り絵、事の小道具・飾り等の作成を行った。

イ 文化的活動

七夕やスイカ割りや秋の運動会や節分や桃の節句などの季節行事を実施した。クリスマスにお楽しみ会を放課後児童クラブ行い地域交流の機会を持った。

ウ 生産活動

受注作業、自主製品（布巾等ステンシルを使った製品、ビーズ製品）の製作を行った。

エ 園外活動

活動希望のアンケートを取り、1人2回、買い物、外食、ボウリング、カラオケなどの外出活動を行った。

オ レクリエーション活動

散歩、室内ウォーキング、体操・ストレッチ、カラオケ、ゲーム、リラクゼーション等を行った。

カ おやつ作り

11月から2月まで計4回、どら焼き、チーズケーキ、いももち、ピザを作りお茶会を行った。

(4) 相談支援事業

相談者に必要な障害福祉サービスが提供されるように地域ごとの課題を把握し、安心して暮らせるように支援する役割を担った。

- ① 西区・北区・大宮区・見沼区の相談支援連絡会議において、地域の課題を整理する機会を持った。
- ② 各区の相談支援事業所や障害福祉サービス事業所と連携し、サービス提供状況について情報を共有した。
- ③ 基幹相談支援センターを中心とした、地域のネットワーク作りや地域生活支援拠点事業の推進について、障害者生活支援センターと協力して取り組んだ。

5 利用状況

(1) 春光園けやき

<生活介護事業>

① 契約者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男	49	5	2	52
女	30	2	4	28
計	79	7	6	80

② 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分

令和8年3月31日現在

年齢 \ 区分	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満	0	0	0	0	1	3	4
20歳以上30歳未満	0	0	1	4	4	12	21
30歳以上40歳未満	0	0	1	3	9	12	25
40歳以上50歳未満	0	0	1	5	6	8	20
50歳以上	0	0	2	5	1	2	10
計	0	0	5	17	21	37	80

③ 障害者手帳(療育手帳、身体障害者手帳)に基づく障害等級区分

令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度㊦			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	8	9	17	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	2	11	9	20
2級	8	4	12	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	5	13
3級	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
4級	1	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3
5級	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
6級	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
なし	24	6	28	5	3	8	0	2	2	0	0	0	0	0	0	29	11	40
合計	42	21	61	8	5	13	0	2	2	0	0	0	2	0	2	52	28	80

④ 開所日数と延利用者数

開所日数	延利用者数	一日平均
248	14,660	59.1

<自立訓練事業(生活訓練)>

① 契約者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男	1	0	0	1
女	1	0	1	0
計	2	0	1	1

② 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分

令和8年3月31日現在

年齢 \ 区分	なし	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0
20歳以上30歳未満	0	0	0	0	1	0	0	1
30歳以上40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0
40歳以上50歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0
50歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	1	0	0	1

③ 障害者手帳(療育手帳、身体障害者手帳)に基づく障害等級区分

令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度㊦			重度A			中度B			軽度C			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

④ 開所日数と延利用者数

開所日数	延利用者数	一日平均
248	196	0.8

<相談支援事業>

① 契約者数

令和8年3月31日現在

前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
142	11	12	141

② 事業別実績

障害児 相談支援	援助内容	請求件数	特定相談 支援	援助内容	請求件数
	障害児支援利用援助	14		サービス利用支援	136
	継続障害児支援利用援助	11		継続サービス利用支援	116
	計	25		計	252

③ 相談支援方法

訪問	来所	同行	電話等	個別支援 会議	サービス担 当者会議	関係機関	その他	計
167	105	45	752	8	13	1872	1	2,963

<宅配食事サービス事業>

宅配食事サービス事業内容

(登録者数：人 その他：食)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
利用登録者数		9	9	10	10	10	10	11	11	10	10	11	11		
主菜 ／ 副菜	普通／普通	102	102	109	112	106	107	111	91	84	73	81	97	1,175	97.9
	普通／刻み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	おかゆ／普通	0	0	0	5	0	0	3	11	0	11	10	4	44	3.7
	おかゆ／刻み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		102	102	109	117	106	107	114	102	84	84	91	101	1,219	101.6

<生計困難者に対する相談支援事業>

相談者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
性別	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
人数	0 0	0 1	0 1	0 1	0 0	3 0	0 0	1 1	0 1	0 0	0 0	0 1	4 6
合計	0	1	1	1	0	3	0	2	1	0	0	1	10

(2) 春光園うえみず

<生活介護事業>

① 契約者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男	9	0	0	9
女	9	2	1	10
計	18	2	1	19

② 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分

令和8年3月31日現在

年齢	区分	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満		0	0	0	0	0	0	0
20歳以上30歳未満		0	0	0	0	2	2	4
30歳以上40歳未満		0	0	0	1	0	1	2
40歳以上50歳未満		0	0	0	1	2	2	5
50歳以上		0	0	2	0	2	4	8
計		0	0	2	2	6	9	19

③ 障害者手帳(療育手帳、身体障害者手帳)に基づく障害等級区分 令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度㉔			重度A			中度B			軽度C			な し			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	3
2級	1	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3
3級	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
4級	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	6	1	7	1	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	5	12
合計	8	5	13	1	4	5	0	0	0	0	0	0	0	1	1	9	10	19

④ 開所日数と延利用者数

開所日数	延利用者数	一日平均
248	3335	13.5

＜相談支援事業＞

① 契約者数 令和8年3月31日現在

前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
51	8	7	52

② 事業別実績

障害児 相談支援	援助内容	請求件数	特定相談 支援	援助内容	請求件数
	障害児支援利用援助	11		サービス利用支援	44
	継続障害児支援利用援助	11		継続サービス利用支援	60
	計	22		計	104

③ 相談支援方法

訪問	来所	同行	電話等	個別支援 会議	サービス 担当者会議	関係機関	その他	計
137	43	8	284	1	2	886	97	1,458

6 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

- ① 来所及び帰宅時の検温を実施し、手指消毒、うがいの励行等利用者の健康管理に努めた。
また、感染症マニュアルに基づき、毎日の施設内の消毒、職員のマスク着用、職場内研修の実施等、感染症対策の徹底に努め、送迎する家族にも啓発するための通知やポスターを掲示して周知徹底を行った。
- ② 感染症 BCP（事業継続計画）を活用し、年1回以上研修と訓練を実施し、感染症発生時における事業継続対応が滞りなく図れるように努めた。

(2) 事故防止対策

ヒヤリハットメモを検証し、検証結果は必ず施設全体で共有化することで事故防止に努めた。
また、日頃から作業室等の整理整頓に努めるとともに、危険がないよう棚やロッカー等のレイアウトに配慮した。

(3) 人権擁護・虐待防止への取組

虐待防止委員会を定期的に開催し、虐待防止チェックリストや虐待防止に関する研修など、虐待防止に係る取組を推進した。

(4) 防犯対策

不審者の侵入に備え、建物及び時間外における門扉等の施錠の確認を徹底した。

(5) 個人情報管理

情報セキュリティポリシーに基づく情報管理の徹底と研修に参加した職員から伝達研修を行い情報共有に努めた。

(6) 災害対策

- ① 消防計画に基づき、防火管理者を中心として緊急時対策に取り組んだ。
- ② 食料・水などの災害備蓄品を整備し、賞味期限切れのものは買い替えを行った。
- ③ 消防署立会いによる総合防災訓練の実施と自主防災訓練を実施した。（年2回）
- ④ 地震・水害BCPを見直し（年1回）、計画書を活用した研修と訓練を実施した。（年1回）

(7) 施設維持管理

建築設備検査（年1回）、特定建築物定期検査（3年に1回）の他、消防設備点検（年2回）、空調設備保守点検（年2回）、自動給水ポンプ保守点検（年1回）※、自家用電気工作物保安管理（隔月）※、汚水処理施設保守点検（毎月）※等、施設設備の検査、点検を実施した。点検により各種設備機器の安全性の確認や不具合の早期発見等、適切な施設管理に努めた。

※春光園けやきのみ

7 サービス向上計画

(1) 利用者の意見を反映する取組

① 家族を含む個別面談の実施

個別面談を通し、事業所での様子を家族に伝え、利用者一人ひとりの心身の状況、家庭の様子を聞き取ることで、支援に生かした。

② 利用者アンケートの実施

利用者や家族の要望、意見を知り、事業内容に反映させるとともに、利用者側の視点に立った支援を改めて認識する機会とした。自由記述欄に記載があった要望、意見については、速やかな対応に努めた。アンケート結果及び意見への回答は掲示し周知した。

③ 家庭との相互理解、迅速な苦情対応

日々の連絡帳でのやり取りや電話連絡により、利用者の状態について家族との共有を図った。また、苦情については、職員全体で共有し再発防止に努めた。

④ 「意見箱」及び「みなさまの声」への対応

利用者及び家族からの意見は、職員全体で共有し改善に努めた。

⑤ 利用日の拡大

土曜日・祝日開業を実施し、利用者の余暇支援と家族の休息支援の充実を図った。（年6回）

(2) 地域、関係機関との連携

<共通>

さいたま市の担当部署、障害者生活支援センター等と連携を図り、関係機関と担当者会議などを行い、利用者を総合的に支援した。

<春光園けやき>

- ① 各関係機関との連携を図りながら、長期欠席者に対して電話連絡などの働きかけを行った。
- ② 当施設に隣接する埼玉県南卸売団地及び大宮北東ロータリークラブとの共催行事を、感染対策に考慮しながら実施した。バンドの演奏を利用者の方も楽しみ、協力関係を深めることができた。
- ③ ボランティアの受入れや除草作業等で地域の方々にご協力いただき親交を深めると共に、

会議等を通して地区社会福祉協議会や近隣の関係機関と連携を図り広報の場も併せて設けた。

- ④ 春岡フェスティバルや地区毎のアート作品展に参加し、利用者の作品の展示や自主製品の販売など広報活動を行った。
- ⑤ 介護体験（9名）保育士・社会福祉士の養成学校の実習生（4名）を積極的に受け入れ、福祉人材の養成に努めるとともに施設をアピールした。
- ⑥ 特別支援学校にパンフレットや施設紹介動画を配付し、施設見学会の実施（8名参加）や、実習生の受入れ（12名）を積極的に行い、学校との連携を深めた。
- ⑦ 地域の中学校と連携し、さいたま市中学生職場体験事業「未来（みら）くるワーク体験」の中学生を受け入れた。（3名）
- ⑧ 見沼区地域支援協議会に参加し、地域施設のニーズ把握と地域間連携を図った。

<春光園うみず>

- ① 特別支援学校と連携し、学校訪問を行うとともに、施設見学会を開催して施設の広報・PRを行った。
- ② 西区地域支援会議に参加し、地域生活支援拠点についての研修会議に参加し、さいたま市内の障害者支援に関わる行政及び各事業所とのつながりを深めた。
- ③ 地区社会福祉協議会と連携を図り、ボランティアの受入れを行った。
- ④ 地域の中学校と連携し、さいたま市中学生職場体験事業「未来（みら）くるワーク体験」の2校の中学生を受け入れた。
- ⑤ 介護等体験は11名、社会福祉士の養成学校の実習生は1名を受け入れ、福祉人材の養成に努めるとともに施設のPRを行った。

(3) 専門性の向上

<共通>

- ① 各事業相互の連携を図り、効果的、一体的なサービスの提供体制を強化した。
- ② 事業団事務局及び研修委員会で企画する研修のほか、次の研修に参加した。
 - ア 関係機関、団体の主催する研修
 - イ 資格習得研修（業務の遂行に必要な資格者の養成）
 - ウ 他施設との交流・視察研修

(4) 利用者への健康支援

- ① 嘱託医、看護師、理学療法士等の専門職により、利用者の健康に関する相談支援を行った。また、必要に応じて支援員等と連携し、日常健康管理を行った。
- ② 健康診断の実施により健康状態を把握し、家族との連携を密に図った（健康診断、歯科健診、ブラッシング指導）。また、関係機関主催の研修に積極的に参加し、専門性の向上に努めた。
- ③ 外部派遣研修

<春光園けやき>

月	日	研 修 名	参加職員数
6	23	埼玉県強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	2名
	29	アレルギー基礎研修	1名
	11	給食従事者研修	1名
7	8	普通救命講習	1名
	17	管理者のための財務基礎研修	1名
9	2	子供の社会性と育成の支援研修	2名
10	5	埼玉県強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	1名
11	4	口腔ケア研修	1名
	13	給食従事者研修	1名

12	12	権利擁護者研修	2名
		相談支援従事者初任者研修	1名
	29	中核人材研修	1名
1	6	メンタルヘルス研修	1名
	20	職員交流研修（他法人）	3名
2	19	相談支援従事者現任研修	1名

<春光園うえみず>

月	日	研 修 名	参加職員数
6	8	埼玉県立大学「2024年度社会福祉士実習指導者講習会」	1名
7	6	埼玉県立大学「2024年度社会福祉士実習指導者講習会」	1名
	9	事業団主催「廃棄物の処理に関する研修」	1名
	18	株式会社フェアテクノロジーズ主催「身体拘束セミナー」	1名
	19	株式会社フェアテクノロジーズ主催「虐待防止セミナー」	2名
	25	株式会社フェアテクノロジーズ主催「BCP セミナー」	2名
	26	株式会社フェアテクノロジーズ主催「感染対策セミナー」	1名
11	15	他法人施設との職員交流研修（共生・多機能型デイサービス ダイアリー）	1名
12	27	県福祉部主催「ケアラー・ヤングケアラー支援基礎研修」	1名
1	16	さいたま市歯科医師会主催「口腔ケア研修」	1名

④ 職場内研修、外部研修受講職員からの伝達研修

<春光園けやき>

月	日	研 修 名	参加職員数
4	15	けやき内部研修「災害伝言ダイヤル」	18名
5	27	けやき内部研修「職員倫理綱領①」	48名
6	24	けやき内部研修「職員倫理綱領②、③」	46名
7	24	けやき内部研修「アウトリーチ研修」	21名
8	4	けやき内部研修「経営健全化研修」	23名
	6	けやき内部研修「手洗い研修」	10名
	25	けやき内部研修「職員倫理綱領④、⑤」	47名
9	24	けやき内部研修「職員倫理綱領⑥、⑦」	48名
1	21	けやき内部研修「AED 研修」	25名
	29	けやき内部研修「BCP 研修」	18名
2	25	けやき内部研修「感染症対策研修」	40名
		けやき内部研修「人権擁護・虐待防止研修」	42名
3	3	けやき内部研修「安否確認研修」	31名
	11	けやき内部研修「個人情報保護研修」	49名
	12	けやき内部研修「虐待防止（身体拘束）」	49名
	25	けやき内部研修「防災（発電機使用方法）」	10名

<春光園うえみず>

月	日	研 修 名	参加職員数
4	1	うえみず内部研修「個人情報セキュリティ研修」	9名
5	28	うえみず内部研修「歯磨き介助内部研修」	7名
9	11	うえみず内部研修「身体拘束適正化研修」	7名
11	26	うえみず内部研修「業務委託について」	6名
12	30	うえみず内部研修「感染症対策連研修」	6名
1	6	うえみず内部研修「災害 BCP 修」	6名
2	17	うえみず内部研修「虐待防止研修」	8名
3	5	うえみず内部研修「感染症予防研修」 BCP 訓練	8名

8 年間行事報告

<春光園けやき>

月	日	内 容	備 考
4	7	入所式	参加者 92名
	24	けやき家族懇談会	参加者 49名
5	17	新緑会	参加者181名
	30	自立訓練「買い物体験・外出活動」	参加者 2名
6	3、10、13	そらグループ外出活動「岩槻文化公園散策」	参加者 14名
	20	自立訓練「買い物体験・調理体験」	参加者 2名
	30	カシオペアグループ「マイクロドライブ」	参加者 6名

7	2、9、10	カシオペアグループ「マイクロドライブ」	参加者 16名
	10	歯科検診・歯科ブラッシング	参加者 89名
	8、11、14、15、17	うみグループ外出活動「ベルクス東大宮」買い物体験	参加者 31名
	11	地域交流活動（春岡公民館）	参加者 10名
	21	土曜・祝日開業	参加者 74名
8	1	自立訓練「買い物体験・外食体験」	参加者 2名
	5	ボランティアコンサート「ギターアンサンブル ムスクラン」	参加者 86名
	4、7	グループ活動 お楽しみ会「夏まつり」	参加者 31名
9	1、3	カシオペアグループお楽しみ会「夏まつり」	参加者 26名
	9	健康診断	参加者102名
	17、29	園外体験活動「大崎公園散策」	参加者 14名
	18	自立訓練「買い物体験・外食体験」	参加者 2名
10	3、7、8、9、21、27	園外体験活動「大崎公園散策」	参加者 25名
	13	祝日開業	参加者 71名
	23	けやき家族懇談会	参加者 30名
	28	そらグループ買い物体験	参加者 12名
11	8	けやき祭	参加者127名
	12	自立訓練「買い物体験・外食体験」	参加者 2名
	10、11、13	園外体験活動「県民健康福祉村」	参加者 22名
	12、18、21、26	シリウスグループ外出活動「岩槻散策」	参加者 14名
12	1	シリウスグループ外出活動「岩槻散策」	参加者 5名
	12	土曜・祝日開業	参加者 64名
	8、9、10、11、15、19	園外体験活動「イオンモール浦和美園」買い物体験	参加者 32名
	17	年忘れ会	参加者 48名
1	15	施設見学会	参加者 11名
	20	園外体験活動「防災センター」	参加者 4名
	20、22	シリウスグループお楽しみ会「冬のお楽しみ会」	参加者 29名
	21、26、29	カシオペアグループ「マイクロドライブ」	参加者 17名
	27、28	園外体験活動「いちご狩り」	参加者 15名
2	2、4	カシオペアグループお楽しみ会	参加者 27名
	11	祝日開業	参加者 66名
	17	うみグループお楽しみ会	参加者 21名
	18	カシオペアグループ「マイクロドライブ」	参加者 5名
	27	自立訓練「買い物体験・外食体験」	参加者 2名

<春光園うえみず>

月	日	内 容	備 考
5	14	うえみず家族懇談会	参加者12名
	31	土曜日開業	参加者18名
6	6、24	園外活動（買い物）	参加者 6名
	12、26	園外活動（ボウリング）	参加者 6名
7	4	園外活動（カラオケ）	参加者 5名
	8	園外活動（ランチ）	参加者 4名
	12	土曜日開業	参加者 6名
	28	祝日開業	参加者11名
	29	歯科検診	参加者12名
8	23	祝日開業	参加者14名
9	12	利用者健康診断	参加者18名
	23	園外活動（買い物）	参加者 4名
10	28	園外活動（ランチ）	参加者 4名
	29	うえみず祭り	参加者17名
11	7	園外活動（路線バスに乗って大宮でラーメン）	参加者 4名
	14	園外活動（ねこカフェ）	参加者 3名
	22	祝日開業	参加者12名
	25	ブラッシング指導	参加者15名
12	23	お楽しみ会	参加者58名
	17	土曜日開業	参加者13名
1	6	防災訓練	参加者53名
2	3	不審者対応訓練	参加者14名
3	18	うえみず家族懇談会	参加者10名

【7】 槻の木

1 指定管理（令和7年度～令和9年度）

＜槻の木＞

(1) 生活介護事業

(2) 相談支援事業(特定相談支援事業、障害児相談支援事業)

＜槻の木第1やまぶき＞

就労継続支援事業B型

＜槻の木第2やまぶき＞

就労継続支援事業B型

2 今年度の施設取組計画

＜生活介護事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
意思決定支援の研修の受講と伝達研修を年1回以上 ケース会議で、個々の利用者の支援計画に反映できるか検討する。	達成	意思決定支援については2月に伝達研修を実施し、個々に日々の支援の振り返りができた。また個別支援計画作成の際は、事前面談(モニタリング面談)の中で、本人または家族と様々な意見交換を交わす中で、意向に沿った支援計画の作成に繋がられた。
虐待防止についての研修受講1回以上。伝達研修の実施1回以上 チェックリスト実施1回以上 第2やまぶきと連携し、内部研修等に職員の受け入れを行う。(年1回以上)	達成	今年度は、岩槻区障害者生活支援センターから権利擁護支援員を講師に呼び、第2やまぶきと合同で研修を実施した。(講師1名、参加職員20名) 虐待防止チェックリストで浮かび上がった問題点について、事例を踏まえた分かりやすい講義内容を受けて、個々に日々の支援を振り返り、適切な支援を再確認する良い機会となった。
新規利用者獲得1名を目指す。 新しい送迎方法を行いながら不都合な点があれば見直しを行う。 特別支援学校や相談事業所向けの宣伝材料について検討、作成する。	達成	今年度は4月から2名の新規利用者が入り(内1名退所)、7月にも1名の新規利用者との契約をすることができた。また特別支援学校高等部3年生1名が、前期実習を受けて、来年度4月からの新規利用に繋げることができた。 関係機関への広報活動については、昨年度よりも範囲を広げたことで施設見学者が増えた。

＜相談支援事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
福祉サービス事業所や関係機関を年10か所以上訪問する。 岩槻区顔の見えるネットワーク会議に年3回参加する。 はたらく部会に年3回参加する。	未達成	令和7年度は、引き続き事業所や関係機関への訪問をできる限り行った。継続して訪問をすることで、利用者に対する共通理解や、事業所とのつながりを深めることができた。地域で開催された部会や会議等については、はたらく部会は欠席した回があったため評価としては未達成となったが、顔の見えるネットワーク会議の他に、こども部会・くらす部会・居宅サポート部会の研修等にも参加し、各分野の知識を深めることや事業所との繋がりを広めることができた。
発達障害児等に関する研修等に年1回以上参加する。 同行支援を年8回以上実施する。	上回って達成	令和7年度は、発達障害児やその家族支援に関する研修に参加した。研修に参加することで、利用者支援についての知識を深め、面談等で家族への情報提供等に生かすことができた。同行支援では、事業所見学などで利用者と事業所の間に入ること、それぞれのニーズや条件を確認しながら、希望するサービスの提供や選択の機会をつくることができた。また、通院に同行することで利用者が必要な受診をすることができた。

事例検討会と勉強会を各 1 回以上実施する。	上回って達成	令和 7 年度の事例検討会では、児童と者のそれぞれの事例についてグループに分かれ検討会を行ったことで、複数の職員で意見を出し合い、様々な視点からの支援に気づくことができた。 勉強会では、「子ども支援・保護者の支援に対する相談員のかかわり～こどもと保護者を支えていくために心がけること～」の講義を聞き、子どもとその保護者に対する支援をする上でのポイントを知ることができた。また、各地域支援協議会の参加状況を共有することで、各区の現状を知ることができた。
------------------------	--------	---

＜就労継続支援事業B型＞（第 1 やまぶき）

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
岩槻区会議に 4 回以上参加する。 地域の中で行う活動を 2 回以上行う。	達成	顔の見えるネットワーク会議に 2 回、はたらく部会に 4 回参加できた。はたらく部会では新規企画された「かくし芸大会」に当事業所の利用者が職員と一緒に参加した。昨年度から参加している目白大学合同防災訓練に今年度も参加した。昨年度は、休日開所と日程が重なってしまい委託販売となってしまった岩槻駅東口コミュニティセンター祭りに今年は参加した。人間総合科学大学のひなまつりイベントや岩槻区内で開催の福祉マルシェにも参加し、自主製品を販売する機会が少しずつ増えてきており、地域の繋がりも増えているため、今後も継続していきたい。 岩槻工業団地内で開催された行事に利用者と職員と一緒に参加した。クリーンデーでは自施設の正門前の掃き掃除や除草作業を行い、環境美化に努めた。工業団地防災訓練では煙体験や消火体験、地震体験車に参加した。地域活動に参加する事で当施設や利用者を理解してもらえ、利用者の刺激にもなるため、今後も継続して参加していきたい。
平均工賃月額 12,037 円	未達成	平均工賃月額 7,460 円 既存の契約企業との単価交渉は、新しい作業種の依頼があるごとに打診してきた。結果、1 企業から単価の引き上げがあった。 また、受注量の増加（検査容器が月 5 ケースから月 7 ケース）が 2 月からあり、今後の収入増が見込まれる。袋詰め作業の受注も不定期ではあるが、増えている。 自主製品については、新たな販路を検討したが、現状では難しかった。紙漉き製品だけではなく、新たな自主製品として、ハーバリウムやスノードーム・アクリルたわしの作成販売を行い売り上げの増加につながった。
稼働率 102%	達成	稼働率 110.2% 家庭訪問や電話での相談援助、その他関係機関と連携を図りながら支援を行うことで長期欠席者の通所が再開したこと、新たに 1 名と契約したこと、既存の利用者が安定して通所できていること等により、稼働率 102%を達成することができたと考える。

＜就労継続支援事業B型＞（第 2 やまぶき）

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
「利用者の会」を主体とした活動（全体会議年 2 回、レクリエーション活動年 1 回、工賃支給日の午後の活動月 1 回）を継続する。	達成	本取組みにより、利用者の主体的な活動を支援し、自己選択や自己決定の機会を保障することができた。

目標平均工賃月額を 8,100 円とする。	上回って達成	タオルの作業については、増産することができ、令和 2 年度比及び昨年度比で増収となった。公園清掃は実施回数と人数は昨年度同様だが、作業単価の改善により昨年度比で若干の増収となった。一方で、一部業者では材料の遅配や欠配により減収となることがあった。全体の工賃収入は昨年度比で 3.4% の増収となった。平均工賃月額は 10,534 円で、昨年度を上回り目標額も上回って達成できた。
目標稼働率を 99.5% とする。	未達成	稼働率は 69.6% であった。利用者の家庭状況の変化等の影響により欠席がちな利用者が固定化した。生活支援センターや特別支援学校を訪問し空き状況を共有したが、新規利用者の獲得には至らなかった。

3 実施報告

(1) 共通

- ① サービスの標準化のために、業務マニュアルについて見直しを行った。
- ② さいたま市各区支援課、さいたま市各区障害者生活支援センターとの連携強化及び「岩槻区顔の見えるネットワーク会議」へ参加した。
- ③ 地域のイベントに参加し、施設の紹介を行うとともに各関係機関との連携を深めた。「槻の木まつり」では地域の関係機関を招き、多数の団体の方に見に来ていただいた。
- ④ 意思決定支援の外部研修に参加した。研修で学んだことを基に選択活動や日常生活支援等を行い、意思決定支援の充実を図った。
- ⑤ さらなる権利意識の醸成を図るために、他法人の障害者生活支援センター権利擁護支援員を講師に招き権利擁護研修を行い、虐待防止・権利擁護の意識の向上に努めた。

(2) 槻の木

＜生活介護事業＞

利用者の意向を尊重するとともに家族との連携を大切に、日常生活支援及び日中活動支援を提供した。また、他機関と連携し、重度障害者及び困難事例の支援に取り組んだ。

- ① 利用者の健康状況を考慮し、健康管理や体力維持の支援を行った。嘱託医による月 1 回の内科診察に加えて、身体機能の維持向上のために理学療法士の指導による週 1 回のリハビリ及び週 2 回の生活リハビリを実施した。
- ② ワゴン車等による送迎サービスを実施した。

開所日数	延利用者数（往路、復路合計）	一日平均
246回	12,112名	49.2名

- ③ 利用者の摂食嚥下状況に応じた形態で給食を提供した。また、利用者への給食アンケートを実施し、食事サービスの充実を図った。
- ④ 土曜日の営業を年間 4 日（槻の木まつりを含む）計画し、開催した。
- ⑤ 日中活動支援として創作活動、生産活動、文化的活動、健康活動を提供した。

ア 創作活動として、利用者一人ひとりの適性を踏まえて作業工程の担当を決め、ステンシルで模様をつけたキッチンタオルなどの自主製品を製作した。

イ 生産活動に従事することにより、様々な知識と技術を体得し、集中力と意欲の醸成、社会参加意識の高揚を図った。生産活動として得た収入は、創作活動の自主製品の売り上げと合わせて年 3 回（4 月、8 月、1 月）ボーナスとして支給した。また、活動量の多い利用者の支援として農園芸活動での収穫を行った。また、1 階のバルコニーでプランターを使った夏野菜づくりにも取り組んだ。作物を育て収穫して家族等への販売を行い、工賃として収入を得た。

(作業内容)

活動の種別	活動の時間
生産活動	午前、午後
農作物、季節の飾り等創作、グループ活動	午前、午後

(A・Bグループの支給内訳)

項 目	総支給額(円)	人数(人)	平均支給額(円)
春のボーナス	35,308	26	1,358
夏のボーナス	81,792	26	3,146
冬のボナ ス	52,100	25	2,084

(Cグループの内訳)

項 目	総支給額(円)	人数(人)	平均支給額(円)
春のボーナス	78,857	12	6,571
夏のボーナス	73,925	12	6,160
冬のボーナス	70,446	11	6,404

ウ 文化的活動として、当法人のアート作品展「スマイル・プラス」への出展に向けて、日々の創作活動のなかで、テーマを決め、利用者自身で考えた作品の製作を支援した。また、埼玉県障害者アートネットワーク TAMAP士との展覧会に、参加希望者を募った。ボランティアコンサートを4回実施し、音楽に接する機会を設けた。

エ 健康活動として、散歩で気分転換に外気浴を行うとともに、歩行できる方については、身体機能の維持向上を図った。リラクゼーションの時間では、心身ともにリラックスできるよう音楽をかけながら、マット上に横になったり、クッションチェア等に座ったりして、くつろげるように支援した。

⑥ 事業所の特性を生かした活動

ア 利用者の障害特性に合わせてグループを編成し、利用者のニーズに合わせたサービスを提供した。

イ 地域の方との交流を通して施設を知っていただく機会として、10月に開催した槻の木まつりでは、地域住民の方を招待した。また、岩槻やまぶきまつり、鷹狩り行列にも参加し、農作物や自主製品の販売を行いながら、施設パンフレットを配布し認知度向上に繋げた。

ウ 地域企業の社会貢献への取組に協力し、10月に開催した槻の木まつりに、企業の社員ボランティアの方々に参加していただき交流を図ることができた。

エ 利用者が自己選択・自己決定できるように、絵画、散歩、室内レク、カラオケ、DVD鑑賞、タブレットの利用等活動の種類を増やして参加しやすい環境を整えた。

オ 室内での歩行運動、マットやバランスボールを使った運動レク等を行い、身体を動かす機会を増やした。暑い夏場も、活動量の多い利用者の支援として室内運動に取り組んだ。

＜相談支援事業＞

① 障害者等からの相談を受け、居宅を訪問する等で要望や主訴を聴取し、利用者の希望する生活を実現するために福祉サービスの希望や生活上のニーズを把握した。また、関係機関との連携を図り、適切な障害福祉サービスが総合的かつ効果的に提供されるよう、サービス等利用計画の作成を行った。

② 障害児の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、保護者等のニーズに基づき、適切な保健、医療、福祉、教育等のサービスが、多様な事業者から、総合的かつ効果的に提供されるように障害児支援利用計画の作成を行った。

③ 第1やまぶきの相談支援事業と統合して複数の相談支援専門員がチームとなってサービスを提供することで、相談支援の質の向上及び運営の効率化を図った。

(3) 槻の木第1やまぶき

<就労継続支援事業B型>

① 生産活動及び就労に関する支援

生産活動に対する意欲や技術の向上について利用者の適正に合った支援を行った。また、業務委託企業の新規開拓のほか、自主製品の開発・製造を行ってイベント等での販売に取り組み、工賃向上を図ったが、平均工賃月額7,460円となり、目標には至らなかった。

ア 多種多様な作業種目の確保、工賃向上のための業務委託企業の新規開拓を行った。

イ 利用者の年齢、体力、障害特性などの適性に合った生産活動の提供を行った。

ウ 生産量や巧緻性向上のために治具の開発を行った。

エ 工賃向上及び販売機会の確保のため、自主製品の販売、法人内の他施設のイベントや地域のイベントに積極的に参加した。開発と製造は、クリスマスシーズン向けにスノードームや松ぼっくりのツリーを製作し販売した。

オ 就労支援の一環として外出活動(JAXA筑波宇宙センター・ミュージアムパーク茨城自然博物館)を実施し、社会性を高め、利用者交互の親睦を深めた。

職場実習は、対象の利用者がいなく、実施できなかった。

(作業収入、工賃支給状況)

月	収入総額	支給総額	平均作業日数	一人当たり工賃		
				最高	最低	平均
4月	81,466	81,466	17.6	6,956	0	4,061
5月	95,529	95,529	17.8	6,385	0	4,821
6月	179,601	179,601	18.1	12,851	2,364	8,980
7月	77,793	77,793	17.9	5,844	0	3,889
8月	123,671	123,671	18.9	9,882	0	5,889
9月	155,654	155,654	16.1	12,113	0	7,411
10月	226,855	226,855	16.9	14,828	0	10,802
11月	190,235	190,235	19.3	13,107	0	9,058
12月	638,653	269,053	15.9	16,919	0	12,812
1月	141,512	92,232	17.2	7,440	0	4,392
2月	142,740	142,740	15.7	10,654	0	6,797
3月	222,753	222,753	15.7	14,402	0	10,607
合計	2,276,462	1,857,582	17.3	年間平均		7,460
	必要経費	▲418,880				

② 生活力の向上に関する支援

社会人として必要なマナーやルールの習得、生活力の向上のための支援を行った。

ア 係活動、清掃、洗濯、食器洗いなどの日常生活訓練を行った。

イ 作業の一環として、また、作業技術の習得、事業所についての意識の向上のため、事業所のワックス清掃(年2回)及び日常清掃(毎日、月1回の大掃除)を行った。

ウ 日常生活や施設に通うにあたり、しっかり交通ルールを守って生活が送れるように「交通ルールについて」をテーマに安心・安全教室を実施した。

エ 公共交通機関を利用して、社会体験活動(見学、買い物等)を行った。

③ 健康に関する支援

ア 通所時と降所前の体温測定等を行い、日々の健康チェックを行った。

イ 健康診断を年1回実施した。

ウ 歯科検診を年1回実施した。

エ 利用者に年2回の参加希望調査を行い、クラブ活動(ウォーキング、スポーツ、創作)を実施した。

④ 自己実現や社会参加に関する支援

ア 福祉マルシェ(年3回)、岩槻やまぶきまつり、埼玉セルプ販売会(大宮駅コンコース)、

人間総合科学大学「ひな祭り」には、職員が参加し、自主製品の販売と施設のPR活動を行った。

イ 岩槻児童センターでの紙すき体験では、利用者2名、職員2名が参加し、子供たちとそ
のご家族を対象に実施した。

ウ アンケートを実施し、その結果をもとに、社会体験活動を年2回(第1回4カ所、第2回
4カ所)実施した。

エ リフレッシュのために、休憩時間等にテレビゲームでダンスをしたり、iPadを使用した
動画視聴などのレクリエーション活動を行った。

オ 利用者相互の親睦、コミュニケーション能力の向上のために、忘年会、新年会、利用者
懇談会を行った。

カ 表現活動の一環として法人内の他施設と一緒に合同アート作品展を開催し、希望者には、
作品を展示し、作品展にも見学に行った。

キ クラブ活動(ウォーキング、スポーツ、創作)では、利用者に年2回参加希望調査を行
い、各活動を実施した。(再掲)

(4) 槻の木第2やまぶき

<就労継続支援事業B型>

利用者の意向を尊重しつつ、個々の能力、課題に応じて活動内容を決めた。利用者の活動意
欲が向上するように内容、方法を工夫し、個別支援の充実に努めた。

① 日常生活上必要な心身の健康管理や体力の維持・向上を図るために、毎日の体操やストレ
ッチを実施した。

② レクリエーション活動等を通じて利用者相互の交流の機会を提供した。

ア 生活力向上のための支援

(ア) 社会体験は、感染症対策として少人数のグループで3回に分け実施した。

(イ) 余暇の充実に努めるためのレクリエーション活動を支援した。

イ 利用者が適切に意見を述べ合える場として「利用者の会」の実施をサポートした。

ウ 利用者が主体的に計画を立て実施する活動行事の実施をサポートした。

③ 生産活動支援

ア 地域企業と連携して、多種多様な作業種目を確保した。

イ 利用者の適性に合った作業を提供した。

ウ 年齢、体力、状況にあった生産活動を実施した。

月	収入総額	支給総額	平均作業日数	一人当たり工賃		
				最 高	最 低	平 均
4月	113,740	102,100	16.4	17,000	900	11,344
5月	88,391	79,400	15.7	13,100	500	8,822
6月	81,906	73,700	16.4	12,400	700	8,189
7月	102,228	92,100	17.0	15,500	600	10,233
8月	105,821	95,100	14.2	16,100	500	10,567
9月	62,680	56,400	15.3	9,600	200	6,267
10月	129,464	116,700	18.1	18,900	300	12,967
11月	107,468	100,800	14.0	16,500	900	11,200
12月	87,036	87,000	16.1	13,600	500	9,667
1月	91,902	91,800	14.6	17,200	400	10,200
2月	90,138	90,100	14.0	14,900	500	10,011
3月	81,100	152,510	16.0	25,946	1,445	16,946
合計	1,141,874	必要経費▲4,164	15.7	年間平均		10,534
		1,137,710				

4 利用状況

(1) 槻の木

<生活介護事業>

① 契約者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男	25	2	2	25
女	14	1	0	15
計	39	3	2	40

② 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分

令和8年3月31日現在

年齢	区分	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満		0	0	0	0	0	1	1
20歳以上30歳未満		0	0	0	1	1	4	6
30歳以上40歳未満		0	0	0	2	4	7	13
40歳以上50歳未満		0	0	1	6	1	4	12
50歳以上		0	0	0	3	3	2	8
計		0	0	1	12	9	18	40

③ 障害者手帳(療育手帳、身体障害者手帳)に基づく障害等級区分

令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度(A)			重度A			中度B			軽度C			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	3	4	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	7
2級	0	2	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	3
3級	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	11	3	14	7	4	11	3	1	4	0	0	0	21	8	29
合計	14	10	24	8	4	12	3	1	4	0	0	0	25	15	40

④ 開所日数と延利用者数

開所日数	延利用者数	一日平均
246	7,449	30.3

<相談支援事業>

① 契約者数

令和8年3月31日現在

前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
212	3	7	208

② 事業別実績

障害児 相談支援	援助内容		請求件数
	障害児支援利用援助		
	継続障害児支援利用援助		
	計		
			94
			79
			173

特定相 談支援	援助内容		請求件数
	サービス利用支援		
	継続サービス利用支援		
	計		
			131
			143
			274

③ 相談支援方法

訪問	来所	同行	電話等	個別支援 会議	サービス 担当者会議	関係機関	その他	計
390	328	55	1489	10	4	3298	440	6014

(2) 槻の木第1やまぶき

<就労継続支援事業B型>

① 契約者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男	16	1	0	17
女	3	1	0	4
計	19	2	0	21

② 障害者手帳(療育手帳、身体障害者手帳)に基づく障害等級区分 令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度④			重 度 A			中 度 B			軽 度 C			なし			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	2	0	2	6	0	6	7	2	9	0	0	0	1	1	2	16	3	19
合計	2	0	2	7	1	8	7	2	9	0	0	0	1	1	2	17	4	21

③ 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分 令和8年3月31日現在

年齢	区分	なし	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満		0	0	0	0	0	0	0	0
20歳以上30歳未満		2	0	0	1	0	0	0	3
30歳以上40歳未満		3	0	0	2	1	0	0	6
40歳以上50歳未満		1	0	1	2	1	0	0	5
50歳以上		2	0	1	2	2	0	0	7
計		8	0	2	7	4	0	0	21

④ 開所日数と延利用者数

開所日数	延利用者数	一日平均
243	4,284	17.6

(3) 槻の木第2やまぶき

＜就労継続支援事業B型＞

① 契約者数 令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7度末
男	6	0	0	6
女	3	0	0	3
計	9	0	0	9

② 障害者手帳(療育手帳、身体障害者手帳)に基づく障害等級区分 令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度④			重度 A			中度 B			軽度 C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2級	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	0	1	1	2	1	3	2	1	3	0	0	0	1	0	1	5	3	8
合計	0	1	1	3	1	4	2	1	3	0	0	0	1	0	1	6	3	9

③ 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分 令和8年3月31日現在

年齢	区分	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満		0	0	0	0	0	0	0
20歳以上30歳未満		0	0	0	0	0	0	0
30歳以上40歳未満		0	0	0	0	0	0	0
40歳以上50歳未満		0	1	2	1	0	0	4
50歳以上		1	1	2	1	0	0	5
計		1	2	4	2	0	0	9

④ 開所日数と延利用者数

開所日数	延利用者数	一日平均
243	1,691	7.0

5 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

- ① 感染症・食中毒等に関するリスク対応とまん延防止策について、感染予防マニュアル等を活用し、検討・実施した。
- ② 感染防止対策について、施設内で以下のように実施した。
 - ア 玄関、手洗い場や施設内の各所に消毒液を設置した。
 - イ 各室とも頻繁に換気を行い、廊下や階段の手すり等、手の触れる箇所を定期的に消毒した。
 - ウ 食堂のテーブルには飛沫予防として、透明のアクリルの設置を継続した。
 - エ 訪問者があった場合は、用紙に記入していただき記録に残した。
 - オ 事務室内はビニールシートの仕切りの設置を継続した。
 - カ 職員はマスクを着用し、出勤時に個人体温チェック表を記入した。また、利用者の菌みがき等の際にフェイスシールドを職員が使用するようにした。
- ③ 感染症 BCP の見直しや訓練を実施した。

(2) 事故防止対策

発作、誤飲、けが等に関するリスク対応と防止策を検討し実施した。

(3) 人権擁護・虐待防止への取組

虐待防止委員会を開催し、虐待防止チェックリストや虐待防止に関する研修など、虐待に係る取組を推進した。

(4) 防犯対策

- ① 夜間施設後は、機械警備による監視を行った。
- ② 関係者以外の外来者対応を強化した。

(5) 個人情報管理

情報セキュリティポリシーに基づく情報管理を徹底するとともに、全職員が個人情報保護に関する研修を受講し、個人情報保護に努めた。

(6) 災害対策

- ① 体制の充実
 - ア 地元自治会との「災害時相互援助協定」を継続した。
 - イ 火気使用箇所の日常点検を行った。
 - ウ 食料・水等の災害時備蓄品を用意した。
- ② 訓練の実施
 - 槻の木・第2やまぶき及び第1やまぶきでは、各々の事業で総合防災訓練を年2回実施した。
- ③ 災害・水害 BCP の見直しや訓練を実施した。第1やまぶきは、浸水想定区域のため水害時避難訓練を年2回実施した。

(7) 施設維持管理

- ① 特定建築物点検（3年に1回）を実施し、施設の不具合を事前に把握し適切な施設管理に努めた。
- ② サービス（業務）マニュアル及び危機管理マニュアルに基づいた施設維持管理を行った。安全点検実施表を用いて日常的な点検を実施した。

(8) 施設のあり方検討

<生活介護事業>

第1やまぶき、第2やまぶき合同であり方検討会を開催し、施設認知度の向上と新規利用者の獲得、経営の効率化について意見交換を行った。

<槻の木第1やまぶき（就労継続支援事業B型）>

- ① 施設の認知度向上に向けての取組、または新規利用者獲得に向けた取組について協議を行った。
- ② 第1やまぶきと第2やまぶきの移転・統合に向けて、所管課及び法人事務局と必要な準備や調整を行った。

年度初めに各施設にて、障害政策課よりご家族向けの進捗説明会を行った。

<槻の木第2やまぶき（就労継続支援事業B型）>

第1やまぶきとの統合・移転に関して、障害政策課からの依頼により、(仮称)やまぶき移転再整備事業の実施設設計に係るヒアリングに対応した。

6 サービス向上計画実施状況

(1) 利用者の意見を反映させる取組

- ① 各種アンケート（利用者、給食、みなさまの声、行事についてのアンケート等）を実施した。
- ② 利用者の状況把握や意向を汲み取るために、個別面談を年2回実施した。
- ③ 日々の連絡帳のやり取り、施設通信の発行等により、利用者の家族と連携を図った。
- ④ サービスに関する苦情は0件だった。日頃より小さな声に耳を傾け、苦情になる前に迅速かつ誠実に対応できるように工夫した。

(2) 地域、関係機関との連携

- ① 地域行事の岩槻やまぶきまつり、鷹狩り行列に参加した。
- ② 散歩等で外出する際は、地域住民への挨拶を励行し、コミュニケーションを心がけた。
- ③ 関係機関(岩槻区障害者支援センター等)と情報共有し、利用者の問題解決を図った。
- ④ 岩槻区顔の見えるネットワーク会議（2回開催）に職員2名を派遣した。
- ⑤ 地域からの苦情に対し、誠実な対応を心がけているが特に苦情等はなかった。
- ⑥ 土曜開所を年4回実施し、そのうちの3回にボランティアを招き、楽器演奏やダンスを行っていただき、地域との交流を図った。
- ⑦ 槻の木まつりでは地域企業の社員ボランティアを依頼して、8名の方が参加された。また、地域の自治会や小学校等地域の関係機関を招待し、交流や相互理解を深めた。

(3) 専門性の向上

事業団事務局及び研修委員会等で企画する研修のほか、次の研修に参加した。

① 職場内研修

<槻の木>

月	日	研修名	参加職員数
6	26	災害 BCP 机上訓練及び研修	3名
2	17	強度行動障害支援者養成研修【伝達研修】	12名
	24	意思決定支援研修【伝達研修】	13名

3	1～31	感染症対策研修【伝達研修】	12名
		人権擁護・虐待防止研修【伝達研修】	8名
	19	権利擁護研修（第2やまぶきと合同で実施）	14名
	26	個人情報保護・情報セキュリティ対策研修【伝達研修】	15名
		他法人交流研修【伝達研修】	15名
		安全運転講習【伝達研修】	15名
		身体拘束等の適正化に関する内部研修	15名

<槻の木第1やまぶき>

月	日	研 修 名	参加職員数
7	16	感染症の予防及びまん延防止に関する内部研修	6名
1	22	障害者虐待への対応	6名
2	13	さいたま市社会福祉事業団障害関係施設 接遇内部研修	6名
3	11	さいたま市社会福祉事業団 障害福祉サービス等における身体拘束等適正化指針内部研修	6名
	17	感染症予防研修【伝達】	6名
		安全運転研修【伝達】	6名

<槻の木第2やまぶき>

月	日	研修名	参加職員数
6	26	災害BCP机上訓練及び研修	6名
9	26	感染症予防対策研修	7名
12	25	人権擁護・虐待防止研修伝達研修、感染症対策研修伝達研修	6名
1	29	安否確認システム運用研修伝達研修	7名
2	26	身体拘束等の適正化に関する内部研修、個人情報保護・情報セキュリティ対策研修伝達研修	7名
3	19	権利擁護研修（槻の木と合同で実施）	7名

② 外部派遣研修

<槻の木（生活介護）>

月	日	研修名	参加職員数
5	30	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	1名
6	18	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	1名
7	11	新任職員研修会	1名
9	3、11	サービス管理責任者等実践研修	1名
11	10、25	中堅職員研修	1名
1	21	はたらく部会意思決定支援研修	1名
	22	権利保護に関するセミナー	1名
	23	コーチング研修	1名
3	14、21	強度行動障害支援者養成研修（実践）	1名

<槻の木（相談支援）>

月	日	研修名	参加職員数
4	26	県社協主催 令和7年度 生活保護制度入門研修	1名
5	15	さいたま市主催 令和7年度 精神障害者の障害特性と支援方法を学ぶ研修	1名
	23	さいたま市主催 令和7年度 精神障害者の障害特性と支援方法を学ぶ研修	1名
6	1～22	埼玉県主催 令和7年度 医療的ケア児等コーディネーター養成研修（配信）	1名
7	3～30	埼玉県主催オンライン講座 令和7年度 発達障害の基礎理解（オンライン研修）	1名
	17	岩槻区 顔の見えるネットワーク会議『みんなで学ぼう！話し合おう！虐待防止と権利擁護についての勉強会』	3名
	23	埼玉県主催 令和7年度 医療的ケア児等コーディネーター養成研修	1名
	30	埼玉県主催 令和7年度 医療的ケア児等コーディネーター養成研修	1名
	30	さいたま市研修講座 「発達障害のある子どもを育てる親の支援」（オンライン研修）	1名
10	21	県社協主催 令和7年度福祉サービス苦情解決セミナー	1名
11	10	さいたま市主催 令和7年度 知的障害者支援者研修 強度行動障害の理解と支援	1名
12	5	岩槻区 顔の見えるネットワーク会議『暮らしのピンチに備える ～緊急にしない支援のしくみづくり』	2名

< 槻の木第1 やまぶき >

月	日	研 修 名	参加職員数
7	4	令和7年度 第1回岩槻区はたらく部会	1名
	17	令和7年度 第1回岩槻区顔の見えるネットワーク会議 支援者向け虐待防止・権利擁護勉強会「虐待防止と権利擁護について」	1名
9	18	令和7年度 岩槻区障害者支援地域協議会	1名
10	10	令和7年度 第2回岩槻区はたらく部会	1名
	22	埼玉県社協 虐待防止研修(障害)	1名
11	5	令和7年度 第3回岩槻区はたらく部会	1名
12	5	令和7年度 第2回岩槻区顔の見えるネットワーク会議	1名
1	9	令和7年度 第4回岩槻区はたらく部会	1名
	16	令和7年度 第5回岩槻区はたらく部会	1名
	20	令和7年度 岩槻区障害者支援地域協議会	1名
	21	「支援付き意思決定、関わりの作法」～大切な人との関係性を編み直す～	1名
	27	令和7年度 第1回岩槻区社会福祉法人等連携会議	1名

< 槻の木第2 やまぶき >

月	日	研修名	参加職員数
7	11、23	新任職員研修会（埼玉県発達障害福祉協会主催）	1名
7	16	普通救命講習Ⅰ（さいたま市社会福祉協議会主催）	1名
8	26	工賃向上研修会（埼玉県就労B型受注拡大ステーション主催）	1名
12	5	暮らしのピンチに備える～緊急にしない支援のしくみづくり～ （第2回岩槻区顔の見えるネットワーク会議）	1名

7 年間行事報告

(1) 槻の木

月	日	内容	備考
4	3	令和7年度入所式(新規利用者2名)	利用者32名 家族5名
	11	イオンレシートキャンペーン贈呈式 美園イオン	利用者2名
	25	家族懇談会(事業説明会)	家族10名
5	22	総合防災訓練	利用者32名
6	11	イエローレシートキャンペーン 美園イオン	利用者 4名
	16	外出活動 東武動物公園	利用者 3名
	23	ふれあいの日	利用者33名
	11	イエローレシートキャンペーン 美園イオン	利用者 4名
	19	土曜開所	利用者26名
	22	入所式(新規利用者1名)	利用者29名
8	6～7	槻寿苑納涼盆踊り大会	利用者 9名
9	11	イエローレシートキャンペーン 美園イオン	利用者 4名
	29	外出活動 グリコピア工場見学	利用者 5名
10	11	槻の木まつり	利用者34名 家族 29名 一般・来賓35名
	19	岩槻やまぶきまつり	職員 3名
	21	外出活動 大宮公園散策	利用者 5名
	27	外出活動 東武動物公園	利用者 4名
11	3	鷹狩り行列	職員 1名
	5	外出活動 大宮公園散策	利用者 3名
	11	イエローレシートキャンペーン 美園イオン	利用者 4名
		健康診断	利用者33名
	26	外出活動 鉄道博物館	利用者 3名

12	1～5	家族懇談会(施設見学会・活動見学会)	家族 9名
	8	外出活動 ボウリング	利用者 3名
	9	総合防災訓練	利用者30名
	11	歯科検診	利用者31名
		イエローレシートキャンペーン 美園イオン	利用者 3名
	12	外出活動 カラオケ	利用者 5名
	18	外出活動 プール	利用者 3名
	20	土曜開所(ふれあいの日)	利用者22名
	19	ふれあいの日	利用者33名
2	21	はたらく部会かくし芸大会 岩槻本丸公民館	利用者 4名
	2、3	アート作品展見学 コミュニセンター岩槻	利用者 9名
3	21	土曜開所(ふれあいの日)	利用者23名
	11	イエローレシートキャンペーン 美園イオン	利用者 4名
3	12	はたらく部会総合防災訓練 目白大学	利用者 5名
身体測定(月1回)、健康診断(月1回)、機能訓練(月4回)			

(2) 槻の木第1やまぶき

月	日	内容	備考
5	2	懇談会、移転・統合に関する説明会(障害政策課主催)	利用者 3名 家族 9名
	14	春のクリーンデー(工業団地美化運動)	利用者 2名
6	14	福祉マルシェ 販売	職 員 2名
	16	社会体験活動(鉄道博物館)	利用者 2名
	18	社会体験活動(買い物)	利用者 2名
	23	社会体験活動(鉄道博物館)	利用者 2名
	26	岩槻工業団地防災訓練	利用者 4名
	27	消防避難訓練	利用者18名
7	4	社会体験活動(上野動物園)	利用者 2名
	9	社会体験活動(東京スカイツリー)	利用者 4名
	11	社会体験活動(東京スカイツリー)	利用者 4名
8	8	出張紙すき体験	利用者 2名
	20	健康診断	利用者 6名
	22	健康診断	利用者 6名
	25	健康診断	利用者 5名
	27	健康診断	利用者 3名
9	23	福祉マルシェ 販売	職 員 2名
10	1	所外研修	利用者15名
	11	槻の木まつり	職 員 2名
	19	岩槻やまぶきまつり	職 員 2名
11	1	むつみ祭	職 員 2名
	28	社会体験活動(羽生パーキング)	利用者 2名
12	1	社会体験活動(東京スカイツリー)	利用者 3名
	5	社会体験活動(サンシャイン水族館)	利用者 4名
	8～10	埼玉セルブバザール(大宮駅コンコース)	職 員 2名
	11	秋のクリーンデー(工業団地美化運動)	利用者 4名
	15	社会体験活動(越谷レイクタウン)	利用者 5名
	20	土手町ミニマルシェ in ふれセン	職 員 2名
	26	水害時避難訓練	利用者18名
1		忘年会	利用者18名
	9	新年会	利用者15名
	21	はたらく部会かくし芸大会	利用者 8名
	22	歯科健診	利用者13名
	23	懇談会	利用者 3名 家族10名
2	2	アート作品展見学	利用者 8名
	7	利用者懇談会	利用者19名
	13	消防避難訓練	利用者16名
	20	水害時避難訓練	利用者19名
	23	人間総合科学大学 ひなまつりイベント	職 員 2名
	28	岩槻駅東口コミセンまつり	職 員 2名

3	7	土曜日開所日（ボウリング）	利用者12名
	11	はたらく部会 合同避難訓練 in 目白大学	利用者 3名
	13	安心・安全教室（岩槻警察署）	利用者17名
朝：ラジオ体操、作業後：ストレッチ、体重測定（年2回）、OT指導（年1回）			

(3) 槻の木第2やまぶき

月	日	内容	備考
4	23	事業説明会、移転・統合に関する説明会(障害政策課主催)	利用者 9名 家族 6名
5	26	避難訓練（消防署立ち合い）	利用者 7名 職員 7名
10	11	槻の木まつり	利用者 8名 家族 4名
	19	やまぶきまつり	職 員 2名
11	3	鷹狩り行列	職 員 2名
	11	健康診断	利用者 9名
	21、25、26	社会体験（東武動物公園）	利用者 6名
12	11	歯科健診	利用者 5名
	19	忘年会（スポーツレクリエーション含む）	利用者 8名
2	6	避難訓練（消防署立ち合い）	利用者 8名 職員 6名

【8】日進職業センター

1 自主運営

- (1) 就労移行支援事業
- (2) 就労継続支援事業B型
- (3) 就労定着支援事業

2 今年度の施設取組計画

<就労移行支援事業>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
地域の企業、法人及び学校等との連携事業を行う。(年2回)	達成	取組の効果として、地域や学校との連携を通して、事業所の公式インスタグラムのフォロワーが100名を越え、投稿の閲覧から多くの方に就労支援事業所について興味を持っていただくことができた。 結果分析としては、連携を通じた地域との繋がりから、新規利用者になりえる方の発掘に繋がったと分析する。そこから新規利用契約に繋がっていないが、期待できる効果を一過性のものにならないよう、実習や体験に繋げていくため引き続き、様々な形で地域連携に注力していく。
外部研修への参加及び内部研修の実施(計4回)	上回って達成	今年度は、外部研修3回参加、内部研修2回実施。就労支援に関わる研修については、希望者多数で参加できないものもあった。事業の担当職員が大きく変わったこともあり、基礎から学ぶ内部研修を実施。また、個別での研修も行った。就労支援に関わる単独の研修だけでなく、関連機関で開催される情報交換会の内容のひとつとして、タイムリーな内容の研修が実施されることも多く、今後もそのような機会への参加、内部研修の充実を目標としたい。
就職後6月以上の定着率5割以上	上回って達成	今年度も6月以上定着率10割と目標を上回ることができた。アセスメントを生かしたマッチングと定着支援、会社との関係構築が結果につながっていると分析する。また、特別支援学校の学校公開だけでなく、個別に出向き授業の見学、進路状況や学校でのニーズについて情報交換を行う機会を多く持ち、地域ネットワークとして事業に関わる意見交換や情報共有に繋がり、今後の入所希望傾向の見通しも持てた。

<就労継続支援事業B型>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
地域の企業、法人及び学校等との連携事業を行う。(年2回)	達成	取組の効果として、地域や学校との連携を通して、事業所の公式インスタグラムのフォロワーが100名を越え、投稿の閲覧から多くの方に就労支援事業所について興味を持っていただくことができた。結果分析としては、連携を通じた地域との繋がりから、新規利用者になりえる方の発掘に繋がったと分析する。そこから新規利用契約に繋がっていないが、期待できる効果を一過性のものにならないよう、実習や体験に繋げていくため引き続き、様々な形で地域連携に注力していく。
平均工賃月額 16,000円	未達成	受注先業者の仕様変更により、主として行っていた単価の高い作業が年度途中で終了となり、工賃が急落してしまった。新たに、ECサイト商品の梱包作業と箱折り作業を開始した。前者は幅広い利用者がかかわれ、後者は利用者の能力や特性に合った作業であり、施設外就労にも結びついたが、単価という面ではよくはない。利用者の年齢が上がり、能力等の低下が見られる中、多くの方が能力を生かしてかかわれる作業と単価の高い作業、両方の視点でバランスよく作業開拓を行っていきたい。

稼働率 88%	未達成	年度初めに 2 名、年度途中で 1 名の新規利用者があったが、退所者も 1 名あり、稼働率の目標値にはいたらなかった。令和 7 年度稼働率は 74%。現在多くいらっしゃる長く当センターに通所されている利用者と、ここ数年で利用を開始された利用者とは、特性や傾向、目標や目的などに差があると思われる。可能な限り各ニーズに対応できるよう、今後も作業内容・作業環境、行事や施設外就労など提供できるサービスの見直し・検討をしながら、各支援学校の産業現場実習、地域中学校支援級の職業体験、体験利用を受け入れていきたい。
---------	-----	---

＜就労定着支援事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
就労定着率 8 割以上	上回って達成	雇用先企業、埼玉県雇用総合サポートセンター、さいたま市障害者総合支援センター、就業・生活支援センター、地域就労支援センター、相談支援事業所、生活支援センター等、対象者の生活や必要性に合わせてチーム支援を実施することで高い定着率につながっている。
外部研修への参加（年 2 回）	未達成	さいたま市、労働局、就業・生活支援センター等が主催する情報交換会や連絡会への参加、また、企業との就労に関する様々な情報交換を通してジョブマッチングから職場定着までの専門的かつ実践的な知識や技術を学ぶことができている。その結果、7 名が期間満了、自事業所から就職した 6 名が新たに契約、1 名を転職支援した。
契約者数 14 名以上	達成	7 名が期間満了、自事業所から就職した 6 名が新たに契約、1 名を転職支援し、令和 8 年 1 月末時点で契約者は 14 名。定期的な訪問により定着者数を一定の割合で維持することができた。トライアル雇用の活用、職場定着義務期間を通じて支援を行っている結果、高い定着率を維持できていると分析する。事業所外からの希望者はいなかった。また、昇給による自己負担の発生に伴い、定着支援の利用に負担を感じる方が出ている。

3 実施報告

＜共通＞

相談支援専門員と連携を図り、サービス等利用計画及びご要望に基づいた個別支援計画を作成し、福祉サービスの提供に努めた。施設の基本理念に基づき、一人ひとりの働きがいや豊かな生活が送れるよう支援に努めた。

(1) 地域との連携強化

日進北小スクールサポートネットワークに参画し、12 月 13 日（土）に地域子どもフェスにてブース出展し、障害者アートの紹介とアート体験会を行った。また、日進公民館との連携において、公民館主催の人権講座を 10 月 17 日（金）に日進職業センターにて開催し、就労支援事業所の役割について、地域住民の方々に知っていただく機会を設けた。地域住民との繋がりでは日進公民館作品展に併設でスマイルプラスアート作品展を 10 月 25 日（土）、26 日（日）に開催し、アート作品を通して日進職業センターの広報活動を行い、作品展終了後もアート作品の常設展示を通して、利用者アート作品をより多くの地域住民に見ていただくことができた。

令和 5 年度より継続して、施設代表者がさいたま市北区地域協議会の構成員として参画し、地域連携の強化に努めている。

(2) 関係機関との連携強化

ケース相談、求職相談、委託訓練、短期訓練、就労定着支援等、行政機関及び福祉関連機関との連携をより密にし、生活及び就労支援におけるネットワークを強化した。

(3) 専門職による支援（嘱託医による面談、心理判定員による面接）

月に1回、精神科医による内診、面談、個別相談を実施し、健康状態の把握に努めた。また、月に2回、心理判定員によるWISC検査や神経心理学検査、個別面談を実施し、利用者の現状を把握するとともに観察の要点や心理的援助の方法など、支援に必要な情報を職員と共有した。

(4) 胸部X線を含む健康診断（年1回）

4月9日（水）に大宮医師会メディカルセンターによる血圧測定、尿検査、血液検査（血液学、生化学、免疫学）、心電図検査、胸部X線検査を事業所にて実施した。

(5) 歯科健康促進のための研修会（年2回）

7月4日（金）、2月6日（金）に、さいたま市北区保健センターの歯科衛生士より、むし歯・歯周病予防教室を実施し、利用者の口腔内の健康増進、意識向上に努めた。

(6) 外部講師によるイベント（年4回）

11月21日（金）、3月6日（金）に、利用者向けイベントとしてリズム体操、けん玉検定を行い認知機能の維持、向上を目的とした行事を開催した。また、8月8日（金）、2月13日（金）に、健康フラダンス体験を行い、独特な動きがある運動を通して、健康増進に繋がる体験を開催した。

(7) 生産活動における工賃向上に向けた取組の強化

① 就労移行支援事業

月	収入総額	支給総額	平均作業時間	一人当たり工賃		
				最 高	最 低	平 均
4月	123,238	121,892	110	3,393	0	3,767
5月	82,051	81,667	101	5,870	0	2,534
6月	59,226	59,002	88	5,481	0	3,279
7月	72,998	71,784	94	3,180	0	1,923
8月	99,305	97,812	84	4,752	0	2,559
9月	68,559	67,399	88	2,600	0	1,759
10月	79,518	82,897	81	4,290	0	2,167
11月	104,920	103,425	69	5,664	0	2,718
12月	104,800	102,973	73	5,428	0	2,706
1月	78,818	78,031	66	5,898	0	1,978
2月	106,437	106,106	72	9,360	0	2,792
3月	84,973	84,567	72	7,380	0	2,377
合計	1,057,555	1,064,843	83	年間平均		2,547

② 就労継続支援事業B型

月	収入総額	支給総額	平均作業時間	一人当たり工賃		
				最 高	最 低	平 均
4月	81,278	62,505	110	3,375	1,755	2,976
5月	329,331	308,992	103	16,898	6,674	14,714
6月	589,739	571,274	107	31,372	16,192	27,204
7月	624,284	603,758	113	33,274	17,272	28,750
8月	318,061	297,599	102	16,402	6,672	14,171
9月	597,408	577,632	104	31,680	18,744	27,506
10月	323,668	304,968	110	17,292	7,205	14,522
11月	92,055	72,611	103	4,223	1,148	3,458
12月	72,899	53,298	98	3,132	1,512	2,665
1月	78,929	59,250	98	3,390	1,620	2,963
2月	341,909	322,317	86	18,585	5,841	15,348
3月	76,945	60,750	107	3,348	1,188	2,893
合計	3,526,506	3,294,954	103	年間平均		14,683

(8) 虐待防止委員会、あり方検討委員会等、各種委員会の開催

虐待防止委員会及び身体拘束等の適正化対策検討委員会では、虐待防止マニュアルの見直し、虐待防止チェックリスト集計結果の考察、身体拘束等適正化指針の読み合わせを行った。また、12月16日（火）に虐待防止・身体拘束適正化に関して内部研修を実施し、福祉事業所におけ

る虐待事例を通した発見から通報までの対応等について、手順や通報先を確認した。

施設あり方検討会では、稼働率向上を目指すための具体的な取組として、SNS やポスティングを活用した広報活動や新リーフレットの使用について検討及び実施報告を行った。また、新設された就労選択支援について、制度の確認と近隣支援学校や自治体の動向について確認した。

感染症対策委員会では、12月19日（金）にさいたま市保健所感染症対策課感染症対策係から講師を招き、感染症対策研修の開催を通じて、感染症を正しく理解し、市内の感染症発生動向を確認した。また、研修後に保健所職員立会いのもと、感染症についてBCP対応訓練を実施した。

＜就労移行支援事業＞

就労アセスメントを通して利用者一人ひとりの特性の把握に努め、課題整理や自己理解の向上など、一般企業への就労意識を高めていく支援プログラムの提供に努めた。また、埼玉県障害者雇用総合サポートセンターを中心とした関連機関と情報を共有し、利用者に適した職場の開拓に努め、定員に対し60%（9名）の利用者が企業就労した。

なお、就労が実現した利用者に対しては、職員が職場を訪問し、担当者と情報を共有して適切な助言を行うなど、職場定着支援に努めた。

(1) 毎朝のミーティング、健康チェック、身だしなみチェック、体操の実施及び昼休憩後のリズム体操等の実施

毎朝のミーティングによる予定の共有、健康状態の確認、朝と昼休憩後に体操の時間を設けることで、利用者一人ひとりの健康意識を高めることができた。また、働く場にふさわしい身だしなみを確認し合うことで、不快感を与えない身だしなみの意識付けになった。

(2) 季節に合わせた年6回の運動を通して体力づくりを実施

体力づくりを目的に室内でのエクササイズ3回、大宮花の丘農林公苑、番場公園でのウォーキングや花見を3回実施し、楽しみを兼ねて体力づくりを行った。

(3) 暫定支給期間中の特別プログラムの実施

職業準備性の確認を中心に、ラーニング、ワーク、インタビューの3項目に分け、個別ワークとグループワークを交えながら働くための基礎作りを支援した。

(4) 防災学習プログラムの実施

さいたま市防災展示ホールへ行き、社会生活において必要な防災についての知識を学んだ。起震車や煙体験を通じて災害の恐ろしさや、職場だけでなく通勤途中で災害が起きた時の行動を学び、災害時の行動意識を高める機会となった。

(5) 向上心を育むための検定チャレンジと学習会を適行い、年に2回外部講師によるけん玉検定の実施

学習プログラムは就労に向けたテーマを設定し、1回は全体で、その他一人ひとりに合わせて個別に実施し、企業就労に向けた準備についてより理解を深めることができた。検定チャレンジでは作業の合間にけん玉の技の習得に向き合い、8月と3月に全員でけん玉検定にチャレンジし、認定証をいただいたことで、さらに上達したいという向上心につながった。

(6) ハローワークへの求職者登録及び求職活動、就労支援センターへの登録、埼玉障害者職業センターでの職業評価等、関連機関との連携

利用者全員に対しハローワーク求職者登録を実施し、必要に応じて地域就労支援センター登録、職業評価の案内、情報交換会等を通じて求人情報や企業見学、実習、短期雇用体験、委託訓練の機会を提供した。関連機関とは状況の共有や情報交換を常時行っており、従前どおりの連携を行うことができた。

(7) 適宜、必要に応じた移動訓練及び公共交通機関の利用体験

20名の利用者に対し、企業見学や実習、関連機関登録、外出等の機会を通じて公共交通機関の体験及び移動力の確認を行い、実習や求職活動における不安の解消に努めた。

(8) 企業見学、模擬面接、企業実習、委託訓練、短期訓練等就労支援の実施

企業見学16件、実習・短期訓練11件、委託訓練1件、トライアル雇用4件を行った。模擬面接は採用面接の練習ではなく、自己理解を高めるための面談に変更して実施した。

(9) 月5回、施設外就労の提供（リサイクルショップにおける商品化）

原則として月に5日間（毎週火曜日。火曜日が5回ない月は他1日）、13時30分～15時30分の時間帯でリサイクルショップでの商品化業務を請け負い、毎回、職員1名、利用者3名で出向し、商品化業務を行った。就職者多数により参加者を維持できず、令和7年11月30日付で契約を終了した。

(10) 就職後の職場訪問、相談等の定着支援

令和7年度に就労された利用者に対し、定期的な職場訪問や面談、電話、LINE、企業とのメール通信など約60回の定着支援を行った。

(11) 余暇活動の提供、関係支援機関の紹介

年末打上げ会、サマータイム、ウィンタータイムなど、季節に乗じた余暇を提供した。関係支援機関に関しては学習会等を通じて紹介した。

(12) 地域交流活動への参加

日進公民館にてクラフト工芸品の展示を行い、商品化に向けアンケートシールによるご意見の収集など広報活動を含めた地域交流活動を実施した。

<就労継続支援事業B型>

生産活動において、利用者の加齢による作業能力の変化に伴い、お一人お一人の強みや特性等の実情に合った受注作業の開拓及び再編に努めた。また、継続して埼玉県物産観光協会との業務委託契約を締結し、物産品等の箱詰め作業を受託した。

提供するサービスの質の向上のため、施設外就労の検討を進め、受注先の企業にて箱折り等の軽作業を開始した。

利用者のQOLの向上と社会生活の充実のため、日進公民館との交流や、フレンズタイム等の社会体験を通して、各々の楽しみや達成感を得られるように工夫し、充実した日々が送れるよう支援を行った。

(1) 毎朝のミーティング等の実施

毎朝のミーティングを通して日課を共有した。また、登所時及び退所時の検温、健康状態の確認、朝の体操、1日2回のリフレッシュ体操を通して、利用者一人ひとりの健康観察を行った。

(2) フレンズタイム

利用者の希望に沿う形で近隣ショッピングモールや鉄道博物館への外出を通して、利用者の楽しみや興味関心に沿った社会体験学習の場を提供した。

(3) 余暇の充実

クラブ活動では年3回、創作クラブ：スノードームとクリスマスオーナメントづくり、スポーツクラブ：グラウンドゴルフ、体操エクササイズを通して、利用者同士の交流を深め、各々が楽しみながら英気を養い、モチベーション向上に繋がる活動を提供した。

リフレッシュタイムでは、動画鑑賞やレクリエーションを通して、どなたでも楽しめる時間を設け、四季を感じられる軽食等を楽しんだ。

アートタイムでは、折り紙で花火の壁面を制作し、アート作品として日進駅ステーションギャラリーに展示を行った。また、アート活動を年間通して積極的に行い、近隣の学校や公民館、アートギャラリーへ出展と SNS での発信に力を入れた。

(4) 地域企業等との連携

受注先との連携でアジア雑貨の展示即売会を2回開催したことで、工賃の向上に繋がった。

(5) 利用者個人の適性に合った作業及び自主製品の創出

受注先の見直しや作業工程の細分化等により、利用者の作業能力や適性に合わせ、それぞれが力を発揮できるよう努めた。また、自主製品の開発にいたらなかったが、継続して様々なアイデアを模索した。

(6) 企業見学等の実施

今年度は企業就労を希望されている利用者がいなかったため、就労に関する支援の実施はなかった。

(7) アジアン雑貨の展示販売会の実施

6月、9月に展示即売会を実施し、地域住民の方々に日進職業センターを知っていただき、売上金の3割を工賃に計上した。

(8) 地域交流活動への参加

日進公民館作品展、日進駅ステーションギャラリー、さいたま市立大宮北高校文化祭、大宮シティロータリークラブ主催パラミュージアム in OMIYA 2026 などへの出展を、SNS とホームページで活動や作品紹介を行い、広報活動を含めた地域交流活動を実施した。

＜就労定着支援事業＞

職場訪問による面談及び電話や LINE、雇用先とのメールを利用したの相談、家族への報告を行った。また、関連機関と連携を密にし、職場定着に努めた。21 名が利用し、離職は発生しなかった。

(1) 月に1回以上の職場訪問及び当該利用者、企業担当者と面談

年間を通して210回以上の訪問、面談を実施した。

(2) 職場における状況把握及び課題解決に向けた助言、支援の実施

定期的に訪問することで利用者及び企業担当者和との関係を深め、課題や良い点などを把握し、必要に応じた助言や訪問回数を増やす等、職場定着に向けた支援を行った。

(3) 当該利用者、家族、雇用先企業の相談援助

利用者、家族とはメールや LINE を活用し、気軽に相談や報告ができるように努めた。また、企業の求める水準や課題に対し助言を行うなど、解決に努めた。

(4) 支援センター、医療機関等、関係諸機関との連絡調整

地域就労支援センターや相談支援事業所等と情報を共有し、職場定着に努めた。

(5) サービス利用中に離職する者への支援

職場環境、特に対人関係における対処が困難になった利用者に対し、在職中に転職支援を行うとともに、継続して定着支援を行った。

4 利用状況

＜就労移行支援事業＞

(1) 契約者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約	契約終了者	令和7年度末
男	8	8	10	6
女	3	1	2	2
計	11	9	12	8

(2) 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分

令和8年3月31日現在

年齢	受給者証	なし	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満		4	0	0	0	0	0	0	4
20歳以上30歳未満		2	0	1	1	0	0	0	4
30歳以上40歳未満		0	0	0	0	0	0	0	0
40歳以上50歳未満		0	0	0	0	0	0	0	0
50歳以上		0	0	0	0	0	0	0	0
計		6	0	1	1	0	0	0	8

(3) 障害者手帳（療育手帳、身体障害者手帳）に基づく障害等級区分

令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度㉠			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	0	0	0	0	0	0	4	1	5	1	1	2	1	0	1	6	2	8
合計	0	0	0	0	0	0	4	1	5	1	1	2	1	0	1	6	2	8

(4) 開所日数と延利用者数

開所日数	延利用者数	一日平均
242	3,055	12.6

<就労継続支援事業B型>

(1) 契約者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男	11	2	1	12
女	8	1	0	9
計	19	3	1	21

(2) 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分

令和8年3月31日現在

年齢	受給者証	なし	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満		0	0	0	0	1	0	0	1
20歳以上30歳未満		2	0	0	0	0	0	0	2
30歳以上40歳未満		4	0	0	1	0	1	0	6
40歳以上50歳未満		2	0	0	2	2	1	0	7
50歳以上		1	0	0	3	0	1	0	5
計		9	0	0	6	3	3	0	21

(3) 障害者手帳（療育手帳・身体障害者手帳）に基づく障害等級区分

令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度㉠			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	0	0	0	6	5	11	5	3	8	1	1	2	0	0	0	12	9	21
合計	0	0	0	6	5	11	5	3	8	1	1	2	0	0	0	12	9	21

(4) 開所日数と延利用者数

開所日数	延利用者数	一日平均
242	4,526	18.7

<就労定着支援事業>

(1) 契約者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約	契約終了者	令和7年度末
男	10	2	5	7
女	5	4	2	7
計	15	6	7	14

(2) 面談数及び訪問数

男性	女性	合計
117	95	212

5 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

① 健康確認、手洗い、うがい、手指消毒、定期換気の実施

登所時及び退所時の検温、石けんを使用しての手洗いとうがい、作業前、食事前手指消毒を徹底した。また、常時換気扇を作動させるとともに窓を開けての換気、定時館内消毒の実施など、感染対策に努めた。

② 感染症や食中毒等に関するリスク対応と防止策の検討及び実施

食事の時間を事業毎の交代制とし、食後のアルコール消毒及び換気を行い、感染対策を実施した。

③ 感染拡大防止対策の検討、見直し

感染症対策 BCP 及び感染症、食中毒の予防及びまん延防止のための指針の定期的な読み合わせを行い、12月19日（金）にさいたま市保健所感染症対策課感染症対策係から講師を招き、感染症対策研修の開催を通じて、感染症を正しく理解し、市内の感染症発生動向を確認した。また、研修後に保健所職員立会いのもと、感染症について BCP 対応訓練を実施した。

(2) 事故防止対策

① 作業室、廊下等の整理整頓及び棚、ロッカー等の配置への配慮

利用者一人ひとりが安全に生活できるように、作業室、廊下、倉庫、相談室の整理整頓及び棚、ロッカーの配置を見直し調整した。

② 発作や怪我等に関するリスク対応と防止策の検討及び実施

運営マニュアルの読み合わせを行い、職員間で共有化を図った。また、各事業で日頃から発作状況の変化や怪我等の対応について確認した。

③ 対応マニュアルの見直し等

運営マニュアルの読み合わせと回覧を通じ、見直しを行い職員間で共有化を図った。

(3) 人権擁護・虐待防止への取組

虐待防止委員会を開催し、虐待防止チェックリストや虐待防止に関する研修など、人権擁護に係る取組を推進した。

(4) 防犯対策

① 警備会社による機械警備（夜間、休業日）

機械警備を設置することで夜間及び休業日の防犯に努めた。

② 防犯講習会の実施（年1回）

大宮警察署生活安全課から講師を招き、不審者に遭遇した際に身を守るための、適切な対応を学ぶ講習会を実施した。

③ 防犯カメラの活用

モニターを通じて常時事業所の入口や建物西側の様子を確認し、日中の防犯に努めた。

④ 防犯火器取締り確認（毎日）

毎日終業時及び年2回チェック票に基づいた点検を行い、設備保全に努めた。

(5) 個人情報管理

法人情報セキュリティポリシー及び情報セキュリティ対策マニュアルを職員全員に配付するとともに、個人情報・情報セキュリティ対策研修の伝達研修を行い、個人情報管理の徹底に

ついて意識付けをした。また、お預かりした個人情報とは原則として鍵付きキャビネットに保管し、使用する際は必ず本人及び家族の同意を得るよう徹底した。広報活動に必要となる映像資料については映像提供確認書の提出をお願いし、使用制限について徹底して管理を行った。

(6) 災害対策

- ① 隣接する企業との「災害時相互援助協定」の継続及び近隣事業所との新規締結
新たに協定を提供した事業所はないが、令和6年度も隣接企業との間で災害時相互援助協定の継続を行った。
- ② 防災訓練の実施（年4回）
予定した4回の防災訓練を実施。第2回と第3回の防災訓練では、非常災害対策の訓練を同時に行い、それぞれ火災及び地震の被害拡大を想定し、二次避難所までの避難訓練を実施した。また、第4回は、さいたま市北消防署立ち合いの基に実施し、火災を想定した119番通報及び避難訓練を行った。避難訓練終了後、前庭にて職員全員と代表利用者による水消火器を使用した消火訓練を行った。
- ③ 法人危機管理計画及び日進職業センター消防計画に基づいた体制の充実
消防計画に基づいて対策を計画し、体制の充実を図った。また、災害時に対応した行動マニュアルを整備し、緊急時における行動を確認した。今年度も、さいたま市シェイクアウト訓練の参加、消防署立ち合いによる通報、避難、消火訓練を行い、防災に対する意識向上に努めた。
- ④ 災害の備蓄品の整備
チェック表を用いて消防用設備等の自主点検を実施した。一人につき、3食3日分の保存食と水の備蓄及び発電機、毛布、カセットコンロ、カセットガスボンベ、呼子笛、懐中電灯、担架、医薬品等、防災用品の整備を図った。
- ⑤ 災害対応BCPに基づいて訓練を実施した。

(7) 施設維持管理

- ① 修繕計画に基づく適切な施設管理
修繕計画の見直しを進め、設備の経年劣化による故障に対しては、緊急的な修繕を行い、適切な施設管理に努めた。
- ② 消防設備、空調設備、自動扉開閉装置等の定期点検の実施
計画に沿って各種保守点検を実施、適切な施設の維持管理に努めた。

(8) 施設あり方検討会

定例会4回と臨時会1回のあり方検討会を開催し、事業の経営について課題抽出と改善策等の検討及び効果測定を行った。

6 サービス向上計画

(1) 利用者の意見を反映する取組

- ① 利用相談
重要事項説明書に記載するとともに施設内に掲示し、利用相談窓口の周知に努めたが、ご意見はなかった。
- ② みなさまの声
施設内に回収箱を設置するとともに、施設たよりや施設内に掲示した二次元コードからもご意見をいただけるようにし定期的に集計を行っているが、ご意見はなかった。

③ 面談

就労移行では3か月に1回以上、就労継続支援事業B型では6か月に1回、就労定着支援事業では月に1回以上、個別支援計画に対する定期的な面談やフィードバックを実施した。

④ 利用者アンケート

令和7年10月に実施。それぞれの意見、要望に対し、ご理解いただけるよう誠意をもって回答した。また、いただいた意見や要望、それに対する回答は施設内の見やすい場所へ掲示した。

(2) 地域、関係機関との連携

① 地域との連携

近隣小学校や日進公民館等との連携強化に努めるとともに、地域協議会の構成員として会議に参加し、顔の見える関係づくりを継続して実施した。

② 関係機関との連携

必要に応じて行政機関や相談支援専門員、障害者生活支援センター、就労支援センター等と連携し、包括的な支援を行った。また、就労活動及び就労後の職場定着支援においても、関連機関と連携を図り、社会自立、就労自立の実現に向け、支援に努めた。

③ 特別支援学校、地域小中学校、地域教育機関等の連携

未来くるワークは2校から10名の生徒を受け入れた。また、特別支援学校9校から13名の実習生を受け入れ、職業生活や社会生活の場の経験を通じた、卒業後の生活に必要な力の育成向上の一助となった。その他、生徒、保護者、教員等5団体130名の見学を受け入れ、施設の取組について伝えることができた。

④ ボランティア活動の積極的な受入れ

匠ボランティア等の活用を検討したが、実施にはいたらなかった。

⑤ 快適で美しい道路環境づくり推進活動

さいたま市ロードサポート制度の認定を受け、行政と協力して市が管理する道路のボランティア清掃美化活動に取り組んだ。月1回、8名以上で実施し、施設の前の道路の美化活動に努めた。

⑥ 防災・防犯組織等、地域との連携を強化する

隣接する会社との災害時相互援助協定及び子どもひなん所110番の家の継続等、近隣との連携を図った。また、日進北小スクールサポートネットワークに継続して参画した。

(3) 専門性の向上

① 各種会議及び委員会の開催

毎朝夕のミーティングを通して利用者の様子や変化について情報を共有した。また、ヒヤリハットの報告をし、内容の検討、共通した支援、そのフィードバックを定期的に行った。

職員会議では施設長会議の報告、各事業のプログラムの共有、経営に関する意識向上を図った。また、サービス会議では心理判定員によるフィードバックの報告、外部研修の伝達、個別支援計画及び支援方法の共有、サービス自己評価、虐待防止・人権意識に関する意識向上を図った。

その他、各委員会にあつては前述のとおり。

② 派遣研修

事業団主催研修のほかに次の研修に参加した。

月	日	研 修 名	参加職員数
7	4	さいたま市北区災害対策研修会	1名
8	26	福祉事業所向けの仕事に繋がる営業から見積書作成のコツ	2名
11	17	埼玉県障害者就労支援センター等連絡協議会ブロック会	1名

12	18	さいたま市北区事業所交流会	1名
1	22	全事協関東・甲信越ブロック研修会	1名
	27	アート×デザイン×福祉 異分野をつなぐ新しい仕事・働き方	2名
	30	授産活動活性化セミナー「canva 講座」	1名
2	10	北区地域協議会主催「障害者虐待防止・権利擁護研修」	1名

③ 職場内研修

月	日	研 修 名	参加職員数
5	5	就労移行支援事業利用者との関りについて	5名
8	15	廃棄物の処理に関する研修（伝達研修）	16名
10	28	リスクマネジメント研修（伝達研修）	16名
11	18	アンガーマネジメント研修（伝達研修）	16名
12	16	安全運転研修（伝達研修）	16名
		人権擁護・虐待防止研修（伝達研修）	16名
		感染症対策研修（外部講師）	16名
1	20	ハラスメント防止研修（伝達研修）	16名
		セルフケア研修（伝達研修）	16名
2	25	個人情報・情報セキュリティ対策研修（伝達研修）	16名

④ 実習の受入れ

人事異動により、ソーシャルワーク実習指導者講習会修了者が不在のため、実習の受入れはなかった。

7 年間行事報告

<共通>

月	日	内 容	備 考
4	9	利用者健康診断	参加者38名
	10	さいたまロードサポート活動	参加者 8名
	25	防災訓練	参加者35名
5	7～30	公開活動	参加者18名
	9	さいたまロードサポート活動	参加者 8名
6	7	むし歯・歯周病予防教室	参加者35名
	11	さいたまロードサポート活動	参加者 8名
	27	防災訓練	参加者35名
7	10	さいたまロードサポート活動	参加者 8名
8	8	外部講師イベント（介護フラ）	参加者32名
		さいたまロードサポート活動	参加者 8名
	21	外部講師イベント（シナプソロジー）	参加者32名
9	10	さいたまロードサポート活動	参加者 8名
	26	防災訓練（シェイクアウト訓練）	参加者33名
10	10	さいたまロードサポート活動	参加者 8名
	24	地域交流活動（日進公民館）	参加者 5名
11	10	さいたまロードサポート活動	参加者 8名
12	10	さいたまロードサポート活動	参加者 8名
	26	年末打ち上げ会	参加者19名
1	9	さいたまロードサポート活動	参加者 8名
	23	防災訓練	参加者26名
2	6	むし歯・歯周病予防教室	参加者25名
	10	さいたまロードサポート活動	参加者 8名
	25	防犯講習会	参加者24名
3	10	さいたまロードサポート活動	参加者 8名

<就労移行支援事業>

月	日	内 容	備 考
4	4	体力づくり（お花見）	参加者13名
6	20	防災学習プログラム	参加者14名
	30	学習会	参加者14名
7	22	体力づくり（室内エクササイズ）	参加者15名
8	21	検定チャレンジ（けん玉）	参加者13名

9	26	体力づくり（室内エクササイズ）	参加者13名
		サマータイム	参加者13名
12	18	ウィンタータイム／体験学習プログラム	参加者11名
1	9	体力づくり（散歩）	参加者 8名
2	26	体力づくり（室内エクササイズ）	参加者 8名
3	6	検定チャレンジ（けん玉）	参加者 6名
	30	体力づくり	参加者 6名

＜就労継続支援事業B型＞

月	日	内 容	備 考
4	25	リフレッシュタイム	参加者20名
5	12～16	アートタイム（花火の壁面創作）	参加者21名
6	20	クラブ活動（スポーツ・創作）	参加者19名
7	16、25	フレンズタイム（イオンモール上尾）	参加者 9名
8	6、18	フレンズタイム（イオンモール上尾）	参加者 8名
	15	リフレッシュタイム	参加者19名
10	22	フレンズタイム（鉄道博物館）	参加者10名
11	12	フレンズタイム（鉄道博物館）	参加者10名
	14	クラブ活動（スポーツ・創作）	参加者20名
12	12	クラブ活動（スポーツ・創作）	参加者19名
1	5	歌会	参加者20名
3	13	リフレッシュタイム	参加者18名

【9】かやの木

1 自主運営

- (1) 生活介護事業
- (2) 就労継続支援事業B型

2 今年度の施設取組計画

<生活介護事業>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
利用者が主催となる利用者懇談会を年 3 回以上定例として実施する。	達成	司会の利用者を中心に、集団生活におけるルールやマナーについて話し合ったところ数名から意見が出た。意思表示が苦手な利用者もいるため職員がフォローしながら、互いの過ごしやすさについて考える機会を作った。
利用者居住区ケースワーカーとの情報共有会議を定例化するとともに、相談支援専門員との情報共有も行う。	未達成	主にモニタリングを通して各区の相談支援専門員と情報共有をしたが、定期的な会議には至らなかった。西区は、送迎範囲（中央区・桜区）外であることから、年度内は、送迎希望者にとっての新規利用の需要がなかった。
生活介護 100%	未達成	稼働率は 78.2%。見学や問合わせの多数が送迎を希望されていたが居住区が現在の送迎範囲（中央区・桜区）以外であり、送迎希望者のニーズに応えられないのが新規利用者の獲得に至らなかった要因である。また、既存利用者が自宅の近くの施設へ移ったこと、GHに入所するため契約終了となったことが稼働率の達成に至らなかった理由である。

<就労継続支援事業B型>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
利用者が主催となる利用者懇談会を年 3 回以上定例として実施する。	達成	司会の利用者を中心に、集団生活におけるルールやマナーについて話し合ったところ数名から意見が出た。意思表示が苦手な利用者もいるため職員がフォローしながら、互いの過ごしやすさについて考える機会を作った。
月額 19,500 円	達成	工賃の実績は月額 28,342 円平均であった。平均工賃を上げるには人数に応じた総売り上げの上昇を今後も目指していく必要がある。
稼働率 100%	未達成	稼働率 60.8%。施設公開日を設けた結果、参加者が利用契約へと結びついた。ただし、定員 10 人に対してはまだ 2 人足りていないため、広報に力を入れ認知してもらうことを目指す。また、特別支援学校見学者については、低学年層も受け入れることで将来の利用につながるよう受け入れの間口を広げていく。

3 実施報告

<共通>

(1) 利用者ニーズの把握

- ① 利用者個々の障害の特性、活動能力、本人の希望や意思を伺い個別支援計画を作成し、支援計画に則ったサービスを提供した。また、支援中の本人の様子についてご家族、相談支援専門員、ケースワーカーと情報を共有した。
- ② 利用者や家族へのアンケート、日々の傾聴などを通じて利用者ニーズを的確に把握し、施設プログラムに反映した。
- ③ 施設における利用者間の良好な関係の構築を円滑に進めることと利用者同士がお互い人権意識を醸成するため、利用者懇談会を 3 回開催した。

(2) 健康管理

利用者の健康診断、歯科検診、毎月の健康管理を実施した。

(3) 利用契約者の増加

7月、12月に施設公開日を設け、特別支援学校生徒・卒業生向けの施設公開を開催し、17組（43名）が訪れた。特別支援学校の生徒の実習の受入を行った。また、さいたま市障害者総合支援センター、桜区役所へ施設パンフレットを配布用に置いてもらった。9月、2月に1名ずつ新規契約した。

(4) 土曜日開所

施設の土曜日開所を3回行い、参加者とレクリエーション活動を行った。

<生活介護事業>

(1) 送迎サービス

新規に利用を開始される方の送迎の希望を聴取し、コースの調整を行い、送迎サービスを継続実施した。

(2) 健康増進活動

健康増進として散歩やレクリエーションを行うとともに、外出行事については近隣施設を利用して実施した。

(3) 生産活動支援

外注軽作業を提供。施設内外での活動を通し利用者の意向、適正を踏まえ自己選択できるよう多種作業を提供した。

（作業収入及び工賃支給状況）

月	収入総額	支給総額	平均作業日数(日)	一人あたりの工賃		
				最 高	最 低	平 均
4月	6,680	6,610	18.5	380	100	331
5月	120,194	120,130	17.5	6,910	1,380	6,007
6月	114,211	114,130	17.9	6,750	1,930	5,707
7月	147,454	146,520	18.9	8,980	1,180	7,326
8月	121,444	121,010	15.4	8,350	1,670	6,369
9月	103,012	102,840	16.4	6,950	1,750	5,413
10月	87,506	87,430	18.8	5,720	2,600	4,857
11月	116,876	116,220	15.5	8,400	2,330	6,457
12月	284,931	284,660	16.8	20,030	4,120	15,814
1月	356,174	343,210	16.3	24,280	6,050	19,067
2月	222,569	220,930	15.2	16,230	2,100	12,274
3月	301,921	189,680	16.8	13,430	4,030	11,158
合計	1,982,972	1,853,370	17.0	年 間 平 均		8,398

<就労継続支援事業B型>

(1) 販路の拡大

建替え終了に伴い製菓の製造を再開。安定した品質を保てるよう、専用器具の稼働状態、原材料の保管、焼き時間等の製造過程における調整を行った。委託販売先の開拓を行い、JA直売所4か所、埼玉県交流センター内むすび食堂において販売を開始した。

(2) 価格改定

材料の高騰に伴い、一袋あたりの内容量と価格の見直しを実施。8月から改定した。

(3) 法人内施設での販売

工賃向上及び社会体験として、老人福祉センターいこい荘のロビーでの直販を開始した。

① 事業所以外の製菓の主な販売場所

行事・イベント	販売日
JA 直売所4店	令和7年8月～（委託販売）
埼玉県交流センター むすび食堂	令和7年4月～（委託販売）
おかし屋マーブル（小児医療センター内）	令和7年4月～（委託販売）
かつぼ（埼玉県庁内）	令和7年4月～（委託販売）
パレット（すこやかプラザ内）	令和7年4月～（委託販売）
いこい荘	令和7年4月～（毎月販売会開催）
ピアショップ（中央区・桜区）	令和7年4月～（毎月販売会開催）
ふれあいばーく	令和7年7月24日
槻寿苑地域交流盆踊り大会	令和7年8月6日
さいたまの盆踊り（北与野駅）	令和7年8月21日、22日
彩の国マルシェ	令和7年10月11日
遊美保育園	令和7年10月18日
中央区民まつり	令和7年11月1日、2日
土手町プチマルシェ	令和7年12月20日
下落合公民館まつり	令和8年2月14日
グリーンヒルうらわ	令和7年12月15日、令和8年2月19日

② 作業収入及び工賃支給状況

月	収入総額	支給総額	平均作業日数 （日）	一人あたりの工賃		
				最 高	最 低	平 均
4月	234,200	118,680	20.8	20,170	18,960	19,780
5月	151,749	89,760	19.5	15,380	13,760	14,960
6月	254,160	170,020	20.5	29,080	26,780	28,337
7月	161,115	53,790	21.6	9,520	7,860	8,965
8月	387,621	220,270	18.0	41,290	27,880	36,712
9月	232,752	200,420	18.1	32,280	19,830	28,631
10月	308,730	216,850	20.4	34,010	26,240	30,979
11月	298,940	218,200	16.1	38,180	18,200	31,171
12月	369,919	285,240	16.2	50,760	31,260	40,749
1月	317,588	216,050	18.1	31,740	29,010	30,864
2月	331,892	232,250	15.7	33,410	10,380	29,031
3月	486,206	319,400	18.6	45,930	9,870	39,925
合計	3,534,872	2,340,930		年 間 平 均		28,342

4 利用状況

＜生活介護事業＞

(1) 契約者数 令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男	13	0	3	11
女	6	0	0	6
合計	19	0	3	17

(2) 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分 令和8年3月31日現在

年齢 \ 区分	なし	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0
20歳以上30歳未満	0	0	0	0	3	5	0	8
30歳以上40歳未満	0	0	0	0	1	2	0	3
40歳以上50歳未満	0	0	0	0	1	2	2	5
50歳以上	0	0	0	0	0	1	0	1
計	0	0	0	0	5	10	2	17

(3) 障害者手帳（療育手帳、身体障害者手帳）に基づく障害等級区分 令和8年3月31日現在

療 育	最重度㊦			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
身障																		
1級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	3	0	3	8	6	14	0	0	0	0	0	0	0	0	11	6	17
合計	3	0	3	8	6	14	0	0	0	0	0	0	0	0	11	6	17

(4) 開所日数と延利用者数

開所日数	延利用者数	一日平均
247	3,862	15.6

<就労継続支援事業B型>

(1) 契約者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男	3	2	0	5
女	2	1	0	3
合計	5	3	0	8

(2) 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分

令和8年3月31日現在

年齢 \ 区分	なし	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満	0	1	0	0	0	0	0	1
20歳以上30歳未満	0	2	1	0	1	1	0	5
30歳以上40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0
40歳以上50歳未満	0	0	1	0	0	0	0	1
50歳以上	0	0	0	0	1	0	0	1
計	0	3	2	0	2	1	0	8

(3) 障害者手帳（療育手帳、身体障害者手帳）に基づく障害等級区分

令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度D			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	1	0	1	1	1	2	3	2	5	0	0	0	0	0	0	5	3	8
合計	1	0	1	1	1	2	3	2	5	0	0	0	0	0	0	5	3	8

(4) 開所日数と延利用者数

(人)

開所日数	延利用者数	一日平均
247	1502	6.1

5 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

感染予防対策として、マスクの着用、手洗いうがいの励行、アルコール消毒の促進を行った。適宜館内消毒を行い、衛生的な環境づくりに努めた。また、感染症BCP対策として、送迎車両内で嘔吐等の行為があった場合に使用する衛生用品のキットを車両に備え付けた。

(2) 事故防止対策

玄関、作業室、廊下、食堂、更衣室、トイレの掃除、整理整頓に努めた。

(3) 防犯対策

浦和西警察署生活安全課に依頼し防犯講習会を実施。併せて不審者対応マニュアルの確認を行った。

警備会社による機械警備(夜間、休館日)を実施した。

(4) 個人情報管理

利用者に関するファイルを使用時以外はキャビネットに収納し施錠をする等日常業務における個人情報保護管理を徹底した。

(5) 災害対策

危機管理研修の研修を職員が受講、施設内で伝達研修を行った。

自然災害 BCP 対策に基づき、防災訓練(年 2 回)及び自主避難訓練(年 1 回)を実施した。

(6) 施設維持管理

施設、駐車場の点検を行い、修繕の必要な箇所をリストアップして、1 年点検時に建設会社と情報共有し修繕可能な部位の修理を行った。

(7) 施設のあり方検討

施設認知度の向上と新規利用者の獲得、経営の効率化等の課題に取り組んだ。

(8) 虐待防止・人権擁護

①虐待防止委員会を年 3 回開催。虐待防止チェックリストについての振返りを踏まえ個別事例について共有した。虐待防止マニュアルを全職員に周知するとともに見直しを検討した。

②人権擁護研修を職員が受講し、施設内で伝達研修を行った。障害者虐待に関する法令の周知、条例について研修を実施した。

6 サービス向上計画実施状況

(1) 利用者の意見を反映する取組

① アンケートの実施・結果の周知

利用者アンケートを実施し意見を集約するとともに、施設内に掲示した。

② 面談等の充実

個別支援計画等に係る面談を年 2 回実施し、情報提供、意見交換を行った。

③ 利用者懇談会で利用者の意見を聴取した。

④ 苦情相談についての窓口を設置し、施設玄関に掲示、重要事項説明書に記載することで利用者家族に周知した。苦情解決体制の再確認を行った。年度内で苦情は 0 件だった。

(2) 地域、関係機関との連携

① 中央区・桜区・浦和区・南区相談支援センターとの利用者情報を共有した。

② 「未来くるワーク体験」与野南中学校生徒 2 名の実習を受け入れた。

③ 与野本町小学校と連携し、生徒の登下校時の「こども避難所 110 番の家」として継続した。

④ 鈴谷公民館でアート作品展、下落合公民館のイベントで製菓販売、地域内の空き缶回収を隔週で実施した。

⑤ さいたま市中央区下町自治会と災害時相互援助協定を締結。

(3) 専門性の向上

事業団事務局及び研修委員会で企画する研修のほか、次の研修に参加した。

① 外部派遣研修

月	日	研 修 名	参加職員数
7	22	人間関係を円滑に進めるための福祉職員向け接遇研修	2名
9	6	苦情対応研修	1名
10	15	多職種連携研修	1名
	7	人事評価者研修	3名
11	11	ハラスメント防止研修（管理職）	1名
	13	サービス向上研修	1名
	20	ハラスメント防止研修（一般職）	1名
	27	人権擁護研修	1名

1	23	危機管理研修 安否確認システム運用研修	7名
2	3	防犯研修	9名

② 職場内研修、外部研修受講職員からの伝達研修

月	日	研 修 名	参加職員数
6	13	メンタルヘルス研修	1名
11	13	感染症対策研修	5名
	28	安全運転研修	1名
12	6	BCP 研修	6名
2	13	人権擁護虐待防止研修	6名
3	27	個人情報保護研修	9名
	31	感染症対策研修	9名

③ 会議の開催

毎月職員会議、虐待防止委員会、ケースカンファレンスを開催した。

7 年間行事報告

(1) 社会体験活動

月	日	内 容	備 考
4	24、25	舟和 浦和工場売店	利用者19名
6	26、27	さいたま市防災センター	利用者21名
9	22、26	外出活動 サイボク	利用者22名
11	26、27	さいたま市環境センター	利用者23名
1	9	与野七福神巡り	利用者22名
3	9、12	造幣局見学	利用者22名

(2) 各事業共通

月	日	内 容	備 考
4	4	落成式	利用者25名
5	23	クラブ活動	利用者22名
6	20	避難訓練	利用者25名
7	3	歯科健診（与野歯科医師会）	利用者18名
	25	クラブ活動	利用者15名
8	8	さいたま市体を動かすレクリエーション教室	利用者19名
10	10	避難訓練・消防訓練（火災）	利用者23名
	24	クラブ活動	利用者17名
11	22	宇宙劇場プラネタリウム鑑賞、さくら草運動レクリエーション	利用者13名
12	5	ジョギング	利用者12名
	11	食品衛生出張講座	利用者21名
	19	お楽しみ会	利用者19名
	20	音楽ボランティア	利用者 7名
	25	交通安全講習（浦和西警察署）	利用者18名
1	19～30	創作活動 鈴谷公民館展示（アート支援プロジェクト）	
2	6	クラブ活動	利用者13名
	27	避難訓練（地震）	利用者23名
	17、18	健康診断（浦和医師会健診センター）	利用者24名
その他		家族懇談会（年3回）4月19名、10月12名、月9名 利用者懇談会（年3回）7月26名、9月16名、1月21名	

【10】障害者福祉施設みのり園

1 指定管理（令和7年度～令和11年度）

障害者福祉施設（身体障害者福祉センター及び障害者のための福祉施設）

2 自主事業

放課後等デイサービス事業（放課後デイサービスみのり）

3 今年度の施設取組計画

＜障害者福祉施設＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
虐待防止委員会を4カ月に1回以上、職場内研修（人権擁護）を1年に2回以上実施する。グレーゾーンについて1年に2回以上会議で検討する。	上回って達成	計画に沿って取組を行い、虐待の防止について学ぶとともに、職員間の意識統一を図った。チェックリストの結果に基づき、虐待事例を基にした検討会を研修に取り入れて実施し、不足していると感じた部分を職員間で確認し合うことができた。
新規教室事業を5つ以上実施する。	達成	3色パステル、クラフトに加え、ミニクッキング、サイクリング、ステンドグラス風制作の5つの新事業を実施することができた。3色パステルについては、10月の「みのりフェス」で体験コーナーを設け、これにより後期の参加希望者の増につながった。
新規利用者の対前年度比14%以上増加。	上回って達成	令和7年度の新規利用者は22名となり、前年度比175%の増となった。みのりフェスやうちのフェスティバル、三橋六丁目自治会文化祭といったイベントを通じて地域の多くの方にみのり園の存在を知っていただくことができ、新規利用者の増につながった。また、今年度はひまわり特別支援学校でもみのり園事業について説明させていただく機会を得て、新たなアプローチに着手した。

＜放課後等デイサービス＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
虐待防止委員会を4カ月に1回以上、職場内研修を1年に2回以上実施し、グレーゾーンについて1年に2回以上会議で検討する。	上回って達成	計画に沿って取組を行い、虐待の防止について学ぶとともに、職員間の意識統一を図った。チェックリストの結果から、虐待事例を基にした検討会を研修に取り入れて実施するとともに、通報に係る訓練を行った。
専門性向上のために研修に年間1人1回以上参加し、内部研修を3人以上講師となり行う。	上回って達成	計画的に取り組むことができ、目標以上の成果が得られた。情報共有によりチームワークが強化され、研修で得た知識を日々の業務に生かすことができた。内部研修の実施により、伝達する側の伝える力を伸ばすとともに、伝達される側の知識や意欲の向上も図ることができた。
前年度収入比5%以上の増加	上回って達成	修繕の完了に伴い元の園舎に戻ったが、他事業所に流れた方の利用が戻ることはなく、昨年利用制限の影響が感じられた。ただし、新入生2名が入園したことから、稼働率は前年度よりも微増となっている。今年度の取組については計画どおり実施することができ、令和7年度は前年度比22%増となったため、上回って達成できた。（※R6年度：¥11,022,260-/R7年度：¥13,465,831-）

4 実施報告

＜障害者福祉施設＞

(1) 障害者の福祉の増進及び文化教養の向上を目的とした各種教室の開催

- ① 手編み、茶道、太鼓、ヨガ、料理、パッチワーク、3色パステルアートダンス、お菓子作り、パン作り、毛筆、硬筆の各種教室事業を実施した。
- ② 岩槻区の療育センターひなぎく内交流室で手編み教室とクラフト教室を開催し、遠方の利用者にも配慮した広域的な事業展開を実施した。
- ③ 紙面での広報のほか、HPやSNSを使用した広報活動の結果、新規利用者の獲得や各事業の宣伝につなげることができた。
- ④ 教室参加者への聞き取りやアンケートの結果に基づき5つの新規事業を立ち上げ、教室事業の拡充を行った。
- ⑤ 各教室で制作した作品をデータ化し、前期・後期に分けて、ホームページ上で作品展示を行った。

(2) 就労している障害者等に対する離職予防や余暇の有効利用等の事業の実施

- ① さいたま市障害者総合支援センターから受託する「就労障害者等余暇クラブ」業務の実施にあたり、遠方の利用者に対する配慮として、みのり園だけではなく見沼区にある春光園けやきを会場として使用し、近隣の岩槻駅からリフト付き送迎車を運行して広域的に事業展開を行った。
- ② グループ活動や季節行事などを通して体験の幅を広げ、仲間づくりを支援し、勤労意欲の維持・向上に向けた取組を行った。
- ③ 創作活動での作品を近隣の内野公民館や西部文化センターで展示したほか、埼玉県障害者アート企画展への出品等、作品展示の機会を多く設け、利用者の創作意欲の向上や社会との接点の拡大につながった。
- ④ 利用者の家庭・職場内の心配事、人間関係の問題や離職に関する個別相談を随時行い、必要に応じて相談支援等の関係機関につなげることで問題の解決にあたった。
- ⑤ 家族懇談会を実施し、利用者やご家族の抱える将来の生活に対する不安や悩みを聞き、同じ課題を抱えるご家族同士の交流の場を設けた。特に、例年共通課題として挙がる将来の生活基盤について、法人内他施設や西区障害者生活支援センターの相談支援員にも協力いただき、直接質疑できる場を設けた。

(3) 在宅の障害者に対する創作活動、レクリエーション、外出活動の機会の提供（木曜クラブ）

- ① 創作活動、外出活動、季節の行事の機会を通して、生活体験の幅を広げた。
- ② 誕生会やレクリエーションゲーム等を行い、参加者相互の交流を図った。
- ③ 創作活動で利用者の創作意欲を高め、社会との接点を広げることができた。

(4) 障害者福祉施設利用者等に対しての余暇活動

レクリエーション等の活動を通して、参加者同士の交流を深め、親睦を図った。

(5) 発達障害者支援事業の実施

発達障害者を対象に、創作・レクリエーションなどの活動、利用者同士の交流、仲間づくりを通じて、安心でき、居心地の良い場の提供に努めた。

(6) 障害者団体への活動の場の提供

障害者関係団体や教室等の参加を経た障害者による自主的クラブに対して、活動の場の提供やロビーを利用した作品展、グループ紹介の機会を提供した。

(7) 各種相談の受付や情報の提供

障害者やその家族に対して人間関係や職場での悩み等の相談に随時応じた。また、障害者雇用や各種福祉サービスの情報、相談機関の情報等を把握し、必要に応じて提供した。

(8) その他の事業（作品展の開催、ボランティア・見学者の受入れ）

① みのりフェス（旧みのり園作品展）を通じて広く市民に障害について理解を深めてもらうとともに、障害者の社会参加や創作意欲の向上等に努めた。

② 令和7年度は、介護等体験7名、夏のボランティア13名を受け入れ、育成を支援した。また、みのり園の事業に興味がある方の見学を随時受け入れ、内覧や事業説明を行った。

(9) 視覚障害者への情報サービスの提供

視覚障害者に対し、朗読グループの協力を得て、各種情報をCDやカセットテープに録音して郵送した。

(10) 健康管理に関する業務

ボッチャ教室やヨガ教室、ダンス教室、ウォーキングなど、適度に体を動かすプログラムを提供し、利用者の健康の保持や増進を図った。

(11) 送迎車の運行

教室等の参加者が来園しやすくするため、リフト付き送迎車を運行した。

(12) 虐待防止委員会等の各種委員会の開催

施設内の虐待防止委員会を年に5回開催し、グレイゾーンについての検討や利用者支援のあり方について話し合いを行った。また、委員会主催の虐待防止研修を5回実施し、障害者権利条約や障害者虐待防止法の内容確認、さいたま市障害者相談支援指針の読み合わせ、グレイゾーンについての検討等を行った。法人内の虐待防止委員会代表者会議に施設長が毎月出席し、虐待防止に関する施設間の意見交換や虐待防止の取組を推進した。

(13) あり方検討会の開催

年間2回開催し、教室事業の見直しや感染症対策、業務の効率化、収入増、サービス向上等をテーマに検討を行った。

<放課後等デイサービス>

(1) 自主事業として、放課後等デイサービス事業による障害児の放課後支援を行った。主にひまわり特別支援学校の在校生を対象に、授業のある日は学校終了後から18時まで、授業のない日は10時から18時まで創作活動やレクリエーション、生活能力向上のための支援等を行った。

(2) 令和4年度から開始した送迎サービスを継続して利用者の利便性の向上を図り、利用率の向上につなげた。

(3) 利用者支援について、ひまわり特別支援学校と情報交換を行い、連携を図るとともに、個別支援計画に必要な内容を取り入れた。

(4) 春期、夏期、冬期の各休暇中の時間延長（利用開始時間を12時30分から10時に繰り上げ）を実施し、利用者サービスの充実と利用率の向上に努めた。

(5) 感染症の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会を開催し、感染を未然に防止し、発生した場合は感染症が拡大しないように対策を行った。また、看護師が講師となり内部研修を実施し、施設として情報共有を図った。

(6) 身体拘束の適正化のための対策を検討する委員会を開催し、送迎時等の事故や怪我の防止を目的として、利用者個々の状況に合わせた留意点や固定ベルト等の適正な使用方法を確認した。結果については、職員会議や打ち合わせ時に全体共有した。

5 利用状況

＜障害者福祉施設みのり園＞

開園 日数 (日)	障 害 別									団体 利用	健全者	合計
	身体障害者					知的 障害者	精神 障害者	手帳 なし	小計			
	視覚	聴覚	音声言語	肢体	内部							
290	17	73	0	114	2	1,118	336	0	1,660	340	2	2,002

＜放課後デイサービスみのり＞

(1) 契約者数 令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男児	2名	2名	0名	4名
女児	8名	1名	0名	9名
合計	10名	3名	0名	13名

(2) 年齢区分 令和8年3月31日現在

年齢	小学部(1～3年)	小学部(4～6年)	中学部	高学部	合計
男児	1名	0名	3名	0名	4名
女児	4名	4名	1名	0名	9名
合計	5名	4名	4名	0名	13名

(3) 障害者手帳（療育手帳、身体障害者手帳）に基づく障害等級区 令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度㊦			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	2	7	9													2	7	9
2級	1	2	3													1	2	3
3級																		
4級							1	0	1							1	0	1
5級																		
6級																		
なし																		
合計	3	9	12				1	0	1							4	9	13

(4) 開所日数と延利用者数

開所日数	延べ利用人数	一日利用平均
240日	737人	3.1人

6 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

- ① 感染症対策マニュアルに基づき、日常的な清掃の他に、消毒等施設内の環境整備、衛生対策を行い感染症の発生予防と流行やまん延の防止に努めた。
- ② 施設利用時や送迎車両乗車時に検温と手指消毒を実施し、感染症予防を行った。
- ③ 事業の実施にあたっては、参加者の体調確認や定期的な換気、消毒等、看護師を中心とした感染症対策を実施した。

(2) 事故防止対策

- ① ヒヤリハット（事件・事故）を活用し、未然に同様の事故を防ぐと同時に、軽微な事故・怪我等に対しては、業務日誌等に記録として残すことで、迅速で確実な情報共有を行った。
- ② 障害等の特性や配慮が必要なことをケース会議や個人記録等で共有するとともに、医療的ケアが必要な利用者には看護師が中心となり、学校や医療機関などとの連携を図った。
- ③ 建物・施設設備・機械類の定期点検、整備、必要に応じた修繕を行い、事故防止に努めた。また、施設内の各部屋の整理整頓に努めた。

(3) 防犯対策

9月と10月に防犯訓練を実施し、不審者が施設内に入ってきたことを想定して、対応方法に

について検討と共有を行った。また、自動ドアの改修により、防犯機能の向上を図った。

(4) 個人情報管理

情報管理者と情報セキュリティ担当者を配置し、想定されるリスクに対応できる管理システムに則り、定められた取扱手順に従ってチェックを行った。内部研修により、全職員で個人情報管理についての知識を共有した。

(5) 災害対策

- ① 対策マニュアルの見直し、非常用備蓄品の整備及び非常食の備蓄、防災設備の点検及び維持管理、施設内外の危険箇所のチェック、利用者の情報の管理等を、担当者を中心に行った。
- ② 同敷地内にあるひまわり学園、ひまわり特別支援学校との年2回の合同防災訓練に、ひまわり学園自衛消防隊の一員として参加した。また、みのり園独自に避難訓練を年12回実施した。

(6) 施設維持管理

- ① 同敷地内にあるひまわり学園と共通の「自主検査チェック表」により、設備管理の不具合や危険物の確認を行った。
- ② 「建物・設備の定期点検表」を使用し、危険箇所や設備不具合の確認を定期的に行った。
- ③ 「火元・戸締チェック表」を使用し、毎日、施錠の確認及び安全の確認を行った。
- ④ 警備会社に委託し、夜間休日中の施設の安全管理を行った。
- ⑤ 館内の日常清掃は職員が実施し、年2回の定期清掃は業者に委託して行った。施設建物周辺の清掃については適宜職員が行った。

7 サービス向上計画実施状況

(1) 利用者の意見を反映する取組

- ① 利用者アンケート・みなさまの声、放課後等デイサービス評価表を通して利用者の意見を聴き、新規教室事業の開催や放課後デイサービスの事業運営に反映させた。過去にご家族からいただいた意見を基に、放課後デイサービスの送迎サービスを継続実施した。
- ② 実習生やボランティアを受け入れた際にはアンケートを実施して意見を聴取するとともに、いただいた意見を施設運営に活用した。
- ③ 苦情に対して、迅速に対応する体制を整備するとともに、利用者からの意見や要望に対して迅速に対応した。
- ④ 利用者の希望に応じて個別面談を実施した。

(2) 地域、関係機関との連携

<障害者福祉施設>

- ① 近隣の西部文化センターを会場としてみのりフェスを実施し、地域の福祉施設や中学校、ダンススクール等にステージ発表を依頼するなど、地域交流を図った。みのりフェスでは法人内外の地域の福祉施設にも声をかけ、共同して利用者作品の展示を行った。
- ② 各区支援課・障害者生活支援センター・関係福祉施設等と連携し、利用者の状況に合わせ、必要に応じて支援課ケースワーカー等との会議を実施した。
- ③ 西区地域生活支援拠点ネットワークの一員として、地域協議会の会議（おとな部会）に参加し、地域の関係機関との連携を深めた。

<放課後等デイサービス>

- ① 送迎サービスを継続し、ご家族の送迎負担の軽減、サービス向上を図った。
- ② 担任の先生と利用児に関する情報交換を行うなど、ひまわり特別支援学校や相談支援事業

所との連携を図り、支援内容の向上につなげた。

- ③ 西区地域生活支援拠点ネットワークの一員として、地域協議会の会議（こども部会）に参加し、地域の関係機関との連携を深めた。

- ④ 近隣の放課後等デイサービスに施設見学に行き、施設運営に関する情報交換を行った。

(3) 専門性の向上

① 職員研修の実施

施設の研修計画に基づき、事業団主催研修のほか、次の研修に参加し、職員の専門性の向上に努めた。

ア 外部派遣研修(web参加含む)

月	日	研修名	参加職員数
5	15	衛生推進者養成研修	1名
		TAMAP研修会「アート企画展作品選考に向けての研修」	1名
7	2	地域支援体制整備事業「集団生活の中で、子どもの育ちを支える」	1名
	30	発達障害のある子どもを育てる親支援	1名
8	19	人材育成研修	1名
11	17	令和7年度医療的ケア児支援要請講座（医療・保健）	1名
	26	令和7年度医療的ケア児支援要請講座（災害対策支援）	1名
	6	さいたま市指定障害児通所支援事業者研修	1名
	15	令和7年度総合療育センターひまわり学園施設見学会	1名
12	—	埼玉県医療的ケア児等支園養成講座「摂食嚥下・口腔ケア」（動画視聴）	6名
	—	ひまわり学園療育講座「手軽にできる!姿勢が崩れるお子さんへの対応」（動画視聴）	5名
1	11	医療的ケア児多種職連携研修	1名
	22	アート支援権利擁護研修「クイズで学ぶ法律知識」	1名
	30	西区地域協議会部会合同防災講座	3名
2	22	埼玉県児童発達支援事業職員実践セミナー	2名
3	3、10	サービス管理等実践研修	1名
	17	医ケア災害研修	1名

イ 職場内研修

月	日	研修名	参加職員数
4	14	文書事務に関する研修	8名
	25	SNS投稿研修	5名
		ICT操作説明研修	8名
5	27	虐待防止研修(1)	8名
		前例主義について	8名
7	7	感染症対策研修(1)	8名
		身体拘束等適正化研修(1)	8名
9	8	虐待防止研修(2)	8名
	30	職員倫理綱領研修	8名
10	3	虐待防止研修(3)	8名
11	17	身体拘束等適正化研修(2)	8名
	25、26	創処置研修	7名
12	1	虐待防止研修(4)	8名
	8	感染症対策研修(2)	8名
1	13	障害児のあそびとその内容	6名
	26	救命講習	6名
2	2	虐待防止研修(5)	8名
3	17、31	情報セキュリティ研修（伝達研修）	8名
	17	BCP研修	7名

8 年間行事報告

(1) 教室事業（通信講座参加者含む）

区 分	事業名	日 数	備考
みのり園教室事業	手編み教室（みのり）	9日	48名
	茶道教室	8日	25名
	太鼓教室	8日	16名
	ヨガ教室	8日	30名
	パッチワーク教室	8日	44名

区 分	事業名	日 数	備考
みのり園教室事業	毛筆教室	8日	36名
	硬筆教室	8日	33名
	陶芸教室	8日	37名
	3色パステル教室	8日	36名
	ステンドグラス風制作	1日	6名
	ウォーキング	1日	2名
	散策	1日	7名
	パン作り教室	1日	3名
岩槻区実施事業	手編み教室（岩槻）	8日	36名
	クラフト教室	4日	13名

(2) 離職予防事業

区 分	事業名	日 数	備考
障害者離職予防事業（みのり園会場）	余暇クラブOB会（さいたま市就労障害者等余暇クラブ）	22日	416名
障害者離職予防事業（春光園会場）	余暇クラブOB会（さいたま市就労障害者等余暇クラブ）	22日	295名

(3) 在宅障害者対象事業（木曜クラブ）

区 分	事業名	日 数	備考
在宅障害者対象事業	木曜クラブ	38日	146名

(4) 週末プログラム（土曜日、日曜日実施）

区 分	事業名	日 数	備考
入所・通所施設利用者・在宅利用者対象事業	カラオケ	5日	42名
	eスポーツ	4日	18名
	ウォーキング	3日	16名
	散策	5日	35名
	お菓子作り教室	2日	11名
	ボウリング大会	3日	25名
	サイクリング	1日	4名
	ボッチャ教室	2日	13名
	パン作り教室	2日	12名
	ダンス教室	3日	22名
	ボッチャ体験	2日	12名
	料理教室	1日	6名
	ミニクッキング	1日	4名

(5) その他

- ① 障害者団体支援事業として、自主サークル等開催回数延べ29回、障害者団体等利用者延べ340名に対し、活動の場を提供した。
- ② 各種相談、情報提供事業として、利用者46名に対して個別に相談を実施した。
- ③ 視覚障害者への情報支援として、みのり園だよりの音声テープを延べ89人に発送した。
- ④ 令和7年度は延べ37名の実習生を受け入れ、福祉人材等の育成に寄与した。

【11】大砂土障害者デイサービスセンター

1 指定管理（令和7年度～令和11年度）

- (1) 生活介護事業
- (2) 自立訓練（機能訓練）事業
- (3) 相談支援事業（特定相談支援事業、障害児相談支援事業）

2 今年度の施設取組計画

＜生活介護事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
・児童クラブとの交流事業を計画、実施（2回以上） ・アーティストボランティア等による活動の実施（1回以上）	上回って達成	e スポーツイベントでは、回を増すごとに子供達と利用者の交流も盛んになり、ゲームを通して良好なコミュニケーションが取れている。また、子供達からは、今後につながる要望も聞くことができ、更なる発展が期待できる。アーティストボランティアコンサートでは、全員で合唱するなど、毎回盛り上がりを見せている。体を動かすレクリエーションは、昨年度も好評だったため、本年度も申し込みをした。そのため、2回目も申し込んだが不選考になった。今後は、他の外部レクリエーションを探すことも必要と考える。
予定日外の利用受入れ（80%以上）	上回って達成	予定外の利用については、まだ特定の方に限定されているが、可能なこと分かったと気軽に相談してもらえるようになった。今後も、懇談会を中心として、発信を続けたい。また、活動内容や給食のメニューなどを楽しみにして、臨時利用や欠席をキャンセルする方がいた。そのことを受け、帰りに、翌日の予定、トピックスを伝え、通所意欲を高める取組を始めた。
生活介護年間稼働率 94%	上回って達成	SNS での発信は不十分だったため、次年度はInstagramなどの投稿を実施する。当施設の自立訓練事業、相談支援事業との連携は継続しつつ、他法人の相談支援事業所やグループホーム、同生活介護事業所などとも連携し、当事者が最適な利用先として選択できるような状況を整えるよう努める。

＜自立訓練（機能訓練）事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
職員全員が、日々の利用を通じて利用者ニーズを確認できる柔軟な対応力を身につける。	達成	機能訓練職員全員が、約3か月の計画作成期間に捉われず意識的に情報収集することを共有し定着できた。また、機能訓練職員に限らず施設職員全員が、利用者と会話する機会も増えて多様な情報を得られ支援に反映できた。
・サービス管理責任者研修受講修了者2名以上の確保 ・機能訓練事業に関する研修1種1名参加	達成	サービス管理責任者の資格保持者は、3名在籍している。今年度の新規・更新の研修参加はなかった。機能訓練事業に関する研修については、必要な研修を選択して積極的に受講した。今年度は、資格要件に関する減算（福祉専門職員配置等加算Ⅰ→Ⅲ）を生じた。
年間稼働率 80%	上回って達成	令和7年度の年間稼働率は110.1%。前年度同様、他サービス利用と重複しない利用者に空きの予約枠をお伝えして利用に繋がられた。また、事前に欠席枠の利用を希望する利用者には積極的に声かけをした。利用者送迎についても引き続き実施することで欠席を減らし利用日数の確保に繋がられた。

＜相談支援事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
これまで協働していない新たな事業所へ訪問する。（2件）	上回って達成	今年度は新規に、サニースポット宮原（共同生活援助）、さかど療護園（施設入所）、嵐山郷（施設入所）、キラキラ本郷（放課後等デイサービス）など計9事業所に訪問した。様々な分野の事業所へ訪問し、利用者の情報共有を行った。事業所に訪問することで、事業所の担当者との情報共有が円滑になり、同じ方向を向いて支援をすることができた。

優先度の高いケースから、聞き取りを実施する。（10 ケース）	上回って達成	8050 世帯 10 名、単身生活者 1 名の計 11 名の状況の確認を行った。聞き取りを行う中で、「今のままの生活が続いていけば良い」という意思を持ったご家族が多かった。しかし、聞き取りを行った方の中には、ご家庭の今後を見据え、短期入所や居宅介護などの新たに福祉サービスにつながるケースもあった。 引き続き、モニタリング等の際には、ご本人、ご家族から家庭状況を聞き、家庭の状況を把握していくとともに、今後の支援に向けてのサービスや成年後見人制度等の説明をしていき、困ったときにはサービスを利用できる体制を整えていけるようにしていく。
事例検討会と勉強会を各 1 回以上実施する。	上回って達成	事例検討会では、児童と者のそれぞれの事例についてグループに分かれ検討会を行ったことで、複数の職員で意見を出し合い、様々な視点からの支援に気づくことができた。 勉強会では、「子ども支援・保護者の支援に対する相談員のかかわり～こどもと保護者を支えていくために心がけること～」の講義を聞き、子どもとその保護者に対する支援をする上でのポイントを知ることができた。また、各地域支援協議会の参加状況を共有することで、各区の現状を知ることができた。

3 実施報告

<共通>

- (1) アセスメントを実施しニーズを把握するとともに、ニーズに沿ったサービスを提供した。また、定期的にモニタリングを実施し、提供するサービスの充足度を確認した。
- (2) 支援を振り返る機会を持つとともに、外部研修の受講及び内部研修の実施を通して、意識を高め、人権擁護や虐待防止を徹底した。
- (3) 意思形成や意思表出を支援することで、利用者が自ら意思決定し、自己実現できるよう支援した。
- (4) 積極的にボランティアを受け入れ、開かれた施設を目指すとともに、関係機関との連携を密に図り、支援のネットワークを構築した。

<生活介護事業>

利用者ニーズを把握し、ニーズに基づいたサービスを提供することで、利用者が豊かな日常生活及び社会生活を営むことができるよう支援した。

- (1) 利用者のニーズやアセスメントに基づいた個別支援計画の作成と定期的なモニタリングを行った。
- (2) 利用者の状況に応じて、食事や整容、更衣、排泄等、生活全般にわたる支援を行った。
- (3) バイタルチェックや投薬、その他必要な健康管理と記録を行った。
- (4) 健康や嚥下、咀嚼機能、栄養状態にあわせた食事を提供し、必要に応じて食事介助を行った。
- (5) 清潔の保持や心身のリフレッシュを目的とし、特殊浴槽装置等を使用した入浴サービスを提供した。
- (6) 理学療法士の助言のもと、日常生活能力や身体機能維持のための支援を行った。
- (7) 季節行事やレクリエーション、カラオケ活動等の機会を提供した。
- (8) 利用者一人ひとりに適した準備と工夫を行いながら、達成感や充実感を味わうことができるよう創作活動等の機会を提供した。
- (9) 社会参加の場として、散策や買い物、外食等の機会を提供した。
- (10) リフト付きのワゴン車で送迎可能な範囲の送迎を行った。
- (11) 防災訓練やボランティアコンサート等の行事を大砂土ふれあいの里（児童クラブ・社会福祉協議会）で行った。
- (12) 利用者や家族からの相談を受ける機会を設け、必要な支援や関係機関との連絡調整を行った。

＜自立訓練（機能訓練）事業＞

身体機能や生活能力の維持、向上のため、一定期間、必要なりハビリテーションや生活等に関する相談及び助言等を行い、地域生活に定着することができるよう支援した。

- (1) 身体や生活状況を把握し、利用者のニーズに合わせた個別支援計画を作成した。
- (2) 理学療法士による関節可動域訓練や筋力増強訓練等のリハビリテーションを行った。
- (3) 器具・用具を使用した運動や歩行訓練、車椅子操作練習等、日常生活に必要な動作訓練を行った。
- (4) 血圧測定等、訓練時のバイタルチェックや看護師による家庭生活での健康管理の相談支援を行った。
- (5) 装具・杖の購入や使用方法、住環境整備の相談、介助方法等の相談支援を行った。
- (6) 様々な方が通所しやすい環境を整えるため、状況に応じてサービス提供時間を調整した。
- (7) 必要に応じて社会参加に向けた外出訓練の場を提供した。
- (8) 利用者や家族からの相談を受ける機会を設け、必要な支援や関係機関との連絡調整を行った。

＜相談支援事業＞

障害者（児）及びその家族等からの相談に応じ、障害者（児）が地域の中でその人らしく自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう支援した。

- (1) アセスメントを実施した。
- (2) アセスメントの結果に基づきサービス担当者会議を開催し、サービス等利用計画を作成した。
- (3) 定期的にモニタリングを実施し、利用者や家族等の意向等を踏まえた上で利用計画の変更や福祉サービス等の調整を行った。
- (4) 新たに福祉サービスを利用する際は、必要に応じて施設見学や面接の同行を行った。

4 利用状況

＜生活介護事業＞

(1) 契約者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男	16	0	2	14
女	12	1	0	13
合計	28	1	2	27

(2) 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分

令和8年3月31日現在

年齢	区分	なし	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満		0	0	0	0	0	0	0	0
20歳以上30歳未満		0	0	0	0	0	0	0	0
30歳以上40歳未満		0	0	0	1	3	1	1	6
40歳以上50歳未満		0	0	0	0	2	1	3	6
50歳以上		0	0	1	2	4	3	5	15
計		0	0	1	3	9	5	9	27

(3) 障害者手帳（療育手帳、身体障害者手帳）に基づく障害等級区分

令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度④			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	7	11	6	7	13
2級	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	1	3
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	0	1	1	1	2	3	1	1	2	2	0	2	0	0	0	4	4	8
合計	2	2	4	1	2	3	1	1	2	3	0	3	7	8	15	14	13	27

(4) サービス別利用者数（延べ人数）

開所日数	年間利用人数	一日利用平均
242	3, 272	13. 5

<自立訓練（機能訓練）事業>

(1) 契約者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男	12	6	1	17
女	3	1	0	4
計	15	7	1	21

(2) 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分

令和8年3月31日現在

年齢	区分	なし	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満		0	0	0	0	0	0	0	0
20歳以上30歳未満		0	0	0	0	0	0	0	0
30歳以上40歳未満		0	0	0	1	1	1	1	4
40歳以上50歳未満		2	0	0	0	0	0	0	2
50歳以上		11	0	0	0	2	1	1	15
計		13	0	0	1	3	2	2	21

(3) 障害者手帳（療育手帳、身体障害者手帳）に基づく障害等級区分

令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度①			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	2	14	12	2	14
2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	5	3	2	5
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	4	21	17	4	21

(4) サービス別利用者数（延べ人数）

開所日数	年間利用人数	一日利用平均
242	1, 599	6. 6

<相談支援事業>

(1) 契約者数

令和8年3月31日現在

前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
93	17	5	105

(2) 事業別実績

障害児 相談支援	援助内容	請求件数
	障害児支援利用援助	29
	継続障害児支援利用援助	26
	計	55

特定相談 支援	援助内容	請求件数
	サービス利用支援	89
	継続サービス利用支援	109
	計	198

(3) 相談支援方法

訪問	来所	同行	電話等	個別支援 会議	サービス 担当者会議	関係機関	その他	計
362	70	21	583	14	1	2066	253	3370

5 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

- ① 感染症対策マニュアルをはじめとした各種マニュアルに則り、感染症や感染拡大に関するリスク対応を実施した。また、年1回、受水槽および入浴設備の水質検査を実施した。
- ② 感染症対策として、検温や手洗い、手指消毒を行うとともに、必要に応じて飛沫防止のため

のマスク着用やパーテーションの設置を行った。

- ③ 感染症対応 BCP の見直しを行うとともに、感染症 BCP に基づいた研修・訓練を実施した。

(2) 事故防止対策

- ① 利用者の通所前や降所後には、施設設備の点検を実施した。
- ② 利用者の障害特性や支援上の留意点を職員間で共有した。
- ③ ヒヤリハット（事件・事故）報告書を作成し、事例を集計して統計をとるとともに、対策を検討し、職員間で共有を図った。

(3) 人権擁護・虐待防止への取組

虐待防止チェックリストや虐待防止に関する研修などをおして、全職員が虐待防止への意識を持てるよう努めた。また、虐待防止委員会では、チェックリストの集計結果をもとに、改善箇所の抽出を行った。

(4) 防犯対策

- ① 事務所内には職員が常駐し、来所者に対する声掛けや見守り、敷地内の見回りを実施した。
- ② 不審者対策として、防犯カメラの設置とモニターの確認を日常的に実施した。また、施錠箇所の見直しを行い、侵入予防に努めた。

(5) 個人情報管理

情報セキュリティポリシー及び対策マニュアルに基づく情報管理を徹底するため、定期的にチェックリストを使用してセキュリティ状態のチェックを行うとともに、研修に参加し、職員間で情報を共有することにより意識の向上に努めた。

(6) 災害対策

- ① 体制の充実
 - ア 自治会との連携を図った。
 - イ 福祉避難所としての整備に努めた。
 - ウ 食料、水などの災害時備蓄品を整備した。
- ② 訓練の実施
 - 大砂土ふれあいの里全体での防災訓練を年2回行った。また、大砂土障害者デイサービスでの防災訓練を1回行った。
- ③ 事業継続計画（BCP）の定期的な見直しを3月に実施した。
- ④ 事業継続計画（BCP）を確認しながら、災害発生を想定した訓練を実施した。
- ⑤ 事業継続計画（BCP）に基づき、非常用備蓄品の確認をし、整備・入替を行った。

(7) 施設維持管理

- ① 特定建築物点検（3年に1回）等を実施し、施設の不具合を事前に把握することで、適切な施設保安に努めた。
- ② 修繕計画に基づき、施設設備や備品等を管理するとともに、必要に応じて修繕を実施した。

6 サービス向上計画

(1) 利用者の意見を反映する取組

利用者アンケート、活動における満足度調査（生活介護事業）の実施、意見箱「みなさまの声」の設置、苦情受付窓口の設置と迅速な苦情解決、利用者面談で意見等の収集を行った。また利用者には常に明るく誠実に接するとともに、積極的な声掛けや話しやすい雰囲気づくりを心がけ、利用者からの意見や要望に対して迅速に対応した。

(2) 地域、関係機関との連携

支援課や障害者生活支援センター等の関係機関と積極的に連携を図り、利用者が抱えている生活課題に対して、それぞれの特性を生かしながら迅速かつ効果的に支援した。

(3) 専門性を向上させる取組

事業団事務局及び研修委員会で企画する研修のほか、次の研修に参加した。

① 外部派遣研修

月	日	研修名	参加職員数
6	5	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	1名
	12	強度行動障害支援者養成研修（実践）	1名
	13	精神保健福祉研修（上半期）	4名
	27	福祉現場に必要な法律の基礎知識	1名
7	11	普通救命講習～児童・障害編～	1名
10	14、15 17、22	虐待防止研修	12名
12	1	桜区障害者虐待防止・権利擁護研修会	1名
	5	精神保健福祉研修（下半期）	1名
	15	発達障害のある子どもを育てる親の支援	2名
2	10	北区障害者虐待防止・権利擁護研修会【発展編】	2名

② 職場内研修

月	日	研修名	参加職員数
5	15	高次脳機能研修	10名
6	9	基本動作介助研修	9名
7	10	福祉現場に必要な法律の基礎知識（伝達）	11名
9	18	虐待防止・身体拘束研修①	9名
10	23	虐待防止・身体拘束研修②	10名
11	12	リスクマネジメント研修（伝達）	5名
	26	セルフケア研修（伝達）	9名
12	5	サービス向上研修（伝達）	10名
	5	ハラスメント防止研修（伝達）	10名
	17	安全運転研修（伝達）	8名
1	19	感染症対策研修（伝達）	7名
2	16	文書事務基礎研修（伝達）	6名
3	4	ファイリング基礎研修（伝達）	7名

7 年間行事等

＜生活介護事業＞

月	日	内容	備考
4	9、10	花見会	利用者8名
5	8、9、12	懇談会	利用者28名、家族等13名
6	16	防災訓練（合同）	利用者4名、職員6名
	18、19、20、24	お茶会	利用者25名
	25	さいたま市 体を動かすレクリエーション	講師2名、利用者12名
7	29	eスポーツイベント	利用者15名、児童クラブ29名
8	5	防災訓練（合同）	利用者12名、児童クラブ42名 職員10名、実習生1名
	21	アーティストボランティアコンサート	ボランティア1名、利用者14名 児童クラブ44名
10	20、21、22、23、24	お茶会	利用者19名
12	16、17、18、19、22	柚子湯	利用者21名
	16、17、18、19	お茶会	利用者24名
1	7	eスポーツイベント	利用者13名、児童クラブ32名
3	10	防災訓練	利用者名14名、職員7名
	27	eスポーツイベント	利用者12名、児童クラブ32名
	31	花見会	利用者6名

＜自立訓練（機能訓練）事業＞

月	日	内容	備考
7	29	eスポーツイベント	利用者0名
8	5	防災訓練（合同）	利用者0名、職員1名

1	7	e スポーツイベント	利用者 2 名
3	10	防災訓練	利用者 0 名、職員 2 名
	27	e スポーツイベント	利用者 2 名

【12】みずき園

1 指定管理（令和7年度～令和11年度）

- (1) 生活介護事業
- (2) 相談支援事業（特定相談支援事業、障害児相談支援事業）

2 今年度の施設取組計画

<生活介護事業>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
外部研修への2～3名参加 内部研修を年3回実施	達成	人権擁護に関連する外部の研修に職員が参加し、内部研修で伝達して、共通認識を持つことができたよう努めた。現場の支援で疑問に感じたことは「気になる支援」として挙げ、帰りの打ち合わせや毎月のケース会議で問題提起し、話し合うことで改善した。
意思表示の方法について職員間で確認し合い、意見交換する 内部研修実施（年1回）	達成	今年度は、意思表示の方法について、職員間で意見交換をすることとしっかり確認をすることができた。内部研修として動画を見ることで、日頃の自分たちの支援も振り返りながら学ぶことができた。
稼働率 60.0%	未達成	施設アピールを行ったことで特別支援学校実習を8名受け入れ、来年度5名の方が利用をされることになった。また、施設公開に10組、音楽会に3組の方のご参加があり、支援学校卒業後の進路先アピールもすることができた。その一方、体調不良で長期休まれる方や2月に1名の方がお亡くなりになったため、稼働率は54.4%となり、目標の達成には至らなかった。

<相談支援事業>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
地域の事業所への訪問をし、事業所の見学やカンファレンスを行うことで、事業所との顔の見える関係を作る。（年5事業所以上）	上回って 達成	中央区相談支援連絡会議に参加し、地域の事業所や新規事業所情報等を共有したり見学やモニタリング等の際に事業所を訪問したりすることで、顔の見える関係作りを行い、連携を図ることができた。 地域の事業所とのつながりを持ち、相談支援専門員としての知識を高めるとともに、関係機関との関係を深めていくことで、利用者に対してより質の高い支援を提供できるようになっていると思われる。 今後も地域の関係機関との連携を図り、新しい情報を得たり、知識を増やしたりしながら、利用者に対して質の高いサービスの提供ができるように努めていきたい。
情報共有のシステムを運用する。	達成	事業所の空き状況等の情報を得ていることで、利用者が希望するサービスの利用に向けて、迅速に情報を提供することができた。また、今年度から実務担当者会議において、ファイルフォースを用いたシステムの運用が開始され始めた。昨年度までは、所属する事業所のみでシステムの運用をしていたため、最新の情報のシステムへの入力更新が行えていないことがあったが、ファイルフォースのシステム運用後は、地域の情報の聞き取りや情報の更新などを、法人内の相談支援事業所の職員により随時行うことができるようになったため、市内を中心に、より広い範囲にある事業所などの情報を、複数の職員で更新し、共有することができるようになった。
事例検討会と勉強会を各1回以上実施する。	上回って 達成	事例検討会では、児童と者のそれぞれの事例についてグループに分かれ検討会を行ったことで、複数の職員で意見を出し合い、様々な視点からの支援に気づくことができた。 勉強会では、「子ども支援・保護者の支援に対する相談員のかかわり～こどもと保護者を支えていくために心がけること～」の講義を聞き、子どもとその保護者に対する支援をする上でのポイントを知ることができた。また、各地域支援協議会の参加状況を共有することで、各区の現状を知ることができた。

3 実施報告

＜共通＞

- (1) 利用者の希望に応じたサービスを提供するとともに、健康で安心な、その人らしい生活の実現に資する事業を行った。
- (2) あり方検討会を開催し、施設認知度の向上と新規利用者の獲得、経営の効率化に努めた。

＜生活介護事業＞

利用者が豊かな地域生活を送ることと自己実現のニーズを持つこと、重度重複の障害のある方々が多いことを踏まえ、健康管理を基本におき、体調を整えるプログラムや作業、文化活動等を個々のニーズに合わせて行った。また、区民祭りの参加やアート作品展の開催、季節行事での保育園児との交流、中学校の美術部と共同作品を製作し展示会へ出展、吹奏楽部の演奏会を通しての交流などを行った。

(1) 日常生活介護

利用者の状況に応じ、適切な知識・技術を持って生活全般（食事・排泄・移動・衛生等）において支援した。

(2) 日中活動

活動プログラム（音楽、創作、作業、リラクゼーション、レクリエーション、外出、調理）、季節行事、ピアショップ販売、音楽会及び社会体験活動を行った。

(3) 健康管理

看護師による健康管理体制を整え、健康診断、歯科健診を年1回、嘱託医健診を毎月1回実施した。必要に応じて主治医からの看護指示書に基づいた医療的ケアを行った。

(4) 送迎サービス

ワゴン車による居宅送迎を行った。送迎の実施にはできる限り利用者及び家族のご希望に沿えるように配慮した。

(5) 身体機能維持

医師及び委託各療法士等の指導、助言（理学療法士・作業療法士による指導を年6回、言語聴覚士による指導を年3回）を日中指導の中に取り入れて実施し、身体機能の維持に努めた。

＜相談支援事業＞

地域の中で安心して暮らし続けられるために、利用者等のニーズに基づき、適切な保健医療、福祉、教育等のサービスが、多様な事業所から、総合的かつ効果的に提供されるように利用計画の作成を行った。

(1) 特定相談支援事業

① 基本相談支援

福祉サービスを利用するための情報提供と相談、社会生活を高める支援、専門機関の紹介等を行った。

② 計画相談支援

アセスメントの実施、サービス担当者会議の開催とサービス等利用計画の作成、モニタリングの実施を行った。

(2) 障害児相談支援事業

アセスメントの実施、サービス担当者会議の開催、障害児支援利用計画の作成、モニタリング（継続的な障害児支援利用援助等）を行うとともに、各関係機関との連絡調整を行った。

また、モニタリングにおいては、利用児、保護者の状況や関係性を定期的に確認するのみでなく、利用児、保護者の状況に合わせ確認し、支援した。

4 利用状況

<生活介護事業>

(1) 入退所者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	年度中契約終了者	令和7年度末
男	5	2	1	6
女	11	1	0	12
計	16	3	1	18

(2) 年齢区分及び受給者証に基づく障害支援区分

令和8年3月31日現在

年齢	1	2	3	4	5	6	合計
20歳未満	0	0	0	0	0	2	2
20歳以上30歳未満	0	0	0	0	0	5	5
30歳以上40歳未満	0	0	0	0	0	3	3
40歳以上50歳未満	0	0	0	0	0	2	2
50歳以上	0	0	0	0	2	4	6
計	0	0	0	0	2	16	18

(3) 障害者手帳(療育手帳、身体障害者手帳)に基づく障害等級区分

令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度④			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	3	7	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	8	11
2級	2	4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	6
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	5	11	16	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	6	12	18

(4) 開所日数と延べ利用者数

開所日数	延利用者数	一日平均
249	3,519	14.1

<相談支援事業>

(1) 契約者数

令和8年3月31日現在

前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
20	1	2	19

(2) 事業別実績

障害児 相談支援	援助内容		請求件数	特定相談 支援	援助内容		請求件数
	障害児支援利用援助		2		サービス利用支援		22
	継続障害児支援利用援助		3		継続サービス利用支援		34
	計		5		計		56

(3) 相談支援方法

訪問	来所	同行	電話等	個別支援 会議	サービス担当 者会議	関係機関	その他	計
25	57	1	117	3	0	227	40	470

5 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

- ① 利用者在園時における健康チェックを看護師等により行った。利用者・職員の細菌検査(年2回)を実施し、健康状態の把握に努めた。
- ② 感染症対策マニュアルをもとに、日々の業務における職員の衛生管理意識、感染症対策意識の向上を図った。

感染症対策として、職員の出勤前の検温、勤務中のマスクの着用を義務付けた。利用者へは、自宅での検温をお願いするとともに、来園時と降園前に検温と体調確認を行った。朝の清掃時の館内消毒、玄関での車いすタイヤの消毒、常時換気等、園内にウイルスを持ち込ま

ないよう取り組んだ。送迎車内等の密接した場面では、利用者にもマスク着用の協力をお願いし、活動中は対面を避け、給食時もパーテーションを使用又は、一方向を向いて食べていただいた。また、感染症 BCP の見直しを行い、職員で共有するとともに、感染症対策委員会の開催、感染対策のための研修及び訓練を行った。

(2) 事故防止対策

ヒヤリハット報告をもとに、職員間の連携を密にすることで利用者対応や施設内の環境整備を行い、事故やけがのリスク軽減を図った。

(3) 人権擁護・虐待防止への取組

虐待防止委員会を開催し、年 2 回の虐待防止チェックリストの考察や、内部研修の企画・実施を行い、虐待防止に係る取組を推進した。気になる支援があった時は、そのつど職員間で共有し改善に努めた。

身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束同意書について年 2 回見直しを行った。また、身体拘束に関する研修を行い、身体拘束の適正化に係る取組を推進した。

(4) 防犯対策

- ① 不審者侵入対策マニュアルに基づき、防犯体制の充実に努めた。
- ② 不審者侵入対策訓練を 1 回実施した。

(5) 個人情報管理

職員に対する個人情報保護・情報セキュリティ対策に関する教育を行うとともに、情報セキュリティポリシーに基づく情報管理を徹底した。

(6) 災害対策

- ① 地震や火災等の防災訓練を 6 回実施した。
- ② みずき園「災害マニュアル」「事業継続計画 (BCP)」等を職員に周知するとともに、見直しを行い、火災や各種の天災に備えた。

(7) 施設維持管理

- ① 特定建築設備定期検査 (3 年に 1 回) を実施し、施設の不具合を事前に把握し、適切な施設管理に努めた。
- ② 毎月 1 回整備の日を設け、職員で施設・設備の点検を行い、維持管理、事故防止に努めた。

(8) あり方検討会

- ① 施設サービス・運営自己評価を実施し、考察を行いサービスの質の向上に努めた。
- ② 健全な経営が図れるように、収入増に向けての具体的な行動計画を作成し実施した。

6 サービス向上計画実施状況

(1) 利用者の意見を反映する取組

重度の重複障害をもつ利用者の意思決定支援について、心身の状況を踏まえながら、その意思及び人権を尊重し、常に個々の立場に立った支援を行うことで充実に努めた。

また、利用者が楽しく安心して利用できるよう、日々、声かけと見守りを行った。

医療的ケアが必要な利用者が多いことから表情の観察を行うように心がけ、ちょっとした変化を見逃さないように努めた。

- ① 利用者アンケートの実施及び結果を周知した。
- ② 施設独自のアンケートを実施 (行事等の満足度調査) し、サービス向上に役立てた。
- ③ みなさまの声の投書箱を設置し、意見を伝えやすい環境を整えた。
- ④ 苦情受付窓口を設置し、苦情解決体制を整備した。

- ⑤ 医療的ケア利用者の理解と支援の充実に努めた。
- ⑥ 保護者会を開催し、意見を伺う機会を設けた。
- ⑦ 年間6日の祝日開所を実施した。

(2) 地域、関係機関との連携

① 近隣の公共機関や地元自治会、ボランティア団体との連携

ピアショップ販売に参加するとともに、ボランティアや見学者、実習生を積極的に受け入れ、地域に暮らす一員として交流を深めた。

施設で開催する行事に地域の保育園や太鼓等の演奏団体を招待し、交流を深めた。

② 福祉行政や他の福祉事業者、医療、保健機関との連携

利用者の状況に合わせ、支援課ケースワーカー、障害者生活支援センターとのサービス調整会議、中央区ネットワーク会議、中央区相談連絡会議、地区社協地域福祉推進委員会、特別支援学校進路対策検討会等に参加し、情報の共有化を図った。

(3) 専門性の向上

施設取組計画の目標である「人権擁護についての意識を高く持ち続ける施設づくりを行う」ため、職員としてより高度な介助技術の習得、危機管理能力、接遇能力、職務階層に応じた能力、事務能力の向上等のため、事業団事務局及び研修委員会で企画する研修のほか、次の研修に参加した。

① 外部派遣研修

月	日	研 修 名	参加職員数
10	16	埼玉県社会福祉協議会主催 令和7年度虐待防止研修（オンライン研修）	1名
11	20	埼玉県社会福祉協議会主催 令和7年度接遇研修（オンライン研修）	1名
12	4、5	医療的ケア看護師講習会	1名
	12	有限会社プログレ総合研究所 令和7年度相談支援従事者現任研修	1名
1	23	有限会社プログレ総合研究所 令和7年度相談支援従事者現任研修	1名
2	19	有限会社プログレ総合研究所 令和7年度相談支援従事者現任研修	1名

② 職場内研修

月	日	研 修 名	参加職員数
7	4	感染症対策研修／感染症 BCP 訓練	11名
10	6	虐待防止・身体拘束適正化研修	12名
11	27	不審者対策研修	5名
12	2	リスクマネジメント研修	9名
	4	サービス向上研修（アンガーマネジメント研修）	10名
	10	接遇研修	12名
	11	虐待防止研修	12名
	19	安全運転研修	9名
	22	ハラスメント研修	9名
	22	感染症対策研修	12名
3	4	個人情報保護・情報セキュリティ対策研修	13名
	10	意思決定支援に関する研修会	12名

7 年間行事報告

<生活介護事業>

月	日	内 容	備 考
4	2	ボランティア（朗読）	3名来園
	9	作業ボランティア	5名来園
	10	入所式	2名入所
	11	黄色いレシート贈呈式（北浦和イオン）	2名参加
	24	第1回保護者会	9名参加
5	6	祝日開所（施設公開）	12名参加
	7	ボランティア（朗読）	4名来園
	14	作業ボランティア	5名来園
	22	避難訓練（火災想定）	14名参加

6	4	ボランティア(朗読)	4名来園
	5	1回社会体験活動(第イオンモール与野)	1名参加
	6	1回社会体験活動(第イオンモール与野)	2名参加
	11	黄色いレシートキャンペーン(北浦和イオン) 作業ボランティア	2名参加 4名来園
	17	1回社会体験活動(第イオンモール与野)	2名参加
	23	ボランティアコンサート	6名来園
7	2	ボランティア(朗読)	4名来園
	4	七夕(大戸保育園児来園)	15名来園
	9	作業ボランティア	4名来園
	11	黄色いレシートキャンペーン(北浦和イオン)	2名参加
	18	ピアショップ販売	2名参加
	21	祝日開所(調理活動・施設公開)	13名参加
	28～8/8	大宮こども専門学校実習受入れ	学生1名
8	30	避難訓練(水害想定)	14名参加
	4～8/14	埼玉福祉専門学校実習受入れ	学生1名
	5	夏祭り(鴻沼太鼓による和太鼓演奏・交流)	9名来園
	6	夏祭り(縁日・大戸保育園児と交流)	17名来園
	8	中学生ボランティア(与野南中学校美術部)	25名来園
	18	ボランティアコンサート	4名来園
	20	ボランティア(朗読)	6名来園
9	27	ボランティア展示会見学	3名参加
	3	ボランティア(朗読)	4名来園
	4	歯科健診	5名来園
	10	作業ボランティア	4名来園
	11	黄色いレシート贈呈式(北浦和イオン)	2名参加
	19	ピアショップ販売	2名参加
	23	祝日開所(調理活動)	13名参加
10	24	ボランティアコンサート	2名来園
	1	ボランティア(朗読)	5名来園
	1	赤い羽根共同募金展示会見学	2名参加
	2	避難訓練(地震想定)	12名参加
	7	赤い羽根共同募金展示会見学	2名参加
	8	作業ボランティア 赤い羽根共同募金展示会見学	5名来園 2名参加
	13	祝日開所(すもう大会)/施設公開	14名参加、10名来園
11	14	赤い羽根共同募金展示会見学	2名参加
	17	赤い羽根共同募金展示会見学	2名参加
	23	第2回社会体験(サンシャインシティ)	2名参加
	1	中央区区民祭り参加	職員1名参加
	2	大宮こども専門学校実習受入れ	学生1名
	5～7	未来くるワーク(東浦和中)	2名来園
	8	第26回みずき園音楽会	利用者17名、家族等52名 ボランティア30名
12	12	第2回社会体験(サンシャインシティ) 作業ボランティア	2名参加 4名来園
	13	ボランティア展示会見学	2名参加
	15	グリーンフェスティバル参加	職員1名参加
	17	ボランティア展示会見学	2名参加
	19	第2回社会体験(コクーンシティ)	2名参加
	27	避難訓練(不審者対策訓練)浦和西警察署生活安全課による講義等 第2回社会体験(サンシャインシティ)	職員5名参加 2名参加
	3	第2回社会体験(サンシャインシティ)	2名参加
12	3	作業ボランティア	5名来園
	4	お楽しみ会(ボランティアコンサート)	4名来園、14名参加
	10	お楽しみ会(ボランティアコンサート)	1名来園、17名参加
	16	調理活動	12名参加
	17	ボランティア(朗読)	5名来園
	19	避難訓練(火災想定・消防署立会い)	3名来園、15名参加
	20	土手町ブチマルシェ参加	職員1名参加

1	12	祝日開所（ボランティアコンサート：与野南中学校吹奏楽部）	23名来園、13名参加
	16	ピアショップ販売	2名参加
	20	アート作品展見学（鈴谷公民館）	2名参加
	21	ボランティア（朗読）	6名来園
	22	アート作品展見学（鈴谷公民館）	2名参加
	27	アート作品展見学（鈴谷公民館）	2名参加
	28	アート作品展見学（鈴谷公民館）	3名参加
2	4	ボランティア（朗読）	4名来園
		第2回社会体験活動（いちご狩り）	3名参加
	4～3/10	ソーシャルワーク実習	学生1名
	5	第2回社会体験活動（いちご狩り）	2名参加
	11	祝日開所（調理活動）	14名参加
	12	第2回社会体験活動（いちご狩り）	1名参加
	18	作業ボランティア	5名来園
3	20	新規利用者歓迎会	14名参加
	4	ボランティア（朗読）	3名参加
	11	作業ボランティア	4名来園
	12	調理活動	13名参加
	16	避難訓練（振返り）	14名参加

※学生ボランティア（音楽、レクリエーション等）学生1名：1/26、28、29

※介護等体験実習受入れ（各期間：学生1名）

8/25～29、10/6～10、10/20～24、11/10～14、11/17～21、12/1～5、12/8～12、12/15～19

【13】さくら草学園（児童発達支援センター）事業報告書

1 指定管理（令和7年度～令和11年度）

- (1) 児童発達支援事業
- (2) 保育所等訪問支援事業
- (3) 相談支援事業（特定相談支援事業、障害児相談支援事業）

2 今年度の施設取組計画

＜児童発達支援事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
専門職を導入し、サービス提供の質を向上させる。	達成	保育所等訪問では訪問の度に作業療法士・訪問支援員・児童発達支援管理責任者の3名によるカンファレンスを実施してお子さんや施設の物理的・人的環境のアセスメントを共有することで質の向上につながり、利用者アンケートでは訪問先施設からの好意的なコメントが増加した。個別指導ではフォロークラスのお子さんを対象に9名実施し、フォロークラスの担任と個別指導によるアセスメントを共有したり、フォロークラスで取り入れると良い活動を提案することで質の向上につながった。また、通園クラスにも参加し、担任や保護者からの相談を受けたり、給食場面のアセスメントを行い食事介助の仕方の指導や座位の簡易的な補助具を作成した。さらに作業療法士による園内研修を実施（食べることについて、発達検査の見かた、初めての感覚統合）し、職員のお子さんの行動理解を深めることができた。
児童発達支援6施設中2施設から事例を出し、検討会を行う（輪番）	達成	年に1回定期的に実施している事例検討会では、毎年積極的に参加する職員も多いと感じている。普段交流の無い職員ともグループワークを行うことで横のつながりもできており、交流研修や情報交換にも繋がっていると思われる。発表の順番になった際には、自分たちの支援について振り返る機会になったり、レジメをまとめる経験になったりと職員の深みになっていける機会となっている。研修で学んだ内容の手作り遊具を作る等、早速日々の支援に生かす職員の姿も見ることができた。今後も継続することで、自施設だけでなく色々な施設の取り組みや、視点を吸収し施設の支援の質の底上げに繋げていく。
稼働率80%以上	未達成	今年度から取り組めることについて①10月、1月の行事の振替休日をなくし、利用日とする②うさぎ組も運動会の参加、土曜参加日を設定し、利用日を増やす③通園の受け入れを満3歳から可とする④2歳児向けST勉強会をさくらひろばの参加者にも声をかけ、園児獲得に繋げる⑤Xで日々のお子さんの様子を写真付きで投稿することを実施した。実際に運動会等では、2歳児の保護者にも通園での行事を見てもらったり、一緒に参加することができてよかったと思う。また、さくらひろばでは事前にXで投稿することで、参加親子が増えてきている。 稼働率の目標には、定員人数が埋まらなかったことから未達成となってしまった。（令和7年度平均稼働率74.8%） 来年度は新園舎に移転し、クラス編成も変わる予定であるので引き続きあり方検討委員会を実施し、稼働率向上に向けて、職員全体で話し合い、実施できることから取り組んでいきたい。

＜保育所等訪問支援事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
さくら草学園の勉強会に、幼稚園・保育園の職員も参加してもらい、連携を深める。（2回）	達成	施設見学会、情報交換会ともに多くの園からの参加があり、地域のなかにある児童発達支援センターとしての役割を果たせたのではないと思う。アンケートからは提示の仕方、お子さんに対する関わり方等、参考になったとの意見があった。今後さらに地域で必要とされるセンターとしての役割において、情報交換会という取組は、次につながる新しい試みであったと思う。

訪問経験のない職員が経験値の高い職員の保育所等訪問支援に同行する機会を年 2 回以上行う。	上回って達成	今年度、フォロークラスの担任で訪問経験のない職員が 3 名訪問同行することができた。幼稚園・保育園でのお子さんの様子を把握することで小集団での様子との違いを知ることができた。また見学後の施設の先生とのカンファレンスにも参加し、訪問先施設の先生にフォロークラスの様子を直接お話しして共有することができた。
保育所等訪問支援の契約件数を 33 件にする。	未達成	今年度の訪問支援総契約数は 28 件であった。年度途中でフォローグループを契約した人数は 3 名であったが、契約に結びついたのは 1 名のみだった。フォローグループを利用しているが、訪問を契約していない人数に関しては 4 名であったが（うち年長は 3 名）、次年度利用希望が 1 名である。職員体制の難しさもあり、後半は契約数を増やすことができなかった。

＜相談支援事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
学校公開や親子教室など、他機関と連携を図れる取組に年 1 回以上参加する。	上回って達成	上尾かしの木特別支援学校や浦和特別支援学校の学校公開の他に、さくら草特別支援学校の文化祭に行き担当の方の学校生活の様子を拝見することができた。具体的な取組の様子を知る事で、保護者とご本人について共有することができる等、相談支援に生かすことができた。また、上尾かしの木特別支援学校や大宮ろう学校、常盤小学校等学校のケース会議や輝萌の森の保育園訪問を行い、関係機関と支援について共有・検討することができた。 今後も学校公開などに積極的に参加し情報を得たり、各関係機関のケース会議等に参加し利用者の支援について検討し、より良い支援に繋げていきたい。
年 3 か所以上事業所訪問をする。	上回って達成	新規に立ち上がった事業所や、利用者の方が利用中の事業所に見学に行くことができた。新規の事業所については、利用者の方に具体的な様子を案内することができる等相談支援に生かすことができたり、お子さんを拝見できた時には、ご家族とご本人の様子について共有することができた。保護者の方が事業所での様子を具体的に知っていただくことで、安心していただけるなど良い機会になった。 今後も様々な事業所を訪問し、事業所のスタッフと支援について連携を図っていきたい。また、お子さんの様子を拝見することで状況を把握したり保護者との関係構築に役立てたい。
検討会と勉強会を各 1 回以上実施する。	上回って達成	事例検討会では、児童と者のそれぞれの事例についてグループに分かれ検討会を行ったことで、複数の職員で意見を出し合い、様々な視点からの支援に気づくことができた。 勉強会では、「子ども支援・保護者の支援に対する相談員のかかわり～こどもと保護者を支えていくために心がけること～」の講義を聞き、子どもとその保護者に対する支援をする上でのポイントを知ることができた。また、各地域支援協議会の参加状況を共有することで、各区の現状を知ることができた。

3 実施報告

＜共通＞

- (1) さくら草学園のサービス利用児に対しケース会議（月 1 回）等を開き、各事業との連携を図り支援を行った。
- (2) 施設の移転に伴い、所管課とやり取りをしながら設備や備品の選定をするとともに、利用者への事前の情報提供に努めるなど、利用に不具合がないよう配慮した。

＜児童発達支援事業＞

満 2 歳から年長児までに対し、年齢や状況、保護者のニーズを踏まえ、日常生活における基本的な動作を習得し、集団生活に適応できるよう支援を行った。

(1) **単独通園グループ**〔月曜日から金曜日（週 5 日 2 グループ） 9 時 50 分から 14 時〕

- ① クラス活動、グループ活動、体育活動、スイミング活動を通常保育の中で行った。
- ② 利用児と地域の児童との交流を目的に近隣公立保育園 4 園（駒場・本太・東仲町・原山）との交流保育を実施。クラスごとの集団交流で合計 8 回、年長園児 4 名の個別交流で合計 4 回交流を行った。
- ③ 専門職による支援
嘱託医発達相談（年 6 回 10 名）、言語聴覚士による発達相談については希望者の減少のため（年 15 回 37 名）、保護者向けの学習会を 2 回、地域の幼稚園・保育園の職員向けの情報交換会を 1 回行った。
作業療法士による出張カンファレンス（さいたま市：年 2 回）
- ④ 健康の管理
健康診断（年 2 回）、歯科健診（年 1 回）
- ⑤ 給食の提供
ア 栄養士が中心となり、栄養バランス、温度に配慮した給食を提供、具材の大きさ、盛り付けを工夫し、偏食への対応を行った。
イ アレルギー児への給食提供は専門医の指示に基づき、栄養士を中心としたアレルギー会議を開き、確認のうえ提供した。（対象児 1 名）
- ⑥ 送迎サービス
業務委託によるマイクロバスでの送迎を実施した。添乗による支援を職員が行った。

(2) **親子通園グループ**〔月曜日から金曜日（週 2 日 2 グループ） 10 時から 11 時 40 分〕

満 2 歳・2 歳児の親子に対し、遊び方や関り方を支援した。

(3) **フォローグループ**〔水曜日 3 グループ 14 時 45 分から 16 時 25 分〕

幼稚園・保育園に通う児童に対し、小集団やグループでの活動を通し自信をつけ集団に適応する力をつけるための支援を行った。

(4) **家族支援**

- ① 保護者との共通理解のもとに支援を行うために、個別面談を随時実施するとともに、懇談会、家庭訪問を開催した。
- ② 対面による言語聴覚士・臨床心理士それぞれの保護者勉強会と先輩保護者の話を聞く会を行った。

(5) **作業療法士による支援**

- ① 作業療法士による個別訓練を行った。（対象児 9 名、年 55 回実施）
- ② 保護者向けの学習会を 1 回行った。

<保育所等訪問支援事業>

さいたま市内在住で、幼稚園、保育園等に在籍している障害児又は発達に心配のある児童に対し、訪問支援を実施した。

- (1) 各園でのカリキュラムの中で、生活の様子や集団適応状況を観察し、保護者に状況を伝達した。
- (2) 対象となる児童の継続的な援助方法や障害特性について、幼稚園等の職員とカンファレンスを開き、助言を行った。
- (3) 訪問支援を実施している園を対象に施設見学会・情報交換会を各 1 回実施し、フォロークラスでの支援方法を共有するとともに、地域の園同士の交流をはかった。
- (4) 訪問の度に児童発達支援管理責任者・訪問支援員・作業療法士の 3 名でカンファレンスを行い、お子さんと園のアセスメントを共有した上で園へのフィードバックを行った。

＜相談支援事業＞

保護者のニーズと児童の状況を確認し、生活全般についての相談を行うとともに、関係機関との調整を図り、障害児支援利用計画に反映させ、福祉サービス等の利用につながるよう支援した。一定期間経過後、福祉サービス等の利用状況を確認し、再度、必要なサービスの利用調整を行った。

- (1) 相談を実施する際、埋もれたニーズの把握に努め、福祉サービスや児童発達支援事業等の利用について提案を行った。
- (2) 保育園・幼稚園への転園又は就学した児童に対し、ニーズの把握を行い、新たな福祉サービス等の利用計画を作成、調整し、継続した支援を行った。
- (3) 総合療育センターひまわり学園、療育センターさくら草、各区（保健センター、支援課）、他事業所（児童発達支援事業所、相談支援事業所）、保育園・幼稚園等との連携により、進路や福祉サービス等の利用につながるよう支援を行った。また、学童期の児童の様子を知るために特別支援学校主催による学校公開への参加や事業所訪問を行った。
- (4) 浦和区地域協議会に参加し、シニア・ヤングミドル・ジュニアそれぞれのワーキンググループの活動から 8050 問題に関して浦和区の現状や課題について共有や検討をすることができた。

また、浦和区地域協議会世代別ワーキングのコアメンバーとしてジュニアワーキングに参加した。ジュニアワーキングでは、児童期における性教育について学びを深めるとともに、交流会では各事業所同士横の繋がりを作るため、日頃の困り事や支援について意見交換を行う等連携を図りやすい体制づくりを行った。

- (5) 色々なケースに対応できるよう、浦和区主催のサービス調整会議で行われる事例検討会に参加した。

4 利用状況

＜児童発達支援＞

(1) 利用児童数

令和 8 年 3 月 31 日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規入園児	年度中退園児	令和7年度末
男児	23	20	4	39
女児	7	6	2	11
合計	30	26	6	50

(2) 年齢構成

令和 8 年 3 月 31 日現在

グループ	0 歳児		1 歳児		2 歳児		3 歳児		4 歳児		5 歳児		合計	
	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児
母 子	0	0	2	0	6	2	0	0	0	0	0	0	8	2
通 園	0	0	0	0	1	1	6	0	4	0	2	2	13	3
フォロー	0	0	0	0	0	0	2	1	4	3	12	2	18	6
合 計	0	0	2	0	7	3	8	1	8	3	14	4	39	11

(3) 障害者手帳(療育手帳、身体障害者手帳)に基づく障害等級区分

令和 8 年 3 月 31 日現在

療育 身障	最重度㊦			重度 A			中度 B			軽度 C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1 級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	1	0	1	4	0	4	3	1	4	5	1	6	26	9	35	39	11	50
合計	1	0	1	4	0	4	3	1	4	5	1	6	26	9	35	39	11	50

(4) 開所日数と延利用者数

開所日数	延利用者数	一日平均
233日	4,422	19.0

<保育所等訪問支援>

(1) 契約児数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男児	12	10	13	9
女児	3	3	2	4
合計	15	13	15	13

(2) 年齢構成

令和8年3月31日現在

年齢	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	計
男児	0	0	0	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
女児	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4

(3) 訪問先

訪問先	保育園		幼稚園	特別支援学校			小学校		中学校		放課後児童クラブ	その他(子ども園)	計
	公立	私立		小学部	中学部	高等部	普通級	特別支援級	普通級	特別支援級			
支援件数	3	16	58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	77
延べ支援件数	3	16	58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	77

<相談支援事業>

(1) 契約児数

令和8年3月31日現在

前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
134	35	11	158

(2) 事業別実績

障害児 相談支援	援助内容		請求件数
	障害児支援利用援助		172
	継続障害児支援利用援助		133
	計		305

特定 相談支援	援助内容		請求件数
	サービス利用支援		0
	継続サービス利用支援		0
	計		0

(3) 相談支援方法

訪問	来所	同行	電話等	個別支援 会議	サービス 担当者会議	関係機関	その他	計
145	222	12	509	19	208	747	265	2,127

5 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

- ① 感染症の流行、まん延を防止するため、日常的な清掃、消毒、手洗い、うがいの徹底、十分な換気と加湿を実施し、ウイルス対策としてアルコールと除菌液を使用した。
- ② 「感染対策マニュアル」「感染症業務継続計画（BCP）」等のマニュアルを職員に周知するとともに、感染症対策に関する研修を実施した。
- ③ さいたま市普通救命講習Ⅲを13名の職員が受講し、AEDの使い方や心肺蘇生についての知識を学んだ。

(2) 事故防止対策

- ① ヒヤリハットの活用
ヒヤリハット報告書を作成し、職員間で共有化を図り、環境改善等することで同様の事故を防いだ。また、4か月毎に集計し、改善状況の確認と再発防止策を共有した。
- ② 定期点検・安全チェック
施設安全管理のため建物、遊具、園庭の定期点検、安全チェックを行った。

- ③ 送迎バスの送迎時には保護者の方に名札の着用をお願いし、利用児を安全に引き渡しできるように取り組んだ。

(3) 防犯対策

不審者対応訓練（年1回）を実施し、実施後、振り返りや必要な対策について取り組んだ。

(4) 個人情報管理

情報セキュリティポリシーの基本方針・対策基準を遵守し、セキュリティ対策マニュアルの対策手順に準じて対応した。また、個人情報保護対策に対する伝達研修を行い共有した。

(5) 災害対策

① 訓練の実施

自主訓練の実施（年12回）。そのうち1回は事業継続計画（BCP）に基づき、災害時の避難場所（本太中学校）までの避難訓練を行った。消防署員立ち合いによる防災訓練（年1回）では、通報訓練、避難訓練、消火訓練を実施した。

② 体制の充実

BCPに基づき、備蓄品の水、食料等、非常用持ち出し備品について定期的に点検・入れ替えをした。

(6) 施設維持管理

施設維持管理表に基づき、定期点検を実施した。

(7) 施設のあり方検討

あり方検討会を年1回開催し、施設認知度の向上と新規利用児の獲得、経営の効率化に向けた今年度の取組を検討した。経営ヒアリングをとおして施設の課題に取り組んだ。

(8) 人権擁護、虐待防止への取組

① 虐待防止への取組

虐待防止委員会が中心となり、外部研修への参加、施設内研修の企画などを行った。

② 保護者、児童への支援

保護者からの相談や児童の様子をしっかりと捉える中で虐待の未然防止、早期発見に努めた。不適切支援に対し、職員の意識向上を図るため支援のあり方についての検討会を2回行った。

③ 人権意識の高揚

「事業団倫理綱領」や「虐待防止マニュアル」を活用し、人権意識の高揚を図るため、読合せを行った。倫理綱領については毎朝の朝礼で読み合わせを行った。

④ 身体拘束等の適正化への取組

ア 身体拘束等の適正化のための対策を検討するための委員会を開催した。

イ 身体拘束等の適正化のための施設内研修を実施し、職員への周知を図った。

6 サービス向上計画実施状況

(1) 利用者の意見を反映する取組

① 利用者アンケート、施設サービス自己評価（各年1回）を実施し、アンケート結果を掲示するとともに、必要な改善を行った。

② 「給食だより」を年4回発行した。

③ 通園グループ、親子通園グループにおいてクラス懇談会（年2回）を実施し、保護者の意見等を伺った。

(2) 地域、関係機関との連携

① 近隣市立保育園との集団交流を8回、年長児の個別交流を4回実施した。

- ② 仲本児童センター（他３館）と協力し、地域の児童・保護者に対し、発達等についての相談支援を行った。
- ③ 浦和区保健センターでの親子教室に参加し、地域の児童への助言や児童発達支援事業等の紹介を行った。（年３回）
- ④ 育成支援制度適用委員会（浦和区）での審査に継続して参加した。
- ⑤ さいたま市就学支援委員会において、就学支援を必要とする児童生徒にかかる審議会に参加した。（年４回）
- ⑥ 浦和区地域協議会に参加し、区内の障害児者施設においての課題点の共有や切れ目のない支援に向けた検討を行った。（年２回）
- ⑦ 学園開放（さくらひろば）を年９回実施し、５１名参加した。地域の方が安心して遊べる場所の提供、保護者の子育ての相談を受けていく機会を提供した。
- ⑧ さいたま市の５歳児健診の実施に向けた、５歳児健康診査全体検討会に参加し、５歳児健診における児童発達支援センターの役割などについて協議を行った。（年２回）

(3) 専門性の向上

事業団事務局及び研修委員会で企画する研修のほか、職員の人材育成と療育施設職員としての専門性向上のため外部の研修に参加した。特に、虐待防止・人権擁護の研修において、職員の意識向上を図ることができた。

- ① ケース検討（月１回）
- ② 発達相談・言語指導のカンファレンスを通しての研修（月１～２回）
- ③ 外部派遣研修

月	日	研 修 名	参加職員数
4	17	保育者資質向上研修 紙芝居の演じ方	1名
5	15	保育者資質向上研修 絵本の読み語りと手袋人形の演じ方	1名
	15、23	精神障害者支援の障害特性と支援方法を学ぶ研修	1名
	20	保育者小学校体験研修	1名
6	12	保育者資質向上研修 保育者の関わりの質を高める研修	1名
	13	保育者資質向上研修 保育ファシリテーション	1名
	14	2025年度埼玉県立大学社会福祉士実習指導者講習会	1名
	20	保育者資質向上研修 幼保連携教育研修会	1名
	26	保育者資質向上研修 子どもと温かい関係を築くためのコツ	1名
7	5	2025年度埼玉県立大学社会福祉士実習指導者講習会	1名
	22	保育者資質向上研修 リーダーがすべきカンドコロ	1名
	23、30	R7年度埼玉県医療的ケア児コーディネーター養成研修	1名
10	2	ひまわり学園講座 親子のコミュニケーションについて考えよう	1名
	10	さいたま市普通救命講習Ⅲ	13名
	16、17	埼玉県高次脳機能障害支援養成研修	1名
11	5、6	埼玉県高次脳機能障害支援養成研修	1名
12	2	ひまわり学園講座 偏食について考えてみよう	1名
	22	医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修	2名
1	13	医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修	2名

④ 職場内研修

月	日	研 修 名	参加職員数
4	18、28	職員倫理綱領・職員行動規範・虐待防止について	16名
	25	身体拘束・重要事項説明書について	16名
5	30	令和７年度予算について	13名
	30	リズム・スイミングについて	9名
7	4、8	WISC v	12名
	18	ファイリングについて	9名
	14	あそびについて	12名
	24	ST 勉強会	9名
8	29	発達チェック（遠城寺）	10名

9	25	心理勉強会	2名
	26	防災・災害 BCP	14名
		感染症対策研修	14名
10	31	相談支援について	9名
12	19	初めての感覚統合	8名
	26	苦情解決について	12名
1	30	感染症対策研修	12名
2	28	AED 講習伝達研修 人権擁護虐待防止研修伝達研修	11名
3	3	あそびについて	10名
	30	個人情報保護情報セキュリティ研修伝達研修	16名

7 年間行事報告

月	日	内 容	備 考
4	7	通園グループ始業の会	12組の親子
5	19、6/9	通園グループ嘱託医健康診断	13名
	24	通園グループ参観日	10組の親子
6	6	通園グループ園外保育	12組の親子
	11	先輩保護者のお話を聞く会	12名
7	8、10	通園グループクラス懇談会	保護者13名
	14	親子グループ1 懇談会	保護者4名
	24	ST 勉強会	保護者8名
8	13、14、15	通園・親子・フォローグループ夏期家庭療育期間	全園児
9	25	心理勉強会	保護者15名
10	23	通園グループ歯科健診	12名
	25	通園・親子グループ運動会	24組の親子
11	7、21	通園グループ遠足	15組の親子
	10、12/8	通園グループ嘱託医健康診断	12名
	11、12/2、1/27	年長個別プログラム	4名
12	13	通園グループお楽しみ会	12組の親子
	22、23	親子グループミニお楽しみ会	8組の親子
1	13、19	親子グループクラス懇談会1、2	保護者9名
	24	通園グループ参観日	13組の親子
2	13	通園グループ親子生け花教室	13組の親子
	3、10	通園グループクラス懇談会	保護者14名
3	23	通園グループ卒園式	15組の親子

【14】 杉の子園（児童発達支援事業所）

1 指定管理（令和7年度～令和11年度）

- (1) 児童発達支援事業
- (2) 保育所等訪問支援事業
- (3) 相談支援事業（特定相談支援事業、障害児相談支援事業）

2 今年度の施設取組計画

＜児童発達支援事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
新しい遊びを提供する。 新しいテーマの園内研修を取り入れると共に見直しを行う。	達成	通園のリーダーを中心に他の園で行っていた支援の経験を生かして、新しい遊びを多く提供できた。研修という形ではなかったが、共有したことで、どの職員も新しい遊びを取り入れることができ、クラスで子どもたちが遊びを積み重ねることができて良かった。また支援についての研修やOTの研修、カンファレンスを通して、あそびについての視点が深まった。
児童発達支援 6 施設中 2 施設から事例を出し、検討会を行う（輪番）。	達成	他の児童発達支援施設の職員と交流できる機会ともなるので、参加を呼びかけ 7 名参加することができた。他の施設の取組を知って、自施設でも取り入れたいという意見もあった。
年度当初の在籍から新規契約 13 名を目指す。	達成	当初より親子クラスが 9 名、フォロークラスが 3 名、通園クラスは 1 名新規契約が入り、新規契約合計 13 件に達した。そのうちの 1 名は施設公開から契約につながった。また、親子クラスは年度途中から月・木クラスを開設し、月・木クラス、火・金クラスともに利用日でない日に振り替え登園をありとし、利用者の出席率の向上につながった。3 学期には 2 歳の誕生日を迎えた 1 歳児、2 名の親子クラスへの受け入れも行った。

＜保育所等訪問支援事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
マニュアルの本格的な運用をする	達成	訪問支援員会議は 2 回のみの実施だったが、マニュアルを読み合わせ使用していくことができた。今後も年度初めに、マニュアルを読み合わせる等して訪問支援員で共通理解を持ち、実施をしていくことができるようにする。
幼稚園・保育園に訪問する際、児童発達支援事業の職員を同行させ事業について理解をする機会を設ける（年 2 回）。	達成	予定通り 2 か所の訪問支援先に同行ができた。また学齢期に接している心理士の研修に支援員全員が参加できた。よりよい保育所等訪問支援につなげていく。
保育所等訪問支援を年間 36 件実施する。	上回って 達成	契約児 28 名、訪問件数 68 件と当初の目標の倍の件数訪問に行くことができた（昨年度より 17 件増）。そのためパンフレットの配布は途中で取りやめることとした。今年度は訪問支援員が 4 名体制で、ほぼ保護者の希望通りの訪問が可能だったが、途中訪問員が児童発達管理責任者になり、2 名体制で訪問に行くなど、スケジュール調整が難しい場面もあった。また、フォロークラス利用の年長児より、2 学期に訪問支援の希望があったが、手続きに時間がかかると判断し家族支援加算で訪問に行ったことが 2 回あった。

＜相談支援事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
事業所等訪問を年 10 か所行う。	上回って 達成	地域の小学校や利用している事業所と顔を合わせて情報共有することができた。顔が見える関係となったことで、些細な変化や相談ができる関係性ともなり、利用者の状況把握がしやすくなっている。支援者が同じ方向を向いて利用者を支援ができることで、支援者自身も孤立感を感じにくくなり、安心して支援に当たれたと感じることができた。また中央区みんなで支えるネットワーク会議や地域協議会のグループワーキングなど地域の活動にも積極的に参加することで、関係性を築くことができた。今後も地域とのつながりを大切にしながら、支援に当たっていきたい。

近隣区で年度内に新設された事業所の内、60%を見学する。	未達成	近隣にも10か所新規事業所はできてはいたが、利用者のニーズに合うところが少なかったこと、年明けの開所となり計画立案の繁忙期と重なったことで、事業所を訪問する余裕が持てなかったことから未達成という結果になってしまった。近隣区以外にも利用者のニーズに合った事業所があり、訪問を実施している。今後も利用者ニーズに合わせて事業所訪問をしていくことや、モニタリング時などに事業所の特色や空き状況等を意識して日頃から確認を行っていくことで、ニーズに即した事業所を案内できるようにしていく。
事例検討会と勉強会を各1回以上実施する。	上回って達成	事例検討会では、児童と者のそれぞれの事例についてグループに分かれ検討会を行ったことで、複数の職員で意見を出し合い、様々な視点からの支援に気づくことができた。 勉強会では、「子ども支援・保護者の支援に対する相談員のかかわり～子どもと保護者を支えていくために心がけること～」の講義を聞き、子どもとその保護者に対する支援をする上でのポイントを知ることができた。また、各地域支援協議会の参加状況を共有することで、各区の現状を知ることができた。

3 実施報告

＜共通＞

利用者のニーズを送迎時や面談にて的確に把握し、質の高い事業内容や支援の提供に努めた。

＜児童発達支援事業＞

2歳児から年長児までの、発達の遅れや集団に適応しにくい児童に対し、基本的な生活習慣を身につけ、社会生活への適応力を深め、心身の発達を促すための療育指導を行った。また、作業療法士による集団指導では、体の使い方や感情のコントロールなどのアドバイスをもとに日々の指導に役立てた。

(1) 母子グループ〔火・金、月・木（週2回）10時～11時45分〕

2歳児、1歳児で早期療育の必要な児童に、親子での遊びを通し、遊び方やかかわり方の指導・支援を行った。また、保護者支援として、面談日以外にも子育てに関する不安について随時アドバイスをを行った。

(2) 通園グループ〔月曜日～金曜日（週5日）9時45分～13時50分〕

園生活で「生活リズムの確立」「人と関わる楽しさ」「遊ぶ楽しさ」「身辺自立」を促す指導・支援を、集団又は個別で行った。また、運動会は近隣中学校の体育館で2歳児クラスと通園グループで実施し、遠足は与野公園に現地集合で実施した。

(3) フォローグループ〔毎週水曜日（週1回）14時30分～16時10分〕

幼稚園・保育園を利用している療育の必要な児童に小集団やグループでの活動を通し、集団に適応する力や発達を促す指導・支援を行った。

(4) 専門職による支援

① 嘱託医の発達相談（年2回6名）

専門医と個別で相談できる場として、年2回実施した。お子さんの成長段階に関する相談や家庭での困りごとなど、お子さんへの直接指導や保護者からの相談を行った。

② 言語聴覚士による言語指導（年11回31名）

個別の言語指導を年11回行った。言葉の基礎としてどのような力を育てることが必要か、言葉の発達段階に沿って保護者へ助言した。

③ 臨床心理士による個別指導（年6回12名）

発達検査を実施することにより保護者に具体的な発達状況を伝え、適切なかかわり方の指導助言を行った。職員に対してはカンファレンスを行い指導、支援に役立てた。

④ 作業療法士による個別指導（年 149 回 15 名）

保護者からの質問や相談が多く、指導後に時間を設けたり、電話でのアドバイスも行った。

＜保育所等訪問支援事業＞

さいたま市内在住で、保育園・幼稚園等に在籍している障害児又は発達に心配のある児童に対し、保護者からの依頼を受け、在籍相手先の了承を得たうえで訪問支援を実施した。保育所等での集団生活への適応状況を把握し、必要な課題や援助方法を保護者や保育所等のスタッフに伝えるとともに児童に対する支援を行った。

(1) 保育所等のスタッフに対する支援

対象となる児童の継続的な援助方法や障害特性等について、訪問時のカンファレンスのほかに電話での相談・支援も行った。

(2) 保育所等での子どもに対する支援

集団生活に適応できるよう、必要に応じて、直接児童への介助や声かけを行った。保護者への報告は、直接伝えるほかに電話や報告書で行った。

＜相談支援事業＞

地域にお住まいの、障害がある方やその保護者の方からの相談窓口として、障害福祉サービス利用に関する相談、基本相談支援を行った。利用者や保護者の心身の状況や置かれている環境や日常生活全般の状況を把握するためにアセスメントを行い、サービス等利用計画を作成しサービスの利用につなげた。継続的なモニタリングを行い、サービスの利用状況を検証し、利用計画の見直しを行った。

(1) 地域課題の検討や、制度の情報を得るために、地域の相談支援連絡会議に年 6 回参加した。

(2) 地域の「中央区みんなで支えるネットワーク事業連絡会」に年 2 回、地域協議会の児童ワーキングの会議に年 4 回参加し、その中で行われた中央区学習交流会にも参加し地域の障害支援関係の事業所や幼稚園・保育園と顔の見える関係づくりを行った。

(3) 相談支援員の専門性向上、困難事例等の検討・相談の場として、法人内で実施する相談支援担当者会議に年 11 回参加した。

(4) 家庭内の状況を把握するため、家庭訪問を年 44 件行った。虐待の早期発見、迅速かつ適切な対応を心がけた。

4 利用状況

＜児童発達支援事業＞

(1) 契約児数

令和 8 年 3 月 31 日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和 7 年度末
男児	31	16	9	38
女児	6	7	1	12
合計	37	23	10	50

(2) 年齢構成

令和 8 年 3 月 31 日現在

グループ	0 歳児		1 歳児		2 歳児		3 歳児		4 歳児		5 歳児		合計	
	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児
母子	0	0	2	0	6	3	0	0	0	0	0	0	8	3
通園	0	0	0	0	0	0	4	1	2	1	8	1	14	3
フォロー	0	0	0	0	1	0	4	0	3	1	6	4	14	5
個別	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	2	1
合計	0	0	2	0	7	4	8	1	7	2	14	5	38	12

(3) 障害者手帳(療育手帳、身体障害者手帳)に基づく障害等級区分 令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度④			重度 A			中度 B			軽度 C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	0	1	1	2	1	3	5	1	6	10	0	10	21	9	30	38	12	50
合計	0	1	1	2	1	3	5	1	6	10	0	10	21	9	30	38	12	50

(4) サービス別利用者数(延べ人数)

開所日数	年間利用人数	利用者1日平均	サービス別利用者数		
			基本サービス	給食サービス	送迎サービス
235	4,796	20.4	4,796	0	0

<保育所等訪問支援事業>

(1) 契約児数 令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男児	15	12	2	25
女児	2	1	0	3
合計	17	13	2	28

(2) 年齢構成 令和8年3月31日現在

年齢	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	計
男児	0	0	1	7	5	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
女児	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3

(3) 訪問先

訪問先	保育園		幼稚園	特別支援学校			小学校		中学校		放課後児童クラブ	(子ども園)	計
	公立	私立		小学部	中学部	高等部	普通級	特別支援級	普通級	特別支援級			
支援件数	10	20	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68
延べ支援件数	10	20	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68

<相談支援事業>

(1) 契約者数 令和8年3月31日現在

前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
158	16	12	162

(2) 事業別実績

障害児 相談支援	援助内容		請求件数	特定相談 支援	援助内容		請求件数
	障害児支援利用援助		162		サービス利用支援		31
	継続障害児支援利用援助		128		継続サービス利用支援		39
	計		290		計		70

(3) 相談支援方法

訪問	来所	同行	電話等	個別支援 会議	サービス 担当者議	関係機関	その他	計
44	415	5	575	4	2	1,574	381	3,000

5 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

① 嘱託医による健康診断

身長や体重、体調の変化などの発育状態を診てもらい、不安がある場合には相談を行える

場として、通園グループ対象に1人年2回、16名対象に実施した。

② 歯科健診、歯みがき指導

通園・母子グループを対象に、歯科検診・日常の歯磨き指導を年1回15名行った。

③ 児童降園後の室内、遊具等の消毒

室内の掃き掃除、消毒液での拭き掃除、マットの消毒、遊具の消毒を随時行った。

④ 感染症に関する園内研修

感染症の対応について、研修を年2回(みずき園看護師による研修1回を含む)実施した。
また、BCPの職員研修を行うとともに訓練を年2回実施した。

⑤ 感染症対応

感染症対策委員会を4回開催し、手洗い・うがいの励行、手指の消毒、室内の湿度管理、室内・遊具の消毒などの対策を行った。

(2) 事故防止対策

① 自主点検チェック表を用いた安全点検

毎日日直が自主点検チェック表をもとに、各部屋の施錠や電気の消し忘れ等の安全確認を行った。

② 遊具の安全点検

月に1回固定遊具や室内の遊具全ての安全点検を行い、不良箇所は修理を行った。また、結果については、毎月園内に貼り出した。

③ ヒヤリハット報告書の活用

ヒヤリハット報告書を半年後と1年後に振り返りを行った。見直すことで意識が高まり、事故を未然に防ぐ手立てを考え実践することができた。

(3) 防犯対策

① テラス入り口、玄関の施錠の徹底

園児の登園時間中以外の時間帯も施錠を徹底し、事故防止や不審者対策に努めた。

② さすまたの設置

1階の玄関・2階事務室の2か所に、不審者対応のためのさすまたを設置し、配置場所の確認を行った。

③ 防犯に関する園内研修の実施

不審者対応の実技を含めた防犯研修を、11月にみずき園と合同で警察の方を招いて行った。

(4) 個人情報管理

職員に対しての個人情報保護・情報セキュリティ対策に関する教育を行うとともに、情報セキュリティポリシーに基づく情報管理の徹底を図った。

(5) 災害対策

① マニュアルや備蓄品などの整備

緊急事態等対策計画の見直しを行い、備蓄品の消費期限や内容を確認した。また、大規模災害に備えマニュアルの見直しを行った。

② 自主避難訓練の実施

通園グループ・母子グループ・フォローグループが参加できるように、場面や時間を変えて設定し、年11回自主避難訓練を行った。(消火訓練含む)

水害時の避難場所まで園児と職員で年1回避難訓練を実施した。

③ 消防署員立会いによる防災訓練の実施

消防職員が立会いの下、通報訓練・避難訓練・消火訓練を年1回行った。

④ 災害時のBCP訓練として、災害・水害時の避難経路を実際に歩き確認し、BCPの見直しを行った。

(6) 施設維持管理

① 建築設備等の点検を1月に実施した。

② 消防設備点検を6月と12月に実施した。

(7) 人権擁護・虐待防止

① 職員への虐待防止に関する研修や教育

職員全員が、療育施設虐待防止マニュアルの読み合わせ年1回、身体拘束に関する研修を年2回、虐待防止チェックを年3回、虐待防止チェックの自由記述欄に記載された事項についてのグループ討議研修や振り返りの研修を年3回、人権意識振り返りシートを年1回を実施し、虐待に関する共通認識を深めた。

② 虐待防止委員会と身体拘束適正化委員会を2回開催し、各クラスからの報告や事例検討を行った。

③ 送迎時などの保護者や児童の様子から状況を捉え、虐待の未然防止、早期発見に努めた。

(8) 施設あり方検討

施設あり方検討会を7回開催し、施設認知度の向上と新規利用者の獲得、経営の効率化に努めた。

6 サービス向上計画実施状況

(1) 利用者の意見を反映する取組

① 利用者アンケート、施設サービス自己評価（各年1回）、埼玉県福祉サービス第三者評価を実施し、意見・要望に対する回答も含め結果を掲示するとともに、いただいたご要望に応じて改善を行った。

② 迅速な苦情対応

意見箱「みなさまの声」を設置し、保護者等の意見・提案を共有し、サービスの向上に努めた。

③ 全グループ対象に、個別支援計画の面談時に保護者からのご意見やご希望を伺う場として年3回個人面談を行った。

④ 保護者対象の勉強会は、1回目は言語聴覚士1名が講師、2回目は先輩保護者2名が講師となり、年2回49名の参加があった。

(2) 地域、関係機関との連携

① 関係機関との連携強化

各区保健センター及び支援課、家庭児童相談室、幼稚園、保育園、総合療育センターひまわり学園、療育センターさくら草、市内の児童発達支援センター、各区障害者生活支援センター等との連携の強化を図った。

② 保育コーディネーターとの連携

中央区の保育コーディネーターと職員との情報交換を行った。

③ 児童センターとの連携

中央区、桜区内の児童センター（大戸、向原、与野本町、大久保東）を利用されている地域の児童の保護者で、発達を心配している方に対し計9回発達相談を行った。また、児童セ

ンター職員と情報交換等を行った。

④ 親子教室への職員派遣

桜区（年6回）・南区（年2回）・中央区（5回）保健センターが主催する親子教室に参加し、地域の児童の発達や進路等の助言を行った。

⑤ さいたま市中央区公立保育所育成支援制度適応審査会への職員派遣

中央区公立保育所育成支援制度適応審査会の会議に4回参加した。

⑥ 交流保育

12月、1月に実施予定の交流保育を感染症が流行する時期であったため、大戸保育園と相談の上、8回の予定を4回の実施とした。

(3) 専門性の向上

事業団事務局及び研修委員会で企画する研修のほか、以下の研修に参加した。

① 外部派遣研修

月	日	研修名	参加人数
5	5/15、6/13	さいたま市保育者資質向上研修	4名
6	3	AED研修	1名
7	30	発達障害のある子どもを育てる親の支援	1名
10	21、22	保育者小学校等体験研修	1名
11	6	さいたま市指定障害児通所支援事業所等研修会	1名
	18	保育所等訪問支援勉強会	5名
1	23	コーチング研修	1名
2	4、5	サービス管理責任者更新研修	1名

② 職場内研修

月	日	研修名	参加人数
4	2	経営理念・経営基本方針・職員倫理綱領・職員行動規範・事業計画書	13名
		重要事項説明書の読み合わせ	13名
		杉の子園指導マニュアル	13名
5	2	杉の子園管理マニュアル	13名
6	12	リズム	9名
7	10	感染症・座薬対応について	10名
	11	虐待防止マニュアル読み合わせ・身体拘束について	12名
8	1	虐待防止研修	12名
	5	ポーター・遠城寺式について	9名
	29	支援について	13名
9	9	言語学習会について	8名
10	24	令和7年度予算について・伝達研修	12名
	30	災害・感染症BCPについて	13名
11	18	相談支援について	10名
	27	防犯・不審者対応	9名
12	19	作業療法士の視点（感覚の役割）	10名
	25	虐待防止研修	10名
2	20	伝達研修（感染症・指定障害児通所支援事業研究会）	10名
3	19	個人情報・情報セキュリティ対策	13名
隔月1回		ケース会議	各月9名

7 年間行事報告

月	日	内 容	備 考
4	7	通園グループ顔合せ	保護者18名
	8	母子グループ顔合せ	保護者2名
	9	フォローグループ顔合せ	保護者15名
	15	水害時避難訓練	保護者5名 園児16名
5	1～6/30	家庭訪問（通園グループ）	保護者5名
	13	避難訓練（通園グループ）	保護者6名、児童18名

6	2	健康診断(通園ばんだ組)	9名
	12、19	通園グループ懇談会	12日 9名、19日 9名
	16	母子グループ懇談会	保護者3名
	26	避難訓練(通園グループ)	保護者 3名、児童13名
7	7	健康診断(通園きりん組)	9名
	17	歯科検診	16名
	22	避難訓練(母子・通園グループ)	保護者 5名、児童18名
	23	フォローグループ懇談会	保護者 8名
	25	母子グループ懇談会	保護者 3名
8	6	通園きょうだいデー	きょうだい 5名
	13～15	家庭療育期間	
	19	避難訓練	保護者 8名、児童18名
9	9	保護者向け勉強会(言語聴覚士)	保護者26名
	10	避難訓練	児童12名
10	11	運動会	保護者70名、児童23名
	15	総合防災訓練	保護者19名、児童19名
	30	通園グループ遠足(与野公園)	保護者16名、児童16名
	10/31～12/5	アート作品展「スマイル・プラス」	展示・WEB公開
11	13、20	通園グループ懇談会	保護者17名
	15	母子グループ土曜参観	保護者 5名、児童 5名
	20	避難訓練	保護者 7名、児童19名
	29	通園グループ土曜参観	保護者14名、児童14名
12	16	母子グループお楽しみ会	保護者 9名、児童 9名
	19	通園お楽しみ会	保護者16名、児童16名
	22	避難訓練(通園グループ)	保護者 6名、児童17名
1	19	健康診断(通園ばんだ組)	8名
	21	避難訓練(フォローグループ)	児童15名
2	18	フォローグループ懇談会	保護者11名
	26	保護者向け勉強会(先輩保護者の話)	保護者26名
3	5	入園説明会	6名
	2、3	母子グループ懇談会	保護者8名
	2、5	通園グループ懇談会	2日 8名、5日 7名
	13	卒園式	保護者17名、児童16名
	23	避難訓練(通園グループ予告なし避難)	保護者10名、児童20名

【15】療育センターさくら草（児童発達支援センター）

1 受託事業

- (1) 児童発達支援事業（すみれ）
- (2) 児童発達支援事業（たんぽぽ）
- (3) 保育所等訪問支援事業
- (4) 相談支援事業（障害児相談支援事業、特定相談支援事業）

2 今年度の施設取組計画

<児童発達支援事業（すみれ）>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
肢体不自由児・医療的ケア児等に関する研修に5名以上参加	上回って達成	今年度は9名の職員が外部研修に参加することができた。今後も外部での研修の情報を収集し、できるだけ多くの研修に参加していきたい。園内研修に関しては、OT研修やプール指導の研修など日々の療育に生かせるものが多く職員全体のスキルの向上に繋がったと思われる。
欠席児・ご家族への助言年間合計130件以上	未達成	今年度は前年度よりもさらに契約者数が少なく、また低年齢で契約の利用日数が少ない方も多かったため、助言の数が減少したと考える（計44件）。今年度も、長期欠席の園児に対しては手遊び歌の動画を送信したり、お知らせなどの配布物を郵送するといった形で支援を行った。
児童発達支援6施設中2施設から事例を出し検討会を行う。（輪番）	達成	今年度も参集で開催したことで児童発達支援6施設から多くの職員が参加し、取組のアイデアを出し合うなど、お互いに活発に意見を交換したり、学び合うことができた。また今回はすみれの職員が事例を提供し、発表を経験することで改めて自身の取組を振り返ったり、次の取組を考えるよい機会となった。

<児童発達支援事業（たんぽぽ）>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
園内研修を3回実施する。外部研修に3回参加する。	上回って達成	今年度も直接支援に係る研修の他に相談支援についての研修を実施し、保護者支援に係る研修も開催した。また、防犯研修では、シナリオ（設定）作りから取り組み、職員1人1人が現実的に捉えて研修に参加することができた。
稼働率の維持（96.3%以上）	未達成	職員の勤務時間帯が異なることやバス添乗の業務があり、全職員でケース会議を実施する時間を確保するのが難しかった。代わりに毎朝の申し送りでも園児の状況、状態が把握できるように徹底したほか、クラス会議を開催して、必要な内容については支援時間前に職員間で共有を図ったり、業務日誌にも記録を残すなどして、不在の職員にも漏れなく伝え、支援の手がかりとなるようにした。また、専門職による職員向け勉強会を開催して職員の資質向上に取り組んだ。今年度は利用児数が定員に満たず、稼働率を上げることが難しく、3月末時点の年間平均稼働率は65.3%となった。
児童発達支援6施設中2施設から事例を出し、検討会を行う。（輪番）	達成	今年度は発表者として参加した。自分達の日々の支援を振り返る機会となり、また聴講者に分かりやすく興味を持って聴いてもらうための工夫等についても学ぶことができた。来年度も同じ療育施設の職員同士で集まり、情報交換する場として事例検討会を継続させていく。

<保育所等訪問支援事業>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
訪問担当者会議の中で保有ケースに関する話し合いを年4回行う。	達成	訪問を実施して助言を行った結果うまくいった例、困難ケースの現状など、話し合いを通じていろいろなケースの状況や対応を知ることができ、お互いの学びや今後に向けての参考となった。来年度からは小学校へも訪問の範囲を広げていくため、引き続き話し合う機会を設け、訪問の状況を報告し合ったり、活発に意見交換をしたりできるよう取り組んでいく。

幼稚園や保育園への訪問の同行を年3件以上行う。	上回って達成	今年度の同行は、今後訪問支援に携わることが見込まれる職員の同行、経験値の高い職員との同行、多職種での同行と様々な形での同行を実施し、保育士、児童指導員、作業療法士、理学療法士それぞれの視点をお互いに学ぶ機会となった。
ことばやコミュニケーション等に関する研修に参加する。	達成	療育センターさくら草の臨床心理士を講師に迎えて子どもとの関わりについて講義を行っていただき、子どもと関わるうえで大切な事柄を学ぶことができた。また、令和8年度からの小学校への訪問を見越したテーマも盛り込んでいただき、学齢期のお子さんの状況なども学ぶことができた。

＜相談支援事業＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
関係機関の会議等に年6回以上参加。	上回って達成	桜区地域協議会は開催されなかったが、相談支援部会を中心に、こども部会や顔の見えるネットワーク会議（桜区、南区）に参加することで、多職種間も含めて情報共有等を行うことで協力体制を深めることができた。また、桜区北区岩槻区合同相談支援連絡会議や、大宮区の相談支援連絡会議。南区課題別部会等に参加し、各区の課題や取組を知ることができた。教育機関においては、毎年開催される連絡会や学校公開に継続して参加することで、連携を深めることができた。
事業所訪問や、関係機関との個別支援会議を1人年7回実施する。	上回って達成	事業所訪問を継続することで利用者の様子や取組内容を知ることができ、本人支援に生かすことができた。また、個別支援会議等の開催や参加については、必要に応じて実施した。フォーマル・インフォーマル等の資源については継続して情報収集に努め、必要に応じて情報提供することができた。
事例検討会と勉強会を各1回以上実施する。	上回って達成	事例検討会では、児童と者のそれぞれの事例についてグループに分かれ検討会を行ったことで、複数の職員で意見を出し合い、様々な視点からの支援に気づくことができた。勉強会では、「子どもの支援・保護者の支援に対する相談員のかかわり～こどもと保護者を支えていくために心がけること～」の講義を聞き、子どもとその保護者に対する支援をする上でのポイントを知ることができた。また、各地域協議会の参加状況を共有することで、各区の現状を知ることができた。

3 実施報告

＜共通＞

関係機関との情報交換や連携に力を入れて支援を行ったほか、研修はより専門性を高められるような内容のものを選択し、職員のスキルアップを図った。また、必要に応じて支援に関するアドバイスを療育センターさくら草の各専門職からもらい、日々の療育で実践していった。

＜児童発達支援事業（すみれ）＞

心身に発達の遅れのある子どもを対象に、保護者と一緒に活動する中で、生活リズムを整えるとともに、生活動作の習慣化を図った。また、安心できる環境のもと、スモールステップで大人や友達と様々な経験を重ね、人との関係を広げるとともに、自主性を大切にしながら、全体発達を促す支援を行った。

- (1) 活動にあたっては、子ども一人ひとりの特性を捉え、支援を提供した。
- (2) 看護師はセンターの医師、看護師等とも連携し、医療的ケアの必要な子どもへの安全なケアと、全ての利用児の健康・衛生管理を行った。
- (3) 訓練士は、身体の機能に関する専門職として、生活の中における子どもの動きや刺激の捉え方等について、勉強会や保育場面を通して、職員や保護者に対する助言や指導を行った。
- (4) 音楽療法士によるグループ指導では、身体的、心理的、社会的作用を受けることでの発達を

促した。

- (5) プール活動では、陸上では難しい自発的な動きを引き出し、園児が楽しみながら自分の身体を実感できる機会とした。
- (6) 隣接保育園の園児と活動を共に行う交流保育を実施した。ともに対等に取り組めるような内容にしたことで、お互いに刺激を受け合うとともに、楽しかったと感じ合えるような機会となった。
- (7) 連絡ノートや懇談会での情報共有、また、発達に関する勉強会等を通じて、保護者の子育てに対する支援を行った。

<児童発達支援事業（たんぽぽ）>

発達に遅れのある子どもを対象に、生活リズムや生活の習慣化を図り、小集団の中での様々な経験を通じて自信や意欲を育むとともに、人と関わる力や、自己表現・自己コントロールの力を身につけられるよう支援した。

- (1) 活動にあたっては、子ども一人ひとりの特性を捉え、発達段階や個々の様子に合わせて、安心して園生活を送れるよう支援を行った。
- (2) 生活とあそびを基盤にしながら、行事や文化、季節を感じられる活動などにも重点を置いた取組や、社会体験として買い物体験や、外食体験などを行った。
- (3) センター内の医師、訓練士、管理相談係との情報共有や連携を通じて、子ども及び保護者支援を図った。
- (4) 懇談会での情報共有や、定期・随時の個人面談、発達に関する専門職の勉強会等を通じて保護者支援を行った。
- (5) 作業療法士による個別指導では、子ども、保護者の困りごとを捉えたうえで、子どもにはあそびを通じて身体の使い方を学びながら、身体の動きや感情を調節する力を身に付けるための支援を行い、保護者には助言を行った。

<保育所等訪問支援事業>

契約児の通う幼稚園、保育園等に訪問し、集団生活への適応のための個別的、間接的、専門的支援を行った。また、担当職員向け勉強会や、保育ケースについての会議等を通して、資質向上を図った。保育ケースの会議では成功談や困難時の対処法等を聞くことで、それぞれが学びを得ることができた。

<相談支援事業>

家庭訪問や事業所訪問等を実施することで、契約児の状態や家庭の状況等を把握し、総合的な支援を目指した利用計画案の作成や障害福祉サービス利用の支援を行った。さらに、セルフプランの園児や、園児以外の療育センターさくら草外来利用者の方の困りごとに寄り添う支援として、一般相談や福祉サービス説明会を行い、情報提供や助言を行った。また、行政や教育機関、関係事業所等と顔の見える関係性を深めることで、連携強化を図るとともに、研修等への積極的な参加を継続することで、相談支援専門員としての専門性を高めることに努めた。

4 利用状況

<児童発達支援事業（すみれ）>

(1) 利用者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規入園者	退園者	令和7年度末
男	10	4	0	14
女	8	5	0	13
計	18	9	0	27

(2) 年齢構成

令和8年3月31日現在

グループ	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		合計	
	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児
母子	1	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	2	3
通園	0	0	0	0	1	1	1	0	3	0	3	2	8	3
フォロー	0	0	0	3	2	3	2	1	0	0	0	0	4	7
合計	1	0	1	4	3	6	3	1	3	0	3	2	14	13

(3) 療育手帳に基づく障害等級区分

令和8年3月31日現在

障害 程度	最重度㊦			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	5	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	3	8	10	4	14
2級	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	2
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	8	11	3	8	11
合計	5	1	6	0	1	1	0	0	0	0	0	0	9	11	20	14	13	27

(4) 開所日数と延利用者数

開所日数	年間利用人数	1日利用平均
232	1,644	7.1

<児童発達支援事業（たんぽぽ）>

(1) 利用者数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規入園者	退園者	令和7年度末
男	33	36	6	63
女	4	12	3	13
計	37	48	9	76

(2) 年齢構成

令和8年3月31日現在

グループ	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		合計	
	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児
母子	0	0	2	2	4	1	0	0	0	0	0	0	6	3
通園	0	0	0	0	0	0	6	1	7	2	4	1	17	4
フォロー	0	0	0	0	0	0	2	0	6	0	3	0	11	0
個別	0	0	0	0	4	3	5	0	5	2	15	1	29	6
合計	0	0	2	2	8	4	13	1	18	4	22	2	63	13

(3) 療育手帳に基づく障害等級区分

令和8年3月31日現在

障害 程度	最重度㊦			重度A			中度B			軽度C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	0	0	0	3	1	4	7	0	7	7	1	8	46	11	57	63	13	76
計	0	0	0	3	1	4	7	0	7	7	1	8	46	11	57	63	13	76

(4) 開所日と延利用者数

開所日数	年間利用人数	利用者1日平均
236	4,625	19.6

<保育所等訪問支援事業>

(1) 契約児数 令和8年3月31日現在(人)

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男児	9	5	4	10
女児	8	4	4	8
合計	17	9	8	18

(2) 年齢構成

年齢	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	計
男児	0	0	0	3	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
女児	0	0	3	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8

(3) 訪問先

訪問先	保育園		幼稚園	特別支援学校			小学校		中学校		放課後児童クラブ	その他(子ども園)	計
	公立	私立		小学部	中学部	高等部	普通級	特別支援級	普通級	特別支援級			
支援件数	11	13	11	0	0	0	0	0	0	0	0	2	37
延べ利用人数	11	13	11	0	0	0	0	0	0	0	0	2	37

<相談支援事業>

(1) 契約者数 令和8年3月31日現在

前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
286	11	33	264

(2) 事業別実績

障害児 相談支援	援助内容		請求件数	特定 相談支援	援助内容		請求件数
	障害児支援利用援助		326		サービス利用支援		0
	継続障害児支援利用援助		349		継続サービス利用支援		1
	計		675		計		1

(3) 相談支援方法

訪問	来所	同行	電話等	個別支援会議	サービス担当者会議	関係機関	その他	計
207	731	19	1,047	8	9	2,599	950	5,570

5 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

- ① 感染症 BCP に基づき、感染症対応研修を年2回行った他、インフルエンザ等基本ルールに基づく対応を徹底した。
- ② 登園時、看護師による健康観察の時間を設け、全園児の健康管理を行った他、保健だよりで感染症等に関する情報の提供を行った。
- ③ 感染症防止対策として、入館者の検温、手指消毒の徹底を図った。手拭きにはペーパータオルを使用した。保育後に教室や玩具等の消毒を行った。

(2) 事故防止対策

月1回遊具点検を行うことで、園児が安全に遊べるよう努めた。また、些細な出来事もヒヤリハットによる報告を行い、報告書を回覧して職員の事故防止等への意識を高めた。療育後のミーティングを行うことで、職員間で園児の状態把握や、危険箇所の改善等を図り、事故防止に努めた。

(3) 防犯対策

不審者の侵入がないよう、来館者への積極的な声かけ等を行うとともに、非常口にはベルを

設置し、人の出入りに気づきやすいようにした。また、いざという時のために、緊急時の通報先を職員室内に掲示し、職員に周知を図った。必要に応じて登園時間に玄関付近での安全確認も行った。さらに、今年度も不審者対応研修として、さすまたの使い方を学んだ他、実地訓練として不審者侵入を想定した設定での対処を実践形式で行い、防犯に関する意識を高め合った。

(4) 個人情報管理

個人情報の取り扱いについては、個人情報持出管理票を活用した。情報セキュリティチェックを年1回実施し、結果を全職員に供覧し、情報管理の安全性を確認するとともに、職員の意識向上を図った。また、パソコンのパスワード変更を必ず月1回行い、安全性を高めた。退勤時には書類の返却や、キャビネットの施錠について確認を行い、管理の徹底を図った。

(5) 災害対策

療育センター危機管理マニュアルに基づき、地震の後の施設点検や報告を行った。災害BCPに基づき、園独自の避難訓練の他、センター全体での総合防災訓練を年2回、引渡し訓練を年1回実施した。

(6) 施設維持管理

療育後の園内清掃や消毒、施設内の見回り点検を実施した。

(7) 施設のあり方検討

あり方検討委員会を3回実施し、稼働率の向上や、ニーズのある子どもの利用を幅広く受け入れるための方策として、一定の基準を満たした場合、並行通園児の受け入れを行うこととした開始することとした（令和8年度より実施）。

(8) 人権擁護・虐待防止への取組

虐待防止チェックリストの実施後、気になる支援に関する意見が複数出されたため、虐待防止委員会を開催して、架空の保育者が不適切支援を行う動画を作成した。職員で視聴した後、グループごとに分かれ、意見を出し合った。登場人物それぞれの気持ちについて考えるとともに、望ましい支援の在り方について考える時間となった。

6 サービス向上計画実施状況

(1) 利用者の意見を反映させる取組

- ① 利用者アンケートを実施し、いただいたご意見を運営に取り入れるとともに、施設自己評価を実施することで、職員の支援の振返りや見直しを行う機会にするとともに、よりよいサービスが提供できるよう検討を行った。
- ② 年に2回の個別支援計画面談の他、必要に応じて面談を行い、保護者からのニーズの確認や相談に対する助言を行った。
- ③ 関係職種（医師・PT・OT・ST・心理士・ケースワーカー）に、必要に応じて医療や制度、指導についての助言を受け、支援の参考にすることで、よりよいサービスの提供につなげた。
- ④ 園ごとに専門職による保護者向け勉強会を年4回、懇談会を各クラス2回ずつ行い、保護者が子育てに生かせる話題を提供し、保護者間、また保護者間の親睦を深める機会等とした。

(2) 地域、関係機関との連携

- ① 市内の保育、教育関係者を対象としたセンター施設見学会で展示を行い、児童発達支援センターを知っていただく機会とした。
- ② フォログループ利用児童の所属幼稚園2か所に訪問を行い、情報交換や支援についての助言を行った。
- ③ 隣接保育園との交流保育を実施し、一緒に活動する時間を設けた。お互いに刺激を与え合

いながら楽しく交流することができた。

- ④ 田島公民館文化祭にて園児のアート作品を展示させていただいた。職員は地域の方に作品説明等を行うなどして、地域との交流を深めた。
- ⑤ 児童センター3館の発達相談に合計6回参加した。保護者からの相談に対応したほか、情報提供等を行った。
- ⑥ 市内の児童発達支援事業所より、新施設開所に向けた助言依頼を受け、施設の見学を通して必要な準備品や設備の配置に関する工夫、療育の展開の仕方などについて、助言を行った。

(3) 専門性の向上

事業団事務局及び研修委員会で企画する研修のほか、以下の研修に参加した。

① 専門職による職員研修

<児童発達支援事業（すみれ）>

月	日	研 修 名	参加職員数
6	3	職員向け PT 勉強会	5名
	25	プール研修	5名
7	25	職員向け OT 勉強会	6名
10	10	職員向け ST 勉強会	8名
11	18	小学生への支援と解決思考アプローチ(心理)	9名

<児童発達支援事業（たんぽぽ）>

月	日	研 修 名	参加職員数
5	29	職員向け心理勉強会	8名
6	3	職員向け PT 勉強会	11名
7	25	職員向け OT 勉強会	6名

② 外部研修

<児童発達支援事業（すみれ）>

月	日	研 修 名	参加職員数
5	15	ペアレントトレーニング基礎研修会	3名
	25	障害児通所支援施設で働く心理職の役割について	1名
6	24	福祉現場に必要な法律の基礎知識	1名
7	2	発達障害児者の性教育の伝え方	1名
8	23	地域の多職種連携によるコミュニケーション支援	1名
	24	教育現場における合理的配慮の現状とこれから	1名
10	1	埼玉県障害福祉ハラスメント対策研修	1名
	16	ICT を活用した障害児支援	1名
	21	苦情解決セミナー	1名
1	30	肢体不自由児のプール活動について	6名
2	4、5	埼玉県サービス管理責任者等更新研修	1名

<児童発達支援事業（たんぽぽ）>

月	日	研 修 名	参加職員数
4	17	5領域ってナンダ？支援計画に取り入れる手順と方法	1名
5	15	ペアレントトレーニング基礎講習会	1名
	25	支援の考え方とマネジメントワークショップ	1名
6	24	福祉現場に必要な法律の基礎知識研修（障害）	1名
7	14、18	強度行動障害支援者養成研修（実践）	1名
8	23	地域の多職種連携によるコミュニケーション支援	1名
	24	教育現場における合理的配慮の現状とこれから	1名
10	1	埼玉県障害福祉ハラスメント研修	1名
	16	ICT（情報コミュニケーション技術）を活用した障がい児支援	1名
	6	さいたま市指定障害児通所支援事業所等研修会	1名
11	6	令和7年度指定障害児通所支援事業者等研修会	1名
12	22	医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修	1名
	26	手軽にできる！姿勢が崩れやすいお子さんへの対応	1名

1	6	保育資質向上研修会	1名
	10、17、18	令和7年度相談支援現任研修	1名
	30	肢体不自由児のプール活動について	1名
	24	発障協セミナー	1名

③ 他の通園施設の見学・職員交流研修

＜児童発達支援事業（すみれ・たんぽぽ）＞

月	日	研 修 名	参加職員数
9	29	ひまわり学園つばみ交流研修	1名
10	27	事業団他法人研修	1名

④ 関係事業所、施設の見学

＜相談支援＞

月	日	研 修 名	参加職員数
4	11	あおい杜	3名
	21	いろどり	3名
	28	ひこうき雲	3名
6	2	リハスワーク南浦和	1名

※新規事業所のみ記載

⑤ 職場内研修

＜児童発達支援事業（すみれ）＞

月	日	研 修 名	参加職員数
4	11	倫理綱領等について	12名
	25	緊急対応ルール	10名
9	5、12	経営健全化計画説明会	12名
12	24	伝達研修会（福祉現場で必要な法律の基礎知識、福祉機器体験会他）	9名
1	23	実務担当者会議主催事例検討会	10名
2	2	感染症予防対策研修	9名
	4	虐待が疑われるケースの事例について	7名

＜児童発達支援事業（たんぽぽ）＞

月	日	研 修 名	参加職員数
4	11	職員倫理綱領、経営理念、職員行動規範、事業報告書	12名
	25	緊急対応ルールについて	12名
5	1	リズムあそびについて	8名
8	12	経営健全化計画について	6名
11	18	保育所等訪問支援担当者向け勉強会（心理）	4名
	21	他法人研修伝達研修	7名
	22	相談支援について	10名
12	6	支援の振り返り	11名
1	25	虐待防止、通報の流れについて	8名
2	2	感染症対策研修	10名
		文書処理	12名
	24	防犯研修	9名
3	30	情報セキュリティ伝達研修他	6名

7 年間行事報告

＜すみれ＞

月	日	内 容	備 考
4	7	入園式	新入園児親子1組
5	9	総合防災訓練	療育センター全体
	14、15	健康診断	5名
	19	耳鼻科検診	6名
6	21	土曜参観	親子7組 23日振替休園
	27	先輩保護者の話を聞く会	8名
7	3	歯科健診	7名
	11	夏祭り	親子7組
8	13～15	夏季家庭療育期間	全園児
	28	園外プール（障害者交流センター）	親子延べ4組
9	2、18	園外プール（障害者交流センター）	親子延べ7組

10	1、2	健康診断	9名
	3	秋の遠足（鉄道博物館）	親子8組
	30	引き渡し訓練	2園合同 親子6組
11	11	総合防災訓練	療育センター全体
12	19	お楽しみ会	親子8組
	29	冬季家庭療育日	12/29～1/4
2	14	土曜参観	親子7組 16日振替休園
3	6	お別れ遠足（国立科学博物館）	年長児親子4組
	17	卒園式	年長児親子4組 年中児親子3組
	24	交流保育（田島保育園）	3名
	27	お別れ会	親子7組
	30、31	春季家庭療育期間	3/30～4/3
その他		保護者会（年1回）、クラス懇談会（年2回）、音楽療法（月1回）、保護者勉強会（年4回）、誕生日会（月1回）、避難訓練＜園独自＞（年10回）、身体測定（月1回）	

<たんぽぽ>

月	日	内 容	備 考
4	7	入園式	新入園児親子5組
5	9	総合防災訓練	療育センター全体、園児16名、保護者5名
	20、21	春の健康診断	15名
	23	春の遠足（田島東公園）	親子15組
6	10	耳鼻科検診	親子18組
	21	土曜参観	親子14組
	3	歯科検診	16名
7	11	夏祭り	2園合同 親子16組
8	13～15	夏季家庭療育期間	全園児
9	26	秋の遠足（鉄道博物館）	親子14組
10	7、8	健康診断	園児19名
	19	運動会	親子19組
	30	引き渡し訓練	2園合同 親子17名
11	11	総合防災訓練	療育センター全体、園児16名、保護者4名
12	16	お楽しみ会	親子20組
	27～31	冬季家庭療育期間	12/27～1/3
2	18	田島保育園交流保育	年長4名
	14	土曜参観	親子14組
	27	お別れ遠足（リトルプラネット）	年長児親子4組
3	18	卒園式	卒園児親子5組 年中児親子6組
	27	お別れ会	親子20組
	30、31	春季家庭療育期間	3/30～4/3
その他		保護者会（年1回）、クラス懇談会（年2回）、身体測定（月1回）音楽療法（年15回）、誕生日会（月1回）、避難訓練（園独自年11回）、保護者勉強会（年4回）	

【16】はるの園（児童発達支援センター）

1 指定管理（令和7年度～令和11年度）

- (1) 児童発達支援事業
- (2) 保育所等訪問支援事業
- (3) 相談支援事業（特定相談支援事業、障害児相談支援事業）

2 受託事業

さいたま市東部地域つながる発達支援相談事業

3 今年度の施設取組計画

<児童発達支援事業>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
要望の多かった活動を各クラス年2回実施する。給食のリクエストを年2回メニューに取り入れる。	上回って達成	子どもたちの好きな活動やリクエストメニューの実施等、より子どもたちのニーズに合わせた提供ができた。SNSでははるの園の様子を投稿してきたが、平均して300近い閲覧があり（特に給食に関しては600を超えた）、活動や給食に関心の高さが伺えるとともに、大きな強みと言える。
児童発達支援6施設中2施設から事例を出し、検討会を行う。	達成	他施設の職員と対面で意見交換でき、職員が刺激を受けモチベーションが高まる機会となった。
稼働率92%	上回って達成	ひまわり学園、療育センターひなぎく等との連携により、早い段階での各グループが定員に達した。利用児は、職員や仲間と一年を通じて積み重ねができ、年度末には安心できる関係が広がり、他クラスとの交流や利用児同士で楽しむ姿が多く見られた。今年度は未歩行児の受け入れがあったが職員一丸となってサポートし、保護者よりはるの園に通う楽しさや成長を感じたと面談で評価して頂いた。9月、1月、2月は稼働率が100%を超えた。（年間平均96.9%）

<保育所等訪問支援事業>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
より良い支援に向けて検証してきた内容をまとめ、継続できる体制を作る。	達成	令和7年度は会議を多く開催し、その都度利用児の情報共有を行うことができた。また、対応困難なケースについても共有、検討することで次の訪問支援に活かすことができた。利用児のニーズに合わせ、訪問支援員と作業療法士と一緒に訪問を実施したことで、特に身体面、感覚面についての提案を充実させることができた。
マニュアルを本格的に運用できる形にする	達成	令和7年度は、訪問支援担当者向け勉強会を通して、学齢期の児童への支援について学びを深めた。参加できなかった職員には伝達研修を行い、今後の支援に活かすこととした。次年度以降、小学校への訪問の際にも参考にしていく。
保育所等訪問支援を年間28件実施する。	上回って達成	児童発達支援事業と連携を図りながら、目標を上回る件数を実施できた。（年間33件）個別指導やフォロークラスの見学やつながる発達支援事業の面談の際に保育所等訪問支援事業を紹介することで年間を通して新規契約に繋がった。

<相談支援事業>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
地域の学校へ訪問し、関係を深める。（年2回以上）	上回って達成	学校（地域の学校や特別支援学校）、教育相談センター等との連携を図ることで、ケースの情報を共有し、関係機関との連携に生かすことができた。それにより、利用者が安心した地域生活を送るための支援につなげることができた。

事業所へのモニタリング件数 年間 8 件	上回って 達成	事業所に直接訪問しモニタリングを行うことで、実際の利用者の様子を確認し実態把握を深めることができた。個別支援計画の共有について、すべての事業所と行うことは難しかったが、個別支援計画とサービス等利用計画を確認することで目標や支援のずれが生じていないか確認することができた。新規事業所の見学については、地域を中心に行い、事業所の特色を把握することで利用者のニーズにあった支援につなげることができた。また、見学の際にお互いに顔を合わせることでスムーズな連携にもつながった。
事例検討会と勉強会を各 1 回以上実施する。	上回って 達成	事例検討会では、児童と者のそれぞれの事例についてグループに分かれ検討会を行ったことで、複数の職員で意見を出し合い、様々な視点からの支援に気づくことができた。勉強会では、「子ども支援・保護者の支援に対する相談員のかかわり～こどもと保護者を支えていくために心がけること～」の講義を聞き、子どもとその保護者に対する支援をする上でのポイントを知ることができた。また、各地域支援協議会の参加状況を共有することで、各区の現状を知ることができた。

4 実施報告

<共通>

利用者アンケートやみなさまの声、また連絡帳や面談時、送迎時等で直接声を聞くことで、利用者のニーズを的確に把握し、事業内容や支援の見直しを行い質の向上に努めた。

<児童発達支援事業>

発達の遅れや集団に適応しにくい児童が基本的な生活習慣を身に付け、社会生活への適応力を深め、心身の発達を促すための療育を行った。

(1) 通園グループ（週 2 日～5 日）

- ① 集団生活や遊びにおけるルールの中で、同世代の児童との関係が広がるよう支援した。
- ② 具体的な課題を設定して活動する時間を設け、興味関心を育てると同時に達成感を体験することにより、個々の発達を促す支援を行った。
- ③ 身体機能の働きを高めるため、音楽や人との関わりを通じて、感覚運動・音楽リズム運動を定期的に実施した。
- ④ 個々の児童へのより適切な発達を促すため、個別指導を定期的に実施した。
- ⑤ 行事は全体的に実施を増やした。今年度は、近隣保育園との交流保育を実施したことで、同年代の児童との関わりやコミュニケーションの広がり、相互理解につながった。
- ⑥ 保護者との共通理解をもとに児童への支援を行うため、親子通園を実施した。
- ⑦ 給食の提供について、栄養士による栄養指導のもと、嗜好と栄養のバランスのとれたより質の高い給食を提供し、児童の嗜好の偏りを減らすため、家庭と協力しながら食事指導を行った。食物アレルギーを持つ児童への給食提供には、専門医の指示書に基づき管理栄養士を中心に検討を行ったうえで実施した。また、クラスごとにメニューをリクエストし、みんなで楽しく給食の時間をすごせるように創意工夫をした。今年度も、保護者に対し試食会を実施し、好評だった。
- ⑧ 土曜登園日に、児童発達支援管理責任者による、感覚についての保護者向け勉強会を実施した。
- ⑨ 送迎サービス
業務委託によるマイクロバスと、園職員の運転によるワゴンでの送迎を実施した。添乗による支援を職員が行った。

(2) 親子通園グループ（週 2 日）

低年齢児（2 歳児）について、親子での通園において日常生活習慣の習得や遊びを中心としたプログラムを実施するとともに、保護者に対し、遊び方や関わり方の指導・支援を行った。

(3) フォローグループ（週 1 日）

保育所や幼稚園に通園している療育の必要な児童に対して小集団での活動を行い、個々の発達を促した。

(4) 3 グループ共通

① 個別支援計画の作成及び定期的見直し

生活リズムの確立、基本的生活習慣の習得、遊びを通しての発達支援等、個々の児童への適切な支援を行うため、具体的で分かりやすい個別支援計画を作成し、支援の中で実施した。

② 専門職による支援

嘱託医、看護師、言語聴覚士、臨床心理士、理学療法士、作業療法士からアドバイスを受け、個々の発達や障害を的確に捉えたプログラムを計画した。

③ 子育て支援・家族支援

ア 保護者との共通理解をもとに子育て支援や家族支援を行うため、保護者勉強会やクラス懇談会、面談等を実施した。

イ 保護者向けに、リズム運動や給食の試食会と併せて食に関する勉強会を行った。また、臨床心理士による「脳の働きからみた子どもの発達の促しと支援のコツ」について保護者向け勉強会を実施した。

④ 健康管理

ア 健康チェック、食事指導（通園グループのみ）等の日常の健康管理を行った。

イ 嘱託医による健康診断を実施した。（通園グループのみ 年 2 回）

ウ 歯科保健事業を実施した。

（通園グループ・親子グループ ①保護者向け説明会 ②歯科健診：年 2 回）

(5) 作業療法士による個別指導

保護者のニーズや児童の発達・課題を把握し、感覚統合の視点での指導及び手指操作を含めた日常生活動作の自立に向けた指導等を行った。

<保育所等訪問支援事業>

さいたま市内の幼稚園・保育所・こども園に在籍している、発達が気になる児童に対し保護者からの依頼を受け、相手先の手承を得たうえで訪問支援を実施した。

(1) 保育所等での児童に対する支援

集団生活に適応できるよう、児童の様子を観察し、必要なときは直接児童への介助や声掛けを行った。

(2) 保育所等のスタッフに対する支援

必要に応じて、対象となる児童の継続的な援助方法や障害特性等について助言を行った。

(3) 保護者に対する支援

集団生活の中での児童の現状や課題を伝え、助言を行った。

<相談支援事業>

相談支援専門員が中心となり、本人や保護者のニーズと児童の状況を把握し、相談支援を行うとともに、関係機関との調整を図り、障害児支援利用計画の作成を行い、福祉サービス等の利用を支援した。一定期間経過後、福祉サービス等の利用状況を確認し、再度、現状の確認や必要なサービスの利用調整を行った。

(1) 相談支援の充実

相談を実施する際、ニーズの把握に努め、地域資源の活用や福祉サービス等の利用についての提案を行った。

(2) 支援の継続

保育所・幼稚園への転園又は就学した児童に対し、ニーズの把握を行い、新たな福祉サービス等の利用計画を作成、調整し、継続した支援を行った。

(3) 関係機関との連携強化

さいたま市総合療育センター、地域の児童発達支援事業所や放課後等デイサービス支援事業所、行政、教育機関、保育所、幼稚園等との連携により、進路や福祉サービス等の利用を支援した。

＜さいたま市東部地域つながる発達支援相談事業＞

療育センターひなぎくの受診を希望する発達に心配がある児童とその保護者に対し、ひなぎくが行うアセスメントや保護者への助言等を支援するとともに、早期に相談・支援につながることを促進した。また、身近な地域においてかかりつけ医や関係機関が継続した支援を行える体制の構築・強化を図った。

5 利用状況

＜児童発達支援事業＞

(1) 契約児数

令和8年3月31日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男児	32	22	23	31
女児	14	6	5	15
合計	46	28	28	46

(2) 年齢構成

令和8年3月31日現在

グループ	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		合計	
	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児
母子	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	3	2
通園	0	0	0	0	0	0	3	1	9	4	5	4	17	9
フォロー	0	0	0	0	0	0	0	2	5	0	0	0	5	2
個別	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2	0	0	6	2
合計	0	0	0	0	3	2	3	3	20	6	5	4	31	15

(3) 障害者手帳（療育手帳、身体障害者手帳）に基づく障害等級区分

令和8年3月31日現在

療育 身障	最重度㊦			重度 A			中度 B			軽度 C			なし			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1
2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	2	0	2	3	2	5	2	3	5	4	2	6	18	8	26	29	15	44
合計	2	0	2	3	2	5	2	3	5	4	2	6	20	8	28	31	15	46

(4) サービス別利用者数（延べ人数）

開所日数	年間利用人数	利用者1日平均	サービス別利用者数			
			基本サービス	給食サービス	送迎サービス	
233	6,785	29.1	6,785	5,212	往 3,300	6,470
					復 3,170	

< 保育所等訪問支援事業 >

(1) 契約児数 令和 8 年 3 月 31 日現在

	前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
男児	13	8	11	10
女児	5	2	3	4
合計	18	10	14	14

(2) 年齢構成 令和 8 年 3 月 31 日現在

年齢	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	計
男児	0	0	0	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
女児	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4

(3) 訪問先

訪問先	保育園		幼稚園	特別支援学校			小学校		中学校		放課後児童クラブ	(子ども園)	その他	計
	公立	私立		小学部	中学部	高等部	普通級	特別支援学級	普通級	特別支援学級				
支援件数	3	10	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33
延べ支援件数	3	10	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33

< 相談支援事業 >

(1) 契約者数 令和 8 年 3 月 31 日現在

前年度からの継続契約者	年度中新規契約者	契約終了者	令和7年度末
170	12	8	174

(2) 事業別実績

障害児 相談支援	援助内容		請求件数	特定相談 支援	援助内容		請求件数
	障害児支援利用援助		209		サービス利用支援		0
	継続障害児支援利用援助		270		継続サービス利用支援		0
	計		479		計		0

(3) 相談支援方法

訪問	来所	同行	電話等	個別支援 会議	サービス 担当者会議	関係機関	その他	計
99	370	12	854	14	6	2,078	524	3,957

< さいたま市東部地域つながる発達支援相談事業 >

(1) 実施件数

区分	内容	実施回数
1	保護者面談、児童の記録作成支援、ひなぎくへ情報共有、面談報告書の作成	0回
2	児童の行動観察・発達評価、保護者面談、ひなぎくへ情報共有、面談報告書の作成	20回
3	保護者面談、児童の記録・面談報告書のフィードバック、ひなぎくへ情報共有	0回
4	仕様書に定める会議等への参加	1回
合計		21回

6 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

- ① 来園者には玄関での手指消毒と記名を実施し、記録保管した。
利用児には登園時（玄関やバス乗車時）に児童と保護者の手指消毒を実施した。
- ② マスク着用は任意とし、感染状況に応じて職員や保護者に対して、マスクの着用を協力周知した。
- ③ 除菌（ウイルス）対策製品を使用しての職員による日常清掃を行った。
- ④ 使用した玩具等の消毒を定期的に行った。また、口に入れた玩具はその都度消毒をした。
- ⑤ 園児が送迎バス下車後に、バス車内の消毒を行った。

- ⑥ 食事や水分補給の際に手指消毒を行った。
- ⑦ 全職員を対象に年2回（4月・10月）の腸内細菌検査を実施し、給食の配膳及び介助時の衛生管理を徹底した。

(2) 事故防止対策

- ① ヒヤリハットを活用し、同様の事故の発生を未然防止した。
- ② 利用児一人ひとりの特徴や配慮を踏まえた支援を行い、事故防止に努めた。

(3) 防犯対策

- ① 利用児が在園中には外の門扉を閉めた。
- ② 通園グループ利用児の送迎をする方には、名札を着用していただいた。
- ③ 防犯訓練及び不審者対応についての研修を年1回実施した。
- ④ さす股を事務室の入り口に設置した。
- ⑤ 不審者対策として玄関の自動ドアを手動にし、インターホンで対応してからの入館を実施した。

(4) 個人情報管理

情報セキュリティポリシーに基づく情報管理を徹底した。また、個人情報保護に関する研修を全職員が受講した。

(5) 災害対策

- ① マニュアル整備や備蓄品（非常食3日分、非常用トイレ、発電機）等、体制の充実に努めた。また、備蓄品の見直しをした。合同集会等で、備蓄品のビسケットを提供することで、利用児が安心して食べる経験を重ねや備蓄品選定の参考とした。
- ② 9月に消防署立合いの総合防災訓練を実施した。また、毎月様々な災害（水害等）に対応するための避難経路等を想定した自主避難訓練を実施した。

(6) 施設維持管理

建築物点検及び建築設備点検を実施し、施設の不具合を事前に把握し、適切な管理に努めた。また、計画に基づき修繕を実施した。

(7) 施設のあり方検討

あり方検討委員会を開催し、施設認知度の向上と新規利用者の獲得、経営の効率化に向けた検討を行い、実施した。

(8) 人権擁護・虐待防止への取組

- ① 虐待防止委員会を年4回実施した。
- ② 虐待防止チェックリストを実施するとともに3～4人のグループをつくり支援のあり方について検討を行った。また、虐待防止に関する研修を実施した。
- ③ 虐待通報（通告）の手順を研修内で確認した。
- ④ 虐待の防止・早期発見ができるように面談等で保護者と児童の様子把握に努めた。また、万が一の虐待発見に備えて、関係機関との連携を確認した。

7 サービス向上計画実施状況

(1) 利用者の意見を反映させる取組

- ① 面談の充実

ア 児童発達支援については、新年度に入って1回、個別支援計画のための面談を年2回行った。また、保護者・利用児の状況に応じて随時の面談も実施した。

イ 保育所等訪問支援については、訪問後の報告と年2回の個別支援計画の面談を実施した。
ウ 相談支援については、サービス等利用計画の見直し（モニタリング）を6か月毎及び必要に応じて面談を実施した。

② 迅速な苦情解決

懇談会等で直接保護者の意見を聞くと共に、意見箱「みなさまの声」を設置し、保護者の意見を受付けた。

③ 利用者アンケートの実施

掲示等により保護者に回答するとともに、いただいた要望について全職員で共有し、改善に努めた。

(2) 地域、関係機関との連携

① 関係機関との連携強化

さいたま市総合療育センターひまわり学園、療育センターさくら草、療育センターひなぎく、各区保健センター及び支援課、他の児童発達支援事業所、幼稚園、保育所、子ども園との連携により、療育を必要とする児童の把握に努め、利用につなげる等、より効果的なサービスの提供に努めた。

療育センターひなぎくからは、つながる発達支援事業を受託した。

② 児童センターとの連携

岩槻児童センター（4回）・春野児童センター（2回）・植竹児童センター（2回）本郷児童センター（2回）において、発達の気になる児童を持つ保護者対象の発達相談を実施し、関わり方等のアドバイスを行った。また、岩槻児童センターを会場にし、発達が気になる親子を対象にした「親子で遊ぼう！プチサロン」に参加した。

③ 親子教室への職員派遣

保健センターが主催する親子教室（見沼区11回、岩槻区2回）に参加し、地域の児童の発達や進路の助言を行った。

④ 保育所育成支援制度適用委員会への職員派遣

見沼区、岩槻区の支援課が主催する育成支援制度適用委員会に参加し、育成支援の必要の有無を協議した。

⑤ 見沼区地域自立支援協議会及び児童ワーキンググループに参加した。

(3) 専門性の向上

事業団事務局及び研修委員会で企画する研修のほか、以下の研修に参加した。

① 外部派遣研修

月	日	研 修 名	参加職員数
5	28	保育者資質研修	1名
6	5	精神障害者の障害特性と支援方法を学ぶ研修	1名
7	3	療育センターひなぎく施設見学会	2名
	7	出張療育カンファレンス同行	1名
	23、30	令和7年度埼玉県医療的ケア児等コーディネーター養成研修	1名
8	16	療育センターひなぎく施設紹介動画配信	1名
	24	Peptalk 講座	1名
10	24	令和7年度埼玉県医療的ケア児等コーディネーター研修視察研修	1名
11	14	総合療育センターひまわり学園施設紹介動画配信	1名
	30	令和7年度さいたま市食物アレルギー講演会	1名
12	11	医療的ケア児コーディネーターフォローアップ研修	1名
	24	令和7年度埼玉県相談支援従事者専門コース別研修（障害児支援）1日目	1名
	31	令和7年度ひまわり学園療育講座（オンライン視聴）	2名

1	11	医療的ケア児支援課職種連携研修	1名
	16	療育センターひなぎくペイトレ	1名
	23	指導者養成研修	1名
2	22	埼玉県児童発達支援事業 職員交流セミナー	8名
	26	令和7年度埼玉県相談支援従事者専門コース別研修（障害児支援）2日目	1名

② 職場内研修

月	日	研 修 名	参加職員数
4	2	クラス運営について	13名
	3	人権擁護・虐待防止研修	9名
	4	重要事項説明について	10名
	7	リズム・ふれあいリラックス研修	9名
	28	避難訓練・心配蘇生について	13名
5	2	園内の保健衛生について	14名
	12	親子日について	13名
6	12	保護者への伝え方について	12名
7	12	支援計画作成・遠城寺について	8名
9	25	応急手当について	9名
10	15	感覚の視点でお子さんをみてみよう	3名
	29	人権擁護・虐待防止研修	8名
	30	遊びと感覚について	9名
12	19	感染症伝達研修	4名
その他		ケースカンファレンス（随時）、言語指導、発達相談、心理個別指導、理学療法、作業療法のカンファレンスを通しての研修（月1～2回程度）	

8 年間行事報告

月	日	内 容	備 考
4	28	第1回自主避難訓練	参加者14名
5	22	口腔衛生に関する勉強会	参加者 9名
	27	親子グループ懇談会	参加者 2名
		第2回自主避難訓練	参加者53名
	28	第1回施設公開	来園者 3名
6	5/29、6/5、11	通園グループ懇談会	参加者23名
	2	通園グループ健康診断・発達相談	受診者14名
	12	第1回通園・親子グループ歯科保健事業（歯科健診）	受診者25名
	21	第3回自主避難訓練	参加者46名
	24	先輩保護者のお話会	参加者33名
	25	フォローグループ懇談会	参加者13名
	26	通園グループ合同集会（七夕集会）	参加者38名
7	7	通園グループ健康診断・発達相談	受診者13名
	2、3	保護者勉強会（相談支援について）	参加者21名
	12	土曜登園	参加者23組の親子
	16	第4回自主避難訓練	参加者43名
	30	第2回施設公開	来園者 1名
	30、8/6、20	きょうだい参加日	参加きょうだい11名
8	7	通園グループ合同集会（夏祭り）	参加者24名
	13～15	家庭療育期間	全園児
	27	第5回自主避難訓練	参加者27名
9	24	第3回施設公開	来園者 0名
	25	通園グループ合同集会（秋の収穫祭）	参加者31名
	27	第1回総合防災訓練・第6回自主避難訓練（避難・通報・消火訓練）	参加者62名
10	2、7	通園グループ懇談会	参加者23名
	6	通園グループ発達相談	受診者 1名
	9、28、11/11	給食試食会	参加者11名
	16	通園グループ合同集会（運動会決起集会）	参加者32名
	18	通園・親子グループ運動会（春野小学校体育館）	参加者132名
	24	第7回自主避難訓練（水害対策）	参加者56名
11	7	通園グループ遠足（岩槻城址公園）	参加者27組の親子
	17、25	交流保育（春野保育園）	参加者23名
	16	第8回自主避難訓練	参加者45名
	26	第4回施設公開	来園者 0名

12	1	通園グループ健康診断・発達相談	受診者14名
	11	第2回通園・親子グループ歯科保健事業（歯科健診）	受診者25名
	16	第9回自主避難訓練	参加者51名
	19	お楽しみ会	参加者29組の親子
	25	合同集会（クリスマス）	参加者45名
	29～1/2	家庭療育期間	全園児
1	5	通園グループ健康診断・発達相談	受診者12名
	17	土曜参観・保護者勉強会	参加者25組の親子
	21	フォローグループ懇談会	参加者14名
	23	第2回総合防災訓練・第10回自主避難訓練（避難・通報・消火訓練）	参加者54名
	28	第5回施設公開	来園者 0名
	29	通園グループ合同集会（節分）	参加者30名
2	2、9、16	通園グループ園外保育（岩槻児童センター・アート作品展）	参加者57名
	6	保護者向け勉強会（心理）	参加者13名
	10	親子グループ園外活動（岩槻児童センター・アート作品展）	参加者7組の親子
	14	親子グループ懇談会	参加者 6名
	18	第11回自主避難訓練	参加者32名
	26	通園グループ合同集会（ひな祭り）	参加者43名
	27、3/3、5	通園グループ懇談会	参加者21名
3	2	通園グループ発達相談	受診者 1名
	10	不審者対策避難訓練	参加者13名
	9	第12回自主避難訓練	参加者51名
	27	通園グループ卒園式	参加者85名
	30～4/3	家庭療育期間	全園児

【17】 母子生活支援施設けやき荘

1 指定管理（令和7年度～令和11年度）

- (1) 通常入所利用事業（広域入所含む）
- (2) 一時保護事業
 - ① さいたま市母子緊急一時保護事業
 - ② 埼玉県母子緊急一時保護事業
 - ③ 埼玉県男女共同参画推進センター一時保護委託事業
- (3) アフターケア事業

2 今年度の重点取組項目

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
合同連絡会議の開催、関係機関用パンフレットの活用調査	達成	各行政機関へ施設理解向上のため、施設パンフレットの見直し作成・配付を行ったが、施設についての説明には行政が持っている総合的なガイドブックを使用する事が多いとの事で、使用率は少ない結果となった。しかし、各行政機関担当者の異動などは今後もある事から、年1回合同連絡会議を開催しけやき荘の理解を深めていただくために、説明の機会が必要である。資料として「施設パンフレット」の定期的な見直し、更新は今後にも必要であると感じた。
利用者懇談会、アンケートの実施、改善内容の検証。「みなさまの声」「子ども相談箱」の活用促進。	上回って達成	令和7年度は通常入所世帯4世帯のうち、1世帯は4月の利用者説明会時は入所していないため、入所時に説明を行った。利用者の動向や気持ちのゆれを職員全員が自然に観察・把握するよう努めた。職員が個人で抱えることなく、職員全体で把握や検討ができるよう、朝の会やケース会議、職員会議等で共有することに努め、利用者支援に活かせるようにした。利用者それぞれに特徴や物事の捉え方に違いがあり、どのようにすることが一番効果的かを検討し、実際に行ってみて、修正や方向転換をするなど日々積み重ねた。
外部研修への参加と内部研修の実施。ハンドブックの評価	上回って達成	職員全員が1回以上外部研修に参加し、スキルアップに努めることができた。外部研修で学んだことは内部研修にて情報共有し、職員全員の共通の知識として定着させることを目指し取り組むことができた。職員ハンドブック第3版が完成し、ハンドブック編集委員が中心となり読み合わせ（内部研修）を2回行った。また、編集委員として携わったからこそ伝えたいことをピックアップして伝えることができた。内部研修後、ハンドブックの活用状況を確認したところ、新しく母子生活支援施設の職員となった方からは、支援の方法がわからずハンドブックがとても参考になったという意見があったが、実際には殆どの職員が日々の業務に追われ、目を通す時間が無いことがわかった。次年度も意図的に読み合わせの時間を作らなけりた。支援のマニュアルとして効果的に活用されるように努めていきたい。

3 実施報告

<通常入所利用事業>

母親と子どもが共に入所できる施設の特性を生かし、親子関係の調整、再構築及び生活の安定を図るための支援を行った。

各家庭の課題を正しく理解し、母親と子どもの意向を尊重したうえで、自立支援計画を策定し、必要な支援を高い専門性をもって提供した。

また、関係機関と連携、協働し支援体制を整え、サービスの向上に努めた。

(1) 生活への支援

安定した生活を営むために必要な基本的生活習慣の維持や習得に向けて、衣食住の生活スキルを身に付けることができるよう支援を行った。

健康に不安を持つ母子には、相談内容によって専門の医療機関への受診を勧めた。また、母親と子どもの心身の安定が図られるよう支援を行った。

(2) 子育て・子どもへの支援

母親が安心して子育てに向き合い、育児に対する不安や負担の軽減のために、必要に応じて見守りや介入等、母親と子どもの状況に合わせた子育て支援を行った。

子どもの発達段階に応じた子育てに関する具体的な知識や情報を伝えることで、母親がより安心して育児ができるよう支援した。

母親と子どもが行事等を通して様々なことを体験し、学ぶ機会が提供されることで、豊かな情操を育むと共に、母親と子どもの絆を深められるよう支援した。

子どもの社会性を育むために、日常的に子どもと関わる機会をつくり、学習や悩み等への相談支援に取り組んだ。

子どもにとって、信頼できる大人モデルとなり、人との関係づくりについて支援を行った。

(3) 就労支援

母親の相談に応じて、状況によっては相談援助や能力開発を行うための支援機関を紹介した。

職場環境や職場内の人間関係等に関する悩みに対し助言する等、個々に対応した幅広い支援を行った。

<緊急一時保護事業>

「さいたま市母子緊急一時保護事業」「埼玉県母子緊急一時保護事業」「埼玉県男女共同参画推進センター一時保護委託事業」を実施した。

速やかに受入れを行い、安心して安定した生活が営めるように体制を整えた。

安全性を最優先とした上で、喫緊の課題を抱え入所してきた利用者に対し、担当福祉事務所等と連携しながら必要な支援を行った。

(1) 居室や施設共有設備の提供

世帯ごとに居室を提供した。また、洗濯室・学習室・集会室等の施設共有設備を提供した。

(2) 生活用品等の貸与・提供

① 台所用品・家電製品・寝具等の必要な生活用品を貸与した。また、日用消耗品を提供した。

② 1日の限度額内で利用者からの希望を聞き取り、食材を購入し提供した。

③ 子どもが居室内で過ごすために、学習教材の提供や玩具の貸し出しを行った。

(3) 生活に関する相談・援助

担当福祉事務所の方針に基づき、利用者の住宅探しや転宅の準備等を行うことを、補助的に支援した。

<アフターケア事業>

退所した地域で健康で安心して暮らせるよう、必要に応じて退所先の行政機関等へ情報提供し、母親と子どもが適切なサービスを切れ目なく受けられるための支援調整を行った。

(1) 施設行事への招待

退所時の希望調査により、行事への参加の声かけを行った。

(2) 寄付物品の配付

食品、衣類、日用品等、寄付物品の寄贈があった場合、希望者へ配付した。

(3) 相談

退所後も相談先の一つとして、来所や電話などによる相談支援を行った。

(4) アフターケア計画の作成

退所後の支援が効果的に行われるよう、あらかじめ退所後の支援計画を必要に応じて作成した。

4 利用状況

(1) 通常入所利用事業

月別在籍者数

※[]は、世帯数

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初日在籍数	6[3]	4[2]	4[2]	4[2]	4[2]	4[2]	4[2]	4[2]	4[2]	6[3]	6[3]	6[3]	56[28]
当月入所数	0	0	0	0	0	0	0	0	2[1]	0	0	3[1]	5[2]
当月退所数	2[1]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2[1]	4[2]
月末在籍数	4[2]	4[2]	4[2]	4[2]	4[2]	4[2]	4[2]	4[2]	6[3]	6[3]	6[3]	7[3]	57[28]

(2) さいたま市母子緊急一時保護事業

今年度の受入れは、数4世帯、保護人数11名、延べ日数107日であった。

利用状況（月毎の利用数）

※[]は、世帯数

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	6 [2]	3 [1]	0 [0]	0 [0]	0 [0]	4 [2]	4 [2]	0 [0]	0 [0]	2 [1]	2 [1]	4 [1]	25 [10]

(3) 埼玉県母子緊急一時保護事業

今年度の受入れは、世帯数1世帯、保護人数2名、延べ日数14日であった。

利用状況（月毎の利用数）

※[]は、世帯数

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	0 [0]	0 [0]	0 [0]	0 [0]	0 [0]	0 [0]	0 [0]	0 [0]	0 [0]	2 [1]	0 [0]	0 [0]	2 [1]

(4) 埼玉県男女共同参画推進センター一時保護委託事業

今年度の受入れは、世帯数2世帯、保護人数7名、延べ日数68日であった。

利用状況（月毎の利用数）

※[]は、世帯数

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	0 [0]	0 [0]	0 [0]	4 [1]	4 [1]	3 [1]	3 [1]	0 [0]	0 [0]	0 [0]	0 [0]	0 [0]	14 [4]

5 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

- ① 感染症予防のため、毎日施設内の清掃、定期的な共有設備・玩具の消毒を行い、環境整備・衛生対策を実施した。
- ② 感染症等の流行、まん延を防止するために、手洗い、うがい、手指消毒の徹底、十分な換気を行い、感染症の発生予防に努めた。
- ③ 感染症対応BCPの見直しを年1回実施した。

(2) 事故防止対策

- ① 清掃時における設備の不具合や危険箇所の日常的な確認、及び毎月1回の「施設安全管理

点検表」を用いた点検を実施した。

- ② 定期的に居室内の点検を行い、破損箇所を早期に確認し、対応することにより事故につながる危険性の回避に努めた。
- ③ ヒヤリハットの報告を徹底し、事例の収集と分析を行い、事故防止対策に努めた。

(3) 防犯対策

- ① 防犯カメラを設置し来訪者を確実に把握することで、外部からの不審者等の侵入対策を図り、地域警察との連携を強化した。
- ② 夜間は警備員を配置し 24 時間体制で、安全を保障し、安心できる施設管理を行った。
- ③ 「不審者対策訓練」を実施し、防犯に関する知識・技術を習得し、不測の事態に備えた。

(4) 個人情報管理

- ① 個人情報保護・情報セキュリティに関する研修を実施し、個人情報の取扱い等の共通理解を深めた。
- ② 情報セキュリティポリシーに基づき、情報セキュリティチェックリストを使用し、情報管理に関する自主点検を年 1 回以上実施した。

(5) 災害対策

- ① 訓練の実施
 - ア 火災・地震等の発生を想定した避難訓練を月 1 回実施し、災害発生時の動きを確認した。
 - イ 消防訓練を月 1 回実施し、防災意識の向上に努めた。
 - ウ 地域自治会主催の合同防災訓練へ参加した。
- ② 災害 BCP に基づき、大規模災害の備えとして、非常用備品・非常食の整備及び管理を徹底した。

(6) 施設維持管理

- ① 施設・設備修繕計画書に沿って、適切な期間で設備等の修繕を行い、施設の維持管理に取り組んだ。
- ② 「建築設備検査」「防火設備検査」を行い、不良箇所の早期発見に努めた。

(7) 児童虐待への危機管理

- ① 虐待や不適切な関わりを発見した時は職員が介入し、子どもの安全確保を最優先し、必要に応じて専門機関との連携を行った。
- ② 施設内虐待の防止策として、研修及びチェックリストの活用等による職員の教育及び意識啓発に努めた。

(8) あり方検討会の実施

あり方検討会にて、新規入所につなげるため行政機関との合同連絡会議開催についての検討を行った。

6 サービス向上計画

(1) 利用者の意見を反映させる取組

① 意見箱の設置と活用

意見箱「みなさまの声」「子どもそうだん箱(子ども用相談カード)」を設置し、苦情・要望・相談に対する迅速かつ適切な対応を図った。

② アンケートの実施・結果の周知

施設行事に関するアンケート及び法人全体の利用者アンケートを実施し、ニーズの把握に努めた。また、結果については、館内掲示や利用者懇談会で周知した。

③ 利用者説明会・利用者懇談会の開催

利用者説明会を年1回行い、中途入所者については入所時に説明を行った。

利用者懇談会は前期と後期分けて行い、利用者からの意見や要望を聞き、利用者が生活しやすい環境づくりや支援に反映させた。

(2) 地域、関係機関との連携

① 地域との相互理解及び連携の機会として、地域自治会活動（「ごみゼロ運動」「地域防災訓練」「防犯パトロール」等）へ参加した。

② 母子の自立支援のため、行政機関、関係福祉機関、学校関係、保育園等と連絡を取り、情報を共有したネットワークを有効に活用した。

(3) 実習生の受入れ

① 担当者を設置し受入れにあたり、オリエンテーションの実施、スケジュール等の作成を行った。

② 実習生の受入れについて基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的な実習指導を行い、将来的な福祉人材育成につながるように努めた。

(4) 専門性の向上

職員一人一人が援助技術を向上させ、施設全体の質を高めるため、事業団事務局及び研修委員会で企画する研修のほか、次の研修に参加した。

① 外部研修

月	日	研 修 名	参加職員数
4	24	女性支援・DV被害者支援担当者基礎研修Ⅰ	1名
5	8、22	女性支援・DV被害者支援担当者基礎研修Ⅰ	1名
7	2、3	関東ブロック母子生活支援施設研究協議会	1名
	7	施設長マネジメント研修	1名
8	8	全国母子生活支援施設職員研修会	1名
9	17、18	基幹的職員（フォローアップ）研修	1名
	21、22	ファミリーソーシャルワーク研修	1名
10	7	ヤングケアラーの理解を深め支援を考える研修会	1名
	10	児童虐待防止支援研修会	1名
11	13	県内外視察研修	3名
	25	こども虐待フォーラム	1名
	13	実務研修会	5名
12	3	実習連絡会	1名
2	25	指導者養成研修会	1名
3	5	保育実習協議会	1名
	12	子どもの虹テーマ別研修	1名

② 職場研修

月	日	研 修 名	参加職員数
5	16	経営理念・基本方針・行動規範施設内研修	7名
		令和7年度けやき荘収支予算書の説明	7名
		母子生活支援施設倫理綱領等施設内研修	7名
6	4	伝達研修「DV研修」	7名
7	7	母子生活支援施設ハンドブック研修	7名
10	17	心理担当職員による内部研修「複雑性 PTSD」	6名
1	13	伝達研修「県内外視察研修」	7名
		伝達研修「ハラスメント研修」	7名
2	3	伝達研修「関東ブロック研修」	7名
	12	危機管理施設内研修（BCP 訓練（災害・感染症））	7名

3	9	伝達研修「実務研修会」	7名
		伝達研修「個人情報保護・情報セキュリティ対策伝達研修」	6名
	18	母子生活支援施設ハンドブック研修	7名

③ 会議・面談

ア 職員ミーティングを毎日実施し、その日の予定や各世帯の状況について職員間で情報を共有した。

イ 職員会議を月1回以上実施し、行事、施設運営等について検討した。

ウ ケース会議を月1回行い、支援を共有・検討した。また、心理担当職員による職場内研修を実施し、知識や情報の共有を図るとともに支援の専門性の向上に努めた。

エ 行政機関との合同連絡会議を開催し、入所条件や入退所の流れ、相談状況等について相互理解を深めた。

オ 自立支援面談を利用者、担当福祉事務所、職員の三者で実施し、母子の生活状況や自立支援計画について確認を行った。

7 行事の内容

月	日	内 容	備 考
4	27	利用者説明会	2世帯3名
		進級・入学お祝い会	2世帯4名
5	3～11	子どもの日（通常入所、アフターケア事業）	11世帯19名
	9	害虫駆除	2世帯4名
	11	母の日	2世帯4名
6	1	春のごみゼロ運動	2世帯4名
	17、28	春季健康診断	2世帯4名
7	7/1～7/7	七夕	2世帯4名
	6	地域防災訓練	1世帯2名
8	3	夏祭り（通常入所、アフターケア事業）	9世帯20名
	9	わくわくタイム「コマづくり」	2世帯3名
	22	寄付物品の配付「餃子の王将弁当」（通常入所、アフターケア事業）	8世帯14名
	23	わくわくタイム「紙皿フリスビー」	1世帯2名
9	14	わくわくタイム「紙コップロケット」	1世帯2名
	21	利用者懇談会	2世帯2名
10	4	お月見会	2世帯4名
	5	母親学習会	2世帯2名
	31	ハロウィン	2世帯4名
11	9	秋のごみゼロ運動	雨天のため中止
12	6、16	秋季健康診断	2世帯4名
	13	お楽しみ会（通常入所、アフターケア事業）	9世帯18名
	28	お正月	3世帯6名
1	25	わくわくタイム「スノードーム作り」	2世帯4名
2	1	わくわくタイム「スノードーム作り」	1世帯2名
	3	節分	3世帯6名
	8	消防署立ち会い避難訓練	3世帯6名
3	1	ひなまつり	3世帯6名
	14	不審者対策訓練	3世帯5名
		利用者懇談会	3世帯6名
	27	寄付物品の配付「餃子の王将弁当」（通常入所、アフターケア事業）	8世帯18名
その他		避難訓練（月1回）、誕生日カード配付（随時）	

【20】 児童センター事業報告書

1 指定管理（令和6年度～令和10年度）

- | | | |
|--------------|-----------------|-----------------|
| (1) 三橋児童センター | (7) 片柳児童センター | (13) 向原児童センター |
| (2) 植竹児童センター | (8) 春野児童センター | (14) 大戸児童センター |
| (3) 天沼児童センター | (9) 馬宮児童センター | (15) 大久保東児童センター |
| (4) 宮原児童センター | (10) 文蔵児童センター | (16) 岩槻児童センター |
| (5) 植水児童センター | (11) 浦和別所児童センター | (17) 仲本児童センター |
| (6) 本郷児童センター | (12) 与野本町児童センター | (18) 尾間木児童センター |

2 今年度の施設取組計画

<三橋児童センター>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
月1回以上環境整備を実施する。整備計画を実施し、1年間の利用者数前年度比2%増	上回って達成	「居心地の良い施設づくり」のために整備計画を作成し月1回の安全点検に加え日々の施設の安全管理、施設の美化にも努め危険箇所、危険が予測される事項について確認し、修繕を行い、安全対策を全職員で実行した。 また遊具、図書、ぬりえ等入れ替えをする際に利用者のニーズの聞き取り（リクエストボックス、子ども会議など）を行い、利用者ニーズに沿った遊びの環境も整え、そのことをおたよりに掲載、SNS、館内外の掲示板を活用し利用者、地域への広報を行ったことにより利用率アップに繋がった。この結果から利用者にとって居心地の良い施設となってきたと考えられる。 利用者数前年度（19,331名）に比べ今年度は（20,424名）6%増となった。
令和5、6年の新規事業の実施を振り返り、新規事業の内容を検討し、定例事業にする。	達成	利用者の方の反応をフィードバックしながら、ニーズに合わせた事業の展開ができた。また、時代や社会の状況に合わせた広報活動を行うことにより、更により多くの方に施設や事業を広報することができた。取組としては記載していないが、「おもちゃリクエストボックス」を設置し、利用者の方へ直接どんなおもちゃのニーズがあるのか調査し、ニーズの多かったおもちゃを新しく購入した。また、トラブルを未然に防ぐ観点から昨年度まで、保護者以外は館内でのスマホの利用は禁止していたが、時代に合わせていく事、利用者のニーズから今年度はこども会議やスマホ使用に関するアンケートを実施し、子どもと一緒にスマホのルールを考案し、令和8年1月から館内のスマホの利用を解禁した。
職場内研修年6回以上実施。職員企画研修、各職員1回以上実施	上回って達成	研修系画に沿って研修を受講し、研修後に伝達研修や内部研修を実施することで、職員全体の資質向上につながった。事業に生かす季節のダンスや職員発信の企画研修を通して、専門的な知識や技術を学び利用者へのサービスの向上へつなげることができた。子ども基本法や改訂した児童館ガイドラインを読み合わせることで児童厚生員としての意識向上に努めることができた。

<植竹児童センター>

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
相談業務の定期的な実施、下校パトロール年7回実施、利用者に関する情報交換年3回	上回って達成	家庭児童相談員、保健師、栄養士と連携し事業の実施ができた。また、法人内の児童発達支援センターの協力も得て発達相談も実施した。パトロールも学校予定に合わせ計画し、日程変更することもあったが7回実施できた。小学校との情報交換は学期に一回行えたことに加え、学校運営協議会等の機会に利用児童の情報共有等も行えた。

児童館論の読み合わせ年 7 回、児童クラブマニュアルの読み合わせ年 7 回、内部研修年 5 回実施	上回って達成	19 回分の研修を組み入れることは大変ではあったが、予定表に記入していくことで意識づけができ、何度か日程変更はしたものの、予定回数分実施することができた。児童館論の読み合わせは読むだけではなく、各職員がどのように受け止めたか、自施設ではどのように取り組んでいるか等の意見交換もできた。
フードバンクについて見直し、年 1 回実施	上回って達成	職員会議において、フードバンクの取組の意義と継続について及び連携先について検討した。昨年同様ポスター掲示の場所を施設以外に確保し、2 回実施することができた。また、次年度も実施するとの結論も出せた。

＜天沼児童センター＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
公民館の利用者と連携して新たな事業を実施する（1 回）。	上回って達成	新たなイベントを実施することで 3 名の新規利用者の獲得につながった。利用者の住まいの地域は遠いため、頻繁な利用とはならなかったものの、児童センターを知ってもらう良いきっかけとなったと考える。また、実施後アンケートを行い、その中で、季節のイベントや子ども同士の交流、保護者同士の仲間作りの場を求めていることが分かり、今後の事業について検討した。
行事の実施から見えてきた内容を調査し、相談支援などにつなげる活動を行う。	上回って達成	相談となると敷居が高く感じる所ではあるが、普段のひろばに相談員さんが参加していただくことで気軽に相談することができ、様々な相談先があることを周知できた。昨年度発達相談で相談された方について、さくら草と繋がることできたという報告も受けた。しかし、センターへの来館者、事業への参加者が低年齢化しており、保育所の入園も低年齢化してる。相談の内容も発達によるものに比べ育児相談が増加している。今後、現状から相談の日程等の検討したいと考えた。
職員企画の研修を実施する。（年 1 回以上）	上回って達成	マニュアル等の読み合わせを行うことで、職員間で共通理解・認識が図れ、利用者へ共通のサービスを提供しようとする姿勢につながったと考えられる。また体操や遊びなどを伝達しあうことで職員個々のレパトリーを増やすことができ、自信をもって事業に取り組むことができたのではないかと考える。

＜宮原児童センター＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
民生委員に年 4 回事業に参加してもらう。	達成	主任児童委員と一緒に事業に参加したことで、職員の顔と名前を覚えてもらった。お子さんの見守りをしながら情報交換を行い、いただいた情報は職員で共有した。
児童の主体的遊びを公園での事業に発展させる。	達成	子どもたちが企画段階から参加し、子ども主体の活動を行うことができた。おやつを購入し、公園で食べるという経験が加わったことで、令和 5 年に実施したときよりも参加希望者が増えたため、より多くの人の参加があり、思いきり遊ぶことができた。
児童厚生員の研修でどちらかが発表する。	達成	児童分野と高齢分野について職員がテーマを選んだことで、学ぶことに対して意欲的に取り組むことができた。また、他の職員に伝達するために、理解を深めテーマについて考察を行ったことで、利用者支援に生かせる知識を得ることができた。

＜植水児童センター＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
子どもの参画を促す取組を立案する。（1 つ以上）	未達成	令和 7 年度の施設目標について、運営協議会を子ども参画の事業としたかったが、地域の大人が求める従前の運営協議会と児童センターの目指す「子どもが参画する運営協議会」の間には隔たりがあったことを痛感した。しかしながら、運営協議会に参加した子どもの中から、児童センターでやってみたいことについての提案があり、発案者を中心としたハロウィンイベント開催（10/27 10/29）に繋がった。

地域福祉力向上に向けた新しい取組を実施する。(1つ以上)	達成	災害時の児童センターの役割については、内部研修で理解を深め、職員間で意見交換を行うことで再認識できた。今年度の「植水交流まつり」を通し、新たなボランティア（地域関係機関）と繋がりを持ち、地域の子どもや高齢者を対象にし、SDGS をテーマに環境問題についても考える機会とした。世代を問わず遊びながら楽しく学べる内容であったため、世代間交流は達成されたが、内容がやや専門的であり、（定例）世代間交流事業確立とまではできなかった。
中高生世代向け居場所づくりの新規取組を実施。(1回以上)	達成	中学生との談話を通してティーンズの意見や要望を把握し、施設の事業内容の見直しにつなげることができた。彼らの意見を実現に向けて検討することで、中高生が安心して過ごせる居場所づくりの基盤を整えていきたい。「中学生と遊ぼう」を複数回実施することで、中学生と小学生の交流の機会となり、児童センターの利用拡大にもつなげられた。今後は企画運営に中高生が自主的に関わられるような基盤を整えていく。施設目標とした新たな情報発信の方法については次年度からインスタグラムを開設する予定である。

＜本郷児童センター＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
新規広報活動を1ヵ所以上実施する。	上回って達成	近隣のコミュニティセンターに掲示した事業のポスターを見て予約をしたという事例があり、広報に有効な場所を開拓する機会となった。発信方法も工夫し施設独自のInstagramを開設したことにより100人以上のフォロワーを獲得するまでに至った。定期的に広報先を整理し開拓することにより地域の方が情報を得られる機会を増やすとともに事業への理解を深めていただくことができた。今後も広報活動を工夫し地域と連携できる強みを生かす運営をめざしていきたい。
子どもボランティアが考えた事業を実施する。	上回って達成	子どもミーティングの周知が難しい部分もあったが来館した子どもに声をかけてやりたいことを聞く方法をとった。ミーティングでは子どもの権利条約における「参加する権利」について、子どもが大切にされる存在であること、子どもの意見が社会に反映される体験をするために子どもミーティングを行うという意図を説明した。小学生対象のおたのしみ会では中学生ボランティアが遊びのリーダーとして小学生をリードして異年齢交流、上級生へよいイメージを抱くよい機会をつくれた。長期計画において子どもの変化や成長、ニーズに合わせて主体的に参画できる子どもボランティア、子どもミーティングを実施することができた。
内部研修を2回以上実施する。	上回って達成	サービス業務マニュアル、危機管理マニュアルの読み合せ、OJT等、職員会議や朝のミーティング後に実施した。必要に応じてクラブ職員も含めて権利擁護等を中心に読み合せし職員の専門性を再認識するとともにチームとしての支援、役割を見直す機会となった。各職員が講師役として伝達研修することにより専門的知識や技術を獲得することができた。計画的に実施し情報共有できたことにより職員間のチーム連携にも反映することができた。

＜片柳児童センター＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
環境及び事業について、小学生以上の子どもの意見を汲み上げる。	達成	子ども会議等利用者の意見を聞く機会を設けたことで環境や事業の内容を見直すきっかけとなった。また、子どもたちの意見を聞くことにより、お楽しみ会の周知に繋がり、子どもたちの参加が多かった。
関係機関との共同事業を通じて連携していく。	上回って達成	相談会を実施するにあたり、利用者から「相談したい」という声をいただいたり、専門職員が来館することで子育てに不安を抱えている利用者に相談できる場の提供ができた。また、今年度から保健センター共催事業を当館で実施することになり、気軽に相談できる窓口として、安心して子育てできることにつながっていると感じる。参加が多かったため来年度開催数も増えている。

広報に関して、SNS の充実に向けて利用者へのリサーチをするとともに、職場内研修を実施する。	未達成	施設だよりは保護者から「ホームページを見ている。」という声が多く聞かれるようになった。また、利用者が普段使用している SNS のリサーチを行ったことで Instagram が身近なツールであることもわかった。アンケートを実施したことにより、今後多数の方に見てもらえるような広報を考えるきっかけとなったが職場内研修まではできなかった。
--	-----	--

＜春野児童センター＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
子どもの主体性を育む事業を実施する	達成	利用者アンケートにあがった意見を参考に新企画として「卓球の日」を実施し、41 名の子どもが参加した。また、子ども達がやりたい時に参加できる製作活動の企画を行ない、自分で製作した作品を自分で好きなところに飾るなどをおして子どもの主体性を育む事業を展開した。
関係機関と連携し事業を実施する	達成	運営協議会を実施し、施設の現状を知っていただき理解を広げられた。また、近隣の施設へ出向き、おやこ教室や赤ちゃんサロンなどの事業を実施し、地域団体とのネットワークを広げることができた。
職場内研修を 3 回実施する	達成	出張型研修でリスクマネジメント研修を企画、実施ができ、職員全員で講義を受けることができ専門知識を高めることができた。 また、職員が講師となり工作やふれあい遊びの研修を 3 回実施し、職員の質の向上に繋がった。

＜馬宮児童センター＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
令和 6 年度までの取組の効果を検証し、質の高い広報を発信する。	達成	全職員で、X 投稿方法を覚え、Instagram の開設ができた。Instagram を開設したばかりのため、有効的に活用していくこと、より多くの人に知ってもらうために広報していくことが課題である。
職場内研修を年間 12 回実施する。	達成	伝達研修を実施することで、研修を受けていない職員も知識を得ることができ、得た内容を実際の現場で取り入れることができていた。定期的に研修を受けそれを伝達することで職員の経験値とともに知識も上がることが分かった。
令和 6 年度の検討結果を基に、事業継続計画を改訂する。	達成	毎月、様々な場面を想定した訓練を行い、振り返りに力を入れた。併設のコミュニティセンター内の他施設と合同避難訓練を実施し、連携を深めた。平常時の対応・有事の初動～事業中断までの対応ともに改善が必要な項目を中心に職員間で確認し、事業継続計画の改訂を行った。訓練後に行う振り返りは、記録に残すだけでなく、打ち合わせ時間等を利用し、次に生かせる情報共有ができるよう努める。関係機関と連携した訓練も引き続き行う。

＜文蔵児童センター＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
子どもたちが児童センターの事業について意見を発信でき、主体的に活動できる場となっているか、アンケート等により評価を行う。	達成	図書室にリクエストコーナーの設置をしたことにより、多くの児童が気軽に意見や要望を書き込めるようになり、様々なニーズを把握できるようになった。
地域の拠点施設として、様々な利用者ニーズに対応できるよう、これまでの取組内容を精査し、職員の専門性を高めるための研修を行う。	達成	利用者のニーズに応えられるよう、各種の実技研修を行ったことで、より実践的な職員のスキル向上につながった。また、「児童館ガイドライン」を読み込むことで、施設の役割等に関する理解を深めることができた。

利用者にとって安全・安心な事業運営が継続できるよう、事業の進捗状況の確認および課題の整理等を行う。	達成	利用者の状況や要望に沿う形で、事業の回数や内容を改善した結果、利用の増加・定着化に一定の効果が得られた。
---	----	--

＜浦和別所児童センター＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
こどもスタッフを中心として、企画や事業を実施し、成果をPRして子どもの達成感につなげる。(年1回)	達成	子どもスタッフは自分達からのやりたいこと等の意見がたくさんあり、子どもたちの気持ちを大切にして事業の企画、準備から実施まで行うことができた。また、実施した事業について SNS に発信することができた。
年間利用者数を令和5年度から5%増やし、主体的活動を企画・実施する。	未達成	利用者全体では令和5年度の数値の5%増は達成できなかった。中高生の利用が、年々減少傾向にあるので効果のある事業が求められる。
職員が子どもを取り巻く問題等について、内部研修でプレゼンを実施。(年1回)	達成	きいてほしい箱の活用をととして、子どもたちの悩みを直接聞くことができ、対応することができた。気になる子に対しては職員間で意識を統一できたことがよかった。支援検討会議で実施したグロース見学の内容を内部研修で、子どもの支援や取り巻く環境についてプレゼンを実施し、職員の意識・知識の向上を図り、レベルアップに繋がった。

＜与野本町児童センター＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
子ども参画事業の実施(年1回)	達成	こどもスタッフによる夏のお楽しみ会を実施した。子どもたちのやりたいことを尊重し、子どもたちが自らコーナーを企画、運営することで自主性が図られ、達成感を感じる事ができた。
児童センターのPR活動(年3回) 運営協議会の開催	達成	運営協議会を実施し、地域包括支援センターなどの地域関係者と情報共有を行うことができた。また、さいたま新都心駅コンコースにてストリート児童センターを開催し、SNSにて広報した事により大手新聞社の目に留まり、記事を掲載される等で効果が得られた。また、中高生パフォーマンスフェスタや高校生と乳幼児のふれあい事業の周知を地域の中学校、高校へ行い、児童センターのPR活動を行った。
中高生世代のニーズに沿った事業の実施(年2回)	上回って達成	1月よりスタートした中高生利用時間の延長に伴い、こたつカフェを実施し、直接中高生の意見を聴く時間を設けた。意見として挙がった、中高生ドッジボールタイムを実施し、学年の垣根を越えて、交流することができ、好評であった。少しずつではあるが、中高生の居場所の一つとして定着している。

＜向原児童センター＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
「子どもがつくるまち」事業のエッセンスを取り込んだ館内事業の実施(1回)	上回って達成	「やりたいこと」を書いた利用者は多数いたが、職員に相談してみたい、名前を教えてもよいという希望がある利用者はごく少数だった。その中で今回は個々の活動ではなく、3つのグループ単位で多数の利用者が関わってくれた。子どもどもたちによる企画、準備、実施に向けての協力等、団結する姿を見ることができ、子どもの主体性を引き出すことができた。
子どものコミュニケーションに加え、高齢者との交流事業をすることで地域福祉の活性化を目指す。	達成	ティーンズカフェを実施し、中高生と職員の信頼関係を築くことができ、外の掲示板にフードバンクの案内を掲示することにより、地域の住民の方からの提供も増えた。また、地域高齢者の方と乳幼児親子との交流事業を行い、利用者のみでなくセンターの取組を地域に発信したことで、地域の社会資源として活動できた。

子どもの権利条約について、1年間で全54条を確認できる方法が定着する。	達成	朝の打ち合わせ時に1日1条ずつ読み合わせることで、職員の負担は少なく、全54条を学ぶことができた。また子どもの権利条約以外の法律も読み合わせることができ、職員のスキルアップにつなげることができた。
-------------------------------------	----	--

＜大戸児童センター＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
委員10名による協議会の開催（年1回）	達成	委員の方々のスケジュールの都合、全員出席とはならなかったが、運営協議会を開催することができた。施設の取組を知っていただき共有することで、地域との連携の向上につながり、地域の方々に支えていただいていることを実感した。
利用者の要望や苦情、不満等を6件検討する。	上回って達成	日々のミーティングや会議で検討することができ、母親から「運動になる遊具があるといい」という意見を受け、ステップ台を購入したり、子どもが喜ぶキャラクターのおもちゃを購入したり、要望に答えることができた。直接伝えづらい不満についてもアンケートでは意見があり、いただいた意見を施設で共有し、改善できるよう協議した。
職場内研修6回実施	達成	職場内研修を実施することで再度内容を確認し、内容を共有させることができ、スキルを向上させ、専門性のあるサービスの提供につながった。

＜大久保東児童センター＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
地域の機関・団体と共催事業を実施する。（年2回）	達成	複合施設である大久保東公民館と連携を取り、ファシリテーターやおはなし会のボランティアを交え、子育て中の保護者を対象とした共催事業を実施することができた。また、今年度は初めて事業団施設の寿楽荘とeスポーツを通して共催事業を実施し、世代間交流を図ることができた。これを機に寿楽荘の地域懇談会にも参加し、新たに地域施設との連携を図ることに繋がった。
乳幼児・児童向け館内事業の実施（各1回）	達成	こども会議を年12回実施し、話し合いを積み重ねたことで、子どもたちが自ら自分のやりたいことを発言できるようになった。子どもたちの意見に大人が寄り添うことで、自主性も育ち、「やりたいこと」を実施したことで、子どもたちの生き生きとした笑顔あふれる事業の展開ができた。
研修内容の活用の実施（2回）	達成	職場内研修により職員間の共通理解を深めることができ、職員個人のスキルアップに繋がった。実技研修として行った幼児向けの体操を新たに取り入れた事業では、利用者親子が楽しむ様子が見られた。

＜岩槻児童センター＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
地域の方々と一緒に事業を開催する。（年1回以上）	上回って達成	定例行事のプラネタリウムや観望会・お楽しみ会などは地域の方に参加いただいた。今年度もおもちゃの病院や退職校長会の岩槻班の方々と工作や実験、昔遊び、昆虫の写真展など行い楽しい時間だった。継続して取組を行い、子ども達と地域の方々とのふれあいの機会が増えた。また、子育て中の母と子ども達を元気にしたいと近所のママがヨガを実施したり、バルーンアートを楽しんだ。
新たな地域の機関、団体と共催事業を実施する。（年2回）	上回って達成	「おもちゃ病院」月1回、障害者生活支援センターささばしと年3回「親子で遊ぼうプチサロン」、障害者施設の「槻の木第1やまぶき」の通所者と紙すき体験、児童発達支援センターはるの園と年4回発達相談、いわつき子育て応援隊「年3回赤ちゃん用品の無料交換会のおたから市、いわつき国際交流 日本語プラザでは毎週1回外国の方の日本語勉強会、新たにスポーツインストラクターと月一回「みんなで楽しく運動あそび」を実施した。

中高生が、将来自立できるように長期休みを中心にボランティアとして活躍する。（1人2回以上経験する）	上回って 達成	今年度は、高校生による「埼玉のおさかなプロジェクト」を実施し、魚に興味を持つ機会を作ったり、中高生による「プラレールの日」も実施し、幼児親子を中心に走らせて楽しんだり、また、中学生による「みんなでおどろう！」を幼児向けに実施し楽しい時間になった。中高生は、日常的にボランティアとして受け入れ、行事を作りあげたり、遊具の貸し出し、掃除の手伝いなど、利用者に「ありがとう」言われる体験を通して自己肯定感を高めることができた。
---	------------	--

＜仲本児童センター＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
放課後児童クラブとの新しい取組を実施	達成	特に今年の夏休みは酷暑だったため「どこにも出かけられない」と引率の職員からの声もあり、出かける機会になればと「おはなしひろば」へ誘ったところ、事業参加につながった。児童センターであそび教室を行ったことで、児童センターを知ってもらいきっかけとなり、団体や個人で遊びに来るようになった。今後も地域の子どもたちの遊びの場となるように、人数や場所を考慮しあそび教室の内容の充実に努めていく。
検討結果を基にした事業、もしくは新規事業の実施（年1回以上）	達成	アンケートの結果から、夏休みに乳幼児事業を実施したが、参加者は少なかった。11月の利用者アンケートの結果に、乳幼児事業の開始時間が少し遅いという意見があったので、今回のアンケートの質問項目に取り入れたところ、丁度いいという意見が多かった。このようにアンケートを実施することで、ニーズの把握につながった。利用者が何を求めているのかを知るために、計画的にアンケートの実施を検討していきたい。また現在、SNSの活用により新規利用者が増えてきているので、次年度もSNSを活用し、乳幼児事業の周知を図っていきたい。
5年間の成果物の編集・修正と共有	達成	職員体制が変わったことにより、今まで取り組んでいたことを0にするのではなく、共有することができた。改めてアイスブレイク研修を行うことで、なんのためにやっているのか、なぜ必要なのかを学ぶことができた。学んだことを意識することで、事業に生かすことができた。成果物の見える化として、エコマップを事務室に置くことで、関係機関の確認をすることができた。職員体制の変更があるため、定期的に今まで取り組んできたことを振り返る機会が必要である。また、環境や情報の変化もあるため、職員同士で課題を精査し、学ぶ機会を設け続ける必要がある。

＜尾間木児童センター＞

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
複数の地域団体と連携した事業を年2回実施する。	上回って 達成	今年度は、近隣中学から生徒のボランティア依頼があり、事業を実施するにあたり地域連携の幅が広がった。また、eスポーツ体験による世代間交流他、6つの新たな事業を実施し様々な地域団体と繋がることができた。
複合施設全体で連携した事業を1回実施する。	達成	複合施設の強み、各事業所の特色を生かしながら連携した事業を実施することができた。例年行っている事業であり、前年度の反省等を改善しながら今年度も打合せを重ねスムーズに実施することができた。感染症が流行っていた時期にも、できる範囲で事業を実施しているため、複数施設の横のつながりを保ちつつけることができた。

職員 3 名が内外問わず研修に参加し 3 名とも職場内研修で伝達研修を実施する。	上回って達成	職員会議でマニュアル読み合わせや研修の時間を設け、事業団職員としてのあり方や、子どもの最善の利益を考えた関わり方を共有することができた。このことにより事業内容や利用者との接し方など、高みを目指して実施できた。また、研修に参加して終わりではなく、そこで得たことを実践しながら職員同士お互いを高め合い、利用者対応に生かしていくことで、さらに質のよいサービス提供に繋がった。
--	--------	--

3 実施報告

<共通>

「こども基本法」をはじめとする関係法令及び「児童館ガイドライン」のもと、経営理念を具現化し、利用者及び地域から信頼される施設であり続けるために以下の取組を行った。

(1) 遊び及び生活を通した子ども・若者の発達の増進支援

- ① 子どもの意見を言える場の設定を行い、子ども向けの文化・伝承活動や、子どもたちの自己肯定感を高め「生きる力の育成」を目指した支援を推進した。
- ② ドッジボールタイムや卓球タイムなど運動あそびへの親和性を高め、運動に親しむ習慣づくりや食育事業によるバランスの取れた健康的な生活への支援を推進した。
- ③ 週末(土・日曜日)のまとまった時間を利用し、親子向けプログラムの展開や工作教室を行い、学校長期休みには時間をかけて活動できる児童への特別事業などを推進した。
- ④ 社会参加の機会や将来に向けての進路選択、職業について学ぶための様々な専門的プログラムとして、「未来くるワーク」の受け入れや「高校生と乳幼児のふれあい交流事業」、ボランティア活動などを実施した。

(2) 子育て家庭への支援の充実

- ① 子育て支援活動として乳幼児親子向け事業を実施し、参加者同士で交流できる場を設け、子育ての交流を促進した。また、地域の子育てニーズを把握するよう努めた。
- ② 土・日もオープンしている利点を生かし、ワーク・ライフ・バランスの考え方を基本に、働きながら子育てをしている家庭も参加しやすい「ファミリータイム」等の事業を実施し、仕事と子育ての両立に向けた支援を推進した。
- ③ 地域の相談窓口の役割を果たせるよう、外部研修の参加や館内研修の実施により、センター職員の資質向上を図った。
- ④ 児童相談所・家庭児童相談室などとの連携を強化させ、子育てに関する不安や悩みに適切に対応した。

(3) サードプレイスとして子どもの安定した日常生活の支援

- ① 児童厚生員がコーディネーター的役割を担い、地域の様々な大人や協力団体と連携しながら、中高生世代の誰もが安心して「行きたい」「居たい」と思えるような地域の居場所づくりとして、中高生タイムの実施や開館時間の延長、中高生ルームの開設やティーンズカフェを行った。
- ② 子どもの一人ひとりの声をしっかり受け止め、尊重し、子どもの「やってみたい」気持ちに寄り添い、子どもの最善の利益を優先するために、こども会議の開催やこどもボランティアが参画する事業を行った。今年度もさいたま市のモデル事業に 3 館が参加し、「児童センターの図書について」をテーマに、こども会議での子どもの意見を取り入れ図書の選定や図書室の整備等の活動に努めた。

- ③ 老人憩いの家を併設しているメリットを生かし、3世代交流事業やeスポーツを実施して、高齢者との多世代交流事業を推進した。
- ④ 社会参加の機会や将来に向けての進路選択、職業について学ぶための様々な専門的プログラムとして「未来くるワーク」や「高校生と乳幼児のふれあい交流事業」、ボランティア活動などを実施した。また、今年度も大宮国際中等教育学校の取組である NPO フェアへの参加と探究学習の協力を2館で行い、中高生支援を推進した。

(4) 困難を抱える子ども・若者の支援

- ① 困難を抱える子どもや家庭に対し、家庭児童相談室や児童相談所等、地域の関係機関との連携や児童デイサービスの利用受入れ等の支援を行った。
- ② 地域に設置され、気軽に利用できる児童センターのメリットを生かし、地域の相談窓口として、家庭児童相談室や学校、保健センター等関係機関との連携を図り、児童センターでは「子ども相談窓口」の開設、「つながるカード」の配布により、利用者の不安や悩みに適切に対応した。
- ③ 子どもが互いに協力しながら活動できる、こども会議・こどもボランティア事業を実施し環境づくりにも配慮しながら、活動を通じて子どもの状況を把握した。日常活動のあそびや会話等の見守りから、問題の早期発見に努め、貧困・虐待防止対策に努めた。

(5) 地域の健全育成における拠点機能の充実

- ① さいたま市内全域で幅広いライフステージを対象とした施設運営を行う組織としてのスケールメリットを最大限に生かし、事業団の療育施設スタッフによる発達相談や、放課後子ども居場所事業への「あそびの出前」を実施し、施設間の有機的連携を図った。
- ② さいたま市内全児童センターにおける交流事業の推進として、11月にさいたま新都心駅東西自由通路にて「児童センターフェスタ 2025（ストリート児童センター）」を実施した。児童センターの遊びの楽しさを知ってもらう機会となり、駅を利用する一般の方への児童センターのPRにもつながった。また、3月に岩槻コミュニティセンターにて「中高生パフォーマンスフェスタ」を実施し、中高生が活動を発表できる場を提供した。
- ③ 運営協議会の開催や、区民まつりへの参加、町たんけんの受入れ、公民館での事業実施により、地域社会で子どもに関わる組織・団体とパートナーシップを保ちながら、地域住民の子ども・子育て問題への関心を高め、住民の問題解決能力向上に向けて支援した。
- ④ 地域住民からボランティアを積極的に発掘し、継続的に児童センターの活動に参加していただくことを通じて、ボランティアを育成するとともに、ボランティアからの意見を活用して事業内容の充実を図った。
- ⑤ 関係機関と連携して、防犯教室、交通安全教室、救急法講座を実施し、子ども・保護者の防犯や救急に対する意識を高め、安全・安心なまちづくりに寄与した。

(6) 令和7年度児童センター年間取組状況

基本目標		基本事業	回数	幼児	小学生	中高生	保護者	利用者計	ボラ	その他	合計
(1)	遊び及び生活を通じた子ども・若者の発達の増進	① 子どもの文化活動の推進	2,647	8,067	17,611	698	7,811	34,187	495	148	34,830
		② 子どもの体力増進活動、食育・健康づくりの増進	4,393	4,800	39,328	9,074	5,585	58,787	70	37	58,894
		③ 週末(土・日)、学校長期休みに対応したプログラム	2,422	6,870	12,744	3,167	7,728	30,509	287	123	30,919

		④	中高生世代向け社会体験 及びプログラムの実施	947	306	363	1,865	259	2,793	34	319	3,146
(2)	子育て家庭への支援 の充実	①	子育て支援事業の推進	4,840	40,413	2,673	338	37,502	80,926	487	233	81,646
		②	働きながら子育てをしている家庭への支援	1,584	12,479	1,550	123	11,784	25,936	97	17	26,050
		③	相談情報提供サービスの 推進、強化	498	1,541	16	5	1,449	3,011	56	271	3,338
(3)	子どもの安定した日常 サードプレイスとして	①	子ども、中高生世代が安心して 過ごせる居場所づくり	4,395	26	595	20,903	63	21,587	34	1	21,622
		②	子どもが意見を表明し、 活躍できる場の提供	349	275	1,724	100	250	2,349	2	9	2,360
		③	世代交流事業の推進	158	1,031	617	293	1,084	3,025	40	149	3,214
(4)	も、困難を抱える子ども、 若者の支援	①	要保護児童への適切で効果的な支援	45	256	20	0	266	542	0	24	566
		②	子どもの相談・支援体制の推進、強化	373	226	320	22	224	792	16	65	873
		③	子ども、若者の多様性を尊重し、 寄り添った支援の実施	928	0	213	1,908	111	2,232	0	1	2,233
(5)	地域の健全育成における 拠点機能の充実	①	事業団施設間の有機的連携	60	227	1,181	7	230	1,645	3	74	1,722
		②	児童センター交流事業の推進	40	367	112	71	535	1,085	4	4	1,093
		③	コミュニティ・オーガゼーションの推進	541	2,397	4,083	227	3,943	10,650	231	384	11,265
		④	地域ボランティアの発掘・育成	506	1,897	689	92	2,031	4,709	828	76	5,613
		⑤	安全・安心なまちづくり	281	1,151	3,775	163	960	6,049	10	1,181	7,240
合 計				25,007	82,329	87,614	39,056	81,815	290,814	2,694	3,116	296,624

＜三橋児童センター＞

今年度は施設目標に「身近な」を加え、地域の人に愛され必要とされる“身近な”施設として、より一層誰もが気軽に利用したくなる施設を目指した。職員一丸となり、行きたいと思える場所の要素である①「安心安全」について整備計画に基づき整え、②「ニーズに合致した取組」については、子ども（利用者）の声を聞く取組を実施し、そこで集まった子どもの声をお楽しみ会の内容や、児童のスマホ使用のルール作りに反映し③「地域の拠点施設」として、併設館利用のシニアと地域民生委員の方々を招き、新たに昔あそびを通して児童と触れ合う機会を設け、地域との更なるつながり強化を図り、利用する方たちのサードプレイスとなるよう取り組んだ。また、活動や取組を知ってもらい利用してもらえよう、利用者に届く広報を目指した。SNSのうち特にInstagramを活用し、月5回以上発信したことが、児童センターの認知度の向上や、利用者の興味・関心に繋がり、利用者数の増加につながった。

＜植竹児童センター＞

今年度の施設目標を “だれにでも笑顔であいさつしよう” と決定し、取り組んだ。その目標を基に、小学生には個々に声掛けをしたり、利用者の相談や話を聴き、中学生にはきいてほしいこと箱による希望・要望や昨年度のアンケート結果を参考に、中学生だからこそ利用できるバトミントンネットを用意する等の改善も行え、より楽しめる環境が提供できた。それらの取組から来館する保護者から「第二の我が家のように過ごせているようです。」との意見もいただけた。

また、放課後児童クラブの併設館としての強みを生かし、合同事業のこいのぼり製作や季節の工作の内容を同じものにする等、効率化と充実した内容の行事を行い、交流を図った。

その結果、昨年度に引続き、利用者が増え、挨拶や笑顔あふれる児童センターとなった。

＜天沼児童センター＞

施設目標や今年度の取組内容を全員で確認し計画的に取り組んだ。利用者のニーズ把握に努め、館内のレイアウト変更・施設美化・整備をし、清潔感があり利用しやすい施設づくりを行った。また、今年度よりこども会議を実施。平日・休日の利用する子どもの状況を捉え、それぞれの子ども声を把握し、おもちゃのリクエストや、やってみたいボール遊び等の意見を取り入れ、施設運営に反映させることができた。地域施設として、憩いの家との交流事業（ハロウィンパーティー・運動会・おみせやさんごっこ）、地域の社会資源である高等学校生徒によるボランティア、演奏会等、専門学校生徒による講話を受入れ、併設館としての強みや地域との繋がりを強化した。また、広報や施設の周知にも力を入れ、公民館事業でのPR、Xの投稿の充実、たよりの配布方法を検討、パンフレットの更新を行った結果、新規利用者獲得ができた。継続事業として利用状況を捉えながら、幼児親子を対象に「ミニミニひろば」、小学生対象に実施日以外の「みんなであそぼう」の実施、1人で来館していてもできる簡易的なボランティア、小学校高学年から中高生を対象とした玩具の設置など多くのみなさまがまた来たい、楽しいと思っていただけるような居場所を提供した。

＜宮原児童センター＞

令和6年度の大規模修繕を経て、令和7年4月にリニューアルオープンをした。開館当初はこれまで少なかった小学校高学年や中学生の利用も増えた。5月にはこども会議で企画した「みんな集まれ！帰ってきたぞ 宮原児童センター&憩いの家パーティー」を開催し、乳幼児から高齢者までが参加する世代間交流の機会となった。6月から12月までは、「小・中学生が会議を行い欲しい本を決めてさいたま市が購入する子ども運営会議モデル事業」を行った。利用者の増加に伴い、異年齢の子どもたちが交流する機会が増えたが、どの利用者も心地よく利用できるように、ルールを明確化し、環境整備を行うなどの工夫をしながら運営を行った。

＜植水児童センター＞

高校生の提案による学習支援事業の継続的発展に児童センターとして貢献することができた。運営協議会では地域の方々に向けて、学習支援事業の当事者(高校生)がプレゼンテーションを行い、事業に対する質問や意見を聴取することができた。また、同日開催の「こどもまんなか座談会」の後で子どもたちからの提案が寄せられ、子どもの企画によるハロウィン行事が実現し、多くの集客を得た。世代間交流ではみのり園のイベントで児童や高齢者など多様な主体で構成された演者によるステージ発表を行い、利用者の満足度向上につながられた。次年度以降も地域の当事者の理解を深めつつ、「こどもの参画」に対する取組を継続する。

＜本郷児童センター＞

SNSでの情報発信に積極的に取り組んだ結果、特に保護者からの反響が大きく幼児事業への参加率向上に反映された。Instagramによる投稿は80回を超え、個人情報保護に努めながら、できる限り利用者が参加している様子が伝わるような情報発信を行った。

図書、おもちゃについては定期的に子どもミーティングを開催し、意見を述べてやりたいことを実現させる場としての設定を図るとともに日常の遊びを充実させられるよう努めた。また、年間を通して世代間交流の機会を設定し夏休み中は多世代交流へスムーズに導入できるようレクリエーションを取り入れて憩いの家利用者との交流会を継続して実施した。小中学生には昔あそびやeスポーツを通した世代間交流の場としてお互いの得意分野を教え合い

ふれあう機会を提供した。

＜片柳児童センター＞

今年度も利用者とのコミュニケーションを大切にいただいたご意見を施設の環境整備や事業に反映させることで参画の意識が高まり、より充実した関係を築くことができた。また、片柳地区の保健センターへ行きにくい利用者もいることから、保健センター事業（育児相談、むし歯予防教室）を共催事業としてセンターを会場にして実施し、好評を得た。館内やロビーを利用者と一緒に作品で飾るイベントは定着し、楽しみにしている様子が伺え、児童センター、老人憩いの家・放課後児童クラブ併設館の利点が活かされている。

＜春野児童センター＞

地域ネットワークの強化に努め、学校・自治会・社会福祉協議会・地域包括支援センター等会議に参加し協力体制を築いた。地域で起きている問題点や困りごと、協力してほしいことを共有でき、子どもたちの安心・安全を守ることができた。子どもから「卓球をやりたい」と意見があり、イベントとして実施でき、喜びの声につながった。

「誰もが、気軽に本に手を伸ばせるように」と図書室だけではなく、玄関にも本コーナーを設置したことで、本を手にする親子や児童が増え貸出も増えた。

＜馬宮児童センター＞

誰でも安心して来館でき、互いに支え合い、笑顔があふれる児童センターを目指し、年間を通して職員による内部研修を計画的に実施し、職員のスキル向上に取り組んだ。

センターの利用促進のため、SNS発信を職員全員が主体的に行うことを目標とし、内部研修を実施した。その結果、年間で約50回の投稿を行うことができた。投稿内容については、活動の様子や成果が分かりやすく伝わる表現・言葉遣いを意識して発信した。

また、事業後のアンケートをSNS上で実施し、利用者の声を収集することができ、今後の事業改善に役立てることができた。

＜文蔵児童センター＞

子どもたちが児童センターに対する意見や要望を表明できる機会として、図書室にリクエストコーナーを設置したことにより、多くの子どもがいつでも自由に意見等を書き込めるようになり、様々なニーズを把握できるようになった。また、乳幼児とその保護者のニーズに応えるため、職員を対象に各種の実技研修を実施した結果、より実践的なスキル向上が図られた。年間をとおして利用者の状況や要望に沿う形で、事業の回数や内容を改善した結果、利用の増加・定着化に一定の効果が得られた。

＜浦和別所児童センター＞

こどもスタッフが主体となり、子どもたちの意見やアイデア、やりたい事を汲取りながら、プログラムを作成し、また、実現に向けて準備を行い、お楽しみ会を実施することができ、こどもスタッフの達成感に繋がった。こどもスタッフの活動が、お楽しみ会に参加した子どもたちにも、良い刺激となった。小学生向けの季節に合わせた工作プログラムの実施を特別事業ではなく、毎月実施としたことで、定着し、定期的に参加する児童も増加した。準備したことだけでなく、子どもたちが考え、自由に創作できる部分を多く取入れ、子どものやりたい気持ちを大切にしながら実施することができた。

＜与野本町児童センター＞

今年度は、主に世代間交流の機会を多く作る事ができた。高齢者の関わりが多い地域包括支援センターとの関係づくりに力を入れ、未来くるワークの中学生と地域の高齢者が一緒にじっくり手芸などを行いながら、コミュニケーションを取ったり、ボランティア団体による

お話会や折り紙、カルタなど0歳～小学生の幅広い世代と高齢者が関わるなどの時間を設けたりする事ができ、現代に不足している多世代交流の機会となった。また1月からは、中高生の利用時間延長事業をスタートしたことで、部活で忙しい中高生がロビーで談笑したり、ドッジボールやバスケットボールなどで体を動かしたりと中高生の居場所としての役割を推進することができた。

＜向原児童センター＞

今年度は部屋の活用方法を変更し、安心してくつろげることができる環境を整え、利用者ニーズを聞き取り新規事業として乳幼児親子向け「ミニプチタイム」や、小学生向け「ドッジボールタイム」を実施することができ、利用者数を増やすことに繋がった。また、「子ども自身が権利の主体であることを実感できる場」であることを実現するために設置した、「やりたいこと箱」への意見も増え、「おたのしみ会」「バスケットボールタイム」を子どもと職員が一緒に計画し実施することができた。地域の拠点活動として引き続き、フードバンク、衣類バンク、文具BOXを実施し、地域の方への児童センターの周知を深められた。

＜大戸児童センター＞

乳幼児がゆっくりと過ごせ保護者同士が交流できる乳幼児事業を実施し、Xで発信し、来館する利用者が増えた。今年度も与野南小学校の放課後チャレンジ講師、与野南中学校と常盤中学校の未来くるワーク体験を受入れ、地域に貢献できるよう取り組んだ。なお、今年度新たに、小学生6年生が計画した「卒業パーティー」を3月29日に実施し、子どもが主体的に児童センター事業に携わる機会を設けることができた。また、運営協議会では支援課や小学校等の関係機関に児童センターの取組や計画をご紹介し、一層の連携のもと地域の健全育成における拠点施設の充実を図った。

＜大久保東児童センター＞

児童センターの運営に子どもの意見を反映する仕組みづくりとして、さいたま市「子ども運営会議モデル事業」を実施し、児童センターに置いてほしい本について、こども会議メンバーが来館者にインタビューやアンケートを実施した。また、複合施設の利点を生かし、併設の桜図書館分館の司書の方にもインタビューを行った。アンケート結果のまとめや、購入された図書のPOP作りを行い、お楽しみ会での本のお披露目会では児童・保護者・校長先生方の前で発表も行い、子どもたちの立派な姿に喜ばれる保護者の姿も見られた。また、世代間交流事業として、同じ桜区内の事業団施設寿楽荘のeスポーツに小学生が参加し、高齢者とeスポーツのボウリングを楽しみ、高齢者と小学生が互いに応援しあい、喜びを分かち合う体験ができた。

＜岩槻児童センター＞

今年度も、子どもたちの健やかで幸せな成長を支える「こどもまんなか」な取組として、小中高生世代の居場所づくりに取り組んだ。

中高生には、利用しやすいように開館時間の延長や相談対応、プログラムの企画などの取組を実施した。また、一人で来てもゆったりくつろげるように部屋の模様替えなどの環境整備も心掛けた。

小学生とは意見交換しながら行事を実施した。これにより、おたのしみ会やお化け屋敷などの準備や実施に積極的な参加が伺えた。退職校長会との繋がりも継続し、子どもたちが興味関心ある昆虫の観察や生態についての講座や写真展示、ビックリ実験ショー、竹細工、書初め、昔あそびなど多種多様の体験会を開催した。また、魚食の機会の増加を目的に高校生による「埼玉のおさかなプロジェクト」を実施し、埼玉の川魚の紹介やぬり絵などを行った。

中高生による「プラレールの日」では、遊戯室半分にレールを敷き詰めて幼児親子を中心に走らせて楽しみ、リクエストの多い事業になった。

また、岩槻図書館と共催で乗り物やお化けなど子どもたちの興味のあるテーマで「おはなし会」を4回行い、そのうち夏休みお化けのおはなし会で「さいたま市子ども読書活動優秀実践表彰」を受賞した。その他にもママ向けヨガ・キッズヨガやバルーンアート、生涯スポーツ体験（スポーツインストラクター）、フードパントリーの食品の収集場所、子ども用品を介したコミュニケーションの場「おたから市」（いわつき子育て応援隊共催）、発達が気になるお子さん向けの「親子で遊ぼう！プチサロン」（はるの園・岩槻区障害者生活支援センターささばし共催）、毎月1回のおもちゃ病院と多くの団体や個人のご協力をいただき、「こどもまんなか」な取組を行った。

＜仲本児童センター＞

今年度も子どもたちの意見表出の場や事業への参画を目指し、こども会議を行った。

こども会議当日の参加が難しい子どもたちも多く、事前に来館した際に集めた意見も会議に提案し内容を検討したことで、「夏休みお楽しみタイム」や「冬のお楽しみ会」は大勢の参加がいただけた。

「冬のお楽しみ会」ではスタッフとしてこどもボランティアの活躍もあり、好評であった。

また、玄関前のプランターで野菜を育てる「仲本ファーム」では、来館者だけでなく隣接する保育園親子も水やりを楽しみ、児童センター新規利用につながった。

併設する老人福祉センター仲本荘との交流事業（e スポーツやディスコゲーム等）を今年度は4回実施した。回数を重ねることでお互いに顔見知りとなり、交流が深まる様子も見られ、地域の世代間交流の場としての役割を果たした。

＜尾間木児童センター＞

今年度は2つのこども会議を実施した。子どもが気持ちや意見を発言することができる居場所として、会議の中で体现できた。子どもからの「やってみたい」を大切に、実現へ向け、職員はそれぞれのスキルを生かしながら子どもと向き合い関わることで、さらなるスキルの習得や子どもの達成感を間近で実感できる機会となった。こども会議を通して、普段目にする子どもの様子とは違った新たな発見や問題点等あったが、保護者や職員同士の連携を密に行い、情報共有しながら進めた。

世代間交流では子どもが仲本荘に出向き、e スポーツ体験を通して高齢者と子どもの交流を図ることができ、世代を超えて一つのことに楽しむ姿が見られた。また、地域の社会資源と繋がる機会となり共催事業を開催、新たな利用者獲得に繋がった。

4 利用状況

(人)

利用者区分 施設名	利 用 者 数				内 訳				
	個人	団体	計	(1日平均)	乳幼児	小1～3	小4～6	中学生以上	保護者等
三 橋	20,182	242	20,424	59.2	5,494	3,111	4,901	1,343	5,575
植 竹	22,188	194	22,382	64.9	4,949	3,756	7,353	681	5,643
天 沼	16,017	355	16,372	47.5	5,281	1,798	3,596	676	5,021
宮 原	17,406	242	17,648	51.2	4,851	1,341	4,339	1,872	5,245
植 水	11,442	733	12,175	35.3	2,683	2,445	2,711	1,734	2,602
本 郷	14,703	100	14,803	42.9	3,630	1,745	3,702	2,207	3,519
片 柳	24,589	100	24,689	72.2	7,042	3,619	4,174	2,494	7,360
春 野	12,070	127	12,197	35.4	1,909	1,631	4,702	1,999	1,956
馬 宮	28,557	0	28,557	82.8	9,507	2,332	4,896	3,191	8,631
文 蔵	20,429	0	20,429	59.2	6,322	1,928	4,427	1,148	6,604
浦和別所	21,090	0	21,090	61.1	6,930	3,018	3,172	411	7,559

与野本町	37,512	601	38,113	110.5	10,442	5,570	7,869	3,121	11,111
向原	12,688	43	12,731	37.3	3,331	2,032	3,062	519	3,787
大戸	18,565	0	18,565	53.8	6,210	2,643	2,720	495	6,497
大久保東	26,709	482	27,191	78.8	7,865	3,242	5,511	2,829	7,744
岩槻	48,762	2,640	51,402	149.0	14,557	5,317	10,483	5,625	15,420
仲本	30,326	453	30,779	89.5	10,481	3,775	4,339	961	11,223
尾間木	76,192	2,379	78,571	231.8	26,343	8,739	13,045	4,617	25,827
合計	459,427	8,691	468,118	1,361.5	137,827	58,042	95,002	35,923	141,324
平均	25,523.7	482.8	26,006.5	75.6	7,657.1	3,224.5	5,277.9	1,995.7	7,851.3

5 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

- ① 日常的な清掃及び施設内外の環境整備を徹底した。
- ② 感染症等の流行、まん延を防止するため、設備や備品の消毒をはじめとした衛生対策を行った。
- ③ 館内にポスターを掲示し、感染症に対する注意喚起を行った。

(2) 事故防止対策

- ① ヒヤリハット(事件・事故)報告書を作成し、集計・統計を行うとともに、職員間で共有し対策を講じることで同様の事故の未然防止に努めた。
- ② 軽微なけがや体調不良、物損事故など、業務中に発生又は確認されたことを業務日誌等に記録し、検証を行った。
- ③ 事故発生時には「危機管理マニュアル」に基づき、迅速な対応を徹底した。

(3) 防犯対策

- ① 不特定多数の方が利用する施設であることから、不審者が侵入しやすい状態でもあるため、不審な来館者には職員から声掛けを行い、明確な来館目的等がなければ利用できないことを伝え、侵入を防止することとし、防犯に努めた。
- ② 「危機管理マニュアル」に基づき、警察署の指導による不審者侵入を想定した対応訓練を行い、非常時に備えた。

(4) 個人情報管理

- ① 「個人情報保護法」及び「個人情報保護条例」を遵守し、「個人情報保護規程」に基づいて適切に対応した。
- ② 法人が定める「個人情報に関する基本方針」を施設の目につきやすい場所に掲示し、その仕組みや考え方を利用者に周知した。
- ③ 職員は業務上知り得た「個人情報」「さいたま市、関係団体及び契約先に関する秘密情報」、「当法人経営上の秘密情報」等を在職中はもとより、退職後も第三者に故意または過失により開示、提供若しくは漏洩し、又は自ら使用することのないよう新規採用の職員に対して「誓約書」提出を求めた。
- ④ 職員に対する個人情報保護・情報セキュリティ対策に関する教育を行うとともに、情報セキュリティポリシーに基づく情報管理の徹底を行った。

(5) 災害対策

- ① 法人の「危機管理計画」に基づき、火災対策や地震、豪雨による水害、大雪といった天災対策の基本として定められた「災害対策計画」及び「危機管理マニュアル」、各施設で作成した「災害対応 BCP」のもと、あらゆる災害が発生する可能性を想定し、防災知識の普及

や啓発、防災備品の整備等、被害の発生の予防、軽減や二次災害の防止となる取組を行った。

② 「さいたま市地域防災計画」に位置付けられた洪水浸水想定区域内の施設(植水、春野、馬宮、文蔵、向原、大戸、大久保東)においては、「避難確保計画」に基づき防災教育及び避難訓練を行った。

③ 災害が起きた場合は利用者等の生命および身体を守り、被害を最小限にできるよう、迅速な応急復旧対策を行うために「災害対応BCP」に基づいた訓練や館内研修を実施した。

(6) 施設維持管理

① 利用者に安全で快適な環境を提供するため、「サービス(業務)マニュアル」に基づいた自主点検、定期点検、法定点検等のほか、環境整備、備品・遊具等の保守点検を実施し、安定的な施設管理に努めた。

② 施設・設備の適正な管理と計画的な修繕のために、「施設・設備修繕計画書」を作成し、計画的に各所修繕や部品交換等を行った。

③ 備品の管理にあたっては「備品台帳」を作成するとともに、新たな事業や計画的な備品整備のため、「備品等整備計画書」を作成した。

(7) 施設のあり方検討

あり方検討会を設置し、施設認知度の向上と新規利用者の獲得、経営の効率化に努めた。

6 サービス向上計画

(1) 利用者の意見を反映する取組

① 利用者意識の傾向を探り、意見や要望を事業に反映できるよう、利用者アンケートを年1回全施設一斉実施した。また、意見や要望に対して具体策や回答を作成し掲示した。

② 新たなニーズの発見につなげられるよう、行事参加者へのアンケートや館内の情報ツールの使用方法等のアンケートを実施した。

③ 苦情、要望を常設してある「みなさまの声」で聴取し、迅速に対応した。

④ 施設運営に生かすため、運営協議会への利用者代表の参加や、こども会議での意見交換等利用者と職員が直接話し合う機会を設定した。

⑤ 中高生世代の利用者に対し、職員とともに事業運営について主体的に考える場を設定した。

(2) 地域関係機関との連携

① 行政・NPO等の団体との情報交換や連絡、調整を図り、協働による子育て支援事業の充実を図った。

② 自治会、青少年育成会、民生委員、児童委員、主任児童委員等との相互理解を深め、共催事業や世代間交流事業を実施した。

③ 小・中・高等学校と連携して、地域の子どもの見守り、「未来(みら)くるワーク」の受入れや「放課後チャレンジスクール推進事業」への協力を行った。「インターンシップ」の受入れは高等学校からの依頼がなかったため実施できなかったが、大宮国際中等教育学校の取組であるNPOフェアへの参加と探究学習の協力を行った。

④ 児童センター運営協議会を開催し、地域の方々との意見交換等をとおして、活動の充実を図り、地域の中核としての施設づくりを行った。

(3) 専門性の向上

① 研修

ア 事業団主催研修

事業団主催研修年間計画及び施設年間研修計画に基づき、研修を受講した。

イ 児童厚生員研修

児童課主催研修及び児童厚生員研修を実施した。

月	日	研修名	参加人数
7	3	児童厚生員研修会（他職種異動者向け研修）	13名
	15	児童厚生員研修会（財務事務説明会）Web	26名
10	1	児童厚生員研修会（入退館システム研修）Web	53名
	15	児童厚生員研修会（相談に対する心構え）Web・参集	61名
12	8	児童厚生員研修会（他職種異動者向けフォローアップ研修）	16名
1	26	児童福祉施設職員 普通救命講習Ⅰ	8名
2	26	児童福祉施設職員 C A P 研修会	10名
3	4	児童厚生員研修会（児童健全育成推進財団主催伝達研修）Web	49名
	11	児童厚生員研修会（全体会）Web	70名

ウ 施設見学・事業見学と情報交換研修

事業団職員交流研修（施設研修）への参加や、他法人施設等への交流研修では児童厚生員会議の支援検討会議メンバーが「不登校等児童生徒支援センターGrowth」を見学した。

エ 職場内研修

施設年間研修計画に基づき、職員企画研修や児童館ガイドライン、関係法令等の読み合わせと意見交換等の職場内研修、伝達研修等を実施した。

オ 外部派遣研修

月	日	研修名	主催	参加人数
5	23	埼玉県立大宮北特別支援学校 関係機関研修（Web）	埼玉県立大宮北特別支援学校	1名
	30	健全育成セミナー（健全育成施策と児童館ガイドラインの改正ポイント）（Web）	児童健全育成推進財団	2名
6	26	放課後勉強会「こどもまんなか 私たちで描くこれからの放課後」（Web）	放課後 NPO アフタースクール	5名
	27、28	応急手当普及員講習	さいたま市	2名
7	11、8/8	子育て支援者向け研修「子どもと安心できる関わりの土台づくり」	さいたま市	2名
8	4	子育て支援者向け研修「子どもと温かい関係を気づくためのコツ」	さいたま市	5名
	12、16、24、27、29	地域公開講座「発達に課題がある児童生徒の支援」（Web）	埼玉県立大宮北特別支援学校	6名
	25	埼玉県立大宮北特別支援学校 第1回地域連絡会（Web）	埼玉県立大宮北特別支援学校	2名
9	9～12	児童厚生員等基礎研修会	児童健全育成推進財団	2名
	17、18、27、30	放課後児童支援員認定資格研修	埼玉県	6名
	26、27	応急手当普及員講習	さいたま市	1名
10	10	子育て支援者向け研修「動きのぎこちない子どもの理解と関わり方」	さいたま市	2名
	18	認知症サポーター研修	埼玉県精神神経センター	1名
	22	子育て支援従事者研修（虐待防止・子育て支援）（Web）	埼玉県	5名
	22～24	全国中堅児童厚生員等研修会	児童健全育成推進財団	2名

11	6	埼玉県立大宮北特別支援学校 関係機関研修 (Web)	埼玉県立大宮北特別支援学校	1名
	13	児童厚生員研修会 個別援助活動	埼玉県児童館連絡協議会	2名
	20	児童厚生員研修会 子どもの安全対策	埼玉県児童館連絡協議会	1名
	25	さいたま市子ども虐待防止フォーラム	さいたま市	8名
	25～28	放課後児童支援員認定資格研修	埼玉県	6名
	28	児童厚生員研修会 ゲーム運動あそび	埼玉県児童館連絡協議会	2名
12	1	児童厚生員研修会 児童館の活動内容	埼玉県児童館連絡協議会	3名
		児童厚生員研修会 こどもの権利	埼玉県児童館連絡協議会	4名
	3～5	全国児童厚生員等指導者養成研修会	児童健全育成推進財団	2名
	4	児童厚生員研修会 配慮を要する児童の対応	埼玉県児童館連絡協議会	2名
	5	児童厚生員研修会 児童館の機能と運営	埼玉県児童館連絡協議会	2名
		児童厚生員研修会 表現活動	埼玉県児童館連絡協議会	2名
		さいたま市キャラバンメイト養成講座	さいたま市認知症フレンドリーまちづくりセンター	1名
	10	さいたま子育てカレッジ (Web)	さいたま市	1名
	11	児童厚生員研修会 地域福祉活動	埼玉県児童館連絡協議会	3名
	15、20	ひまわり学園オンライン療育講座 (Web)	総合療育センターひまわり学園	6名
1	20	県民のための医療セミナー (Web)	埼玉県立小児医療センター	1名
	4	令和7年度 手軽にできる!姿勢が崩れやすいお子さんへの対応	さいたま市こころの健康センター	1名
		令和6年度 偏食の理由と関わり	総合療育センターひまわり学園	1名
		令和5年度 指示が伝わらない、声かけが伝わらない時の対応	総合療育センターひまわり学園	1名
		令和4年度 道具を使うための土台づくり～箸を使いやすくするために～	総合療育センターひまわり学園	1名
		令和3年度 思い通りにならないと手が出るお子さんへの対応を考えてみよう	総合療育センターひまわり学園	1名
		令和2年度 発達障害を理解するために視覚機能を再確認してみよう	総合療育センターひまわり学園	1名
	4、22	自分でできる考え方のクセの付き合い方 認知行動療法を活かして (Web)	さいたま市こころの健康センター	1名
	6	児童厚生員研修会 集団援助	埼玉県児童館連絡協議会	2名
	9	児童厚生員研修会 こどもの発達理論	埼玉県児童館連絡協議会	2名
	15	児童関連施設職員向けアレルギー疾患研修会	埼玉医科大学病院	2名
		放課後支援員等研修「現在の子どもを取り巻く環境とその支援」	さいたま市	3名
	18	埼玉県助産師会研修「災害時における母子支援について」	埼玉県助産師会	1名
	19	子育て支援者向け研修「CARE 子どもと大人の絆を深めるプログラム」	さいたま市	1名
	21、25、26 28、29	保育施設等職員研修(虐待防止) (Web)	さいたま市	19名
	22	放課後支援員等研修「社会資源(学校、地域関係機関等)との連携」(Web)	さいたま市	3名
	25	埼玉県助産師会研修「ブラッシュアップ性教育」	埼玉県助産師会	2名
	26	児童厚生員研修会 健全育成論	埼玉県児童館連絡協議会	1名
		応急手当普及員講習	さいたま市	2名
		普通救命講習	さいたま市	1名
	28	放課後支援員等研修「児童の年齢に応じた育成支援の仕方」(Web)	さいたま市	3名
	30	全国こどもの健全育成リーダー養成セミナー (Web)	児童健全育成推進財団	6名
	31	「こどもまんなか」の放課後児童クラブにおける実践	東洋大学人間科学総合研究所	1名

2	2、21、28	全国こどもの健全育成リーダー養成セミナー (Web)	児童健全育成推進財団	3名
	2～28	放課後児童支援員認定資格研修 (Web)	埼玉県	2名
	5	働く世代向け 明日から役立つストレスケア (Web)	さいたま市	1名
	12	JAMP-JAM スタッフトレーニング	児童健全育成推進財団	1名
	17	放課後児童クラブ巡回支援事業研修 (Web)	さいたま市	2名
		子育て支援者向け研修「発達や行動が気になる子どもの保護者支援」 (Web)	さいたま市	2名
	19	埼玉県児童館連絡協議会館長研修	埼玉県児童館連絡協議会	3名
	21	高次脳機能障害支援者研修Ⅱ	さいたま市障害者更生相談センター	1名
	27	放課後支援員等研修「虐待防止への取り組み・障害児対応」 (Web)	さいたま市	1名

※ この他、各施設年間研修計画に基づき、施設ごとに外部研修に参加している。

- ② 児童センターサービス(業務)マニュアル、児童センター危機管理マニュアルを活用した。
- ③ 職員育成プログラム検討会議において、多職種から異動してきた職員を対象に「多職種異動職員研修」「多職種異動職員フォローアップ研修」を行い、人材育成のための「新人・新任職員向け業務項目リスト」の作成にも取り組んだ。また、昨年に引き続き館長育成プログラムにおいては、3館が1グループとなり、各館を訪問し「館長が行う施設管理運営」の確認を行った。

(4) 施設間連携の強化

- ① 児童センター館長会議を月1回、参集またはリモートにて開催した。(8月は実施せず)
- ② 事業責任者会議を月1回、参集で開催した。
- ③ 児童厚生員会議として「支援検討会議」と「実務検討会議」の2つ分科会を、昨年度からの研究・課題を継承し開催した。7月から月1回開催し、多くの児童厚生員が参加し、各テーマに沿って検討を行い、具体的な方策の企画と実施を行った。「事業検討会議」は中止とした。
- ④ 児童発達支援センター等と連携した発達相談を年1回以上行った。
- ⑤ 老人福祉センターと連携してeスポーツ等の事業を行った。
- ⑥ 放課後子ども居場所事業4か所への「あそびの出前」事業を行った。

7 年間行事報告

<全館共通行事>

月	日	内 容	備 考
7	23、28	高校生と乳幼児のふれあい交流事業	岩槻区(7/23)、浦和区(7/28)にて、助産師講話と赤ちゃんの接し方、妊婦体験等を実施した。
11	29	児童センターフェスタ「ストリート児童センター」	さいたま新都心駅東西自由通路にて、ボードゲームやけん玉などの遊びを体験できるコーナーを設置した。
3	15	中高生パフォーマンスフェスタ	岩槻駅東口コミュニティセンターにて、中・高校吹奏楽部の演奏、音楽部の合唱、魚食の研究発表、皿回しやけん玉などの妙技や歌唱のステージ発表、作品展を行った。
定期	その他	運営協議会、中高生世代時間延長対応、避難訓練、消火訓練、児童発達支援センター等との発達相談、未来くるワーク・インターンシップ(受入れなし)・実習生の受入れ、図書の貸出し	

<三橋児童センター>

月	日	内 容	備 考
5	24	大宮国際中等教育学校 NPO フェアへの協力	中高生36名、保護者2名
	29	三橋公民館共催事業(幼児家庭教育学級)	幼児7名、保護者7名
6	16	乳幼児育児相談	幼児3名、保護者3名
7	6	並木氷川神社祭礼演芸大会	幼児6名、小学生16名、保護者24名
	10	おたのしみ会(乳幼児)	幼児31名、保護者28名
	18	おたのしみ会(児童)	幼児13名、小学生110名、保護者19名
	19	八雲神社祭礼演芸大会	幼児3名、小学生7名、保護者14名
	25	夏休み交通安全教室	小学生39名
8	6	夏休み世代間交流事業「囲碁教室」	小学生4名、高齢者6名
	20	夏休みイベント「お金のはなし」	小学生34名 中高生2名 保護者2名
9	13	地域自治会敬老祝賀会	幼児5名、小学生7名、保護者10名
	26	乳幼児・シニア合同運動会	乳幼児16名、保護者13名、高齢者10名
10	2	大宮国際中等教育学校 探究学習への協力 「水を知ろうワークショップ」	小学生37名、中高生2名
	20	乳幼児育児相談	幼児6名、保護者6名
	21	歯みがき講座	幼児13名、保護者13名
	25	家族のための救急法講座 (AED)	中止
	27	三橋公民館共催事業(親学・幼児家庭教育学級)	幼児12名、保護者11名
	29	ハロウィンスペシャル	幼児32名、保護者30名
11	1	三橋公民館まつり	幼児3名、小学生7名、保護者12名
	6	大宮国際中等教育学校 探究学習への協力 「英語体験」	小学生8名、中高生3名
		三橋公民館共催事業(幼児家庭教育学級)	幼児13名、保護者11名
	17	三橋公民館共催事業(幼児家庭教育学級)	幼児13名、保護者11名
	18	離乳食講座	幼児10名、保護者10名
12	11	おたのしみ会(乳幼児)	幼児32名、保護者28名
	23	おたのしみ会(児童)	幼児1名、小学生89名、保護者3名
	26	世代間交流 e スポーツ	小学生8名、高齢者5名
1	22	大宮国際中等教育学校 探究学習への協力 「防災シュミレーション」	小学生35名、中高生5名
	26	大宮国際中等教育学校 探究学習への協力 「防災教育プロジェクト」	小学生31名、中高生5名
2	15	三橋・植水・馬宮児童センター合同イベント	幼児15名、小学生2名、保護者13名
	16	乳幼児育児相談	幼児5名、保護者5名
3	14	ティーンズカフェ	中高生7名
定期	毎 日	中高生タイム、スタディールーム、ランランランチ	
	週 1 回	あそびのひろば (0、1 歳以上向け) 、一輪車タイム、プラレールの日	
	月 1 回	工作タイム、おおきくなったかな、おもちゃの病院	
	その他	乳幼児タイム、大成親子サロン (公民館) 、子どもボランティア活動、子ども会議、三橋小、宮前小放課後・土曜チャレンジスクール、レッツダンス、家庭児童相談員による子育て相談、ハンドベル練習	

<植竹児童センター>

月	日	内 容	備 考
4	20～30	こいのぼり制作	幼児18名、小学生34名、保護者18名
5	1～15	こいのぼり制作	幼児1名、保護者1名
	5	こどもの日工作	幼児3名、小学生9名、保護者3名
6	9～15	おおきくなったかな(身体測定)	幼児34名、保護者32名
	9	日進公園コミセン親子広場	他館担当のため実施せず
7	10	夏まつり (わいわいプチタイム)	幼児21名、保護者19名、ボランティア1名
	30	ものづくり教室	小学生6名、中高生3名、保護者6名、ボランティア12名
8	5	防犯教室	幼児1名、小学生32名、保護者1名
	6～8	夏休み工作 (もこもこキーホルダー)	幼児10名、小学生27名、保護者9名
	21	ヨーヨーつり	幼児24名、小学生29名、保護者29名
		映写会	中止
9	29	植竹公民館わくわく子育てプログラム	幼児3名、保護者3名

10	1～31	ハロウィンフォトブース	幼児25名、小学生3名、保護者20名
	6	日進公園コミセン親子広場	幼児6名、保護者5名
	9	保健師講話	幼児3名、保護者3名
	14～28	フードバンク	2件
	23	日進公民館ハイハイサロン	幼児7名、保護者7名
11	2	北区民まつり	幼児84名、小学生72名、中高生2名、保護者109名
	17～22	おおきくなったかな	幼児50名、保護者44名
	27	歯みがき指導	幼児10名、保護者9名
		保健師講話	10/9へ変更
12		映写会	中止
	6	市民のつどい	幼児20名、小学生17名、中高生1名、保護者39名、ボランティア1名
	12	冬のおたのしみ会	幼児27名、中高生3名、保護者25名、ボランティア2名
1	5～17	フードバンク	3件
	6、7	お正月あそび	小学生56名
2	7	植竹こども音楽祭	小学生13名、ボランティア3名
	16	日進公園コミセン親子広場	幼児4名、保護者3名
	18	栄養士講話	幼児7名、保護者7名
3	2～8	おおきくなったかな	幼児25名、保護者20名
	26	ハンドベルミニコンサート	小学生32名、保護者22名、運協委員5名
		映写会	中止
定期	毎 日	幼児タイム、中高生タイム	
	週 1 回	コマ・けん玉タイム、卓球タイム	
	月 1 回	おはなし会、助産師による育児相談、植竹小学校 PTA 資源回収	
	その他	工作タイム（月 2 回）、ハンドベルクラブ、プチタイム、ハイハイサロン、家庭児童相談員による子育て相談、昔遊びの会（東大成小学校）職員派遣	

＜天沼児童センター＞

月	日	内 容	備 考
4	24～30	こいのぼりをつくろう	幼児5名、小学生27名、保護者5名
5	1～5	こいのぼりをつくろう	幼児1名、小学生1名、保護者2名
	5	おとうさんもあそぼう（カプラ）	幼児7名、保護者7名
	10	大宮東公民館共催イベント（百人一首）	小学生9名、中学生1名
	17	大宮東公民館共催イベント（百人一首）	小学生9名、中学生1名
7	2	ふれあい交流花だん	幼児1名、中学生3名、保護者1名、憩い0名
	30	お楽しみ会（プチひろば/高乳ふれあい）	幼児18名、保護者13名
	31	お楽しみ会（0歳ひろば/高乳ふれあい）	幼児9名、高校生2名、保護者9名
10	20	子ども会議（平日）	小学生4名
	23	歯科衛生士による歯みがき講座	幼児8名、保護者8名
	25	子ども会議（休日）	小学生5名、中学生2名
	27	ハロウィンパーティー（小学生）	小学生28名
	29	交流ハロウィンパーティー（幼児親子）	幼児29名、保護者29名、憩い7名
11	11	交流運動会	幼児18名、中学生3名、保護者19名、憩い7名
	14	交流ふれあい花だん	幼児2名、小学生2名、保護者3名、憩い0名
	19	仕上げ磨き講座（大宮歯科衛生士専門学校）	幼児5名、保護者4名
	27	保健師による講座	幼児6名、保護者7名
	28	交流ふれあい花だん	小学生2名
12	5	クリスマスツリーを飾ろう	幼児8名、小学生6名、保護者7名
	12	冬のおたのしみ会（幼児親子）	幼児21名、保護者18名
	19	冬のおたのしみ会（小学生）	小学生52名、保護者2名
	23	大宮高校ギター部演奏会	幼児1名、小学生38名、高校生24名 保護者2名、憩い3名
	27	かきぞめの日	小学生7名、保護者5名
2	5	管理栄養士による離乳食講座	幼児5名、保護者5名

3	6	交流おみせやさんごっこ	幼児18名、保護者16名、憩い8名
定期	毎 日	中高生タイム	
	週1回	0さいひろば、プチひろば	
	月1回	工作タイム、電車であそぼう、お誕生会・身体測定会	
	その他	東公民館ひがしっこひろば(職員派遣)、みんなであそぼう、読み聞かせ、子ども会議、家庭児童相談員による子育て相談、プチひろば、ぬりえコンテスト。映画会	

＜宮原児童センター＞

月	日	内 容	備 考
5	1～18	児童福祉週間「こいのぼり飾りづくり」	幼児2名、小学生46名、保護者1名
	5	こどもの日工作	幼児9名、小学生1名、保護者6名
	25	みんな集まれ！帰ってきたぞ 児童センター＆憩いの家パーティー	幼児10名、小学生40名、中学生2名、保護者22名 高齢者9名
6	3	親子ひろば in 日進コミセン	幼児6名、保護者6名
	20	歯科衛生士による「歯のはなし」	幼児10名、保護者9名
	22	子ども運営会議モデル事業	小学生10名、中学生4名
7	26	夏のお楽しみ会（幼児）	幼児41名、保護者43名
	26	夏のお楽しみ会（児童）	小学生10名
	26,27	子ども運営会議モデル事業	小学生10名
	28	あおぞら防犯教室	小学生24名
8	4	大宮工業ものづくり教室	幼児2名、小学生10名、保護者9名
	12～14	ミサマガづくり	幼児4名、小学生23名、保護者8名
	19	子ども運営会議モデル事業	小学生2名、中学生2名
	20,21,25	簡単クッキング	幼児1名、小学生23名、保護者11名
	22	ものづくり体験教室	小学生21名、保護者1名、ボラ10名
	24	SOMP0 子ども食堂	小学生8名、保護者6名、高齢者13名
		中高生ミーティング	中止
9	10	幼児運動会	幼児20名、保護者20名
	17	栄養士による食育講座	幼児14名、保護者18名
	28	子ども運営会議モデル事業	小学生8名
10	1～31	ハロウィン製作	幼児12名、小学生110名
	25,26	宮原公民館子どもまつり	幼児43名、小学生57名、保護者58名
11	2	北区民まつり	小学生72名、中学生2名、保護者109名
	5	公園で遊ぼう（幼児）	幼児9名、保護者8名
	6	日進公民館ハイハイひろば	幼児5名、保護者5名
	12	保健師による育児相談	幼児10名、保護者10名
	22	公園で遊ぼう（児童）	小学生9名、保護者7名
12	6	市民のつどい	幼児20名、小学生19名、保護者39名
	14	冬のお楽しみ会（幼児）	幼児20名、保護者24名
		冬のお楽しみ会（児童）	小学生23名、保護者4名
	21	英語でクリスマスを楽しもう	幼児10名、小学生1名、保護者12名
	26	折り紙教室	幼児1名、小学生19名、保護者2名
		交流eスポーツ	中止
1	11,18	お正月あそび	小学生8名
		歯科衛生士による「歯のはなし」	中止
2	2	豆まきごっこ	幼児12名、保護者12名
	15	お買物ごっこ	幼児24名、保護者29名
	16	親子ひろば in 日進コミセン	幼児4名、保護者3名
3	7	ティーンズカフェ	中学生2名
	27	ドッジボールタイム	小学生24名
定期	毎日	中高生タイム	
	週1回	ハイハイサロン、プチタイム、工作タイム、チャレンジタイム	
	月1回	こども会議、おおきくなったかな、スポーツタイム、プラレールであそぼう	
	その他	放課後・土曜チャレンジスクール（宮原小/つばさ小）、宮原公民館すくすくサロン、家庭児童相談員による子育て相談、宮原お手伝いスタッフ活動	

＜植水児童センター＞

月	日	内 容	備 考
4	14	学習支援事業	小学生3名、高校生2名

4	28	学習支援事業	小学生3名、高校生2名
5	5～11	こどもの日スペシャル企画	幼児10名、小学生51名、中学生21名、保護者4名
	12	学習支援事業	小学生5名、中学生1名、高校生2名
	24	大宮国際中等教育学校 NP0 フェアへの協力	中学生34名、高校生2名、保護者2名
	26	学習支援事業	小学生5名、高校生3名
6	9	学習支援事業	小学生5名、中学生3名、高校生1名
	17	「にしっこさん いらっしゃい!!ママのためのストレッチ」(西区保健センター共催)	幼児7名、保護者8名
	23	学習支援事業	小学生7名、中学生6名
7	9	ちびっこサンサンまつり	幼児21名、保護者21名
	10	学習支援事業	小学生3名、高校生4名
	18	運営協議会	委員9名、高校生2名
		こどもまんなか座談会	小学生27名、高校生2名、委員9名
	29	夏休み交流事業「将棋」	小学生4名、中学生1名、高齢者3名
	30	夏休み交流事業「囲碁」	小学生2名、中学生3名、高齢者3名
8	31	夏休み交流事業「手話ダンス」	小学生2名、高齢者5名
	4～7	プラバンウィーク	幼児4名、小学生64名、中学生3名、保護者8名
	7	大宮国際中等教育学校教科横断学習への協力	高校生2名
	8	すくすく教室(植水地区社協共催・西区保健センター協力)	小学生16名、保護者5名
		学習支援事業	小学生3名 中学生2名
	20	スライムをつくろう	幼児2名、小学生23名、保護者1名
9	25	夏休みこども福祉体験教室&こどもふれあい会食(植水地区社協・大宮ゆめの園・西区社協共催)	小学生33名
	12	学習支援事業	小学生7名、高校生5名
10	26	学習支援事業	小学生5名、高校生1名
	13	みのりフェス	幼児2名、小学生8名、保護者12名、高齢者9名
11	17	学習支援事業	小学生2名、高校生1名
	24	学習支援事業	小学生8名、高校生1名
	27	わくわくハロウィンパーティ	幼児3名、小学生40名、保護者4名
	29	わくわくハロウィンパーティ	幼児2名、小学生33名、保護者3名
12	1	植水交流まつり/あそびの教室(植水地区社協共催)	幼児7名、小学生26名、高校生1名、保護者7名、高齢者5名
	8	西区ふれあいまつり	幼児4名、小学生10名、保護者13名
	28	「にしっこさん いらっしゃい!!知ってうれしい食事のこと〜」(西区保健センター共催)	幼児13名、保護者13名
	28	学習支援事業	小学生3名、中学生1名、高校生3名
1	10	幼児向け 冬のおたのしみ会	幼児31名、保護者32名
	19	学習支援事業	小学生7名、高校生4名
2	25	館内ドッジボール大会	小学生22名、保護者7名、幼児3名
	28	防災ワークショップ	小学生29名、高校生5名
3	2	ティーンズと遊ぼう	小学生11名、中学生6名
	5	学習支援事業	小学生7名、高校生5名
	15	三橋・植水・馬宮3館合同イベント	幼児15名、小学生2名、保護者13名
4	16	ティーンズとあそぼう	小学生14名、中学生7名
定期	毎 日	ちびっこタイム、中高生タイム、図書の貸し出し	
	週 1 回	ドッジボールタイム、あそびのひろば	
	その他	ランチタイム、工作タイム、伝承あそびタイム、シネマランド、ティーンズカフェ、おおきくなったかな、家庭児童相談員による子育て相談 ※三世代交流体験活動(青少年育成植水地区会主催)、※指扇地区乳幼児向けサロン(指扇地区社協主催)、※青少年育成子どもまつり(青少年育成植水地区会主催)、※子ども会事業(自治会主催) ●※は職員派遣	

＜本郷児童センター＞

月	日	内 容	備 考
5	24	環境ボランティア	幼児3名、小学生3名、中学生1名、保護者4名
6	9	親子ひろば in 日進コミセン	幼児6名、保護者6名
	16	親子ひろば in 東大宮コミセン	幼児3名、保護者3名
	28	世代交流じゃがいも掘り	幼児41名、小学生43名、保護者80名
7	18	夏のおたのしみ会(幼児、児童)	幼児30名、小学生49名、保護者29名
	31	ものづくり教室	小学生1名、保護者1名
8	5、12、19、26	三世代イベント	幼児15名、小学生81名、中学生1名、保護者13名
9	10	食育講座	幼児2名、保護者2名

10	6	親子ひろば in 日進コミセン	幼児7名、保護者6名
	10	育児講座	幼児20名、保護者15名
	10～29	ハロウィンガーランド	幼児31名、小学生35名、中学生6名、保護者27名
	25～30	ハロウィンイベント	小学生67名、中学生2名
11	1	環境ボランティア	幼児2名、保護者2名
	2	北区区民まつり	幼児85名、小学生75名、中学生2名、保護者110名
12	20	冬のお楽しみ会(幼児)	幼児21名、保護者28名
	24	冬のお楽しみ会(児童)	小学生48名、保護者5名
1	5、6	伝承あそび	小学生41名
	5～11	お正月 week	幼児3名、小学生109名、中学生8名、保護者5名
2	16	親子ひろば in 東大宮コミセン	幼児4名、保護者4名
3	27	春のおたのしみ会(幼児、児童)	幼児4名、小学生33名、保護者3名
定期	毎 日	中高生タイム	
	週 1 回	ハイハイサロン、プチタイム	
	月 1 回	幼児お誕生会(身長・体重測定)	
	その他	放課後チャレンジスクール、地区社協子育てサロン、ベビーマッサージ、三世代交流事業、家庭児童相談員による子育て相談、子どもミーティング	

<片柳児童センター>

月	日	内 容	備 考
4	21～30	こどもの日工作	幼児56名、小学生29名、保護者53名
5	1、2、5	こどもの日工作	幼児31名、小学生34名、中学生3名、保護者24名
	5	こどもの日プチイベント(幼児向け) こどもの日プチイベント(小中高向け)	幼児15名、保護者13名 小学生6名、中学生4名
	27	育児相談(保健センター共催事業)	幼児6名、保護者6名
6	17	食育講話	幼児2名、保護者2名
	22～30	七夕制作	幼児30名、小学生53名、中学生7名、保護者30名
	28	児童センター憩いの家交流ふれあい花壇	幼児7名、小学生12名、保護者10名、高齢者3名
7	1～7	七夕制作	幼児14名、小学生10名、中学生3名、保護者13名
	11	サマーフェスタ(幼児向け)	幼児56名、保護者44名
	18	サマーフェスタ(幼児・小学生以上向け)	幼児43名、小学生106名、中学生25名、保護者42名
8	1～16	スイーツ&フルーツ飾り	幼児67名、小学生40名、中学生5名、保護者39名
	21	防犯教室	幼児1名、小学生25名、保護者1名
	22、26	スライム作り	幼児1名、小学生13名、保護者3名
9	12	歯科衛生士講話	幼児12名、保護者10名
	20	こども会議	小学生6名
10	9	食育講話	幼児5名、保護者5名
	15	救急法	幼児4名、保護者3名
	30	むし歯予防教室(保健センター共催事業)	幼児8名、保護者7名
	31	ハロウィンイベント(乳幼児向け) ハロウィンイベント(幼児・小学生以上向け)	幼児39名、保護者37名 幼児26名、小学生40名、中学生2名、保護者17名
11	29	ツリーを飾ろう	小学生2名
12	6	児童センター憩いの家交流ふれあい花壇	幼児5名、小学生6名、保護者3名、高齢者2名
	12	ウィンターフェスタ(乳幼児向け)	幼児44名、保護者44名
	13	こども会議	中学生3名
	24	ウィンターフェスタ(幼児・小学生以上向け)	幼児15名、小学生46名、中学生3名、保護者13名
1	4～31	お正月あそび	幼児34名、小学生113名、中学生27名 保護者27名
	6	おはなし会	小学生22名、保護者1名
2	26	むし歯予防教室(保健センター共催事業)	幼児11名、保護者10名
定期	毎日	中高生タイム、卓球タイム、バドミントンタイム、ドッジビータイム	
	週 1 回	ハイハイサロン、ヨチヨチひろば、わんぱくひろば	
	月 1 回	誕生祝い、お父さんと遊ぼう、プチひろば	
	その他	助産師来館事業、おはなし箱、海老沼小放課後・土曜チャレンジスクール、片柳小放課後チャレンジスクール、ふるさと発見子どもまつり(青少年育成片柳地区会主催)、子育てサロン『ピヨピヨ』(地区社協主催)	

<春野児童センター>

月	日	内 容	備 考
4	16	新1年生あつまれ!	小学生12名

5	1～11	児童福祉週間イベント	乳幼児1名、小学生20名、保護者1名
		花いっぱい運動	中止
6	11	歯みがき指導講座	乳幼児5名、保護者4名
7	7	幼児向けお楽しみ会	乳幼児14名、保護者14名
	26	アーバンまつり	乳幼児30名、小学生120名、中学生26名 保護者60名
8	28	卓球の日	小学生41名
9	10	家庭児童相談員による子育て相談	乳幼児2名、保護者2名
10	8	食育講座	乳幼児3名、保護者3名
		七里おやこフェスティバル	中止
11	16	春岡ふれあいフェスティバル	乳幼児20名、小学生61名、保護者70名
12	15	幼児向けおたのしみ会	乳幼児16名、保護者16名
		花いっぱい運動	中止
1	8	保健師講座	乳幼児6名、保護者5名
2	12	家庭児童相談員による子育て相談	乳幼児3名、保護者3名
3	16	幼児向けお楽しみ会	乳幼児14名、保護者13名
定期	毎 日	乳幼児タイム、中高生タイム	
	月 1 回	みんなのひろば、電車であそぼう、春岡親子サロン(公民館共催事業)	
	その他	放課後チャレンジスクール、赤ちゃんサロン(0 歳児及び公民館共催事業)	

＜馬宮児童センター＞

月	日	内 容	備 考
4	1	新1年生あつまれ！	小学生22名
5	7～11	児童福祉週間イベント	幼児13名、児童104名、中高世代7名、保護者11名
7	7	サマーフェスタ(幼児)	幼児53名、保護者41名、ボランティア8名
	22	サマーフェスタ(児童)	幼児5名、児童66名保護者9名
8	19	夏休み特別企画(スライム作り)	幼児11名、小学生42名、保護者12名、ボランティア2名
	20	夏休み特別企画(eスポーツ)	児童6名、中・高世代2名保護者2名
	4、7、14、18 21、25、28	夏休み特別企画(ソーラン節をおどろう)	幼児1名、小学生174名、中学生3名
9	2	中学生と乳幼児ふれあい交流事業(職員派遣)、	幼児7名、中学生35名、保護者7名
	6	「にしっこさん いらっしゃい!!～育児相談・家族みんなでおくちケア～」(西区保健センター共催)	幼児14名、保護者13名
10	31	ハロウィンパーティー	幼児66名、保護者54名、ボランティア10名
11	8	西区ふれあいまつり	幼児211名、小学生52名、保護者351名
	4、11、18	からふる子育てクラブ(馬宮公民館共催)、	幼児18名、保護者18名
	8～30	こどもまんなか月間イベント	幼児20名、小学生132名保護者40名
12	12	ウィンターパーティー(幼児)	幼児84名、保護者73名、ボランティア10名
	24	ウィンターパーティー(児童)	幼児3名、小学生61名、高校生2名、保護者9名
	5	消防車見学	幼児2名、小学生45名、高校生6名、保護者4名
1	23～31	お正月あそび	幼児3名、小学生13名、保護者2名
2	14～18	作品展(複合施設)	乳幼児85名、児童10名、保護者97名
	24	「にしっこさん いらっしゃい!!～育児相談・知ってうれしい食事のこと～」(西区保健センター共催)	幼児15名、保護者12名
	15	三橋・植水・馬宮児童センター合同イベント	幼児15名、小学生2名、保護者13名
定期	毎 日	卓球タイム、フリースペース、中高生スタディールーム	
	週 1 回	プラレールであそぼう	
	週 2 回	ドッジボールタイム	
	月 1 回	年齢別幼児事業(ハイハイサロン・なかよしひろば)、ストーリータイム	
	その他	地区社協出前事業(馬宮・指扇・内野)、家庭児童相談員による子育て相談	

＜文蔵児童センター＞

月	日	内 容	備 考
4	11	新1年生オリエンテーション	小学生16名

5	1	さいたま市民の日記念事業「ジャンボかるたとり」(文蔵公民館共催)	小学生32名、中学生3名
	5～11	こどもまんなかおたのしみタイム!	乳幼児21名、小学生9名、中学生15名
6	16	おもちゃコンサルタントによる「おもちゃの広場」	乳幼児32名、保護者26名
	18	栄養士による「食育講座」	乳幼児17名、保護者15名
	25	ファイナンシャルプランナーによる「ママとパパのお金のおはなし会」	乳幼児13名、保護者11名
7	8	ちびっこワイワイひろば(文蔵公民館共催)	乳幼児16名、保護者18名
	9	保健師による「発達・健康講座」等	乳幼児8名、保護者9名
	11	夏のお楽しみ会(幼児)	乳幼児21名、保護者26名
	23、24	夏休みフェスタ(小学生)	小学生62名、中学生1名
8	5	夏休み子ども公民館(文蔵公民館共催)	小学生19名、保護者1名
9	12	六辻スマイルひろば(六辻公民館共催)	乳幼児7名、保護者7名
	24	歯科衛生士による「歯みがき講座」	乳幼児9名、保護者9名
10	10	ちびっこワイワイひろば(文蔵公民館共催)	乳幼児9名、保護者10名
	27	おもちゃコンサルタントによる「おもちゃの広場」	乳幼児20名、保護者19名
	29～31	ハロウィンフォトコーナー	乳幼児76名、保護者71名
11	28	六辻スマイルひろば(六辻公民館共催)	乳幼児6名、保護者6名
	25	栄養士による「食育講座」	乳幼児3名、保護者3名
12	12	六辻スマイルひろば(六辻公民館共催)	乳幼児12名、保護者11名
	12、13	冬休みフェスタ(小学生)	小学生13名、保護者2名
	14	ちびっこワイワイひろば(文蔵公民館共催)	乳幼児25名、保護者33名
	19	冬のお楽しみ会(幼児)	乳幼児36名、保護者35名
1	29	保健師による「乳幼児の発達と健康に関する講座」等	乳幼児7名、保護者7名
2	25	歯科衛生士による「歯みがき講座」	乳幼児7名、保護者7名
3	13	六辻スマイルひろば(六辻公民館共催)	乳幼児13名、保護者12名
定期	毎 日	日替わりおもちゃ	
	週 2 回	赤ちゃんルーム	
	月 1 回	バースデーフォトコーナー、測定の日	
	その他	プチタイム、あそぼう!ひろば、赤ちゃんひろば、たのしく作ろう、チャレンジタイム、ドッジボールタイム、卓球タイム	

＜浦和別所児童センター＞

月	日	内 容	備 考
6	11	乳幼児向け食育講座	幼児1名、保護者1名
7	10	なつまつり(幼児)	幼児45名、保護44名
	17	なつまつり(児童)	幼児21名、小学生116名、中高生2名、保護者26名
8	5	県警あおぞら防犯教室	幼児3名、小学生36名、保護者5名
9	3	おもちゃの広場	幼児30名、保護者30名
10	16	歯科衛生士講座(はみがき講座)	幼児3名、保護者3名
	28	消防署立ち会い避難訓練	幼児18名、保護者19名
11	8	ふれあいまつり(自治会共催)	幼児100名、小学生61名、中高生3名 保護者125名
12	11	冬のおたのしみ会(幼児)	幼児53名、保護者50名
	19	冬のおたのしみ会(児童)	幼児9名、小学生74名、保護者11名
1	4～31	お正月あそび月間	幼児36名、小学生222名、保護者32名
	28	ねえ♪あそぼ!!(コミセン共催)	幼児17名、保護者17名
	4	おもちゃの広場	幼児16名、保護者15名
3	1～31	卓球月間	小学生448名、中学生157名、保護者22名
定期	毎 日	中高生タイム	
	週 1 回	エンジョイタイム	
	月 1 回	ひよこひろば、りすひろば、うさぎひろば、スターチス、おひざだっこのおはなし会	
	月 2 回	大きくなったかな、バースデーカード&フォトコーナー	
	その他	プチタイム、卓球タイム、こどもスタッフ会議、おもちゃの病院、おはなしでてこい、わくわくタイム、小学生タイム、プラレールタイム	

＜与野本町児童センター＞

月	日	内 容	備 考
4	22	1年生集まれ	小学生9名、保護者3名
5	5	職員体験	小学生2名
	27	歯みがき指導	幼児10名、保護者8名
	24	お花いっぱい大作戦	幼児9名、小学生10名、保護者11名
6	17	育児講話と乳がん自己検診法	幼児8名、保護者6名
7	10	夏のおたのしみ会(幼)	幼児52名、保護者56名
	23	夏休み体験教室（こども電気教室）	幼児3名、小学生6名、保護者3名
	25	夏のおたのしみ会(児)	幼児5名、小学生46名、保護者6名
8	4、25	職員体験	小学生5名
	18～22	夏の工作タイム	幼児2名、小学生26名、保護者4名
10	8	食育講話	幼児7名、保護者6名
11	1、2	中央区区民まつり	幼児67名、小学生81名、保護者107名
12	5、6	お花いっぱい大作戦	幼児12名、小学生3名、保護者15名
	10	冬のおたのしみ会(幼)	幼児55名、保護者54名
1	4～7	お正月あそび	幼児3名、小学生15名、中高生16名、保護者10名
	15	子どもシニア交流イベント	幼児2名、小学生5名、保護者2名
	27	歯みがき指導	幼児5名、保護者5名
2	9、16、23 30	中高生イベント	中高生13名
	25	食育講話	幼児4名、保護者4名
3	15	中高生イベント	中高生13名
定期	毎 日	中高生タイム、スタディールーム	
	月 1 回	おはなし会、おはなしひろば、作ってみよう	
	月 2 回	0歳児あつまれ、ヨチヨチペンギン、ピョンピョンうさぎ	
	その他	本町っ子ひろば、ファミリータイム、プチタイム、おもしろ記録会、パパと一緒にあそぼう、おおきくなったかな、バースデーフォト、みんなであそぼう、アスレチックタイム(幼児向け)、家庭児童相談員による子育て相談	

＜向原児童センター＞

月	日	内 容	備 考
4	4/20～ 5/11	みんなで壁面飾りを作ろう (児童福祉週間事業)	乳幼児5名、小学生10名、保護者4名
5	17～19	児童センターで花づくり	乳幼児1名、小学生15名、中高生2名、保護者1名
6	25	歯みがき指導	乳幼児3名、保護者3名
7	9	夏まつり	乳幼児20名、保護者19名
	22～25	夏の工作タイム	小学生14名
8	22	夏のおたのしみ会	乳幼児2名、小学生58名、中高生5名、保護者11名
9	17	食育講話	乳幼児5名、保護者5名
10	9	上落合小学校放課後チャレンジスクール	小学生30名、保護者5名
	10	育児・乳がん講話	乳幼児6名、保護者6名
	29	ハロウィンパーティー	乳幼児25名、保護者26名
11	1、2	中央区区民まつり	乳幼児67名、小学生81名、保護者107名
	15、16	児童センターで花づくり	乳幼児6名、小学生5名、保護者7名
	17	消防署へ行こう	乳幼児11名、保護者11名
12	1～7	オーナメントづくり	乳幼児9名、小学生21名、保護者10名
	10	冬のおたのしみ会	乳幼児23名、保護者22名
	13	下落合小学校土曜チャレンジスクール	小学生34名、保護者4名
	23	バスケットボールタイム	小学生10名
	25～27	書き初めタイム	小学生12名、保護者2名
1	5～7	冬の工作タイム	小学生8名
	16	歯みがき指導	乳幼児4名、保護者4名
2	15	下落合公民館まつりあそびの出前	乳幼児11名、小学生3名、保護者11名
	19	上落合小学校放課後チャレンジスクール	小学生28名、保護者6名
	28	シマエナガをつくろう	小学生10名
3	18	春のおたのしみ会(八千代会との交流事業)	乳幼児30名、保護者33名、高齢者5名
定期	週 1 回	0歳サロン、ミニプチタイム、プチタイム、ドッジボールタイム	

定期	月 1 回	ゆめのはこによる読み聞かせ
	その他	フードバンク集荷所、衣類バンク集荷所、文具ボックス集荷所、今日のきもち、おすすめの本、どうぞのいす、花の水やり、家庭児童相談員による子育て相談、お誕生月カード・シール配布、やりたいこと箱、ティーンズカフェ、不審者対応訓練

＜大戸児童センター＞

月	日	内 容	備 考
4	19	新 1 年生あつまれ	小学生 5 名
5	22	産後ヨガ	幼児 8 名、保護者 8 名
	28	ポップコーン（大戸公民館子育てサロン）	幼児 2 名、保護者 2 名
6	11	歯みがき指導	幼児 7 名、保護者 7 名
7	10	食育講話	幼児 7 名、保護者 7 名
	20	夏のおたのしみ会（幼児・児童）	幼児 45 名、小学生 32 名、保護者 55 名
	22～25	シネマタイム	幼児 6 名、小学生 129、保護者 6
	30	防犯教室（あおぞら）	乳児 1 名、小学生 31、保護者 3 名
8	4～5	夏休み工作	小学生 8 名、保護者 1 名
	6	おおっとクラフトタイム	幼児 2、小学生 1 名、保護者 1 名
	7、18～20	夏チャレンジ	小学生 99 名、保護者 1 名
9	3	ポップコーン（大戸公民館子育てサロン）	中止
	18	産後ヨガ	幼児 6 名、保護者 6 名
10	23	育児講話と乳がん自己検診法	幼児 14 名、保護者 14 名
11	1～2	中央区区民まつり	幼児 69 名、小学生 83 名、中高生 1 名、保護者 109 名
	23	大戸公民館まつり	幼児 30 名、小学生 41 名、保護者 50 名
12	3	ポップコーン（大戸公民館子育てサロン）	幼児 2 名、保護者 2 名
	14	冬休み工作	小学生 9 名、保護者 3 名
	21	冬のおたのしみ会（幼児・児童）	幼児 33 名、小学生 11 名、保護者 30 名
	25、26	冬チャレンジ	参加者なし
1	4～30	けん玉チャレンジ	小学生 39 名
	22	シネマタイム	幼児 1 名、小学生 81 名、保護者 1 名
	5～7	産後ヨガ	幼児 4 名、保護者 4 名
2	4	歯みがき指導	幼児 12 名、保護者 11 名
	16	食育講話	幼児 12 名、保護者 11 名
3	29	卒業パーティー	小学生 11 名
定期	毎 日	卓球タイム	
	週 1 回	ハイハイサロン、中高生タイム	
	月 1 回	おおきくなったかな、パースデーウィーク	
	その他	家庭児童相談員による子育て相談、チャレンジタイム、つくってあそぼう、ファミリーたいそう、プチタイム、プラ鉄タイム、ミニカーであそぼう、与野南小わくわくチャレンジ	

＜大久保東児童センター＞

月	日	内 容	備 考
5	5～12	こどもまんなか福祉週間（こいのぼり）	乳幼児30名、小学生22名、中学生4名 保護者34名
	9	野菜の苗を植えよう	幼児1名、小学生3名、保護者1名
	10	作ってみよう!!	小学生8名、保護者1名
	26	育児相談（保健センター共催事業）	乳幼児4名、保護者4名
	28	栄養士講話	乳児13名、保護者14名
6	11	歯科衛生士講話	乳幼児8名、保護者8名
	27	ファミリータイム	乳幼児17名、保護者23名
7	11	幼児夏まつり	乳幼児47名、保護者42名
	18	児童夏まつり	小学生47名、中学生1名、保護者8名
8	8	作ってみよう!!	小学生9名
	20	電気教室	小学生8名
	25	育児相談（保健センター共催事業）	乳幼児7名、保護者7名
	30	埼玉大学ミュージカルサークルパフォーマンス	乳幼児18名、小学生7名、保護者28名
	13	作ってみよう!!	小学生4名、保護者2名
	28	たんさいぼうコンサート	乳幼児27名、小学生3名、保護者30名

10	14	親子ヨガ	乳幼児8名、保護者8名
		消防署立会い避難訓練	消防署の都合により中止
	18	桜区区民ふれあいまつり	乳幼児225名、小学生201名、中学生5名 保護者243名
11	8	世代間交流事業（寿楽荘でeスポーツ）	小学生8名、保護者2名
	10	育児相談（保健センター共催事業）	乳幼児4名、保護者4名
	17	防犯教室	乳幼児10名、保護者8名
	26	保健師講話	乳児5名、保護者5名
	28	クリスマスツリー点灯式	乳幼児25名、小学生3名、中学生2名、保護者21名
12	11	幼児冬のおたのしみ会	乳幼児38名、保護者29名
	13	作ってみよう!!	小学生8名、保護者4名
	24	児童冬のおたのしみ会	小学生30名、保護者5名
1	4～7	お正月あそび	幼児3名、小学生19名、中学生1名、保護者3名
	4～28	絵馬をかこう	幼児7名、小学生71名、中学生12名、保護者8名
	19	プチタイム（ししまい）	乳幼児25名、保護者23名
	26	育児相談（保健センター共催事業）	乳幼児8名、保護者9名
	27	保健師講話	幼児7名、保護者7名
2	1、8、15、22	体力測定会	小学生19名、中学生9名、保護者1名
	5	歯科衛生士講話	幼児12名、保護者8名
	14	ファミリータイム（公民館共催事業「親の学習事業」）	幼児6名、保護者4名
3	11	幼児春のおたのしみ会	幼児36名、保護者30名
	25	卒業を祝う会	小学生17名、中学生1名
定期	毎 日	卓球タイム、中高生タイム	
	週 1 回	プチタイム、ギネスに挑戦、キッカーボード	
	月 1 回	プチ工作タイム、おはなし会	
	月 2 回	すくすくサロン、はっぴいたいむ1（1歳向け）、はっぴいたいむ2・3・4（2、3、4歳向け）、ドッジボールタイム、親子囲碁教室、キッズイングリッシュ、おもちゃの電車であそぼう、わくわく★身体測定	
	その他	公民館合同避難訓練、こども会議	

＜岩槻児童センター＞

月	日	内 容	参加者 その他
4	5	ビックリ実験ショー「音って何？ストロー笛を作ろう！」（退職校長会）	小学生10名、高校生1名
5	5	児童福祉週間事業「こどもまんなかフェスティバル」	幼児35名、小学生60名、中高生5名、保護者35名
6	28	本物のホテルを見て「ホテルの一生を探ろう！」（退職校長会）	幼児25名、小学生30名、中高生5名、保護者25名
	14	わくわくクッキング①	幼児2名、小学生14名、保護者7名
	10	親子で遊ぼう！プチサロン	幼児6名、保護者5名、関係者12名
	4	なんぶ子育てサロン（南部公民館共催）	ボラ3名
7	26	ビックリ実験ショー「空気のふしぎ！」（退職校長会）	幼児5名、小学生12名、中高生7名、保護者6名
	25	防犯訓練「不審者対応」（岩槻警察）	幼児8名、小学生32名、中高生3名、保護者8名
	4	ウォーターバトル	小学生8名、中高生3名
8	8	「紙すき体験」（第1やまぶき）	幼児2名、小学生6名、中高生1名、保護者3名 講師4名
	9、10	おばけやしき	幼児163名、小学生131名、中高生25名 保護者189名
	14、15	高乳「赤ちゃんサロン」と「ちびっこレース」	幼児34名、高校生7名、保護者39名
	20	竹細工「竹のブローチ」（退職校長会）	小学生5名、中学生1名
	13	わくわくクッキング	小学生9名、保護者3名、実習生1名

9	4	プラレールの日（高校生自主事業）	幼児64名、中学生3名、保護者58名
10	16、17、23	西原中乳幼児ふれあい体験	幼児123名、中学生101名、保護者95名
	9	はじめて応援活動（岩槻区支援課）	幼児15名、保護者14名、関係者4名
	30	幼児向けハロウィン	幼児23名、中学生1名、保護者20名
	31	児童向けハロウィン	小学生40名、中学生15名
	9	児童発達支援・放課後ディ「はぐみー」発表会	幼児13名、小学生13名、保護者27名、関係者6名
11	18	防災訓練 岩槻消防署立会い	幼児12名、中学生1名、保護者12名、関係者4名
	13	わくわくクッキング	小学生1名、中学生2名
12	17	「おたのしみ会」（本町公民館共催）	幼児12名、小学生10名、関係者2名
	19～1/31	高校生による「埼玉のおさかなプロジェクト」	幼児20名、小学生10名、保護者20名
	20	「クリスマスコンサート」（岩槻高校音楽部）	幼児29名、小学生10名、中学生16名、保護者23名
	25	冬のおたのしみ会 AM 幼児・PM 児童	幼児58名、小学生15名、保護者48名
	26	上手になる「書初め教室」（退職校長会）	小学生6名、高校生1名、保護者3名
	28	竹細工「花かご作り」（退職校長会）	幼児3名、小学生4名、保護者3名
	27	プラレールの日（高校生自主事業）	幼児29名、小学生10名、中学生16名、保護者23名
	5	「科学工作教室」紙コプター他（退職校長会）	幼児4名、小学14名、保護者5名
1	6	「昔あそびに挑戦しよう！」（退職校長会）	幼児1名、小学生39名、保護者1名
	8	はじめて応援活動（岩槻区支援課）	幼児6名、保護者6名、関係者4名
	23～2/19	はるの園「アート作品展」	幼児31名、保護者30名、関係者18名
	6	なんぶ子育てサロン（南部公民館共催）	幼児7名、保護者7名、関係者2名
2	14	わくわくクッキング	小学生4名、関係者2名
	21	プラレールの日（高校生自主事業）	幼児49名、小学生4名、中学生5名、保護者39名
	10	親子で遊ぼうプチタイム（はるの園、ささばし共催）	悪天候のため中止
3	21	プラレールの日（高校生自主事業）	幼児26名、中学生2名、保護者24名
	25	みんなでおどろう！（中学生自主事業）	幼児20名、中学生3名、保護者19名
	27	「ビックリ実験ショー！」（退職校長会）	中止
	28	「けん玉教室」（退職校長会）	幼児3名、小学生16名、中学生4名、保護者4名
	28	卒園卒業進級お祝い会	小学生12名、中学生2名
	毎 日	ドッジボールタイム、中学生タイム	
定期	週 1 回	プラネタリウム、一輪車タイム、映画会	
	週 2 回	プチタイム	
	月 1 回	スターウォッチング、まんままんま、キッズ英語、親子ヨガ、キッズヨガ、生涯スポーツ体験、おもちゃの病院、親子工作、なんぶ子育てサロン（南部公民館）、防災訓練	
	月 2 回	赤ちゃんサロン、お琴クラブ、お誕生会（赤ちゃんサロン、プチタイム）、ティーンズカフェ	
	その他	「おはなし会」（岩槻図書館共催）、西原小チャレンジスクール、助産師相談事業、コミセン地域連絡協議会、映画会、おたから市（いわつき子育て応援隊）キッズヨガ、小学生工作、フードパントリー、まちかど雛めぐり、スペシャルプラネタリウム、近所のみなさん事業、昆虫の写真展（トンボ・クモ・カメムシ1.2・昆虫の擬態）、子ども会議、おたから市（岩槻子育て応援隊）、社協「夏のボランティア体験」受入	

＜仲本児童センター＞

月	日	内 容	備 考
4	4	衣類バンク集荷場	保護者1名
	10	おはなしひろば	幼児3名、保護者3名
	23	おはなし会	幼児6名、保護者6名
	4/10～5/11	こいのぼりをつくろう	幼児30名、小学生12名、保護者32名
5	8	おはなしひろば	幼児3名、保護者3名
	24	交通安全教室	幼児4名、小学生4名、保護者5名

	5/13～ 8/31	仲本ファーム	幼児374名、小学生268名、中学生16名 保護者356名
6	7	仲本荘交流事業（おとなゲーム）	小学生12名
	12	おはなしひろば	幼児9名、保護者9名
	22	子ども会議	小学生6名、中学生2名
	23	助産師による講話	幼児8名、保護者8名
7	10	おはなしひろば	幼児4名、保護者4名
	11	夏のお楽しみ会（幼児）	幼児37名、保護者29名
	12	仲本荘交流事業（ディスコン）	小学生11名
	15	衣類バンク集荷場	保護者1名
	17	夏のお楽しみ会（児童）	小学生101名、中学生1名
	24	認知症サポーター養成講座	小学生9名
	29	仲町公民館共催事業 電気教室	小学生19名 幼児2名、小学生20名、保護者9名
8	4	高校生と乳幼児のふれあい事業	高校生8名
	4、5	あそび教室	小学生76名
	6、13、20、27	ドッジビータイム	小学生82名、中学生2名、保護者6名
	7	おはなしひろば（児童）	小学生46名
	8、12、19、26	夏休みお楽しみタイム	小学生76名、中学生6名、保護者5名
	20	子どもの居場所事業（大谷場東小学校）	小学生104名
	25	助産師による講話	幼児7名、保護者8名
9	6	仲本荘交流事業（e スポーツ）	幼児1名、小学生13名、中学生4名、保護者6名
	11	おはなしひろば	幼児12名、中学生2名、保護者12名
	16	浦和区子育て応援サロン（浦和区支援課協働事業）	幼児17名、保護者21名
10	9	おはなしひろば	幼児10名、保護者10名
	14	浦和区子育て応援サロン（浦和区支援課協働事業）	幼児13名、保護者13名
	24、25	仲本公民館文化祭参加	作品展示物出店のみ
	31	おはなし会（ハロウィン）	幼児16名、保護者17名
11	11/1～ 11/30	虐待防止オレンジリボンキャンペーン	幼児5名、小学生53名、中学生8名、保護者5名
	1、6	子ども会議	小学生8名
	7	仲本小学校 まちたんけん	小学生15名、保護者5名
	10	助産師による講話	幼児12名、保護者12名
	11	歯科講話	幼児12名、保護者13名
	13	おはなしひろば	幼児4名、保護者4名
12	6	おはなし会（食育）	幼児9名、保護者7名
	11	おはなしひろば	幼児9名、保護者8名
	18	衣類バンク集荷場	保護者1名
	9	冬のお楽しみ会（幼児）	幼児48名、保護者44名
	22	冬のお楽しみ会（児童）	小学生76名、中学生2名
	24	仲本公民館共催事業	小学生5名
1	1/4～ 1/9	お正月あそび	幼児35名、小学生119名、中学生7名、 保護者37名
	5、8、15、19 22、26、29	ドッジビータイム	小学生84名、中学生3名
	8	おはなしひろば	幼児8名、保護者7名
2	9	助産師による講話	幼児7名、保護者8名
	12	おはなしひろば	幼児3名、保護者3名
	13	衣類バンク集荷場	保護者1名
	21	仲本荘交流事業（e スポーツ）	小学生5名、中学生2名
3	7	ピーコック工作タイム	幼児1名、小学生9名、保護者2名
	25	衣類バンク集荷場	保護者1名
	27	おはなしひろば（児童）	幼児3名、小学生52名、保護者3名
定期	毎 日	けん玉チャレンジ、中高生タイム、中高生部屋貸し、赤ちゃんの駅	
	週 1 回	卓球タイム、中高生タイム延長	
	月 1 回	おはなしひろば（乳幼児）、トミカ・プラレールであそぼう、ディスコンゲーム	
	その他	ハイハイサロン、土日プチタイム、プチタイム、小学生工作、親子工作、お誕生日カード	

＜尾間木児童センター＞

月	日	内 容	備 考
4	19	新1年生あつまれ	小学生13名、保護者6名

5	1	中高生おまぎカフェ	中高生11名
6	21	エンジョイおやこあそび	乳幼児40名、保護者45名
7	17	子ども映画会(尾間木公民館共催事業)	乳幼児14名、小学生44名、保護者15名
	18	複合施設合同避難訓練	職員1名
	19	おまぎサマーフェスティバル(尾間木公民館共催事業)	乳幼児107名、小学生143名、保護者221名
8	7	中高生クッキング(尾間木公民館共催事業)	小学生4名
	9、15、25	夏休み小学生工作タイム	小学生26名、保護者1名
	26	映画会	乳幼児17名、小学生32名、中高生2名 保護者12名
9	15	プラレールであそぼう	乳幼児67名、保護者53名
10	8	運動会ごっこ(尾間木公民館共催事業)	乳幼児43名、保護者45名
	25	エンジョイおやこあそび	乳幼児28名、保護者26名
11	27	幼児おたのしみ会(地区社協共催事業)	乳幼児48名、保護者46名
12	24	わたあめを作ってたべよう	乳幼児2名、小学生57名、中高生11名 保護者5名
	25	映画会	乳幼児8名、小学生9名、保護者4名
1	14	おまぎブレイランド(尾間木公民館共催事業)	乳幼児37名、保護者32名
	26	複合施設合同避難訓練	職員1名
2	14	エンジョイおやこあそび	乳幼児21名、保護者19名
	16	ママカフェ	乳幼児9名、保護者9名
3	26	映画会	乳幼児9名、小学生38、保護者7名
	28	中高生スポーツ大会	小学生3名、中高生10名
		わたあめを作ってたべよう	乳幼児7名、小学生43名、中高生2名、保護者10名
定期	毎 日	幼児タイム、小学生タイム、中高生タイム、中高生勉強応援ルーム貸出し	
	週 1 回	卓球タイム	
	月 1 回	よちよちひろば、おおきくなったかな、誕生会、小学生工作タイム、防災訓練、助産師相談事業 ひだまり文庫	
	月 2 回	あかちゃんサロン	
	その他	育児相談、歯みがき指導、栄養指導、プチタイム、応急手当講習会、おりがみであそぼう、おもちゃの病院、ファミリータイム、ドッジボールタイム、こども会議、子育てサロン(美園・大古里公民館)	

【19】放課後児童クラブ事業報告書

1 指定管理（令和6年度～令和10年度）

- | | |
|------------------|-------------------|
| (1) 宮前放課後児童クラブ | (26) 新開放課後児童クラブ |
| (2) 佐知川放課後児童クラブ | (27) 大東放課後児童クラブ |
| (3) 東大宮放課後児童クラブ | (28) 大谷口放課後児童クラブ |
| (4) 神田放課後児童クラブ | (29) 高砂放課後児童クラブ |
| (5) 大砂土放課後児童クラブ | (30) 浦和大里放課後児童クラブ |
| (6) 谷田放課後児童クラブ | (31) 与野八幡放課後児童クラブ |
| (7) 大谷場放課後児童クラブ | (32) 大戸放課後児童クラブ |
| (8) 西浦和放課後児童クラブ | (33) 与野西北放課後児童クラブ |
| (9) 大久保東放課後児童クラブ | (34) 下落合放課後児童クラブ |
| (10) 三室放課後児童クラブ | (35) 上落合放課後児童クラブ |
| (11) 上木崎放課後児童クラブ | (36) 大久保放課後児童クラブ |
| (12) 土合放課後児童クラブ | (37) 中島放課後児童クラブ |
| (13) 仲町放課後児童クラブ | (38) 植水第二放課後児童クラブ |
| (14) 南浦和放課後児童クラブ | (39) 城北放課後児童クラブ |
| (15) 沼影放課後児童クラブ | (40) 太田放課後児童クラブ |
| (16) 栄和放課後児童クラブ | (41) 西原放課後児童クラブ |
| (17) 辻放課後児童クラブ | (42) 城南放課後児童クラブ |
| (18) 北浦和放課後児童クラブ | (43) 岩槻放課後児童クラブ |
| (19) 木崎放課後児童クラブ | (44) 慈恩寺放課後児童クラブ |
| (20) 善前放課後児童クラブ | (45) 東岩槻放課後児童クラブ |
| (21) 田島放課後児童クラブ | (46) 和土放課後児童クラブ |
| (22) 原山放課後児童クラブ | (47) 徳力放課後児童クラブ |
| (23) 大牧放課後児童クラブ | (48) 柏崎放課後児童クラブ |
| (24) 本太放課後児童クラブ | (49) 東宮下放課後児童クラブ |
| (25) 大門放課後児童クラブ | (50) 野田放課後児童クラブ |

以下の放課後児童クラブは、児童センターに併設

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| (51) 三橋放課後児童クラブ | (57) 海老沼放課後児童クラブ（片柳児童センター） |
| (52) 植竹放課後児童クラブ | (58) 春野放課後児童クラブ |
| (53) 天沼放課後児童クラブ | (59) 馬宮放課後児童クラブ |
| (54) 宮原放課後児童クラブ | (60) 文蔵放課後児童クラブ |
| (55) 植水放課後児童クラブ | (61) 浦和別所放課後児童クラブ |
| (56) 本郷放課後児童クラブ | (62) 与野南放課後児童クラブ（大戸児童センター） |

2 今年度の施設取組計画

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
人権感覚自己チェックシートの基礎数値の4%増	未達成	今年度も人権感覚自己チェックシートを実施したが、令和3年度当時から更に回答の正確性を高めるため何度か設問や項目の変更を繰り返してきた。そのため、基礎数値の比較ができなかった。
新たな利用者アンケートでの要望の分析・検討	達成	利用者アンケートの要望に対して、事業責任者会議で討議し対策等を協議したが、その結果を施設に共有することまでには至らなかった。今後はその内容を研修会などを通じて施設と共有したい。

児童クラブ業務マニュアルを活用した OJT の実施	未達成	児童クラブ業務マニュアルの改訂にまで至らず、新しい法令等に関しての周知が不十分であった。今後、各クラブにおいて統一した職員指導を行えるよう、業務マニュアルの見直しを行う。
---------------------------	-----	---

3 実施報告

(1) 子どもの健やかな育成

① 子どもの最善の利益を守る支援

職員は子どもの権利について十分理解し、「子どもの最善の利益」を守ることができるよう、子ども自身の考えや気持ちを尊重した支援を行った。

② 一人ひとりを大切にする支援

子ども一人ひとりを大切にし、それぞれの子どもの発達に応じ長期的、継続的な視点で支援を行った。

③ 子どもの自己肯定感を高める支援

「子どもの生きる力」を育むために、遊びや体験を通して、子どもたちの自己肯定感を高めるために支援を行った。

④ 子どもが安全に楽しく過ごせる支援

放課後の子どもたちの居場所のひとつであるため、子どもたちにとって安心して過ごせる居場所づくりに努めるとともに、保護者が子どもを預けながら安心して仕事ができるように支援を行った。

(2) 保護者の子育て支援

① 保護者を支える支援

保護者が安心して子育てと仕事等を両立できるよう、日常的に保護者と連携をとり、子どもに関する情報を家庭とクラブで共有を行った。また、ICT を活用した来所・帰宅時間の記録や子どもの出席確認をした。さらに、子どもの生活基盤である家庭での養育を支援するために、地域の関係機関との連携を図った。

② 保護者と連携・協働した支援

保護者同士が交流したり子育てについて協力しあったりする関係が築いていけるように、保護者懇談会の開催や、保護者も参加できる活動や行事に取り組み、支援を行った。

(3) 子どもが生き生きと育つ環境づくり

① 小学校との連携した支援

クラブを利用する一人ひとりの子どもに対し適切な対応・支援がしていけるように、通学している小学校と相互理解を図り、密な連絡調整を行いながら連携を行った。

② 保育園、幼稚園などと連携した支援

新一年生については、必要に応じてそれまで利用していた幼稚園や保育園とも連携し、各区の支援課を通じて情報を共有しながら、子ども一人ひとりに応じた対応を行い、個に応じた成長が保証できるよう支援した。

③ 地域、関係機関との連携・協働した支援

クラブの所在する地域、利用する子どもたちが住んでいる地域の状況や地域性を把握し、子どもの生活に地域の協力が得られるよう、また子どもが生活する地域の安全・安心を確保し向上していけるよう地域の関係団体と協働を行った。

4 利用状況

クラブ名	4月1日現在	入 室	退 室	3月31日現在	クラブ名	4月1日現在	入 室	退 室	3月31日現在
宮 前	56	2	4	54	大 戸	56	5	5	56
佐知川	52	5	10	47	与野西北	55	4	6	53
東大宮	60	5	9	56	下落合	55	0	0	55
神 田	50	8	9	49	上落合	55	5	5	55
大砂土	60	4	5	59	大久保	54	5	21	38
谷 田	50	5	5	50	中 島	49	3	3	49
大谷場	50	2	3	49	植水第二	35	7	13	29
西浦和	69	3	5	67	城 北	69	13	14	68
大久保東	55	4	4	55	太 田	33	4	6	31
三 室	69	14	20	63	西 原	70	8	14	64
上木崎	54	3	2	55	城 南	60	6	6	60
土 合	59	11	10	60	岩 槻	33	3	9	27
仲 町	70	6	8	68	慈恩寺	33	3	8	28
南浦和	69	4	13	60	東岩槻	44	3	12	35
沼 影	53	9	19	43	和 土	31	2	7	26
栄 和	54	6	8	52	徳 力	30	1	3	28
辻	91	4	5	90	柏 崎	30	1	3	28
北浦和	51	5	6	50	東宮下	33	7	14	26
木 崎	55	2	5	52	野 田	21	9	8	22
善 前	54	6	13	47	三 橋	50	7	8	49
田 島	65	5	9	61	植 竹	42	6	4	44
原 山	55	3	7	51	天 沼	32	5	5	32
大 牧	70	3	6	67	宮 原	33	2	2	33
本 太	56	3	3	56	植 水	33	8	10	31
大 門	90	10	10	90	本 郷	33	3	3	33
新 開	45	9	11	43	海老沼	33	3	4	32
大 東	55	9	9	55	春 野	51	22	23	50
大谷口	54	11	11	54	馬 宮	35	5	7	33
高 砂	50	5	7	48	文 蔵	55	4	6	53
浦和大里	46	7	4	49	浦和別所	54	6	6	54
与野八幡	82	6	15	73	与野南	41	6	5	42
					合 計	3,187	345	495	3,037

5 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

- ① 「放課後児童クラブ危機管理マニュアル」に準じ、食中毒や感染症を予防するため、日常清掃を通じて台所用品、冷蔵庫内、食器類、ふきん、設備や備品等の消毒を実施し衛生管理の徹底に努めた。
- ② 子どもが手洗いやうがい、身体・衣服の汚れへの対応等を日常的に行うなど清潔を保つための生活習慣を身に付けられるよう援助し、咳エチケットや手指消毒や検温の実施など子どもと共に日常の衛生管理に努めた。
- ③ おやつは材料の選定や保管時の温度管理に加え、手洗い・爪切り・手指消毒、複数名での賞味期限及びアレルギーの確認、腸内細菌検査を実施することで、安全で安心できるおやつを提供した。

(2) 事故防止対策

- ① ヒヤリハット(事件・事故)報告書を作成し、集計、統計をとるとともに、職員間で共有し対策を講じることで同様の事故の未然防止に努めた。
- ② 軽微なけがや体調不良、物損事故など、業務中に発生又は確認されたことを業務日誌等に記録し、検証を行った。
- ③ 事故発生時には「危機管理マニュアル」に基づき、迅速な対応を徹底した。

(3) 防犯対策

- ① 不審者対策として、事件・事故の発生を想定して訓練を行った。訓練では職員や大人が子どもを守ることはもとより、子ども自身に身を守るための手立てを学んでもらい、緊急時に適切な行動ができるよう取り組んだ。
- ② 警察や消防、行政などの期間に協力していただき、防犯教室や非行防止教室などを実施した。

(4) 個人情報管理

- ① 「個人情報保護法」及び「個人情報保護条例」を遵守し、法人が定める「個人情報保護規程」に基づいて適切に対応した。
- ② 「個人情報に関する基本方針」を施設の目につきやすい場所に掲示し、その仕組みや考え方を利用者に周知した。
- ③ 職員は業務上知り得た「個人情報」「さいたま市、関係団体及び契約先に関する秘密情報」、「当法人経営上の秘密情報」等を在職中はもとより、退職後も第三者に故意または過失により開示、提供若しくは漏洩し、又は自ら使用することのないよう新規採用の職員に対して「誓約書」の提出を求めた。

(5) 災害対策

- ① 毎月1回は子どもが参加して避難訓練等を実施した。
- ② 火災・地震・竜巻・落雷等の発生を想定して訓練を繰り返し行った。訓練では職員や大人が子どもを守ることはもとより、子ども自身に身を守るための手立てを学んでもらい、緊急時に適切な行動ができるよう取り組んだ。

(6) 施設維持管理

- ① 利用者に安全で快適な環境を提供するため、「サービス(業務)マニュアル」に基づいた自主点検、定期点検、法定点検等のほか、環境整備、備品・遊具等の保守点検を実施し、安定的な施設管理に努めた。
- ② 鍵の管理においては、「鍵保有状況表」を作成し、施設内にあるすべての鍵について所在、個数を明記し、保管管理した。

(7) 施設のあり方検討

あり方検討会を設置し、施設認知度の向上と新規利用者の獲得、経営の効率化について検討するとともに取り組んだ。

6 サービス向上計画実施状況

(1) 利用者の意見を反映させる取組

- ① 苦情・要望・「みなさまの声」に対する迅速で適切な対応を行った。
- ② 利用者アンケートや保護者懇談会等を通して、利用者のニーズを把握し改善につなげた。

(2) 地域関係機関との連携

- ① 子どもの生活の連続性を保障するために、学校と情報交換や情報共有を行った。
- ② 子どもの生活について地域の協力が得られるように、各区役所支援課をはじめ、保育所や幼稚園、自治会や民生委員、児童相談所や警察などの関係機関と情報交換や情報共有を行った。
- ③ 行事やイベントの実施や参加のため、近隣の福祉施設等との相互交流を行った。

(3) 専門性の向上

- ① クラブ長及びクラブリーダー会議、ブロック別連絡会議を開催した。

詳細は事業団事務局「4 児童課」を参照

- ② 事業団事務局及び研修委員会で企画する研修の他、次の研修に参加する。

ア 外部派遣研修

月	日	研 修 名	参加職員数
5	23	大宮北特別支援学校主催「第1回関係機関研修」web	6名
7	24～8/29動画配信	埼玉県主催「地域公開講座 発達障害の基礎理解の概要」	5名
	6	大宮北特別支援学校主催「第2回関係機関研修」web	1名
11	25～28	埼玉県主催「埼玉県放課後児童支援員認定研修会（第10回）」	12名
	11/20～12/31動画配信	ひまわり学園主催「ひまわり学園オンライン療育講座」	7名
	15	埼玉県主催「児童関連施設職員向けアレルギー疾患研修会」	10名
1		さいたま市主催「第8回放課後児童支援員等研修会」	11名
	1/12、21、22、28、2/6、27	埼玉県主催「放課後児童クラブ巡回支援事業（アドバイザー派遣）研修」	30名
	17	埼玉県主催「放課後児童クラブ巡回支援事業（アドバイザー派遣）研修」	7名
2	2月中オンデマンド開催	埼玉県主催「埼玉県放課後児童支援員認定研修会（第15回）」	7名

イ 事務局児童課が主催する研修

詳細は事業団事務局「4 児童課」を参照

ウ 職場内研修を各クラブにおいて実施した。

- ③ 人権感覚自己チェックシートの記入や研修により、職員の人権擁護意識の向上を図った。
- ④ 事業責任者による職員へのスーパービジョンを実施した。

【20】放課後子ども居場所事業

1 業務委託

- (1) 新和小学校放課後子ども居場所事業
- (2) 針ヶ谷小学校放課後子ども居場所事業
- (3) 大谷場東小学校放課後子ども居場所事業
- (4) 上里小学校放課後子ども居場所事業

2 今年度の施設取組計画

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
人権感覚自己チェックシートの基礎数値の4%増	未達成	今年度も人権感覚自己チェックシートを実施したが、令和3年度当時から更に回答の正確性を高めるため何度か設問や項目の変更を繰り返してきた。そのため、基礎数値の比較ができなかった。
新たな利用者アンケートでの要望の分析・検討	達成	利用者アンケートの要望に対して、事業責任者会議で討議し対策等を協議したが、その結果を施設に共有することまでには至らなかった。今後はその内容を研修会などを通じて施設と共有したい。
児童クラブ業務マニュアルを活用したOJTの実施	未達成	児童クラブ業務マニュアルの改訂にまで至らず、新しい法令等に関する周知が不十分であった。今後、各クラブにおいて統一した職員指導を行えるよう、業務マニュアルの見直しを行う。

3 実施報告

(1) 子どもの健やかな育成

① 子どもの最善の利益を守る支援

職員は子どもの権利について十分理解し、「子どもの最善の利益」を守ることができるよう、子ども自身の考えや気持ちを尊重した支援を行った。

② 一人ひとりを大切にす支援

子ども一人ひとりを大切に、それぞれの子どもの発達に応じ長期的、継続的な視点で支援を行った。

③ 子どもの自己肯定感を高める支援

「子どもの生きる力」を育むために、遊びや体験を通して、子どもたちの自己肯定感を高めるために支援を行った。

④ 子どもが安全に楽しく過ごせる支援

放課後の子どもたちの居場所のひとつであるため、子どもたちにとって安心して過ごせる居場所づくりに努めるとともに、保護者が子どもを預けながら安心して仕事ができるように支援を行った。

(2) 保護者の子育て支援

① 保護者を支える支援

保護者が安心して子育てと仕事等を両立できるよう、日常的に保護者と連携をとり、子どもに関する情報を家庭と放課後子ども居場所事業で共有した。また、ICTを活用した来所・帰宅時間の記録や子どもの出席確認をした。さらに、子どもの生活基盤である家庭での養育を支援するために、地域の関係機関との連携を図った。

② 保護者と連携・協働した支援

保護者同士が交流したり子育てについて協力しあったりする関係が築いていけるように、

保護者懇談会の開催や、保護者も参加できる活動や行事に取り組み、支援を行った。

(3) 子どもが生き生きと育つ環境づくり

① 小学校との連携した支援

放課後子ども居場所事業を利用する一人ひとりの子どもに対し適切な対応・支援ができるよう、通学している小学校と相互理解を図り、密な連絡調整を行いながら連携を行った。また、チャレンジスクールと連携し放課後の居場所としての機能を充実させた。

② 保育園、幼稚園などと連携した支援

新一年生については、必要に応じてそれまで利用していた幼稚園や保育園とも連携し、各区の支援課を通じて情報を共有しながら、子ども一人ひとりに応じた対応を行い、個に応じた成長が保証できるように支援した。

③ 地域、関係機関との連携・協働した支援

利用する子どもたちが住んでいる地域の状況や地域性を把握し、子どもの生活に地域の協力が得られるよう、また子どもが生活する地域の安全・安心を確保し向上していけるよう地域の関係団体と協働を行った。

4 利用状況

(1) 新和小学校放課後子ども居場所事業

月	区分1	区分2	合計	月	区分1	区分2	合計
4月	59	45	104	10月	66	38	104
5月	63	43	106	11月	64	36	100
6月	65	43	108	12月	65	36	101
7月	65	43	108	1月	64	35	99
8月	75	41	116	2月	62	33	95
9月	68	40	108	3月	62	33	95

(2) 針ヶ谷小学校放課後子ども居場所事業

月	区分1	区分2	合計	月	区分1	区分2	合計
4月	69	85	154	10月	63	78	141
5月	65	81	146	11月	64	77	141
6月	61	81	142	12月	64	75	139
7月	66	78	144	1月	64	77	141
8月	93	83	176	2月	64	74	138
9月	64	78	142	3月	64	71	135

(3) 大谷場東小学校放課後子ども居場所事業

月	区分1	区分2	合計	月	区分1	区分2	合計
4月	52	91	143	10月	62	73	135
5月	53	87	140	11月	60	74	134
6月	56	80	136	12月	60	74	134
7月	70	77	147	1月	64	73	137
8月	110	75	185	2月	58	74	132
9月	64	75	139	3月	57	73	130

(4) 上里小学校放課後子ども居場所事業

月	区分1	区分2	合計	月	区分1	区分2	合計
4月	39	52	91	10月	37	45	82
5月	37	52	89	11月	36	45	81
6月	37	52	89	12月	38	44	82
7月	48	52	100	1月	42	44	86
8月	58	48	106	2月	31	44	75
9月	37	46	83	3月	31	43	74

5 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

- ① 食中毒や感染症を予防するため、日常清掃を通じて台所用品、冷蔵庫内、食器類、ふきん、設備や備品等の消毒を実施し衛生管理に努めた。
- ② 子どもが手洗いやうがい、身体・衣服の汚れへの対応等を日常的に行うなど清潔を保つための生活習慣を身に付けられるよう援助し、咳エチケットや手指消毒や検温の実施など子どもと共に日常の衛生管理に努めた。
- ③ おやつは材料の選定や保管時の温度管理に加え、手洗い・爪切り・手指消毒、複数名での賞味期限及びアレルギーの確認、腸内細菌検査を実施することで、安全で安心できるおやつを提供した。

(2) 事故防止対策

- ① ヒヤリハット(事件・事故)報告書を作成し、集計、統計をとるとともに、職員間で共有し対策を講じることで同様の事故の未然防止に努めた。
- ② 軽微なけがや体調不良、物損事故など、業務中に発生又は確認されたことを業務日誌等に記録し、検証を行った。
- ③ 事故発生時には、迅速な対応を徹底した。

(3) 防犯対策

- ① 不審者対策として、事件・事故の発生を想定して訓練を行った。訓練では職員や大人が子どもを守ることはもとより、子ども自身に身を守るための手立てを学んでもらい、緊急時に適切な行動ができるよう取り組んだ。
- ② 警察や消防、行政などの期間に協力していただき、防犯教室や非行防止教室などを実施した。

(4) 個人情報管理

- ① 「個人情報保護法」および「個人情報保護条例」を遵守し、法人が定める「個人情報保護規程」に基づいて適切に対応した。
- ② 「個人情報に関する基本方針」を施設の目につきやすい場所に掲示し、その仕組みや考え方を利用者に周知した。
- ③ 職員は業務上知り得た「個人情報」「さいたま市、関係団体及び契約先に関する秘密情報」、「当法人経営上の秘密情報」等を在職中はもとより、退職後も第三者に故意または過失により開示、提供若しくは漏洩し、又は自ら使用することのないよう新規採用の職員に対して「誓約書」の提出を求めた。

(5) 災害対策

- ① 毎月1回は子どもが参加して避難訓練等を実施した。
- ② 火災・地震・竜巻・落雷等の発生を想定して訓練を繰り返し行った。訓練では職員や大人が子どもを守ることはもとより、子ども自身に身を守るための手立てを学んでもらい、緊急時に適切な行動ができるよう取り組んだ。

(6) 施設維持管理

- ① 利用者に安全で快適な環境を提供するため、自主点検、定期点検、法定点検等のほか、環境整備、備品・遊具等の保守点検を実施し、安定的な施設管理に努めた。
- ② 鍵の管理においては、「鍵保有状況表」を作成し、施設内にあるすべての鍵について所在、

個数を明記し、保管管理した。

(7) 施設のあり方検討

施設認知度の向上と新規利用者の獲得、経営の効率化について検討するとともに取り組んだ。

6 サービス向上計画実施状況

(1) 利用者の意見を反映させる取組

- ① 苦情・要望・「みなさまの声」に対する迅速で適切な対応を行った。
- ② 利用者アンケートや保護者懇談会等を通して、利用者のニーズを把握し改善につなげた。

(2) 地域関係機関との連携

- ① 子どもの生活の連続性を保障するために、学校と情報交換や情報共有を行った。
- ② 子どもの生活について地域の協力が得られるように、各区役所支援課、保育所や幼稚園、自治会や民生委員、児童相談所や警察などの関係機関と情報交換や情報共有を行った。
- ③ 行事やイベントの実施や参加のため、当法人の運営する児童センターとの連携や近隣の福祉施設等との相互交流を行った。

(3) 専門性の向上

- ① クラブ長及びクラブリーダー会議、ブロック別連絡会議を開催した
詳細は事業団事務局「4 児童課」を参照
- ② 事業団事務局及び研修委員会で企画する研修の他、次の研修に参加した。

ア 外部派遣研修

県及び市主催の研修

月	日	研 修 名	参加職員数
5	23	大宮北特別支援学校主催「第1回関係機関研修」web	1名
11	25～28	埼玉県主催「埼玉県放課後児童支援員認定研修会第10回」	1名
1	15	埼玉県主催「アレルギー疾患研修」	1名
	1/12、21、22、28、2/6、27	埼玉県主催「放課後児童支援員等資質向上研修」webまたは参集	3名
2	17	埼玉県主催「放課後児童クラブ巡回支援事業（アドバイザー派遣）研修」	1名

イ 事務局児童課が主催する研修

詳細は事業団事務局「4 児童課」を参照

ウ 職場内研修を各放課後子ども居場所事業において実施した。

- ③ 人権感覚自己チェックシートの記入や研修により、職員の人権擁護意識の向上を図った。
- ④ 事業責任者による職員へのスーパービジョンの実施を実施した。

【21】大宮ふれあい福祉センター

1 指定管理期間

令和 7 年度～令和 11 年度

2 今年度の施設取組計画

今年度の目標	評価	取組の効果と結果分析
当センターweb サイト掲載内容、掲載したことによる効果を検証し、次年度以降の取組を検討する。	達成	当センターの web サイト（SNS）への掲載に加えて施設たよりを配布したことで効果的な PR が行えた。次年度以降も引続き、アンケート等による検証を実施しながら支援や利便性に繋げる。 SNS の更新は定期的に行ったが、販売活動の PR は 2 回にとどまった。Web サイト（SNS）の閲覧は一定数あるが販売団体からは、施設たより配布の要望もあったため販売時や回覧板でのたより配布を開始した。次年度以降も SNS やたよりの配布は継続し、内容も充実させ販売団体の支援に繋げていく。
検証結果を基に事業継続の判断を行う。	達成	施設利用の更新に合わせ、web 掲載の希望調査を実施し、新規に 5 団体の掲載希望をいただいた。6 年度の検証結果に加えて、7 年度の実績を基に事業継続の可否を施設あり方検討会で検討し、利用者のニーズとサービス向上のため、継続の判断を行った。
接遇チェックリストを実施し、令和 3 年度比 5%向上する。	未達成	大宮ふれあい福祉センター接遇自己チェックリストにおいて、今年度は 3 項目において昨年度より下回り、特に接遇マニュアルの理解を確認する項目において、73.3 から 66.3 と 7.0 ポイントダウンとなった。今年度からシステムの移行に伴い様式の変更やシステムの説明等が重なり、接遇に十分な時間を費やすことができなかった。 令和 7 年度目標として、令和 3 年度比 5%向上としていたが、4.5%に留まってしまい、職員の採用や異動があった際は、在職職員と共にマニュアルの読み合わせを行い、互いに接遇について確認しあうことが必要であることを再認識した。

3 実施報告

中規模修繕後の本格始動の年として、地域における福祉活動の拠点となるべく、利用団体への支援を中心に福祉活動の場を提供し、障害者、高齢者等をはじめ市民の福祉の増進を図った。

利用者の利便性向上のため、キャッシュレス決済と共に施設予約システムを導入し、職員間でシステムの研修・予約システムへの団体登録等を進めた。

また、年間をとおし、市民向けの様々なイベントを開催し、大宮ふれあい福祉センターの周知と共に市民に向け福祉の情報を発信した。

(1) 福祉活動の拠点としての機能の向上

日常点検を 1 日 1 回以上、館内全体の安全点検を月 1 回実施し、館内設備や備品等の適正な管理を行い、利用者に安心して利用いただけるよう努めた。

また、中規模修繕後、備品や設備の不足が無いかを調査した。利用者等の意向を踏まえ、不足している部分についてはさいたま市に備品等の更新を要望し、反映すると共に、当方でも購入、設置した。

(2) 市民・福祉団体の交流の支援

① 昨年度に引き続き、利用団体の紹介及び活動内容等について、各団体の意向を確認のうえ、施設ホームページや X に掲載した。

- ② 利用者懇談会を開催し、施設へのご意見・ご要望を伺った。ご意見の中で印刷室利用団体から印刷機用の紙の保管について要望があったため、保管できるようにした。他の要望についてもさいたま市と共有し、速やかな対応を行った。

(3) すべての市民に分かりやすい福祉情報の発信

事業団 web サイトやXを活用し、センターの情報や福祉団体の販売活動情報の発信を開始した。また、6月から月のイベントや館内についての情報を載せた「施設たより」の発行を開始した。施設たよりはwebサイトだけでなく、館内掲示や販売団体受付での配布を行った。また自治会掲示板や回覧板で回覧し、分かりやすい情報の発信を行った。

(4) 福祉施設と地域住民の交流の促進

- ① 土手町プチマルシェinふれセンを開催し、市内の12の障害者福祉施設の自主製品の販売や子供向け映画会、豚汁の無料配布などを行い、福祉施設の活動の紹介と交流の促進を図った。
- ② 月1回、大宮ふれあい福祉センター周辺の清掃活動を行った他、土手町1丁目自治会主催の「レッツジョインクリーン作戦(市民清掃活動)」に参加(年2回)し、地域の環境美化に努め、交流を図った。

(5) 地域、高齢、児童・幼児向け事業の実施

- ① 全世代どなたでも利用できる施設の機能を生かし、自治会や福祉団体、ボランティア団体、地域包括支援センター等と協力し、小学生向け講座やシニア向け健康講座・スマートフォン教室、認知症サポーター養成講座、ふれあいぱーく、プチマルシェを開催し、福祉の交流の場として開放した。
- ② プレイルームで月1回、職員が「親子ひろば(地域の2歳以下のお子さんとその保護者対象)」開催し、地域の子どもの成長や保護者の繋がり等を支援した。
- ③ 1階図書コーナー、2階プレイルームの本は、リサイクル図書を活用して本を増冊する等して、貸出を開始した。今年度は61件98冊の貸出を行い、近隣の方の学びの意欲の向上と生活の質の向上に努めた。また、読書コーナーに休憩スペースとしての椅子を設置し、人が集まる「居場所」としての機能を図った。

(6) 利用者の利便性向上のための取組

- ① キャッシュレス決済が可能なことを事業団webサイトやX等で周知し、キャッシュレス決済の利用を促進した。
- ② 受付横に大型ディスプレイを設置し、当日の会議室の利用状況やイベント情報が誰でも分かりやすく確認できるようにした。
- ③ 施設予約システムを導入し、利用者がホームページから空き情報の確認ができるようにした。また、受付横にタブレットを設置し、タブレットからも確認できるようにした。
- ④ 駐輪場にサイクルスタンドを設置し、様々なタイプの自転車に対応できるようにした。

4 利用状況

部屋名	多目的ホール		和室		調理実習室		201 会議室	
	申請数	人数	申請数	人数	申請数	人数	申請数	人数
利用数	116 件	1,176 名	184 件	1,321 名	269 件	1,936 名	742 件	3,914 名

部屋名	301 会議室		302 会議室		303 会議室		304 会議室	
	申請数	人数	申請数	人数	申請数	人数	申請数	人数
利用数	500 件	14,340 名	498 件	423 名	413 件	315 名	465 件	5,134 名

部屋名	301 会議室	
	申請数	人数
利用数	301 件	2,166 名

部屋名	プレイルーム	ボランティア活動室	福祉団体活動室	朗読録音室	点訳室	印刷室
利用数	5,261 名	949 名	928 名	297 名	130 名	182 名

※ 会議室等の申請数については、複数会議室等を1枚の申請書で申請した場合でも、各会議室等の申請数として重複してカウントした。なお、人数については重複せずにカウントした。

5 管理運営体制

(1) 衛生管理・感染症対策

- ① 法人で行っている感染症対策研修に職員が参加者し、職員間で伝達研修を行った。
- ② 感染症拡大防止の対応を継続するとともに、希望があれば手指消毒液の貸出をする等整備した。

(2) 事故防止対策

- ① 日常点検及び月次点検
日常点検及び月次点検を実施し、危険個所や体調不良者の早期発見や不審者対策に努めた。また、「点検マニュアル」を策定すると共に、「福祉センター安全管理点検項目」を見直した。
- ② ヒヤリハットや業務日誌等の活用
ヒヤリハットや業務日誌の「引継ぎ事項」を活用し、危険個所の点検・改善を図り、全職員間で共有・事故防止に努めた。また、検討が必要な対策については課内会議で検討し、更なる安全策を講じた。
- ③ 地域の自治会、地域包括支援センターと救命救急講習を実施し、応急手当等の啓発に努めた。

(3) 防犯対策

- ① 不審者対策として、入館時のあいさつや日常点検の際など定期的に声掛けを行った。
- ② 大宮警察署生活安全課署員を講師として招き、土手町1丁目自治会と共催し、振り込め詐欺被害防止講座を開催した。また、市民生活部消費生活センターの講師を招き、消費生活講座を開催し、地域の防犯力向上に努めた。

(4) 個人情報管理

- ① さいたま市情報セキュリティ特記事項に基づき、情報セキュリティ体制や取扱部署を明確にするとともに法人主催の個人情報保護・情報セキュリティ研修に全職員が参加し、個人情報の取扱い等の職員教育を実施した。
- ② 昨年度に引き続き、団体登録を行っている方々に対して、個人情報の取り扱いについての説明を行ったうえで、「施設利用登録申請書兼同意書」の更新を行うと共に、頂いた情報の取扱いについての管理を徹底した。

(5) 災害対策

- ① 避難訓練を2回実施した。初回は新しくなった館内の消火器等の設置場所を確認し、2回目は消防署立会いのもと、訓練を行った。また、起震車を依頼し、地震体験を行うことで、地域の防災意識の向上を図った。
- ② 事業継続計画（BCP）に基づき、非常用備蓄品の確認及び整備を行った。
- ③ 指定避難所の要配慮者優先避難所として、さいたま市からの依頼に協力した。

(6) 施設維持管理

- ① 利用者の安全を確保するため、机・椅子、器具等の点検を実施した。
- ② 中規模修繕の実施に伴い、備品の更新を行った。また、既存備品については動作確認を行い、新しい備品と共に管理を徹底した。

(7) あり方検討会の実施

月 1 回あり方検討会を実施し、施設認知度の向上、経営の効率化、利用者サービスについての検討を行った。また、施設予約システム本格稼働に向けての研修や福祉団体ボランティア活動室ロッカーの取扱いについて検討した。

6 サービス向上計画実施状況

(1) 利用者の意見を反映させる取組

① アンケートの実施・活用・結果の周知

法人で実施している年 1 回の利用者アンケートを実施した。アンケートの集計結果は館内に掲示し、サービスの向上に努めた。

② 利用者懇談会の実施

利用団体やセンター内に事務所を有する団体から、施設の運営に関する意見等をいただいた。

③ みなさまの声

投書箱を設置し、ご意見がある場合は真摯に対応した。

④ 接遇

接遇チェックと職場内研修を実施した。

(2) 地域、関係機関との連携

① 地域自治会の協力を得て、施設たよりやイベントのチラシ配付を行った。

② 住民の方々との相互交流・連携・協働を図るため、地域を対象とした事業を実施した。救命講習を実施し、応急手当の基礎を学習する機会を作りと共に、AED 設置施設であることを周知した。また、文化作品展では地域住民の作品や利用団体の作品を展示し、相互交流を図った。

③ 地域包括支援センターと共催したシニア向けの健康測定を地域の企業の協力を得て無料で開催し、社会資源の活用や連携を図った。

(3) 専門性の向上

事業課職員として、事業団主催研修のスタッフ・講師を行うとともに、次の研修に参加した。

① 外部派遣研修

月	日	研 修 名	参加職員数
7	10	RICOHkintoneplus ハンズオンセミナー	2 名
9	17	人で不足に打ち勝つ！実用化のための生成 AI セミナー	1 名
1	22	タマップ著作権に関する研修	1 名
3	4	はじめての chatGTP	1 名
	17	さいたま市外郭団体健全運営セミナー	1 名

② 職場内研修

月	日	研 修 名	参加職員数
1	29	感染症対策研修（伝達研修）	7 名
3	16	人権擁護研修（伝達研修）	7 名
	31	接遇研修	9 名

7 年間行事報告

<大宮ふれあい福祉センター>

開催月	日	行事名	備考
5	29	シニア向け健康講座	大人 23 名
6	6	土手一丁目自治会ごみゼロ運動	職員 2 名

6	24	防災訓練（自主訓練）	シルバー会員 7 名、職員 3 名
7	24	ふれあいぱーく（利用団体共催事業）	大人 262 名（スタッフ含む）、子供 173 名
	28、29	夏休み小学生向けイベント（キッズトレーニング）	子供 8 名、保護者 7 名
8	5	夏休み小学生向けイベント（福祉の秘密探検ツアー）	子供 4 名、保護者 3 名
	18	夏休み小学生向けイベント（作っちゃお！フェルトのエンゼルフイッシュ）	子供 11 名、保護者 13 名 工房アツプリケ 6 名
	21	夏休み小学生向けイベント（手話コミュニケーション講座）	子供 11 名、保護者 6 名
	28	元気はつらつシニア健康測定会	大人 38 名、スタッフ 8 名、地域包括 2 名
9	6	親子ひろば on Saturday	子供 12 名、大人 16 名
	18	ふれあいぱーく反省会	大人 14 名
	25	シニア向け健康講座	大人 19 名、講師 1 名
10	15～21	文化作品展	延べ 250 名
	16	消費生活講座	大人 20 名、講師 2 名
	17	土手町 1 丁目自治会共催事業「振り込め詐欺防止講話」	大人 15 名、講師 2 名
11	16	土手 1 丁目自治会レッツジョイン・クリーン作戦	職員 1 名
12	2	救急救命講習	大人 7 名、職員 2 名、地域包括 1 名
	9	利用者懇談会	参加者 10 名、職員 3 名
	17	土手町 1 丁目自治会共催事業「合同防災訓練」	参加団体 20 名、職員 23 名、シルバー会員 4 名
	20	土手町プチマルシェ in ふれセン	参加者 320 名
2	2、16	シニア向けスマートホン教室	大人 30 名
	21	認知症サポーター養成講座	大人 25 名、講師 2 名
3	12	シニア向け健康講座	大人 15 名、講師 1 名
定期	月 1 回	親子ひろば（プレイルーム）	
	月 1 回	地域清掃活動	

事業報告の附属明細書

令和7年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人さいたま市社会福祉事業団